
久留米市子どもの生活実態調査

報告書

平成30年1月

久留米市

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査期間	1
4. 調査方法	1
5. 回収結果	1
6. 集計・分析上の注意	1
7. 久留米市における生活困難世帯の定義について	2
(1) 「生活困難世帯」について	2
(2) 「生活困難世帯」の分類について	3
(3) 「生活困難世帯」の割合	4
第2章 生活の状況	5
1. 世帯状況	5
(1) 同居者（保護者）	5
(2) 同居者（子ども）	6
(3) 世帯状況	7
(4) 就労状況	8
(5) 保護者の帰宅時間	10
(6) 保護者の休日日数	12
(7) 現在の就労状況	14
(8) 就労を考えていない理由	16
(9) 子どもの就学状況	18
(10) 住まいの校区	19
(11) 住居形態	20
(12) 介助が必要な人の有無	20
2. 経済的な状況	21
(1) 世帯の手取り収入	21
(2) 収入の種類	24
(3) 家計内で負担を感じる経費	27
(4) 経済的な理由で経験したこと	30
(5) 経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと	31
第3章 子ども編	33
1. 属性	33
(1) 学年	33
(2) 性別	33
2. 生活状況	34

(1)	起床時間	34
(2)	帰宅時間	35
(3)	就寝時間	36
(4)	一週間にお風呂に入る頻度	38
(5)	学校に遅刻する頻度	38
3.	健康の状況	40
(1)	虫歯の有無	40
(2)	治療の予定	43
(3)	治療をしていない理由	44
4.	食の状況	46
(1)	朝食を食べる頻度	46
(2)	朝食を食べない日がある理由	47
(3)	夕食を食べる頻度	48
(4)	夕食を食べない日がある理由	49
(5)	休日に昼食を食べる頻度	50
(6)	昼食を食べない日がある理由	51
(7)	ひとりでご飯を食べる頻度	52
(8)	ひとりでご飯を食べる際のメニュー	53
5.	子どもの学び	54
(1)	学校の授業の理解度	54
(2)	学校の授業時間以外の学習状況	56
(3)	1日あたりの学習時間	57
(4)	学習塾や家庭教師、習い事に通っている状況	59
(5)	習い事に通っていない理由	61
(6)	進学希望	62
6.	子どもの生活	63
(1)	毎日の生活で楽しいと思う場面	63
(2)	放課後過ごすことが多い人	65
(3)	放課後過ごす場所	67
(4)	学校の授業時間外の読書時間	69
(5)	ゲーム機やスマートフォンの使用時間	70
(6)	毎月のおこづかいの金額	71
(7)	おこづかいの使用目的	72
(8)	所持品・自由に使うことができるもの	74
(9)	欲しいものがあったてもお金がないときの対処法	76
(10)	親戚付き合いについて	77
(11)	近所付き合いについて	78
7.	自己肯定感	79
(1)	自分自身について【自分に自信がある】	79

(2)	自分自身について【自分の将来の夢や目標を持っている】	87
(3)	自分自身について【将来のためにも、今、頑張りたいと思う】	95
(4)	自分自身について【さみしさや不安を感じることがない】	103
(5)	自分自身について【将来、働きたいと思う】	104
8.	子どもの困っていること	105
(1)	嫌なことや困っていること	105
(2)	家族のことなどで困っていること	108
(3)	嫌なことや困ったことがあった場合の対処法	109
(4)	相談相手	110

第4章 保護者編..... 112

1.	属性	112
(1)	子どもとの関係	112
(2)	回答者の年齢	112
(3)	初めて親になった年齢	113
2.	保護者の意識	114
(1)	子育てで特に大変だと感じる事	114
(2)	子どもに関して困っていること	117
(3)	自身の生活で困っていること	120
(4)	困っていることについての相談者	122
(5)	相談相手がいない、または相談しない理由	123
(6)	生活意識について	124
3.	子どもとの過ごし方	127
(1)	子どもと過ごす時間が長い人	127
(2)	子どもが頼りにしている大人	128
(3)	子どもとの過ごし方【お子さんの勉強をみる】	131
(4)	子どもとの過ごし方【お子さんと運動をする】	132
(5)	子どもとの過ごし方【お子さんと電子機器で遊ぶ】	133
(6)	子どもとの過ごし方【お子さんと電子機器以外で遊ぶ】	134
(7)	子どもとの過ごし方【お子さんと学校生活の話をする】	135
(8)	子どもとの過ごし方【お子さんと政治、経済、社会問題などのニュースの話をする】	136
(9)	子どもとの過ごし方【お子さんとテレビ（ニュースを除く）の話をする】	137
(10)	子どもとの過ごし方【お子さんといっしょに料理をする】	138
(11)	子どもとの過ごし方【お子さんといっしょに外出する（遊びやイベント等）】	139
(12)	子どもとの過ごし方【お子さんといっしょに外出する（食事や買い物等）】	140
4.	子どもの進路	141
(1)	子どもの希望最終学歴	141
(2)	希望通り進学できるか	142
(3)	希望通り進学できないと思う理由	143
5.	これまでの家族との関わり	144

(1) 家族との関わりについて	144
6. 近所とのつながり	147
(2) 子どもを預かってくれる親族や友人・知人の有無	147
(3) 子どもを預かってくれる親族や友人・知人	148
(4) 「近所・地域」での付き合いの状況	149
(5) 団体への所属経験	150
(6) 役員経験の有無	151
第5章 制度・サービスの利用	154
1. 制度や施設の利用	154
(1) 制度や施設の利用経験および利用しなかった理由	154
(2) 子どもに関する情報の入手元	182
2. 必要な支援	184
(1) 子どもに必要または重要だと思う支援	184
(2) 自分が必要または重要だと思う支援	186
第6章 総括	188
1. はじめに	188
2. 「経済的困窮」の実態とその影響	189
3. 「社会的困窮」の実態とその影響	193
4. 得られる示唆	194
第7章 調査資料【①小学生・中学生向け】	196
第8章 調査資料【②保護者向け】	207

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

久留米市の子どもへの貧困対策の推進にあたり、子どもやその保護者の生活実態を把握し、適切な支援につなげていくための基礎資料を得ることを目的に実施する。

2. 調査対象

[調査対象者]

- ・久留米市内の小学校 48 校に通う小学 5 年生の児童 2,849 名とその保護者
(計 5,698 名)
 - ・久留米市内の中学校 21 校に通う中学 2 年生の生徒 2,492 名とその保護者
(計 4,984 名)
- 合計 10,682 名

3. 調査期間

[調査開始] 平成 29 年 9 月 14 日

[投函期限] 平成 29 年 9 月 29 日

4. 調査方法

学校配布・郵送回収

5. 回収結果

		調査対象者数 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)
保護者	小学校5年生	2,849	1,329	46.6%
	中学校2年生	2,492	933	37.4%
	不明	—	10	—
	合計	5,341	2,272	42.5%
子ども	小学校5年生	2,849	1,333	46.8%
	中学校2年生	2,492	934	37.5%
	不明	—	5	—
	合計	5,341	2,272	42.5%

6. 集計・分析上の注意

図表中の値は原則として回答数を 100 とした場合の構成比 (%) で示した。端数処理 (小数点第 2 位を四捨五入) のため、その合計が必ずしも 100.0%にならない場合がある。なお、複数回答 (2 つ以上の選択肢を回答) は原則として 100%を超える。

また子どもの学年別等のクロス集計は、回答に子どもの学年等不明 (無回答) がある場合、各項目のサンプル数の合計が全体サンプル数と合致しない場合がある。

7. 久留米市における生活困難世帯の定義について

(1) 「生活困難世帯」について

今回の報告書では、久留米市独自の指標として「生活困難世帯」を、3つの要素から分類する。

- | |
|----------------------------------|
| ①低所得
②家計の逼迫
③子どもの体験や所有物の欠如 |
|----------------------------------|

「①低所得」は、厚生労働省も用いているように、貧困の測定に最も使用される指標の1つであるが、今回は所得データを補完するため、「②家計の逼迫」「③子どもの体験や所有物の欠如」という2つの物質的剥奪指標も用いた。以下、それぞれの定義の詳細を示す。

①低所得

「低所得」は、世帯の可処分所得を世帯人員数の平方根で割り出した値（＝等価可処分所得）が、厚生労働省「平成27年国民生活基礎調査」で算出された国の貧困線「122万円」を下回る世帯と定義する。なお、今回の算出に用いた世帯の可処分所得は、選択されたカテゴリの中央値（例えば可処分所得が「300万円以上～400万円未満」と回答した世帯は350万円を可処分所得とした）を使用している。

②家計の逼迫

「家計の逼迫」は、過去1年間に経済的な理由で経験したこと、具体的には、「公共料金や家賃の滞納があった」「食費や衣類の費用を切りつめた」「医療機関の受診ができなかった」「キャッシングやカードローンを利用した」など全17項目のうち、6項目以上該当する世帯と定義する。

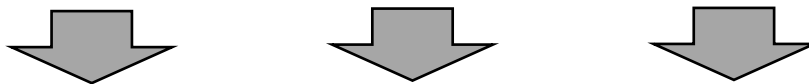
③子どもの体験や所有物の欠如

「子どもの体験や所有物の欠如」は、子ども自身の生活困難を表す指標として、過去1年間に経済的な理由で子どもに関して経験したこと、具体的には、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」「子どもの進路を変更した」「子どものための本が買えなかった」「子どものための服や靴を買えなかった」「子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした」「子どもを学校や地域のクラブ活動に参加させることができなかった」「子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせることができなかった」など全11項目のうち、3項目以上該当する世帯と定義する。

(2) 「生活困難世帯」の分類について

本調査では、久留米市における「生活困難世帯」を、「困窮層」「周辺層」「一般層」の3つの層に分類した。

①低所得	③子どもの体験や所有物の欠如
世帯の可処分所得を世帯人員数の平方根で割り出した値(=等価可処分所得)が、厚生労働省「平成27年国民生活基礎調査」で算出された国の貧困線「122万円」を下回る世帯	過去1年間に経済的な理由で子どもに関して経験したこと全11項目のうち、3項目以上該当
②家計の逼迫	
過去1年間に経済的な理由で経験したこと全17項目のうち、6項目以上が該当	1 子どもを医療機関を受診させることができなかった
1 水道・電気・ガスのどれかが止められた	2 子どもの進路を変更した
2 クレジットカードが使えなくなった	3 子どものための本が買えなかった
3 国民健康保険料や国民年金の支払いができなかった	4 子どものための服や靴を買えなかった
4 電話(固定・携帯)などの通信料の支払いができなかった	5 子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした
5 家賃の支払いができなかった	6 子どもを学校や地域のクラブ活動に参加させることができなかった
6 住宅ローンの支払いができなかった	7 子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせることができなかった
7 食費を切りつめた	8 子どもに必要な文具や教材を買えなかった
8 新しい衣服や靴を買うのを減らした	9 子どもに誕生プレゼントやお年玉をあげることができなかった
9 新聞や雑誌が買えなかった	10 子どもを旅行やレジャーに連れていくことができなかった
10 冠婚葬祭のつきあいを減らした	11 その他
11 医療機関の受診ができなかった	
12 理髪店や美容院に行けなかった	
13 スマートフォンへの切替・利用を断念した	
14 敷金・保証金等を用意できないので、住み替え・転居を断念した	
15 趣味やレジャーの出費を減らした	
16 キャッシング・カードローンなどを利用した	
17 その他	



生活困難層		困窮層＋周辺層
	困窮層	2つ以上の要素に該当
	周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層		いずれの要素にも該当しない

第1章 調査の概要

(3) 「生活困難世帯」の割合

上記の条件を用いてそれぞれの割合を算出した結果、まず「①低所得」に該当する世帯が14.2%、「②家計の逼迫」に該当する世帯が7.7%、「子どもの体験や所有物の欠如」に該当する世帯が9.5%となった。

また、3つの要素のうち2つ以上の要素に該当する「困窮層」が7.5%、いずれか1つの要素に該当する「周辺層」が14.6%となり、「困窮層」「周辺層」を合わせた『生活困難世帯』は、22.1%となっている。

なお、3つの要素のうち、いずれの要素にも該当しない「一般層」は77.9%であった。

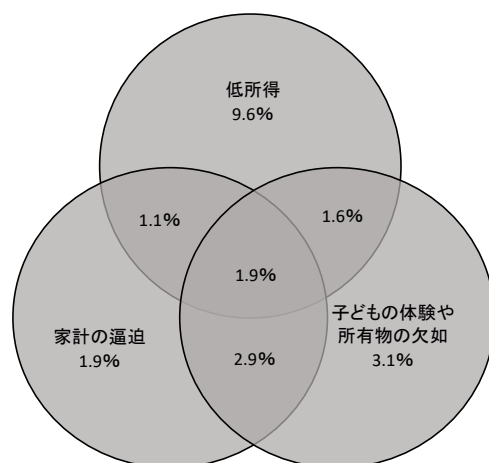
◆生活困難世帯の割合（全体）

		全体
生活困難層		22.1%
	困窮層	7.5%
	周辺層	14.6%
一般層		77.9%

		全体
低所得層		14.2%
家計の逼迫		7.7%
子どもの体験や所有物の欠如		9.5%

◆生活困難世帯の割合（詳細）

困窮層	3つに該当	低所得+家計の逼迫+ 子どもの体験や所有物の欠如	1.9%	7.5%
		2つに該当		
		低所得+子どもの体験や所有物の欠如	1.6%	
		家計の逼迫+子どもの体験や所有物の欠如	2.9%	
周辺層	1つに該当	低所得のみ	9.6%	14.6%
		家計の逼迫のみ	1.9%	
		子どもの体験や所有物の欠如のみ	3.1%	
困窮層と周辺層の計				22.1%



第2章 生活の状況

1. 世帯状況

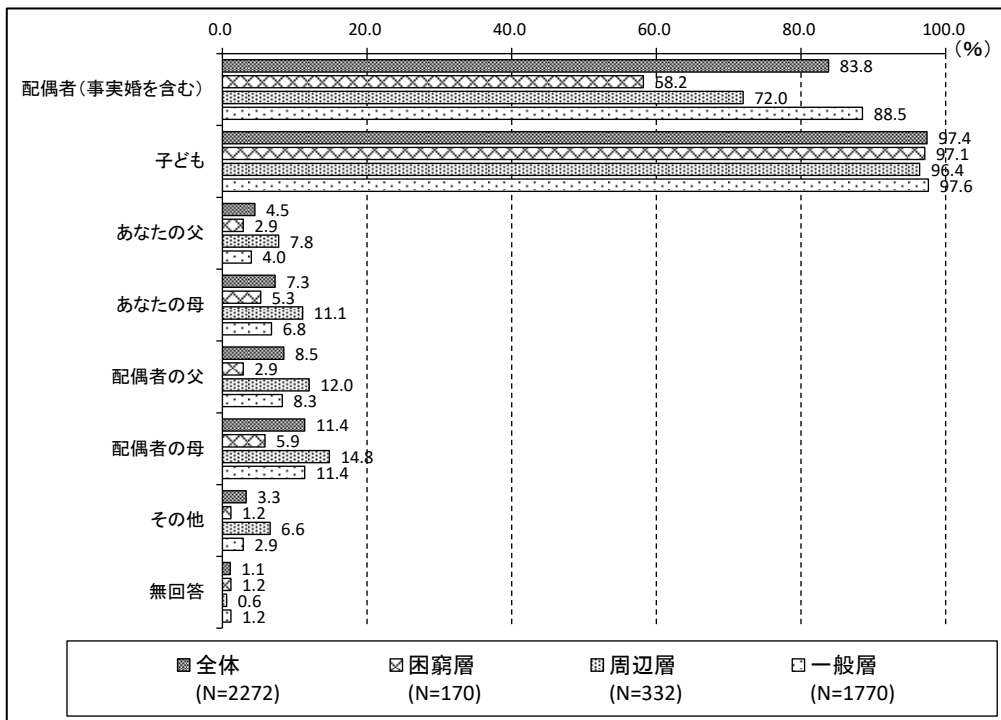
(1)同居者（保護者）

問 27 世帯（世帯とは、居住と生計を同じくし、生活を営む集まりのことを言います）の状況を教えてください。（「世帯員人数」は数字を記入。「同居している家族等」については、あなたから見た関係で、あてはまるものすべてに○）

全体では、「子ども」が97.4%で最も高く、次いで「配偶者（事実婚を含む）」が83.8%と続く。

【生活困難世帯別】

「配偶者（事実婚を含む）」の割合は、困窮層では58.2%、周辺層では72.0%、一般層では88.5%と、困窮度が高まるにつれて低くなっている。



第2章 生活の状況

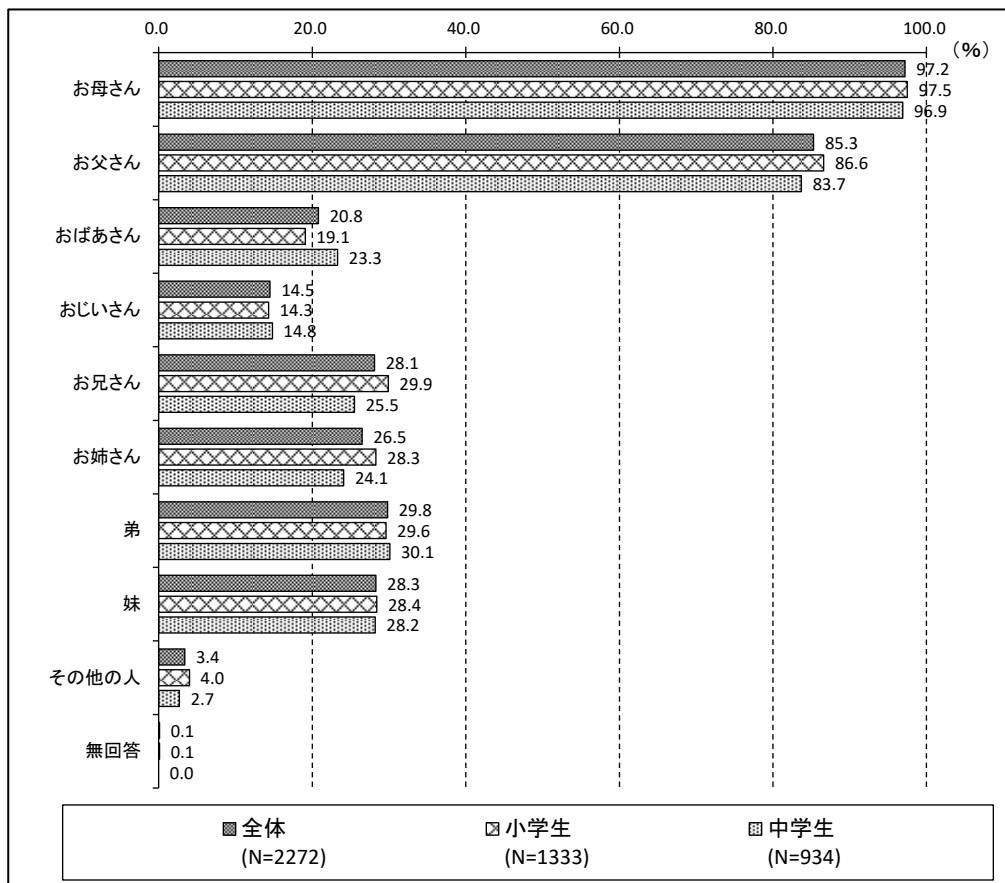
(2)同居者（子ども）

問2 あなたと今一緒に住んでいる人を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

全体では、「お母さん」が97.2%で最も高く、次いで「お父さん」が85.3%と続く。

【学年別】

小学生、中学生ともに「お母さん」の割合が最も高く、小学生では97.5%、中学生では96.9%となっている。



(3) 世帯状況

問 28 あなたの世帯は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

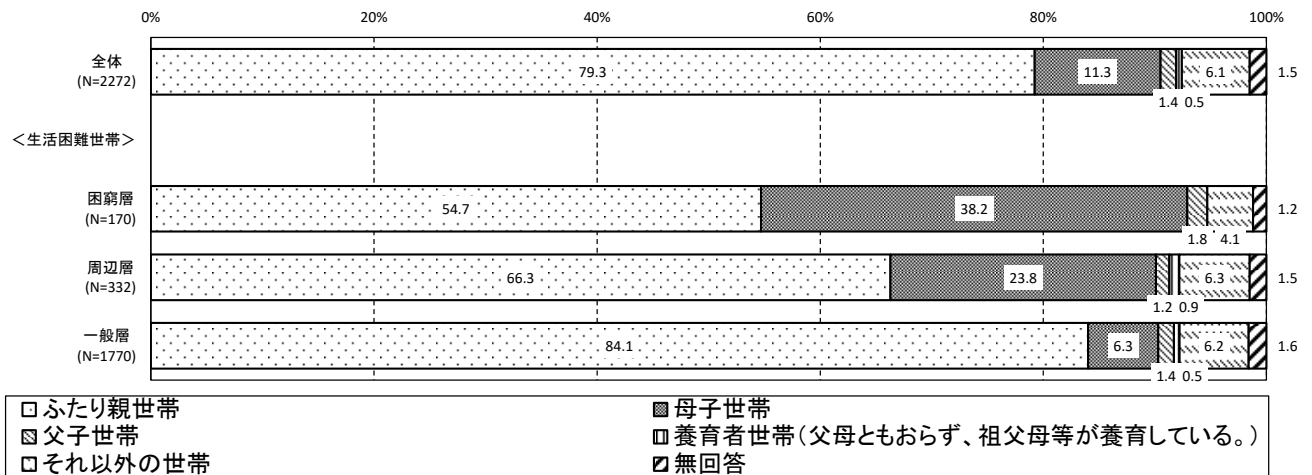
全体では、「ふたり親世帯」が79.3%で最も高く、次いで「母子世帯」が11.3%と続く。

【生活困難世帯別】

「ふたり親世帯」の割合は、困窮層では54.7%、周辺層では66.3%、一般層では84.1%と、困窮度が高まるにつれて低くなっている。

一方、「母子世帯」の割合は、困窮層では38.2%、周辺層では23.8%、一般層では6.3%と、困窮度が高まるにつれて高くなっている。

父子世帯の割合は、区分毎に大きな差はみられない。



第2章 生活の状況

(4) 就労状況

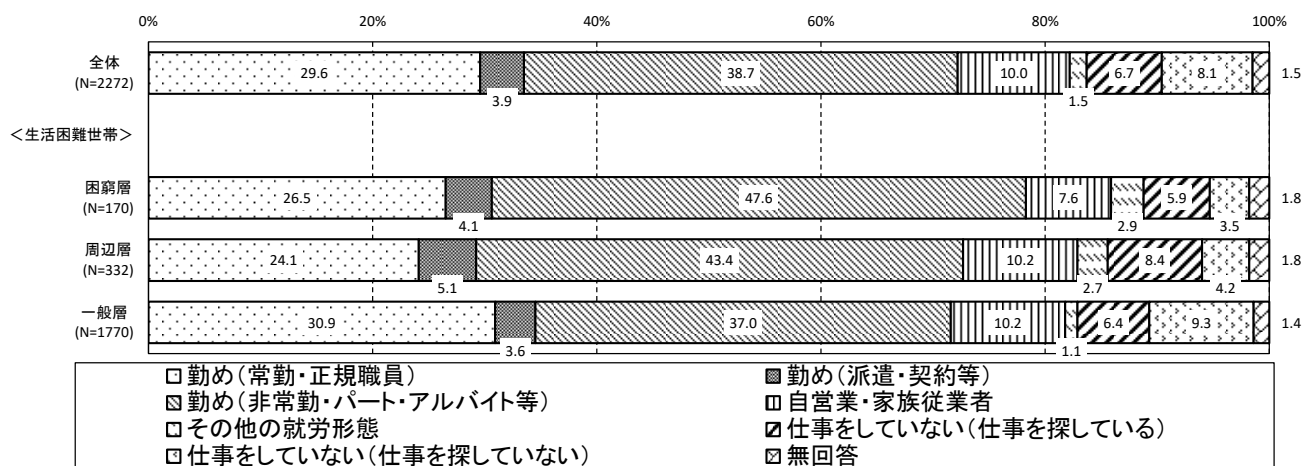
問 30 現在の就労状況についておたずねします。(あなたと配偶者のそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

○あなた

全体では、「勤め(非常勤・パート・アルバイト)等」が38.7%で最も高く、次いで「勤め(常勤・正規職員)」が29.6%と続く。

【生活困難世帯別】

「勤め(非常勤・パート・アルバイト等)」の割合は、困窮層では47.6%、周辺層では43.4%、一般層では37.0%となり、困窮度が高まるにつれて高くなっている。

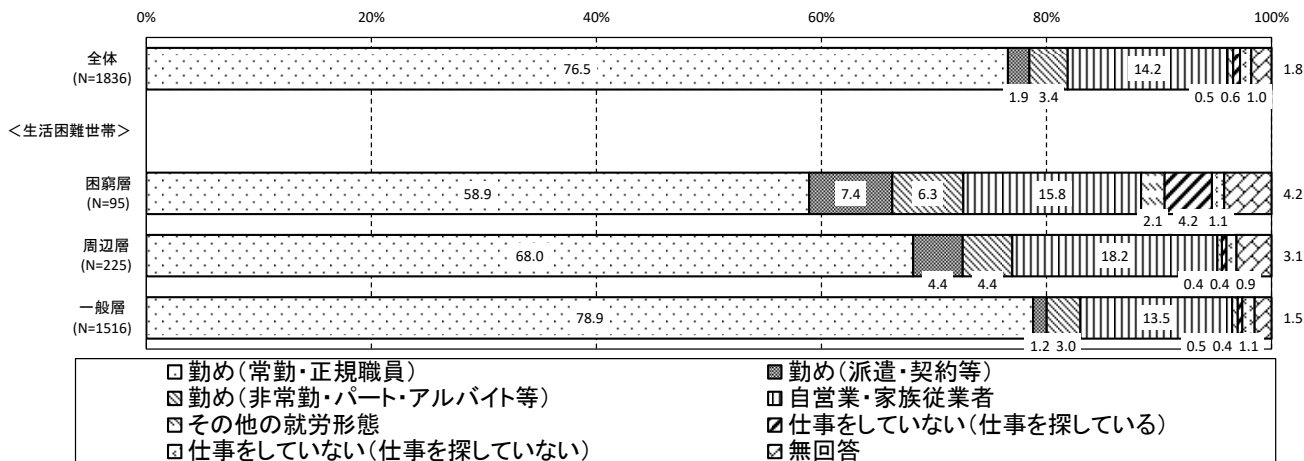


○配偶者

全体では、「勤め(常勤・正規職員)」が76.5%で最も高く、次いで「自営業・家族従業者」が14.2%と続く。

【生活困難世帯別】

「勤め(常勤・正規職員)」の割合は、困窮層では58.9%、周辺層では68.0%、一般層では78.9%となり、困窮度が高まるにつれて低くなっている。



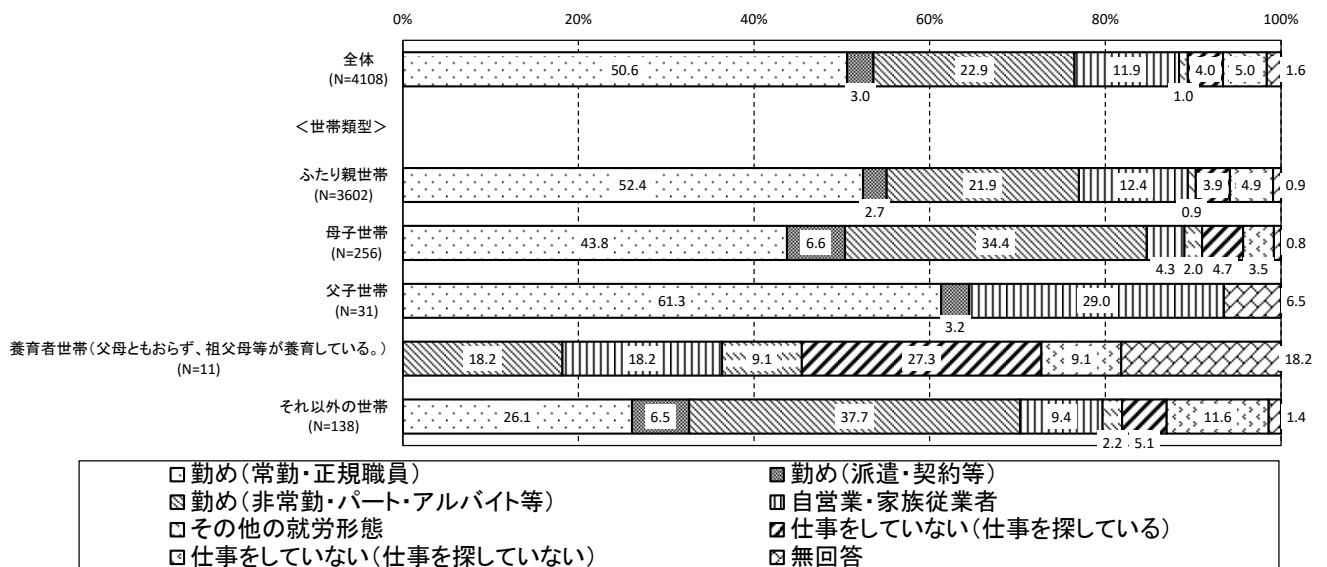
世帯類型別の集計を行うにあたり、『あなた』『配偶者』における回答結果を合算した。

その結果全体では、「勤め（常勤・正規職員）」が50.6%で最も高く、次いで「勤め（非常勤・パート・アルバイト等）」が22.9%、「自営業・家族従業者」が11.9%と続く。

【世帯類型別】

母子世帯でも「勤め（常勤・正規職員）」が43.8%と最も高いものの、その割合は半数未満にとどまっている。

また、母子世帯の特徴として「勤め（非常勤・パート・アルバイト等）」が34.4%と比較的高い。



第2章 生活の状況

(5) 保護者の帰宅時間

問 30 で「1～5 (= 仕事をしている)」と答えた方におたずねします。

問 30-1 ふだんの帰宅時間で、最も多い時間帯を選んでください。(あなたと配偶者のそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

※自宅が仕事場の方は仕事が終わる時間を回答してください。

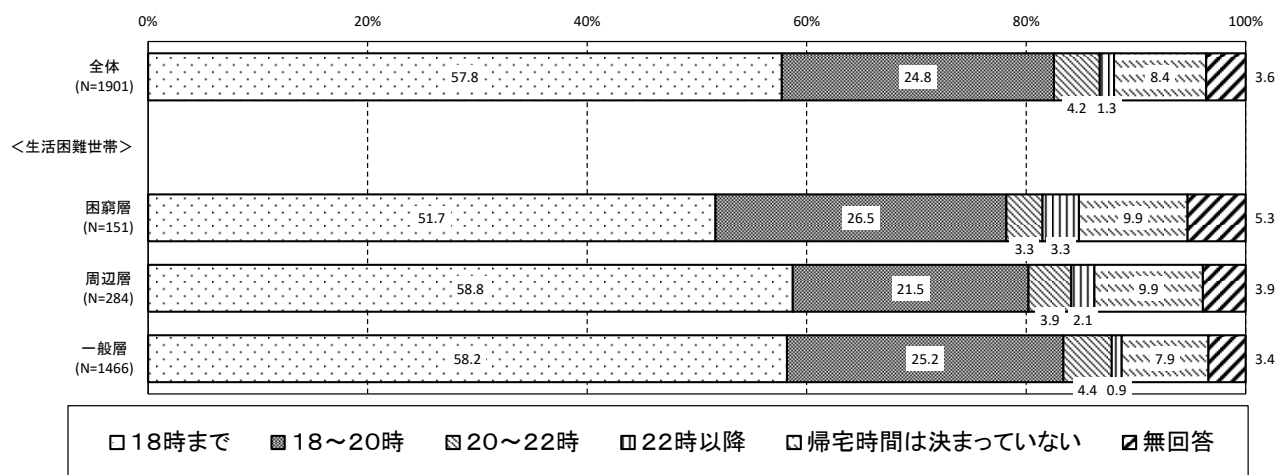
※ひとり親の方は「あなた」の項目のみ回答してください。

○あなた

全体では、「18時まで」が57.8%で最も高く、次いで「18～20時」が24.8%と続く。

【生活困難世帯別】

「18時まで」の割合についてみると、困窮層(51.7%)では周辺層(58.8%)、一般層(58.2%)と比較して低くなっている。

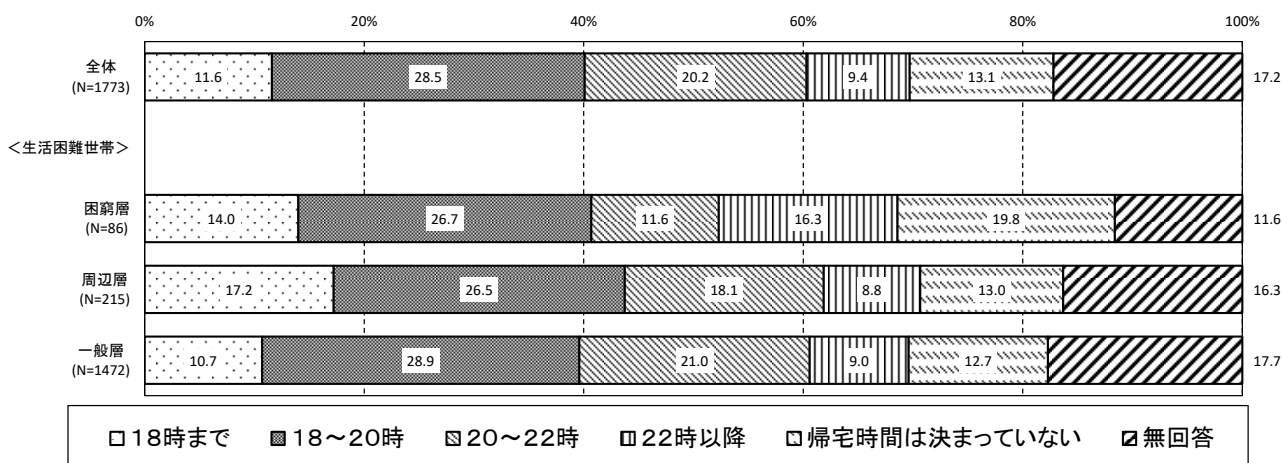


○配偶者

全体では「18～20時」が28.5%で最も高く、次いで「20～22時」が20.2%、「帰宅時間は決まっていない」が13.1%と続く。

【生活困難世帯別】

「22時以降」の割合は、周辺層の8.8%、一般層の9.0%に対し、困窮層では16.3%と高くなっている。

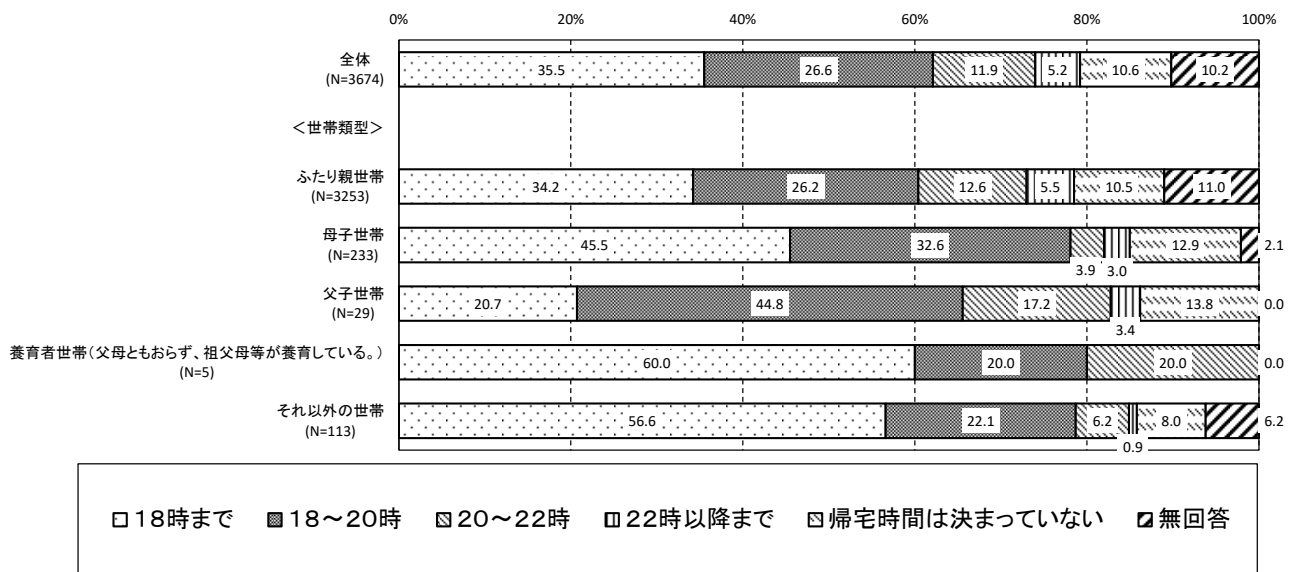


世帯類型別の集計を行うにあたり、『あなた』『配偶者』における回答結果を合算した。

その結果全体では、「18時まで」が35.5%で最も高く、次いで「18～20時」が26.6%と続く。

【世帯類型別】

母子世帯の割合に着目すると、「18時まで」が45.5%で最も高く、次いで「18～20時まで」が32.6%と続く。



第2章 生活の状況

(6) 保護者の休日日数

問 30 で「1～5」と答えた方におたずねします。

問 30-2 仕事が休みの日について、平均的な日数を教えてください。(あなたと配偶者のそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

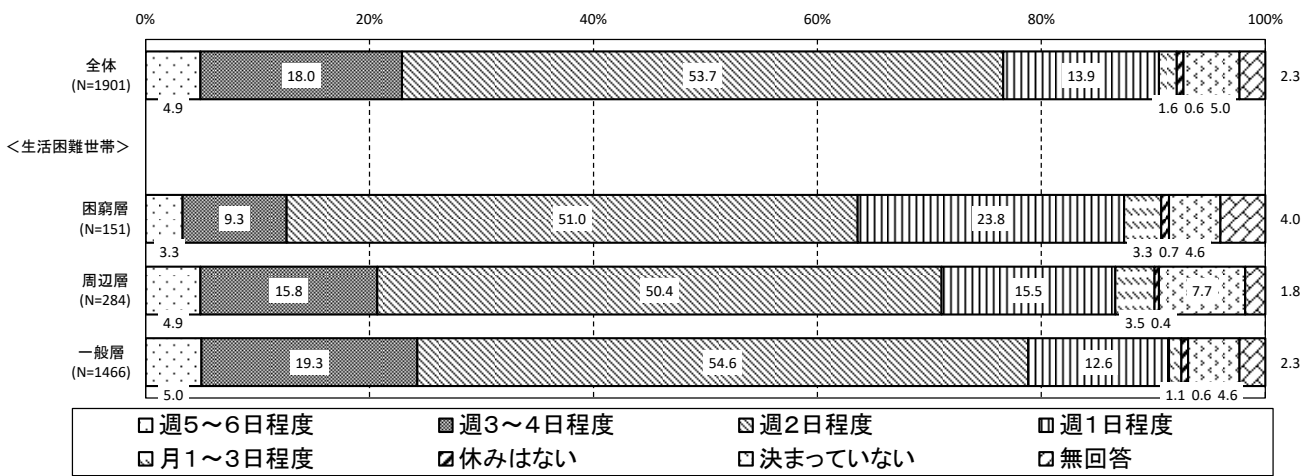
※ひとり親の方は「あなた」の項目のみ回答してください。

○あなた

全体では、「週2日程度」が53.7%で最も高く、次いで「週3～4日程度」が18.0%と続く。

【生活困難世帯別】

「週1日程度」の割合は、困窮層では23.8%、周辺層では15.5%、一般層では12.6%となり、困窮度が高まるにつれて高くなっている。

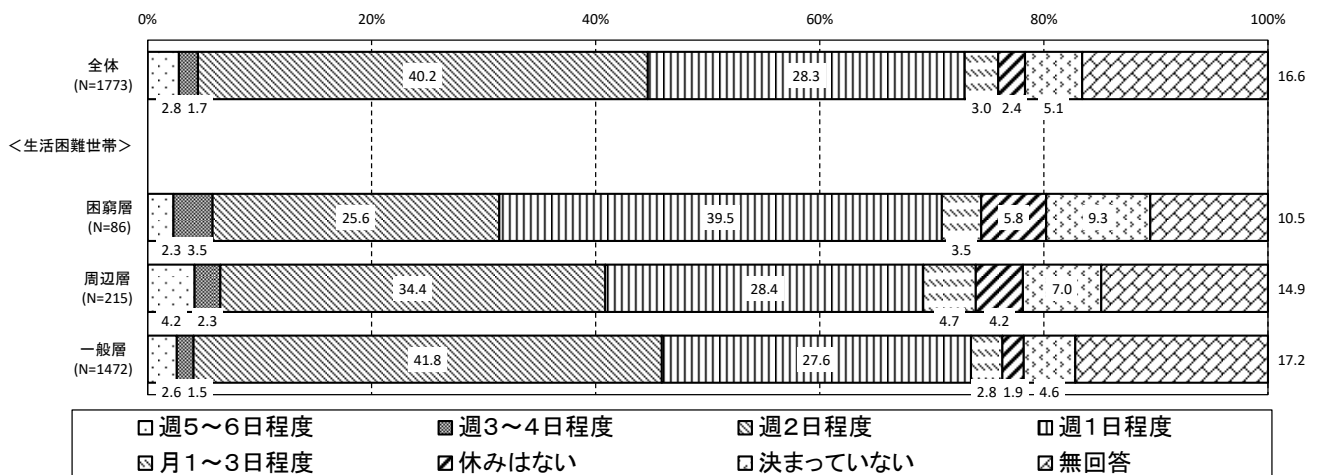


○配偶者

全体では、「週2日程度」が40.2%で最も高く、次いで「週1日程度」が28.3%と続く。

【生活困難世帯別】

「週1日程度」の割合は、困窮層では39.5%、周辺層では28.4%、一般層では27.6%となり、困窮度が高まるにつれて高くなっている。

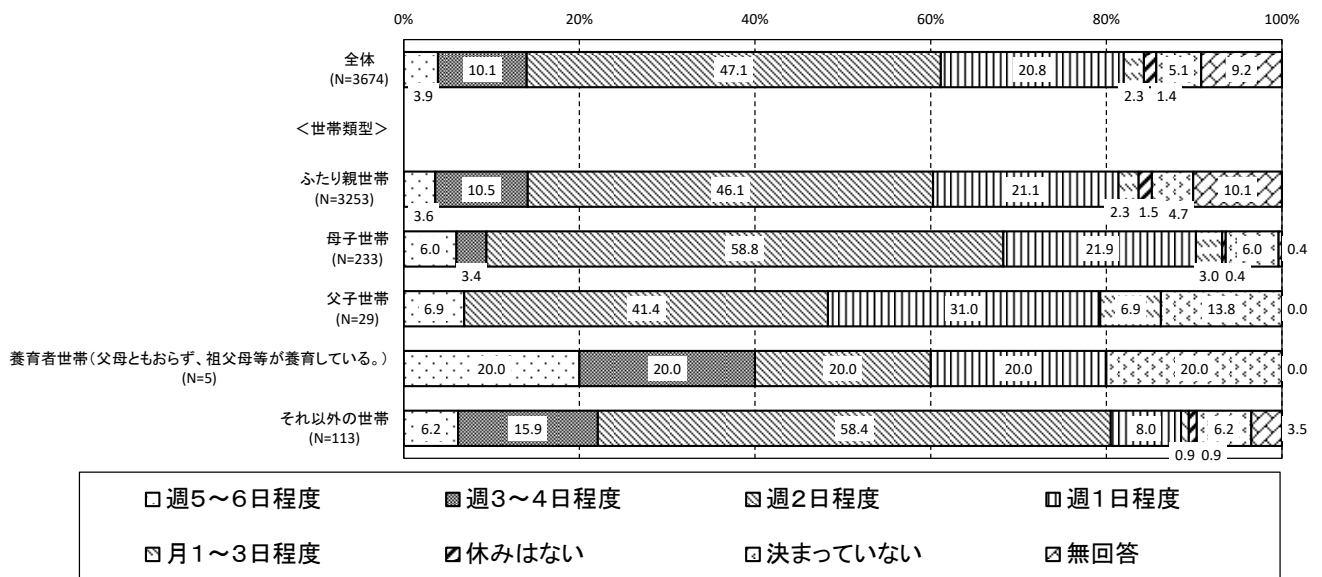


世帯類型別の集計を行うにあたり、『あなた』『配偶者』における回答結果を合算した。

その結果全体では、「週2日程度」が47.1%で最も高く、次いで「週1日程度」が20.8%と続く。

【世帯類型別】

「週2日程度」の割合は、母子世帯では58.8%、それ以外の世帯では58.4%と他の世帯類型と比較して高くなっている。また父子世帯では、「週1日程度」が31.0%となり、他の世帯類型と比較して高くなっている。



第2章 生活の状況

(7)現在の就労状況

問 30 で「6. 仕事をしていない（仕事を探している）」「7. 仕事をしていない（仕事を探していない）」と答えた方におたずねします。

問 30-3 今後の就労について、就労を考えている場合と考えていない場合のあなたと配偶者のお考えをお聞かせください。（あなたと配偶者のそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

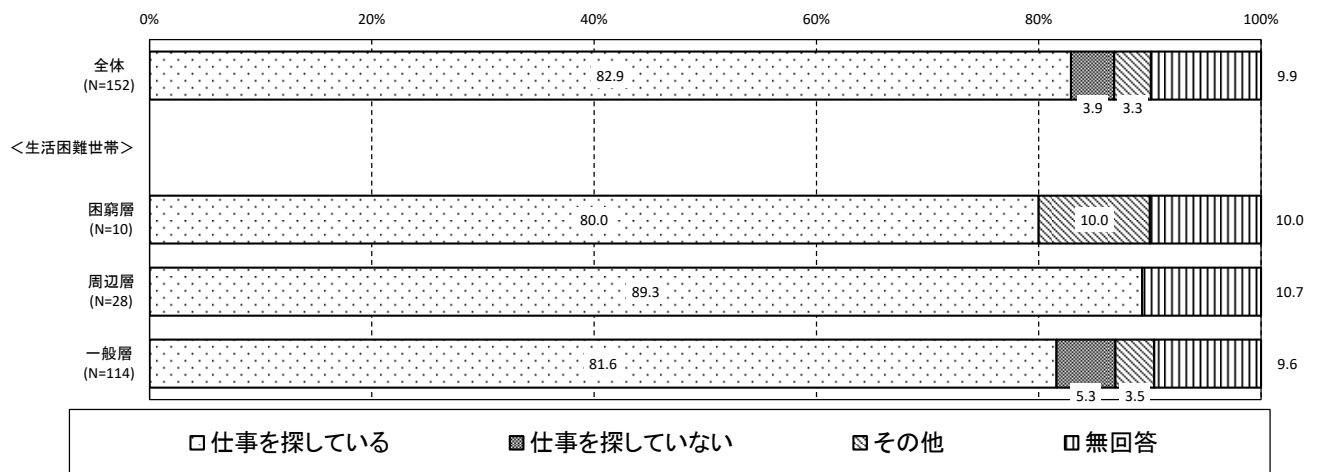
「就労を考えている場合」

○あなた

全体では、「仕事を探している」が82.9%で最も高い。

【生活困難世帯別】

すべての階層において、「仕事を探している」の割合が最も高く、困窮層では80.0%、周辺層では89.3%、一般層では81.6%となっている。

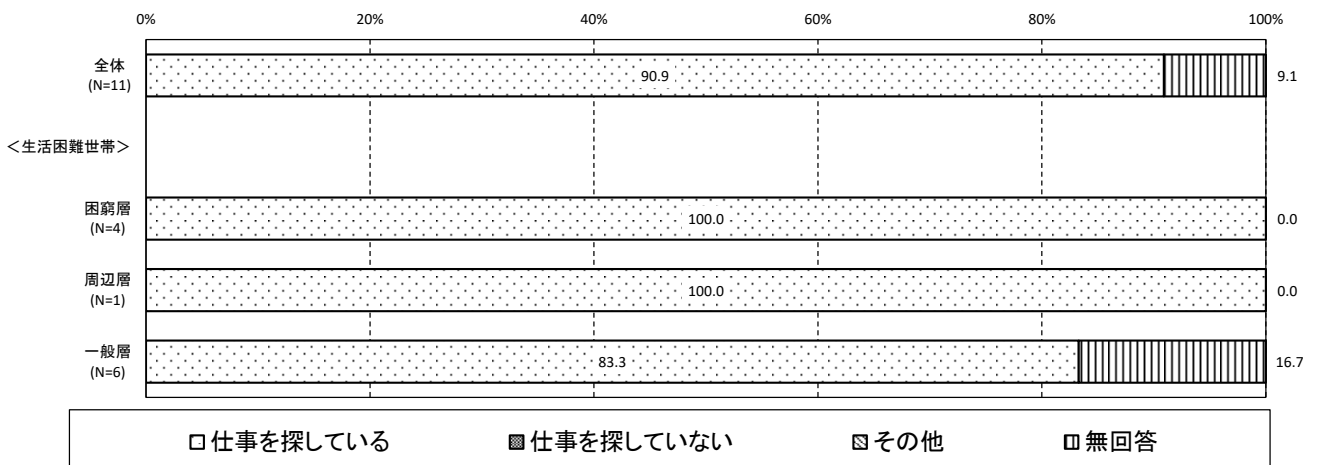


○配偶者

全体では、「仕事を探している」が90.9%で最も高い。

【生活困難世帯別】

生活困難世帯別の集計はサンプル数が少ないため、以下に図表を掲載するにとどめる。

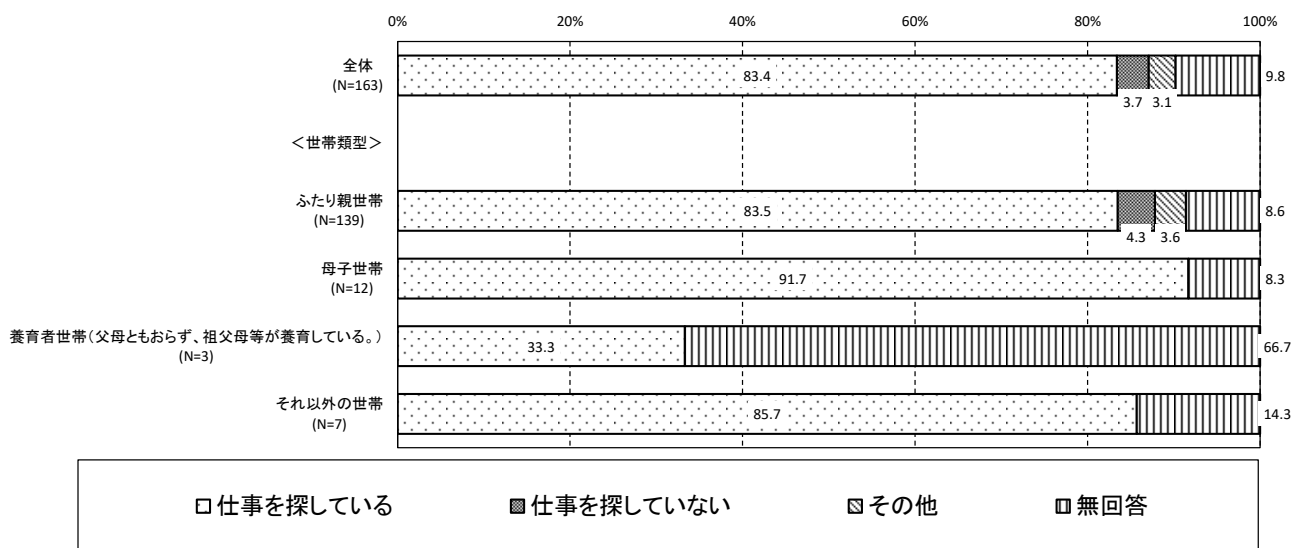


世帯類型別の集計を行うにあたり、『あなた』『配偶者』における回答結果を合算した。

その結果全体では、「仕事を探している」が83.4%で最も高い。

【世帯類型別】

サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、ふたり親世帯では、「仕事を探している」が83.5%で最も高く、「仕事を探していない」と回答したサンプルは4.3%となっている。



第2章 生活の状況

(8) 就労を考えていない理由

問 30 で「6. 仕事をしていない（仕事を探している）」「7. 仕事をしていない（仕事を探していない）」と答えた方におたずねします。

問 30-3 今後の就労について、就労を考えている場合と考えていない場合のあなたと配偶者のお考えをお聞かせください。（あなたと配偶者のそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

「就労を考えていない場合」

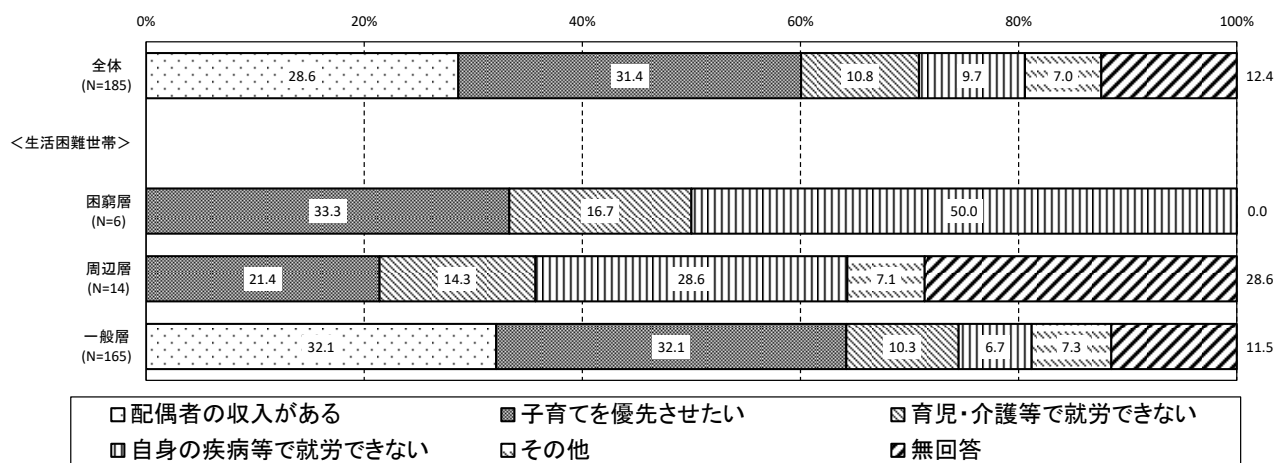
○あなた

全体では、「子育てを優先させたい」が31.4%で最も高く、次いで「配偶者の収入がある」が28.6%と続く。

【生活困難世帯別】

一般層では「配偶者の収入がある」「子育てを優先させたい」がそれぞれ32.1%で最も高くなっている。

困窮層、周辺層はサンプル数が少ないため、以下に図表を掲載するにとどめる。

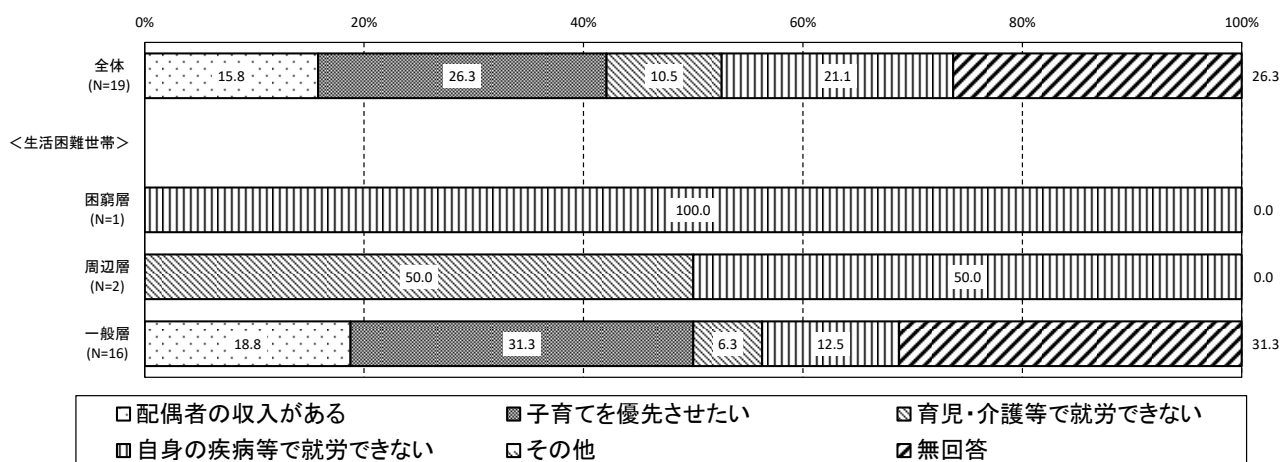


○配偶者

全体では、「子育てを優先させたい」が26.3%で最も高く、次いで「自身の疾病等で就労できない」が21.1%と続く。

【生活困難世帯別】

生活困難世帯別の集計はサンプル数が少ないため、以下に図表を掲載するにとどめる。

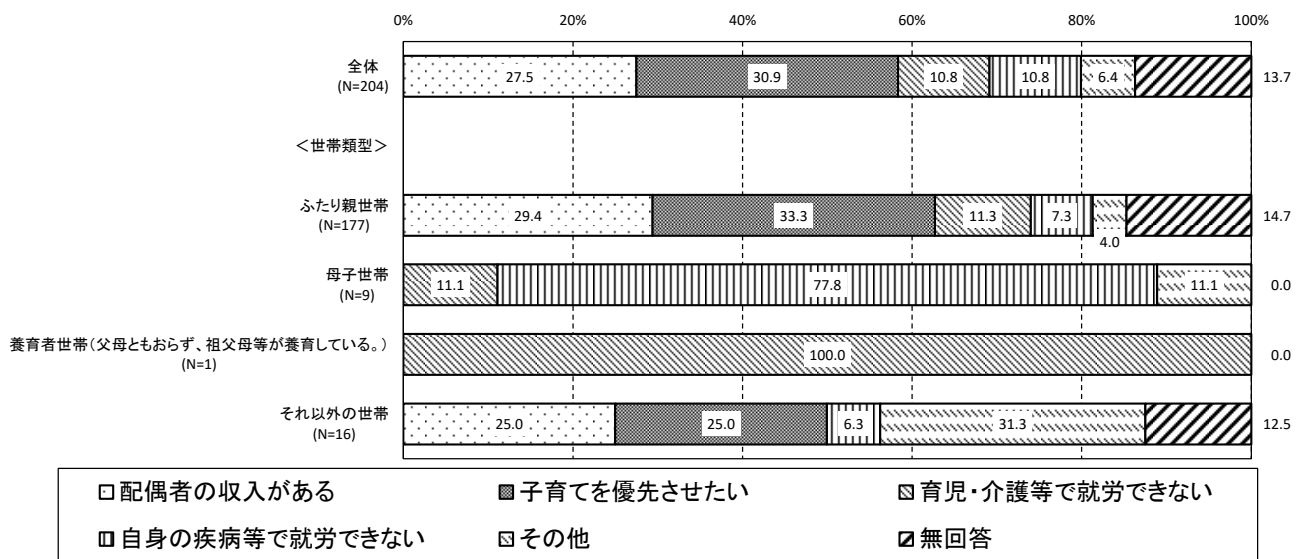


世帯類型別の集計を行うにあたり、『あなた』『配偶者』における回答結果を合算した。

その結果全体では、「子育てを優先させたい」が30.9%で最も高く、次いで「配偶者の収入がある」が27.5%と続く。

【世帯類型別】

サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、ふたり親世帯では、「子育てを優先させたい」が33.3%で最も高く、次いで「配偶者の収入がある」が29.4%と続く。

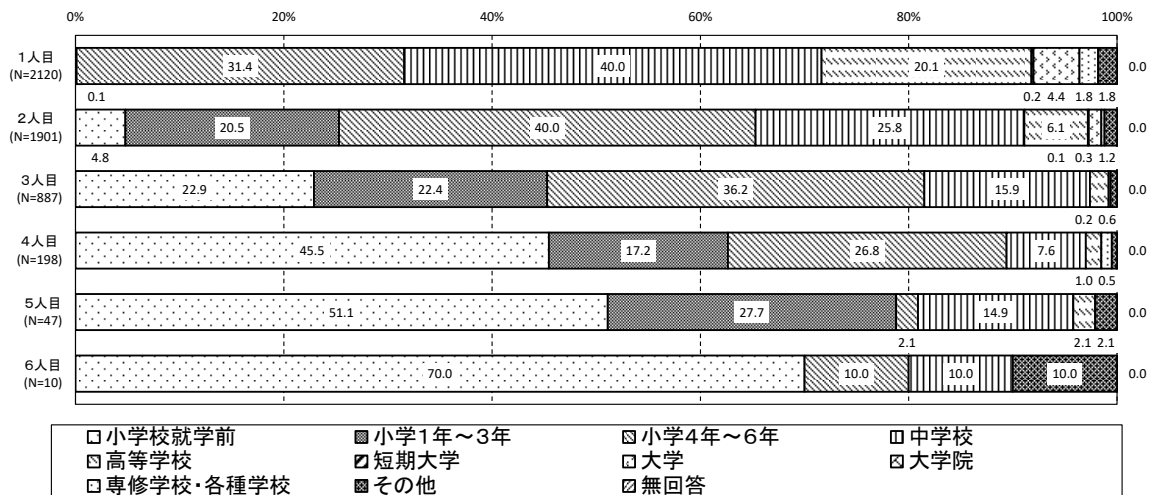


第2章 生活の状況

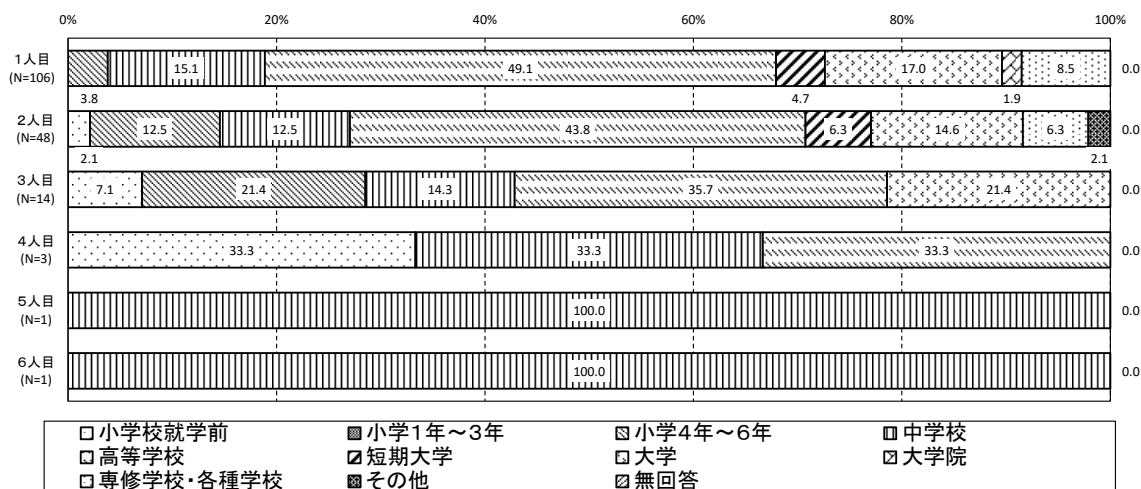
(9) 子どもの就学状況

問 29 すべてのお子さんの「年齢」、「就学状況」を教えてください。就学状況は、在学中の場合は「○」を、卒業は「◎」を、中退は「△」を、いずれかひとつ番号の部分にご記入ください（年齢は平成30年3月31日現在で記入してください）。

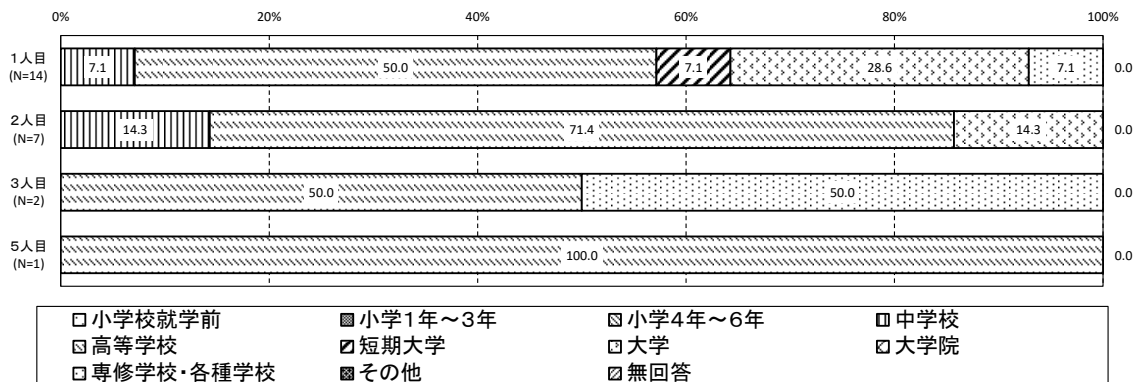
【在学中】



【卒業】



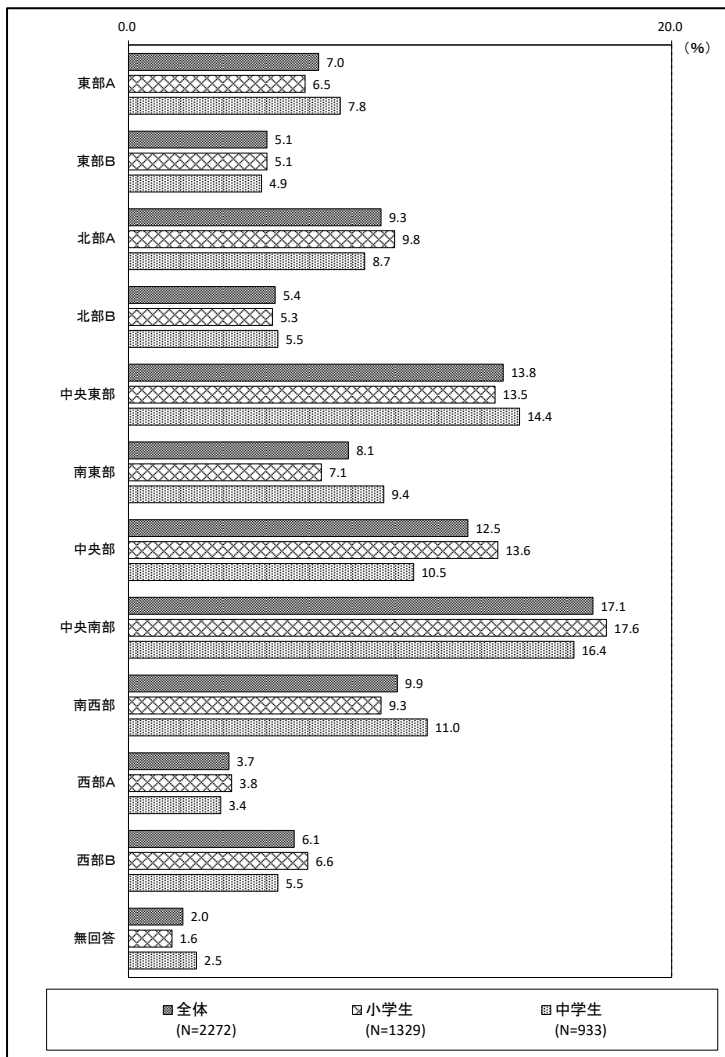
【中退】



(10)住まいの校区

問 32 あなたは、どちらの小学校区にお住まいですか。(〇は1つ)

全体では、「中央南部」が17.1%で最も高い。



【校区の詳細】

東部A					東部B						
山川	山本	草野	善導寺	大橋	船越	水分	柴刈	川会	竹野	水縄	田主丸

北部A			北部B				中央東部		
小森野	合川	宮ノ陣	北野	弓削	大城	金島	西国分	東国分	御井

南東部			中央部						中央南部			
上津	高良内	青峰	荘島	日吉	篠山	京町	南薫	長門石	鳥飼	金丸	南	津福

南西部			西部A				西部B		
荒木	大善寺	安武	城島	下田	青木・浮島	江上	犬塚	三瀬	西牟田

第2章 生活の状況

(11) 住居形態

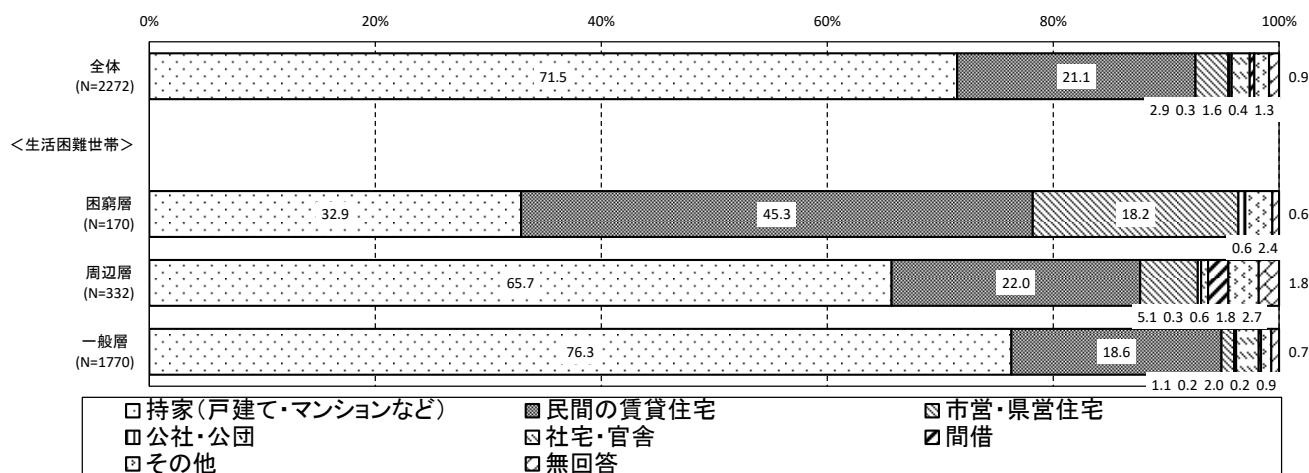
問 33 あなたの住居についてお答えください。(○は1つ)

全体では、「持家(戸建て・マンションなど)」が71.5%で最も高く、次いで「民間の賃貸住宅」が21.1%と続く。

【生活困難世帯別】

「持家(戸建て・マンションなど)」の割合は、困窮層では32.9%、周辺層では65.7%、一般層では76.3%と、困窮度が高まるにつれて低くなっている。

また困窮層では、周辺層、一般層と比較して、「民間の賃貸住宅」(45.3%)、「市営・県営住宅」(18.2%)の割合が高い。



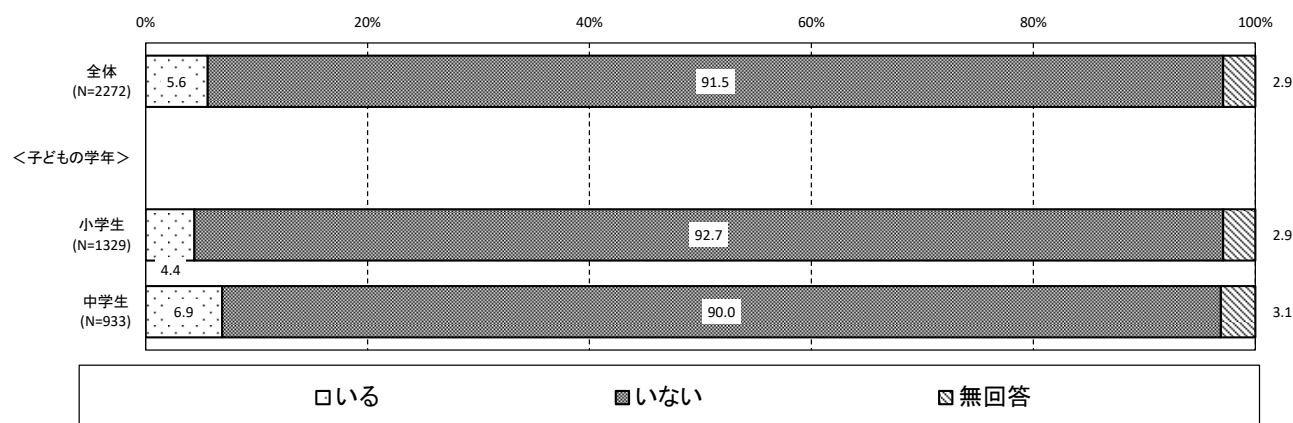
(12) 介助が必要な人の有無

問 31 同じ世帯の人に介護または介助の必要な方がいますか。(○は1つ)

全体では、「いる」は5.6%、「いない」が91.5%となっている。

【学年別】

小学生、中学生ともに「いない」の割合が高く、小学生は92.7%、中学生では90.0%となっている。



2. 経済的な状況

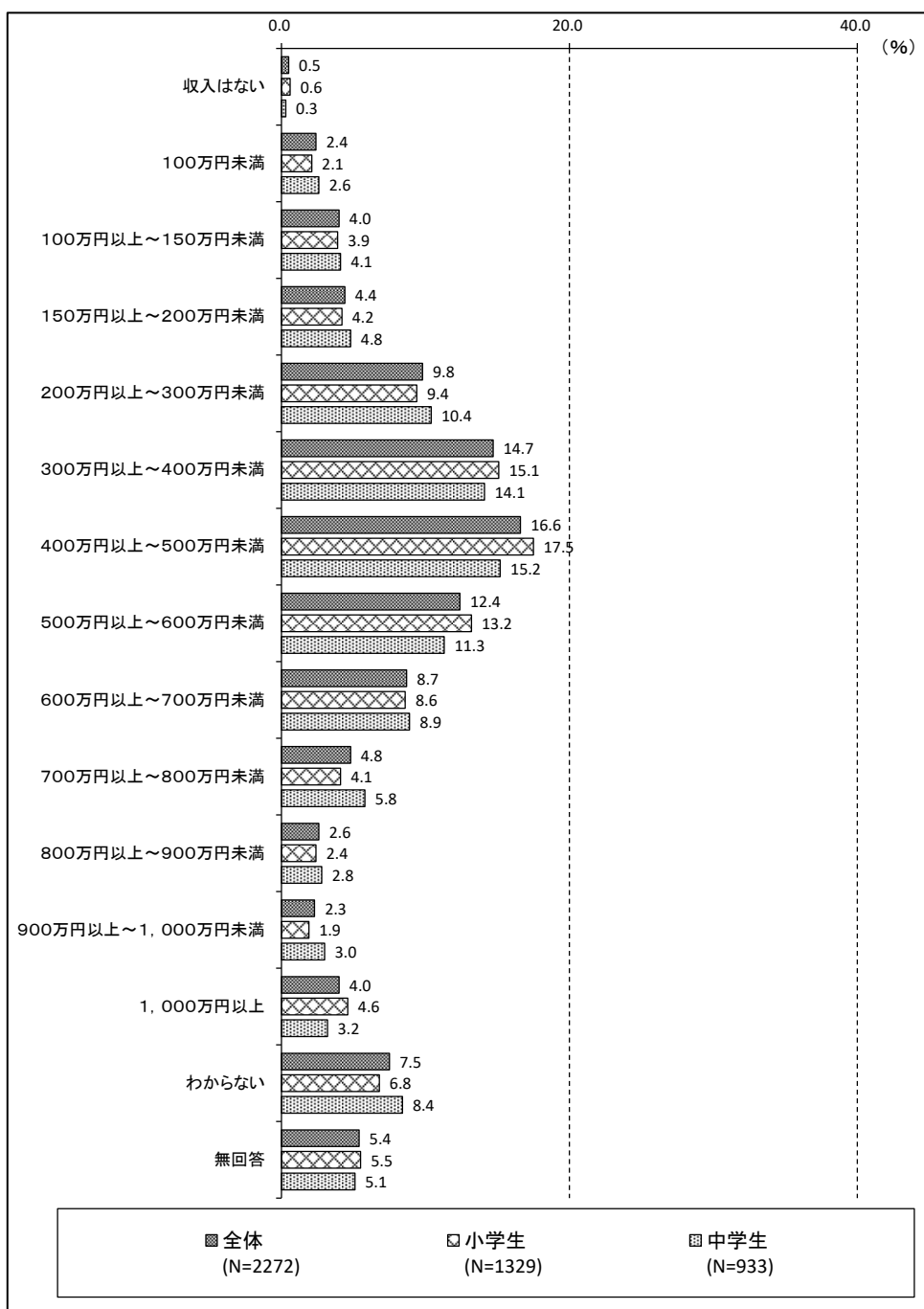
(1) 世帯の手取り収入

問19 前年（平成28年1月～12月）のあなたの世帯の手取り収入（いわゆる可処分所得）の合計額は、およそいくらでしたか。世帯の収入から、税金や社会保険料の額を差し引いた後の額をお答えください。（○は1つ）

全体では、「400万円以上～500万円未満」が16.6%で最も高く、次いで「300万円以上～400万円未満」が14.7%、「500万円以上～600万円未満」が12.4%と続く。

【学年別】

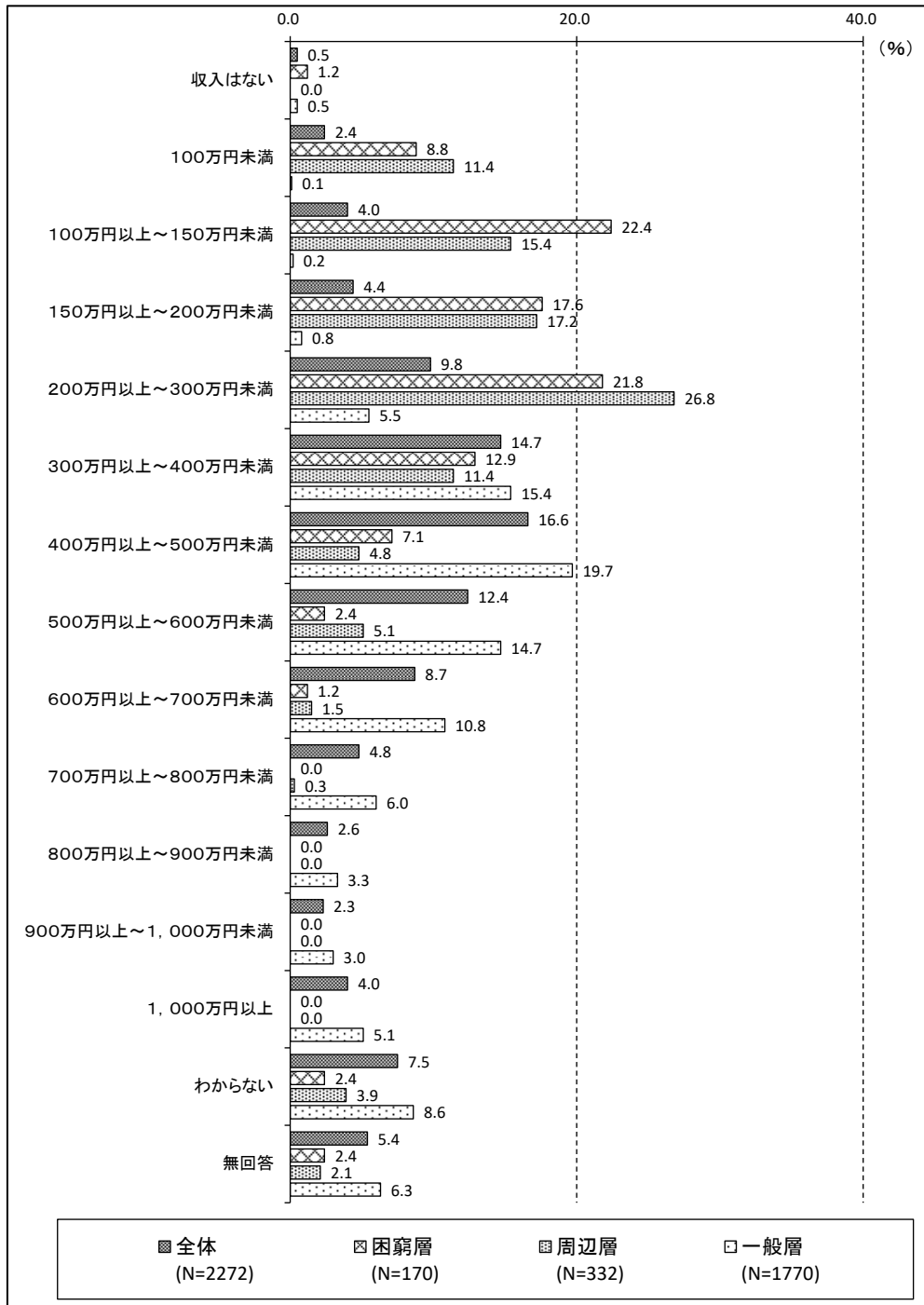
小学生、中学生ともに「400万円以上～500万円未満」の割合が最も高く、小学生では17.5%、中学生では15.2%となっている。



第2章 生活の状況

【生活困難世帯別】

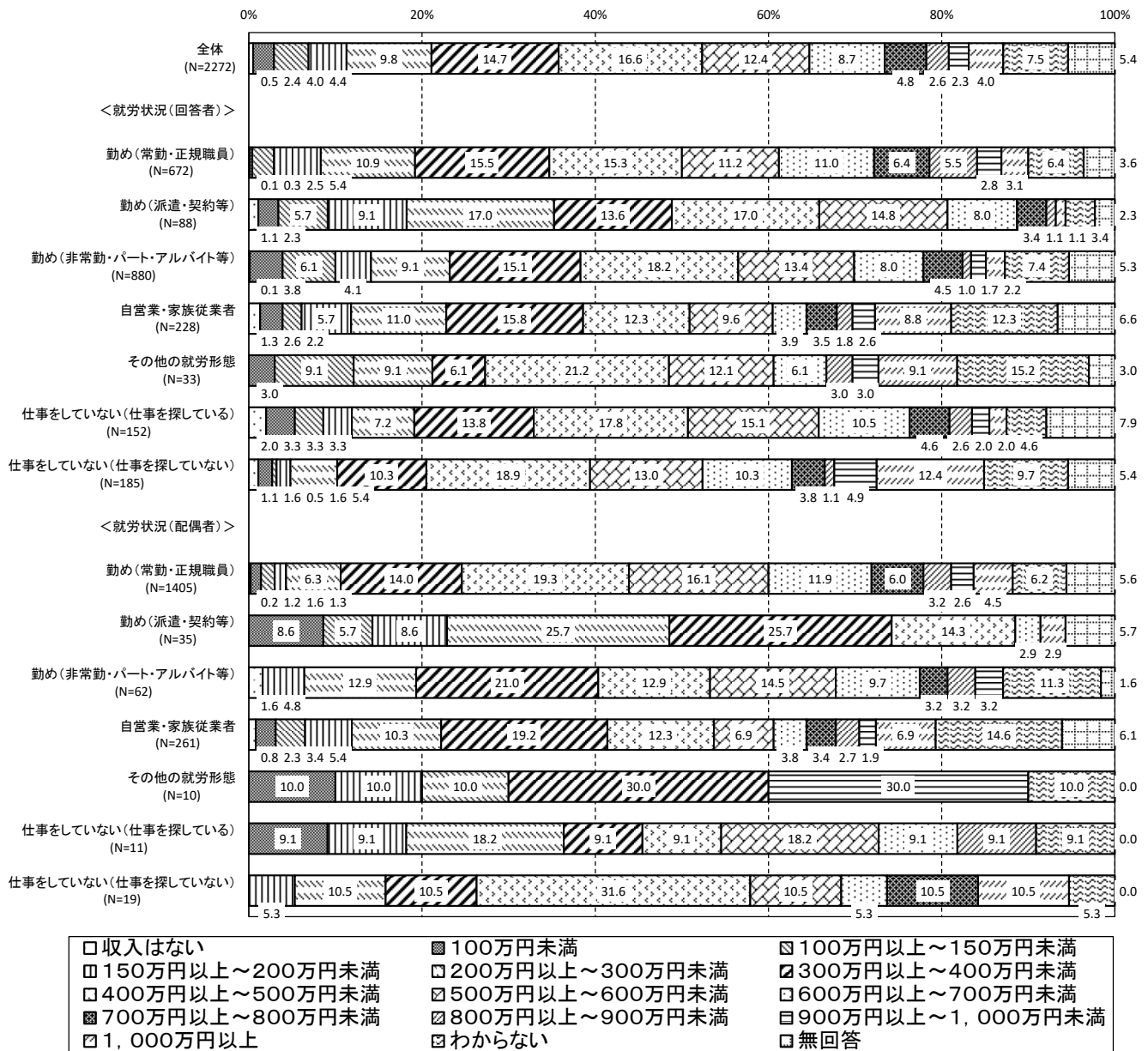
困窮層では「100万円以上～150万円未満」が22.4%で最も高く、周辺層では「200万円以上～300万円未満」が26.8%で最も高い。



【就労状況別】

世帯の手取り収入について、回答者と配偶者それぞれの就労状況別に集計した。

手取り収入400万円以上でまとめると、全体結果では51.4%となっているのに対し、回答者が「自営業・家族従業者」の世帯では42.5%、配偶者が「勤め（派遣・契約等）」の世帯では20.1%、配偶者が「自営業・家族従業者」の世帯では37.9%にとどまっている。



第2章 生活の状況

(2) 収入の種類

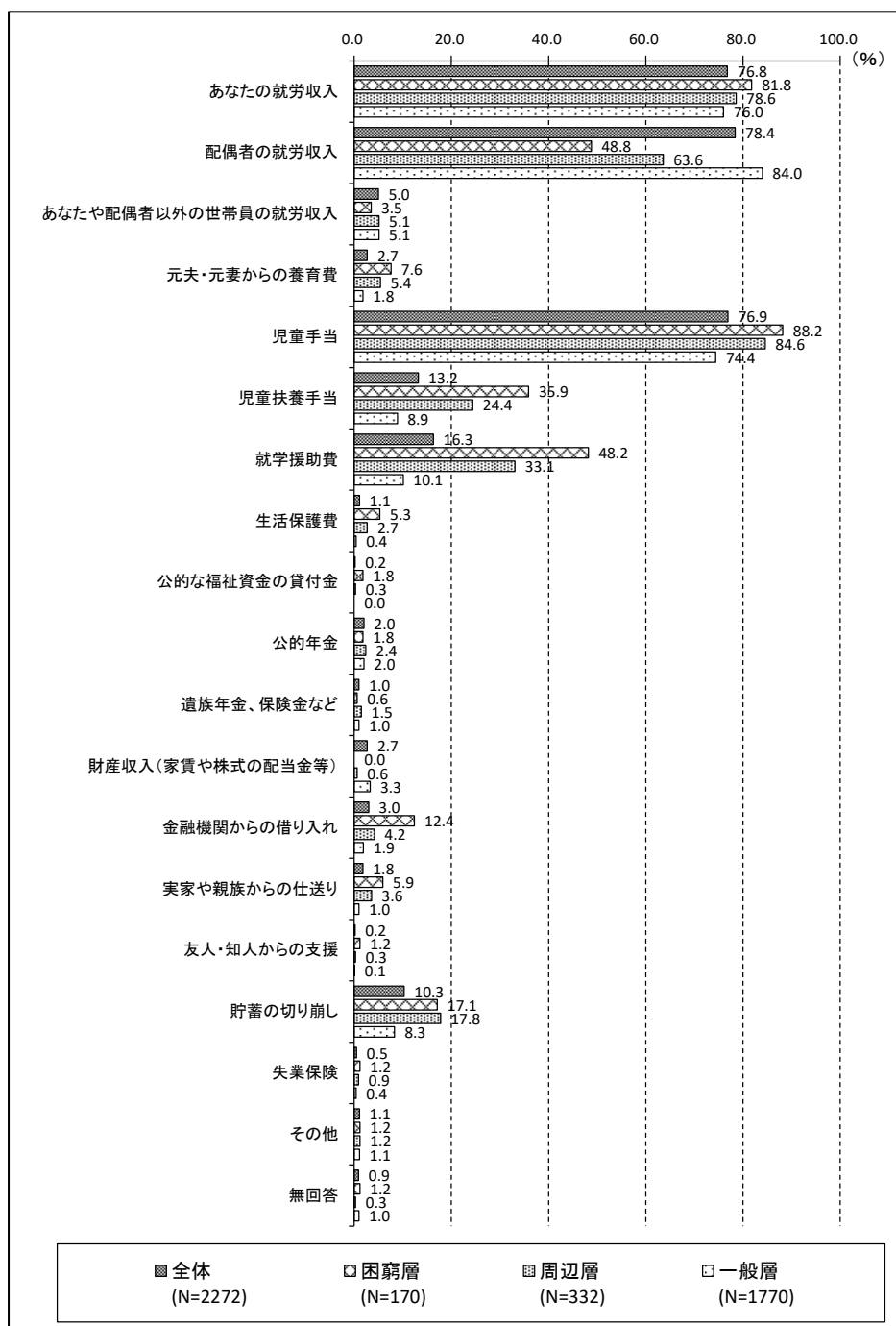
問 20 現在、どのような収入等がありますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「配偶者の就労収入」が78.4%で最も高く、次いで「児童手当」が76.9%、「あなたの就労収入」が76.8%と続く。

【生活困難世帯別】

「配偶者の就労収入」の割合は、困窮層では48.8%、周辺層では63.6%、一般層では84.0%と、困窮度が高まるにつれて低くなっている。

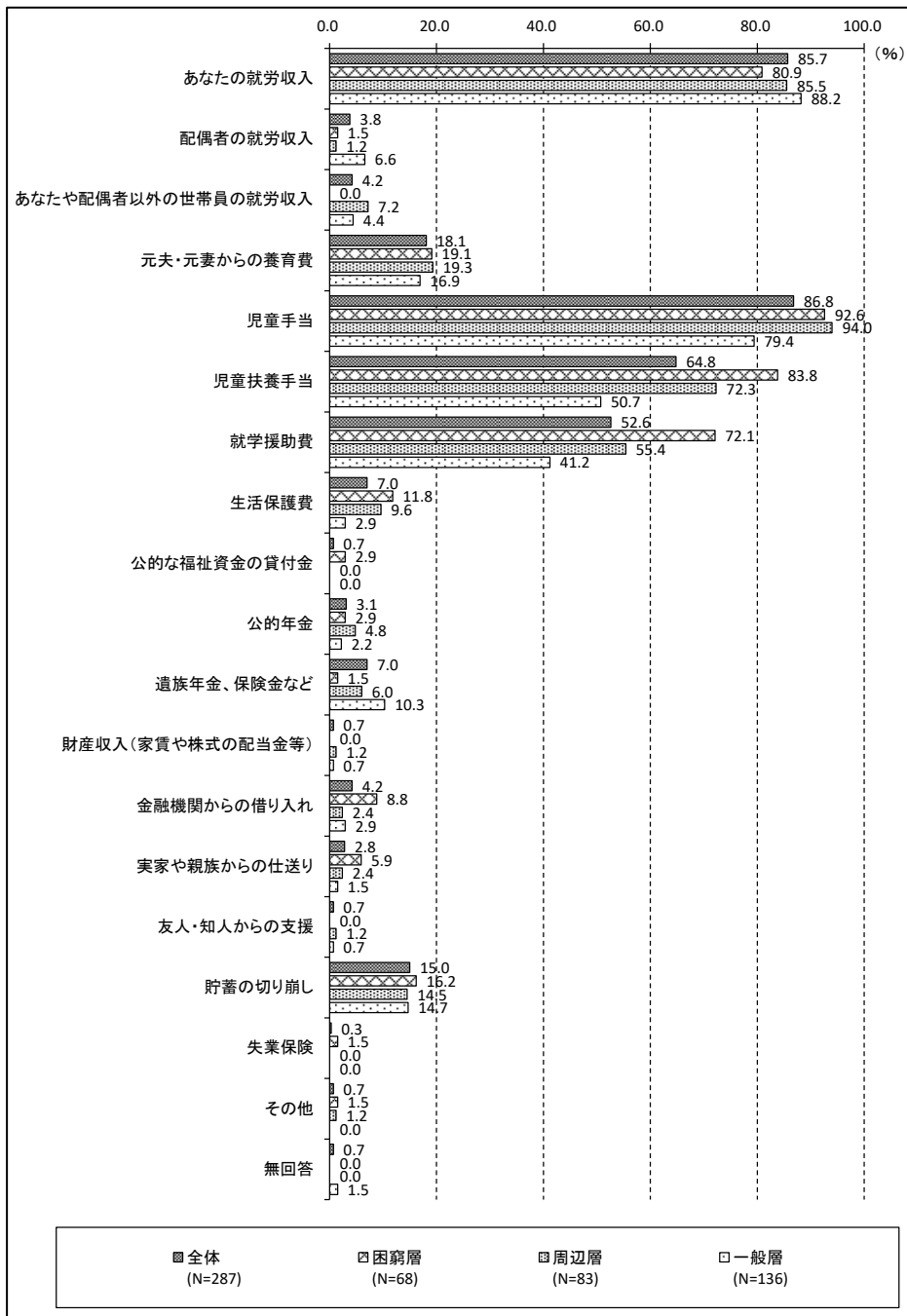
困窮層では、周辺層、一般層と比較して「児童扶養手当」(35.9%)、「就学援助費」(48.2%)、「金融機関からの借り入れ」(12.4%)の割合が高い。



【生活困難世帯別（ひとり親世帯）】

ひとり親世帯の全体では、「児童手当」が86.8%で最も高く、次いで「あなたの就労収入」が85.7%と続く。

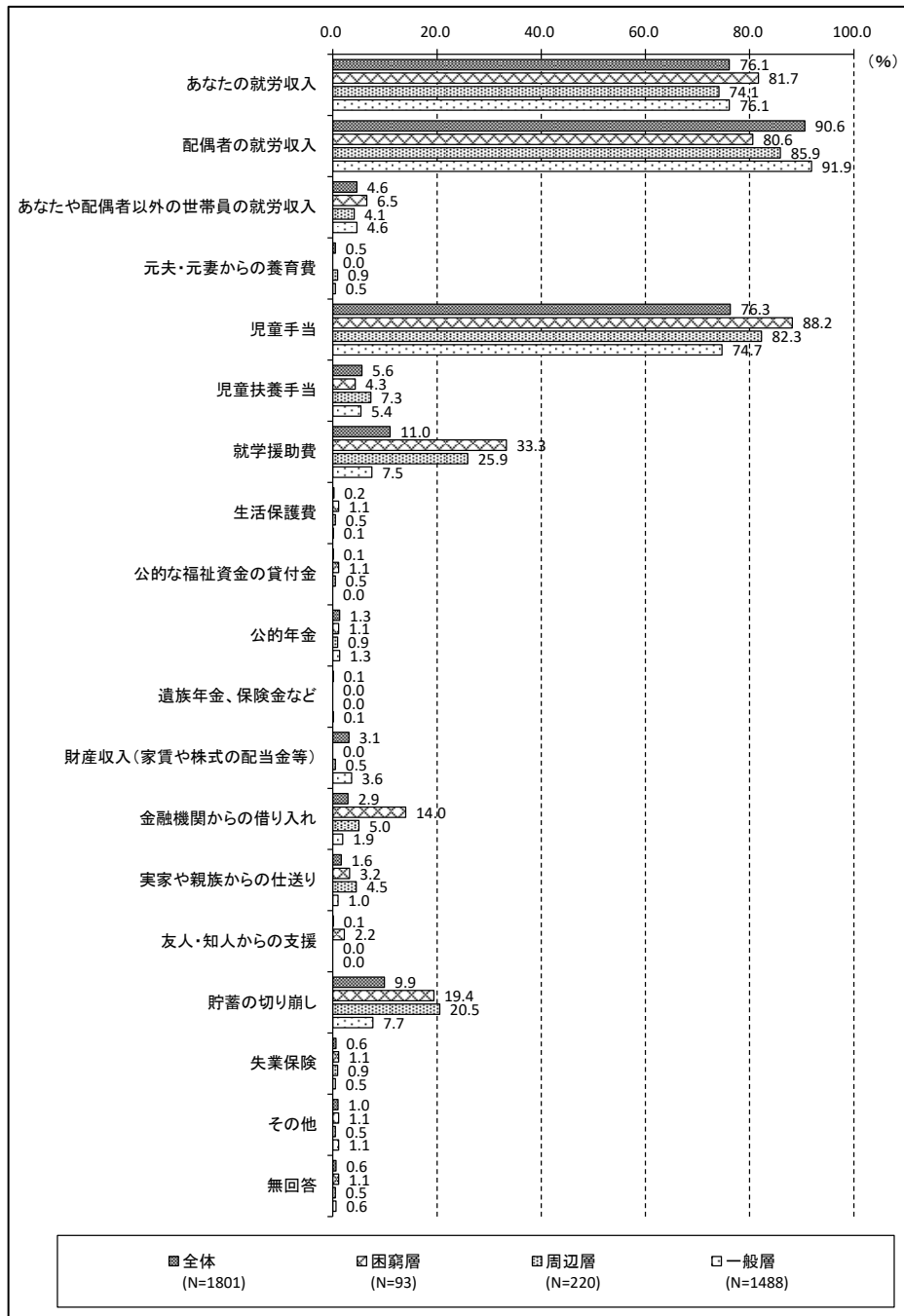
ひとり親世帯を生活困難世帯別に集計したところ、困窮層では、周辺層、一般層と比較して「児童扶養手当」（83.8%）、「就学援助費」（72.1%）、「金融機関からの借り入れ」（8.8%）の割合が高い。また「生活保護費」はひとり親世帯の困窮層で11.8%、周辺層で9.6%、一般層で2.9%と、困窮度が高まるにつれて高くなっている。



【生活困難世帯別（ふたり親世帯）】

ふたり親世帯の全体では、「配偶者の就労収入」が90.6%で最も高く、次いで「児童手当」が76.3%、「あなたの就労収入」が76.1%と続く。

ふたり親世帯の困窮層では、周辺層、一般層と比較して「児童扶養手当」（88.2%）、「就学援助費」（33.3%）、「金融機関からの借り入れ」（14.0%）の割合が高い。一方、「配偶者の就労収入」は困窮度が高まるにつれ低くなっており、ふたり親世帯の困窮層で80.6%、周辺層で85.9%、一般層で91.9%となっている。



(3) 家計内で負担を感じる経費

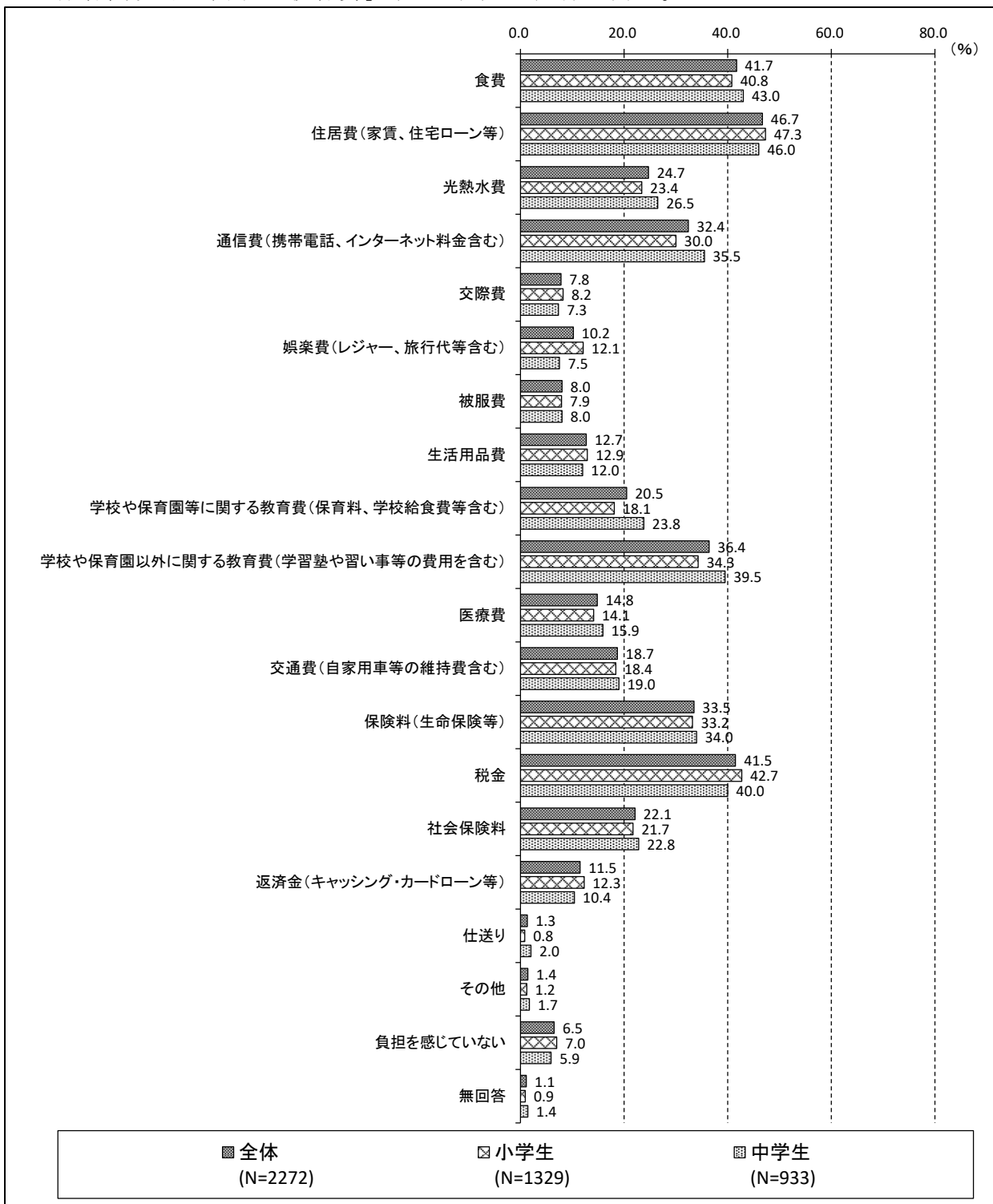
問 21 家計において負担を感じる経費は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「住居費（家賃、住宅ローン等）」が 46.7% で最も高く、次いで「食費」が 41.7%、「税金」が 41.5% と続く。

【学年別】

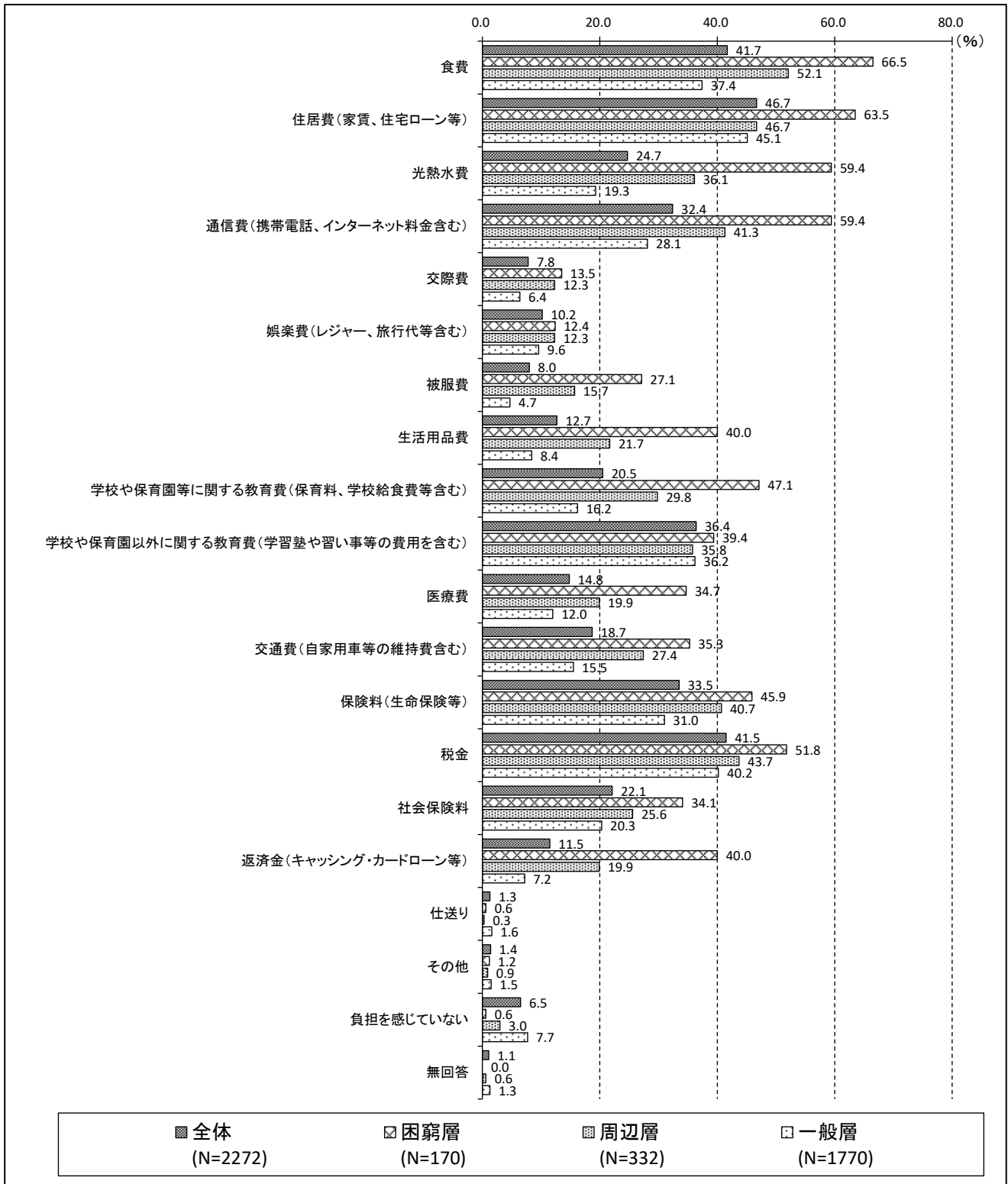
小学生、中学生ともに「住居費（家賃、住宅ローン等）」の割合が最も高く、小学生では 47.3%、中学生では 46.0% となっている。

中学生では、小学生と比較して「学校や保育園等に関する教育費」（23.8%）、「学校や保育園以外に関する教育費」（39.5%）の割合が高い。



【生活困難世帯別】

困窮層では、周辺層、一般層と比較して「食費」(66.5%)、「住居費(家賃、住宅ローン)」(63.5%)、「高熱水費」「通信費(携帯電話、インターネット料金を含む)」(ともに59.4%)、「税金」(51.8%)、「学校や保育園等に関する教育費(保育料、給食費を含む)」(47.1%)、「保険料(生命保険等)」(45.9%)、「生活用品費」「返済金(キャッシング・カードローン等)」(ともに40.0%)の割合が非常に高く、いずれも40%以上となっている。



【就労状況別】

負担に感じる経費について、回答者と配偶者それぞれの就労状況別に集計した。

「税金」の負担感が半数を超えたのは、配偶者の就労状況が「仕事をしていない（仕事を探していない）」（57.9%）、「勤め（派遣・契約等）」（57.1%）、「勤め（非常勤・パート・アルバイト等）」（53.2%）、「自営業・家族従業者」（51.0%）となっている。

	サンプル数	食費	住居費（家賃、住宅ローン等）	光熱水費	通信費（携帯電話、インターネット料金含む）	交際費	娯楽費（レジャー、旅行代等含む）	被服費	生活用品費	学校や保育園等に關する費用（保育料、学給食費等含む）	学校や保育園以外に關する費用（学習費を含む）
上段:実数、下段:%											
全体	2,272 100.0	948 41.7	1,062 46.7	562 24.7	735 32.4	177 7.8	232 10.2	181 8.0	289 12.7	465 20.5	826 36.4
就労状況（回答者）	勤め（常勤・正規職員）	672 100.0	275 40.9	342 50.9	146 21.7	216 32.1	58 8.6	82 12.2	56 8.3	96 14.3	260 38.7
	勤め（派遣・契約等）	88 100.0	44 50.0	36 40.9	27 30.7	33 37.5	7 8.0	6 8.8	7 8.0	13 14.8	23 26.1
	勤め（非常勤・パート・アルバイト等）	880 100.0	389 44.2	438 49.8	245 27.8	308 35.0	61 6.9	87 9.9	69 7.8	104 11.8	187 21.3
	自営業・家族従業者	228 100.0	83 36.4	66 28.9	46 20.2	47 20.6	20 8.8	22 9.6	12 5.3	19 8.3	34 14.9
	その他の就労形態	33 100.0	12 36.4	16 48.5	11 33.3	12 36.4	5 15.2	2 6.1	8 24.2	5 15.2	8 24.2
	仕事をしていない（仕事を探している）	152 100.0	68 44.7	83 54.6	41 27.0	58 38.2	12 7.9	10 6.6	10 6.6	25 16.4	38 25.0
	仕事をしていない（仕事を探していない）	185 100.0	68 36.8	74 40.0	38 20.5	47 25.4	12 6.5	22 11.9	15 8.1	21 11.4	33 17.8
就労状況（配偶者）	勤め（常勤・正規職員）	1,405 100.0	574 40.9	732 52.1	330 23.5	458 32.6	109 7.8	153 10.9	95 6.8	149 10.6	289 20.6
	勤め（派遣・契約等）	35 100.0	13 37.1	18 51.4	9 25.7	14 40.0	4 11.4	4 11.4	2 5.7	3 8.6	7 20.0
	勤め（非常勤・パート・アルバイト等）	62 100.0	30 48.4	33 53.2	16 25.8	24 38.7	12 19.4	10 16.1	8 12.9	13 21.0	15 24.2
	自営業・家族従業者	261 100.0	95 36.4	71 27.2	61 23.4	52 19.9	12 4.6	17 6.5	11 4.2	30 11.5	41 15.7
	その他の就労形態	10 100.0	3 30.0	5 50.0	1 10.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	3 30.0
	仕事をしていない（仕事を探している）	11 100.0	5 45.5	5 45.5	4 36.4	6 54.5	3 27.3	1 9.1	3 27.3	4 36.4	5 45.5
	仕事をしていない（仕事を探していない）	19 100.0	9 47.4	10 52.6	3 15.8	6 31.6	1 5.3	1 5.3	1 5.3	2 10.5	6 31.6

	医療費	維持費（自家用車等含む）	交通費	保険料（生命保険等）	税金	社会保険料	返済金（キャッシング等）	仕送り	その他	負担を感じていない	無回答
上段:実数、下段:%											
全体	337 14.8	425 18.7	762 33.5	944 41.5	503 22.1	262 11.5	30 1.3	32 1.4	148 6.5	25 1.1	
就労状況（回答者）	勤め（常勤・正規職員）	79 11.8	122 18.2	222 33.0	305 45.4	188 28.0	83 12.4	10 1.5	11 1.6	48 7.1	
	勤め（派遣・契約等）	12 13.6	19 21.6	31 35.2	40 45.5	27 30.7	18 20.5	0 0.0	0 0.0	2 2.3	
	勤め（非常勤・パート・アルバイト等）	139 15.8	177 20.1	299 34.0	330 37.5	176 20.0	98 11.1	10 1.1	11 1.3	37 4.2	
	自営業・家族従業者	35 15.4	28 12.3	89 39.0	109 47.8	51 22.4	31 13.6	3 1.3	8 3.5	25 11.0	
	その他の就労形態	11 33.3	9 27.3	13 39.4	14 42.4	5 15.2	6 18.2	0 0.0	0 0.0	1 3.0	
	仕事をしていない（仕事を探している）	25 16.4	39 25.7	52 34.2	61 40.1	31 20.4	14 9.2	3 2.0	0 0.0	9 5.9	
	仕事をしていない（仕事を探していない）	32 17.3	26 14.1	49 26.5	73 39.5	19 10.3	7 3.8	4 2.2	2 1.1	24 13.0	
就労状況（配偶者）	勤め（常勤・正規職員）	215 15.3	266 18.9	466 33.2	592 42.1	287 20.4	138 9.8	21 1.5	12 0.9	95 6.8	
	勤め（派遣・契約等）	8 22.9	7 20.0	13 37.1	20 57.1	15 42.9	8 22.9	1 2.9	1 0.0	0 5.7	
	勤め（非常勤・パート・アルバイト等）	12 19.4	11 17.7	28 45.2	33 53.2	14 22.6	14 22.6	0 0.0	2 3.2	1 1.6	
	自営業・家族従業者	35 13.4	29 11.1	102 39.1	133 51.0	66 25.3	39 14.9	1 0.4	10 3.8	23 8.8	
	その他の就労形態	2 20.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	
	仕事をしていない（仕事を探している）	3 27.3	2 18.2	4 36.4	5 45.5	2 18.2	1 9.1	0 0.0	1 9.1	0 0.0	
	仕事をしていない（仕事を探していない）	5 26.3	4 21.1	7 36.8	11 57.9	3 15.8	1 5.3	0 0.0	1 5.3	0 0.0	

第2章 生活の状況

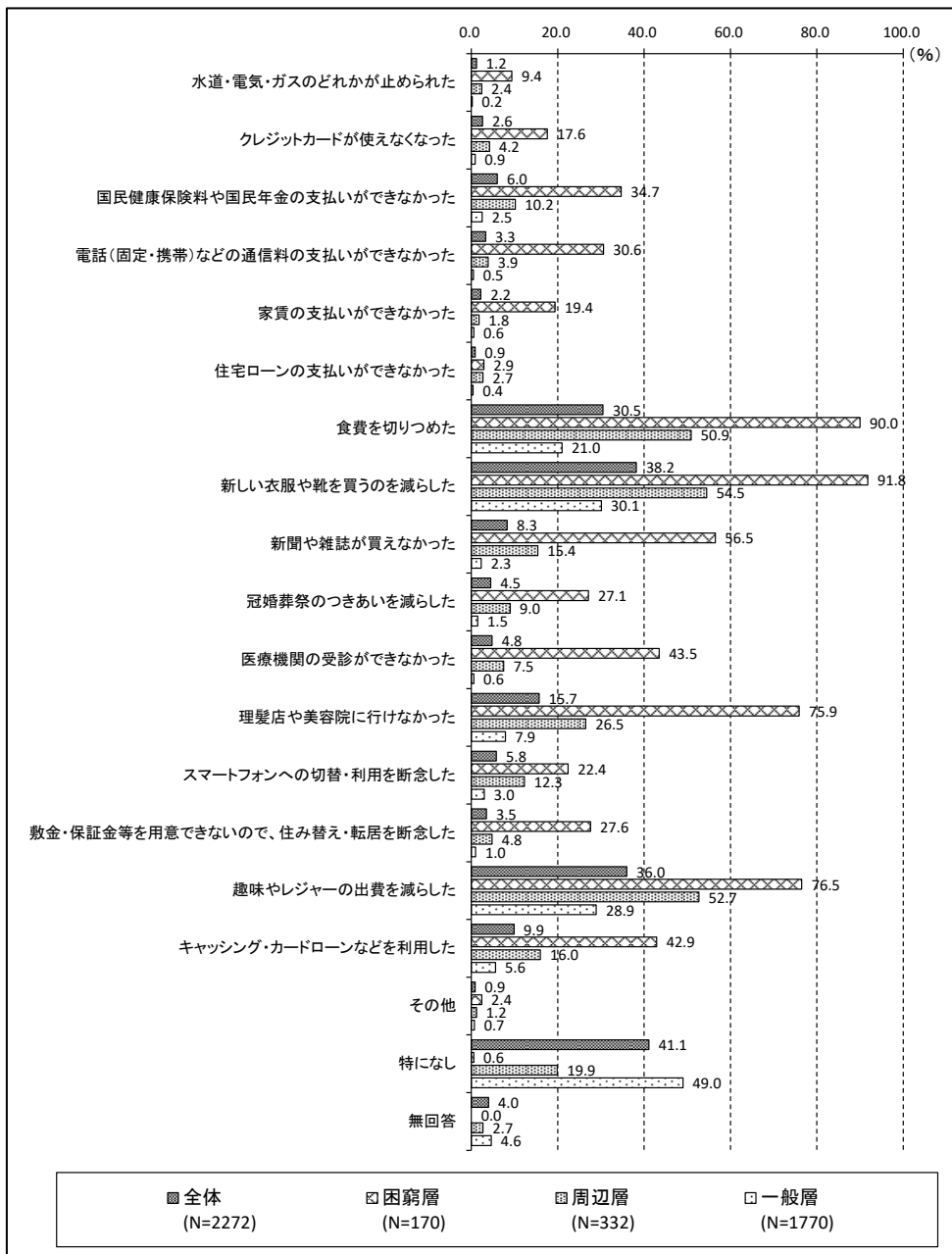
(4) 経済的な理由で経験したこと

問 22 あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「新しい衣服や靴を買うのを減らした」が38.2%、「趣味やレジャーの出費を減らした」が36.0%、「食費を切りつめた」が30.5%となっている。なお、「特になし」が41.1%存在する。

【生活困難世帯別】

困窮層ではほとんどの項目で周辺層、一般層と大きく差が開いており、特に「新しい衣服や靴を買うのを減らした」(91.8%)、「食費を切りつめた」(90.0%)は9割以上、「趣味やレジャーの出費を減らした」(76.5%)、「理髪店や美容院に行けなかった」(75.9%)は7割以上にのぼる。



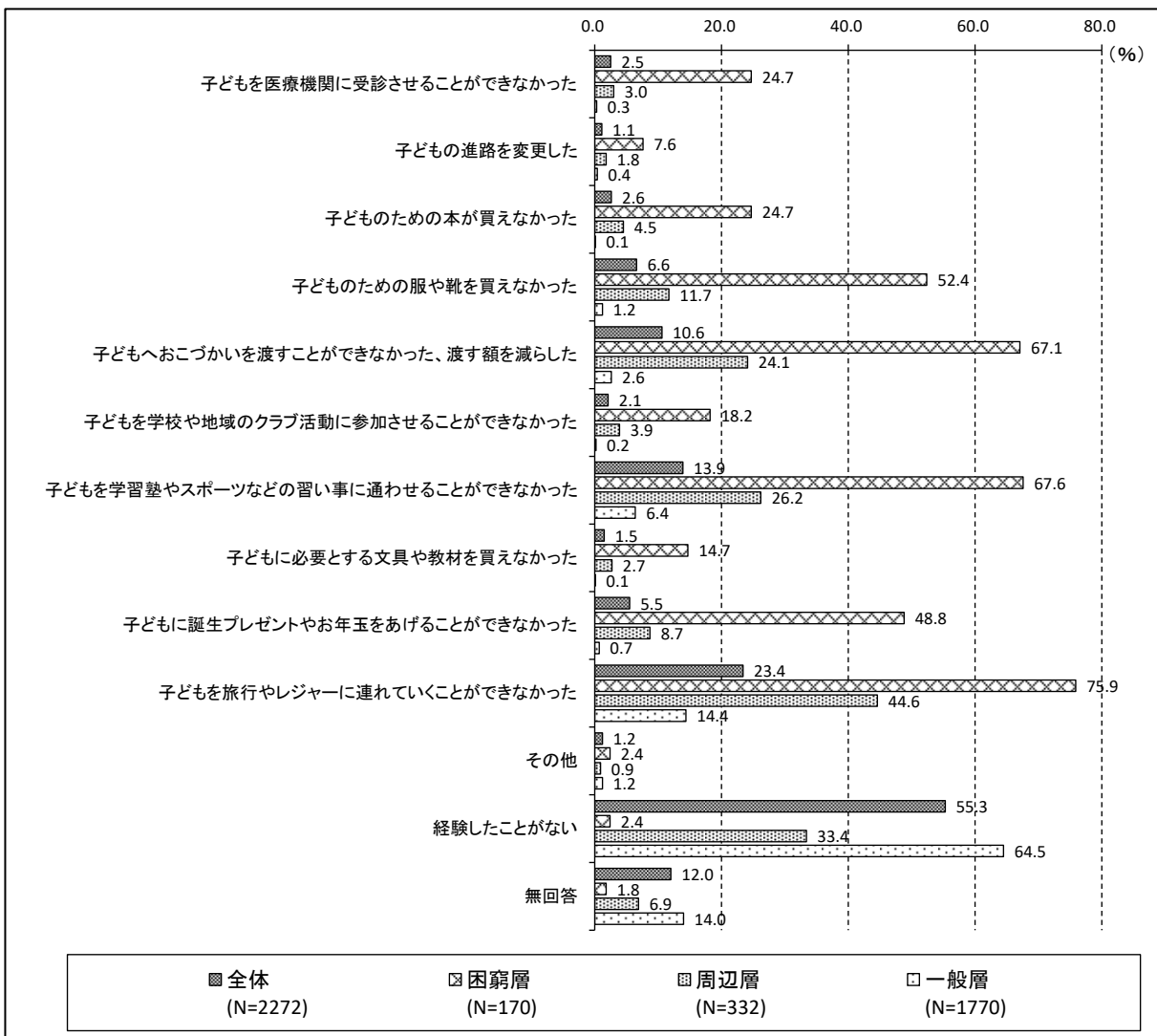
(5) 経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと

問6 あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由で、子どもに関してどのような経験をされたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「経験したことがない」が55.3%で最も高い。経験したことについては、「子どもを旅行やレジャーに連れていくことができなかった」が23.4%、「子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせることができなかった」が13.9%と高くなっている。

【生活困難世帯別】

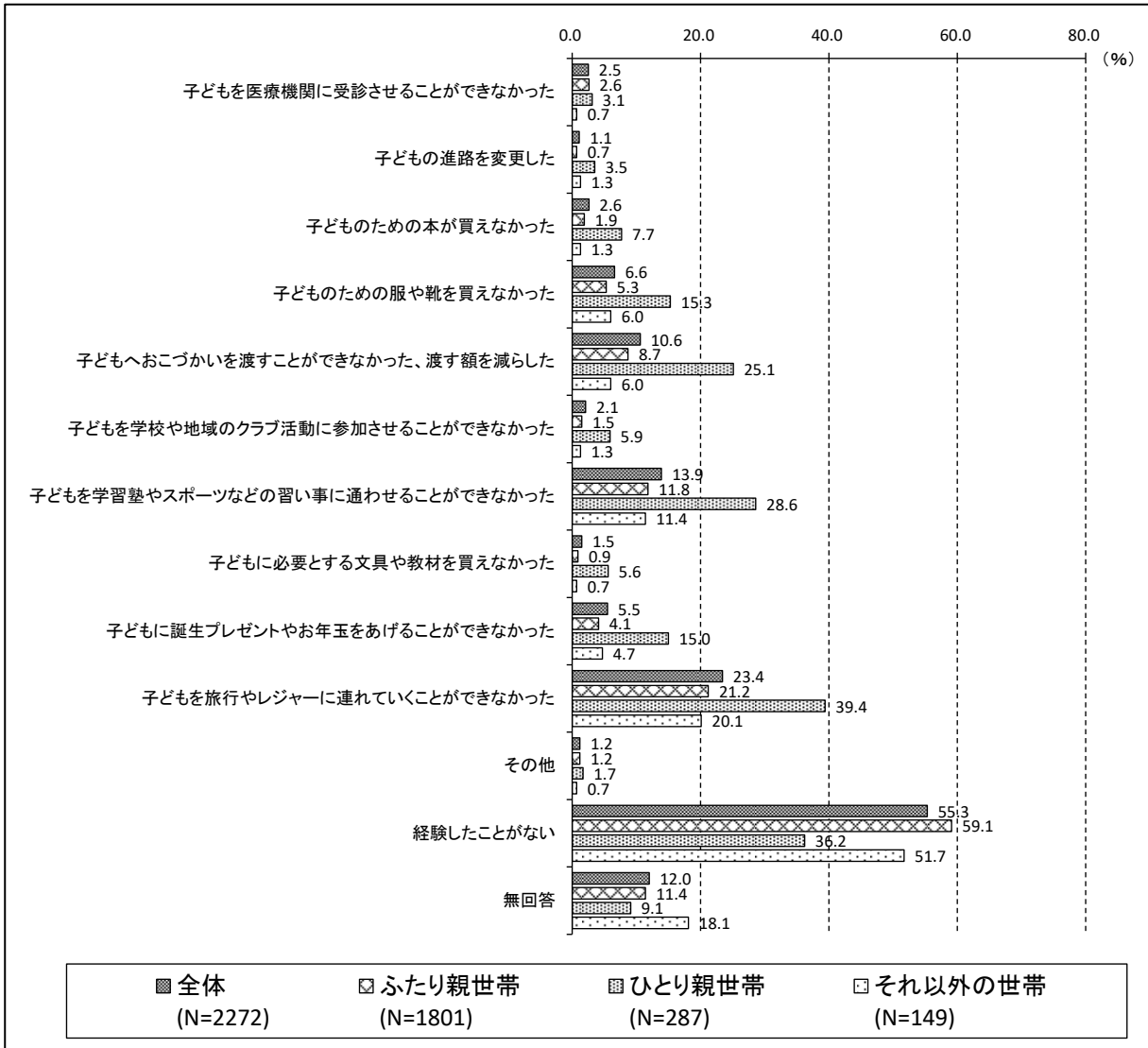
困窮層と一般層で差が大きい項目に着目し、数値をみると、「子どもを旅行やレジャーに連れていくことができなかった」では75.9%（一般層の5.3倍）、「子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせることができなかった」では67.6%（一般層の10.6倍）、「子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした」では67.1%（一般層の25.8倍）となり、困窮層で高い項目が複数みられた。



第2章 生活の状況

【世帯類型別】

ひとり親世帯では、ふたり親世帯、それ以外の世帯と比較して「経験したことがない」以外のすべての項目の割合が高く、「子どもを旅行やレジャーに連れていくことができなかった」では39.4%、「子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせることができなかった」では28.6%、「子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした」では25.1%の割合が特に高い。



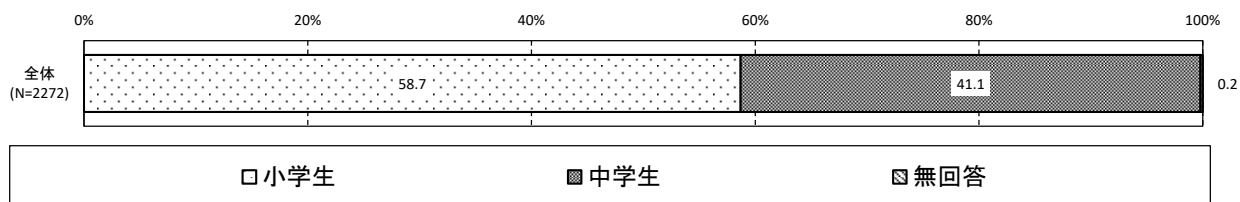
第3章 子ども編

1. 属性

(1) 学年

問1 あなたは小学生ですか、それとも中学生ですか。(あてはまる番号1つだけに○)

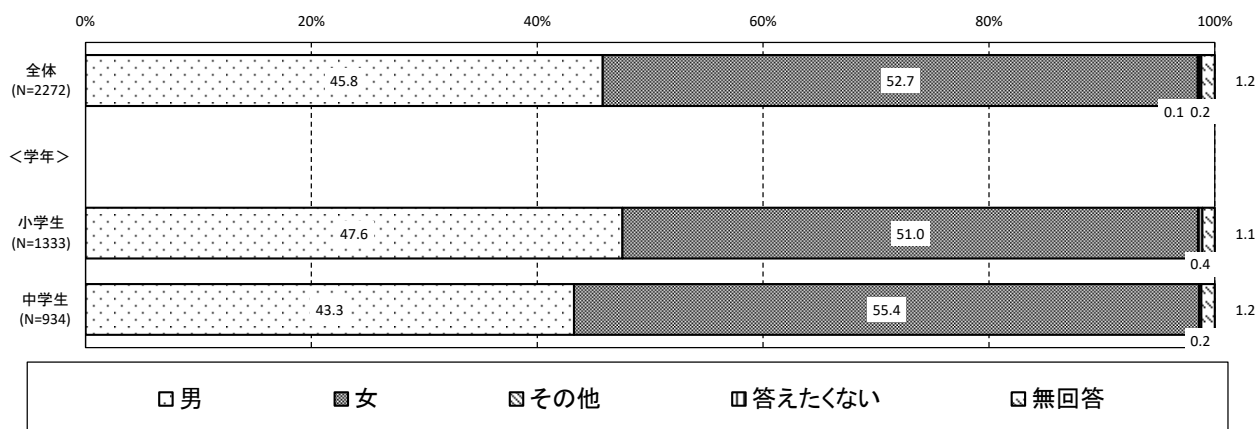
全体では、「小学生」が58.7%、「中学生」が41.1%となっている。



(2) 性別

問3 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つだけに○)

全体では、「女」が52.7%、「男」が45.8%となっている。



2. 生活状況

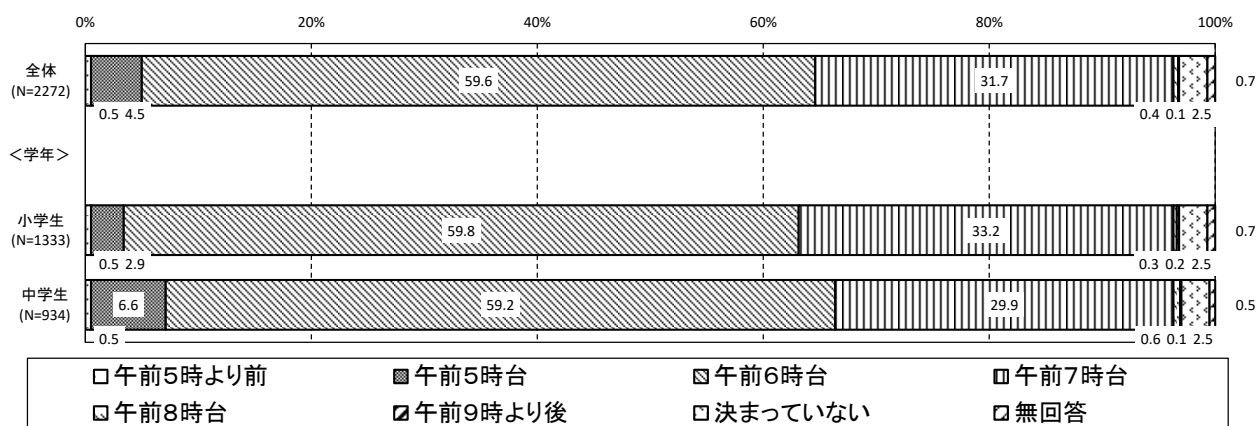
(1) 起床時間

問4 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）、何時に起きていますか。（あてはまる番号1つだけに○）

全体では、「午前6時台」が59.6%で最も高く、次いで「午前7時台」が31.7%と続く。

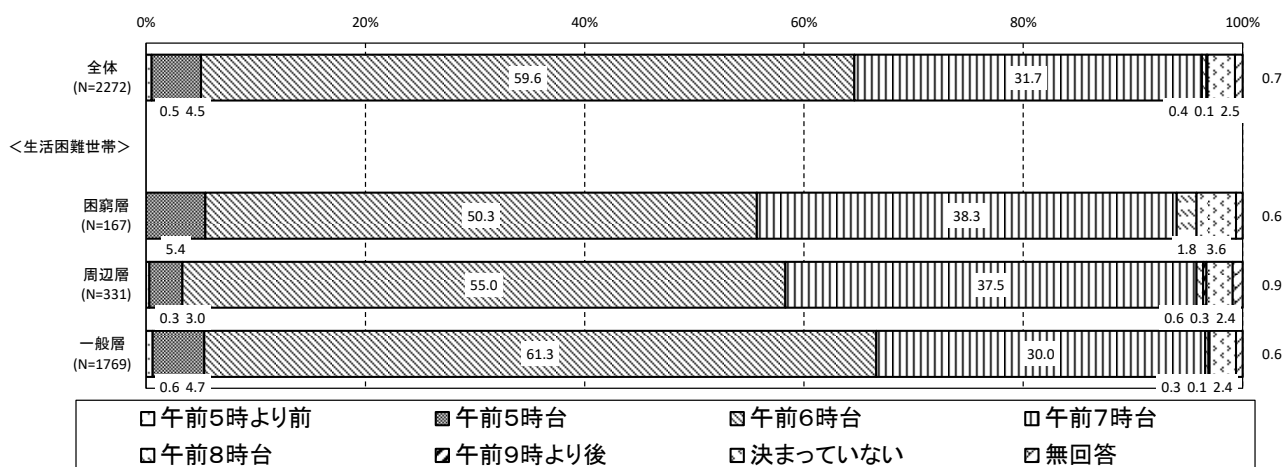
【学年別】

小学生、中学生ともに「午前6時台」の割合が最も高く、小学生では59.8%、中学生では59.2%となっている。



【生活困難世帯別】

「午前6時台」の割合は、困窮層では50.3%、周辺層では55.0%、一般層では61.3%と、困窮度が高まるにつれて低くなり、「午前7時台」の割合は高くなる。



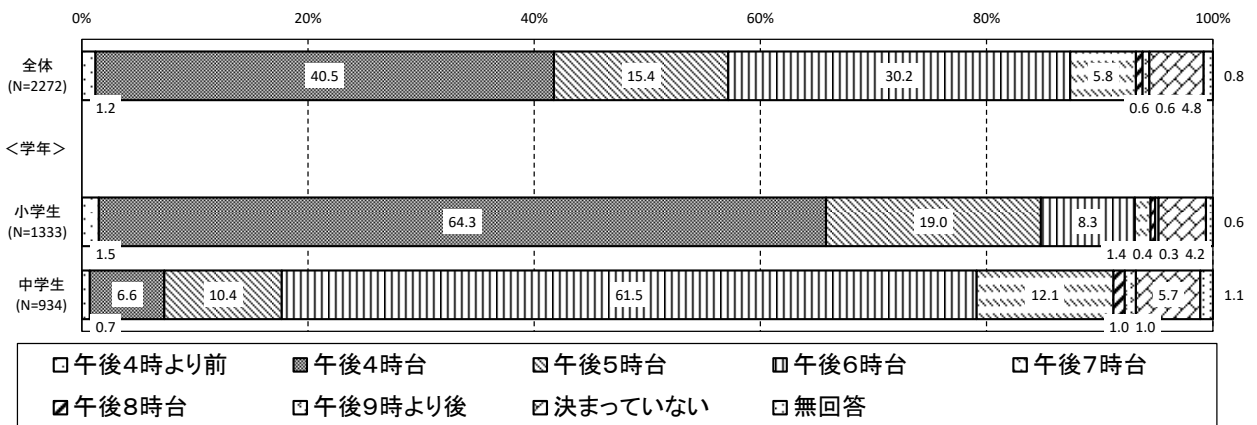
(2) 帰宅時間

問5 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）、何時頃に家へ帰りますか。（あてはまる番号1つだけに○）

全体では、「午後4時台」が40.5%で最も高く、次いで「午後6時台」が30.2%と続く。

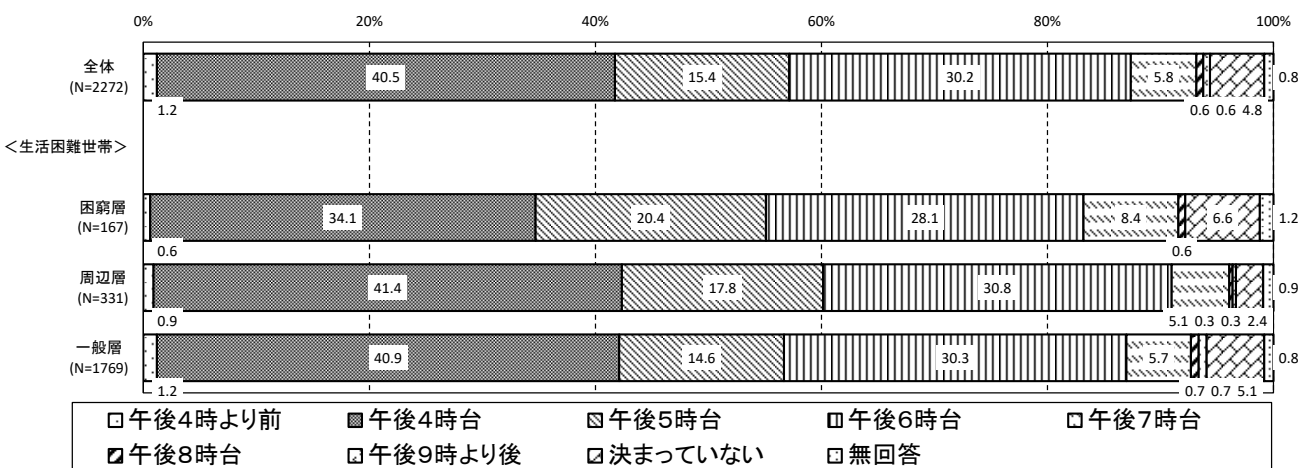
【学年別】

小学生では「午後4時台」が64.3%で最も高く、中学生では「午後6時台」が61.5%で最も高い。



【生活困難世帯別】

困窮層では、周辺層、一般層と比較して「午後4時台」（34.1%）は低く、「午後5時台」（20.4%）が高い。



第3章 子ども編

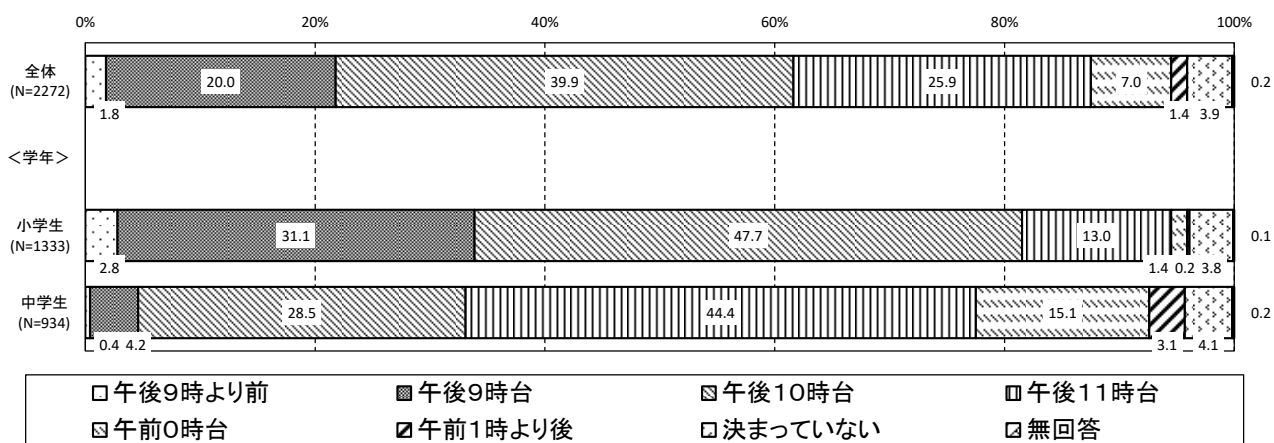
(3) 就寝時間

問6 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）、何時頃に寝ていますか。（あてはまる番号1つだけに○）

全体では、「午後10時台」が39.9%で最も高く、次いで「午後11時台」が25.9%と続く。

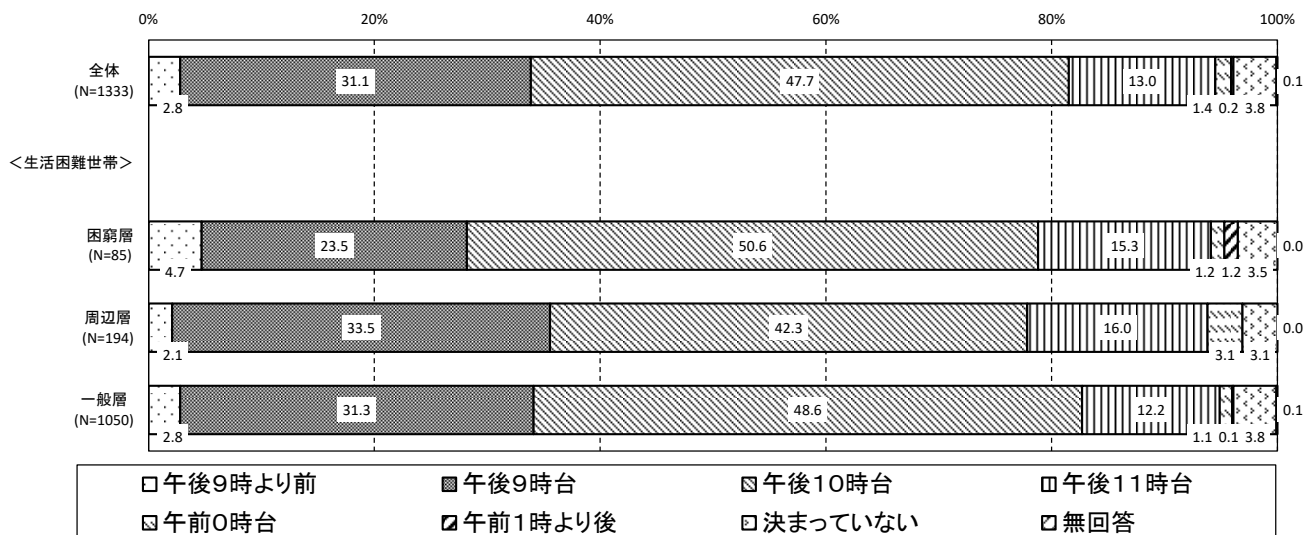
【学年別】

小学生では「午後10時台」が47.7%で最も高く、中学生では「午後11時台」が44.4%で最も高い。



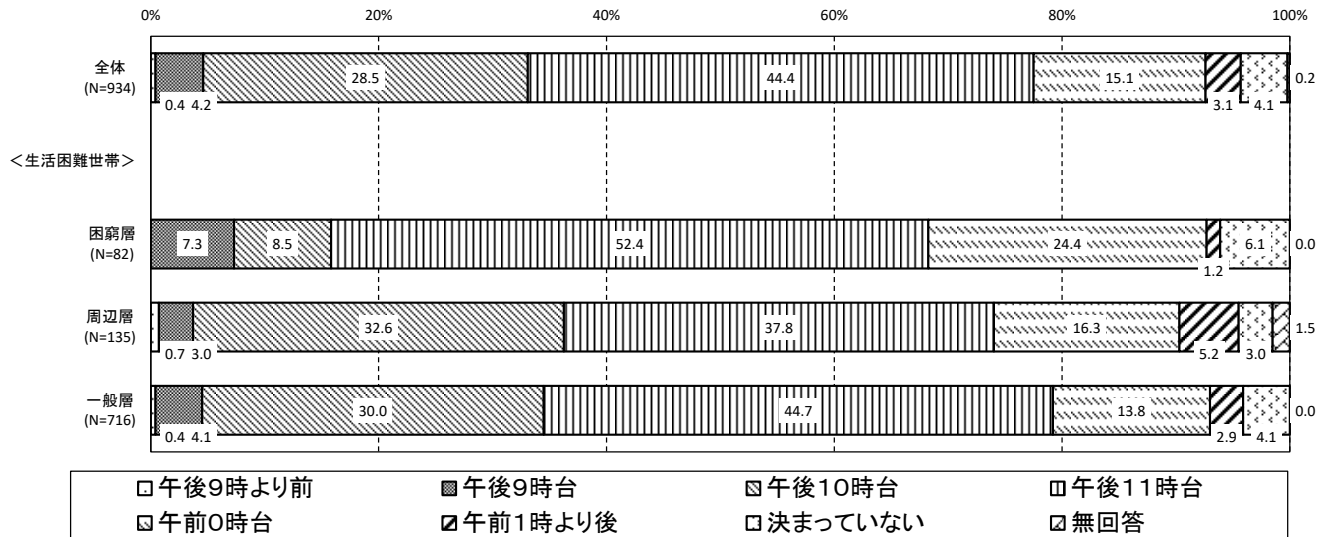
【生活困難世帯別（小学生）】

小学生全体では「午後10時台」（47.7%）が最も高いが、それよりも遅い時間に就寝する小学生の割合（「午後11時台」「午前0時台」「午前1時より後」）を合わせた割合は、一般層（13.4%）に対して、困窮層（17.7%）、周辺層（19.1%）で比較的高くなっている。



【生活困難世帯別（中学生）】

中学生全体では「午後11時台」（44.4%）が最も高いが、それよりも遅い時間に就寝する中学生の割合（「午前0時台」「午前1時より後」を合わせた割合）は、一般層（16.7%）に対して、困窮層（25.6%）、周辺層（21.5%）で比較的高くなっている。



第3章 子ども編

(4) 一週間にお風呂に入る頻度

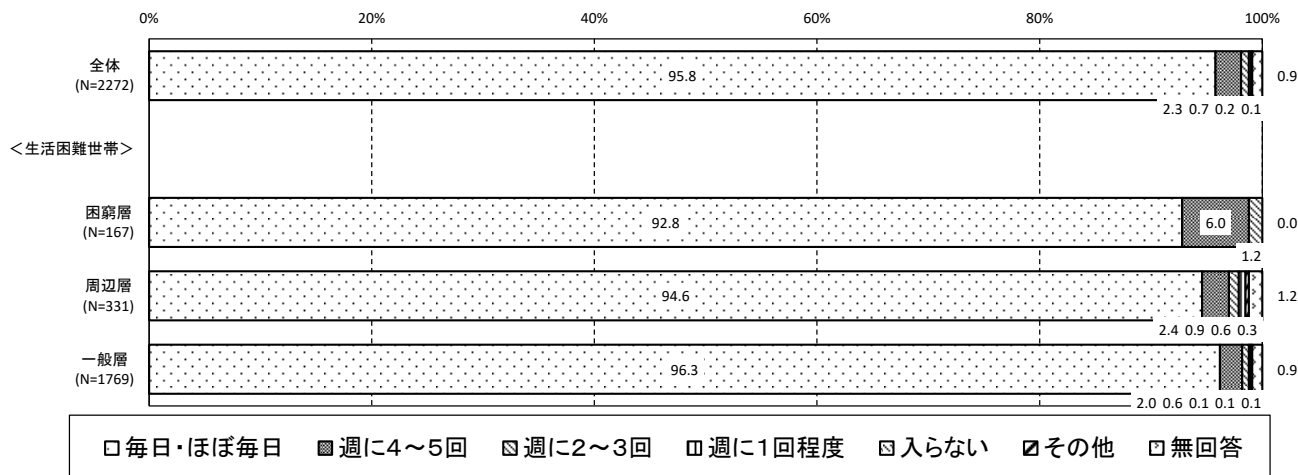
問 11 あなたは、週にどのくらい、お風呂（シャワーのみの場合を含む）に入りますか。

（あてはまる番号 1 つだけに○）

全体では、「毎日・ほぼ毎日」が 95.8% で最も高い。

【生活困難世帯別】

困難度が高くなるほどわずかではあるが、お風呂に入る頻度が低くなる。



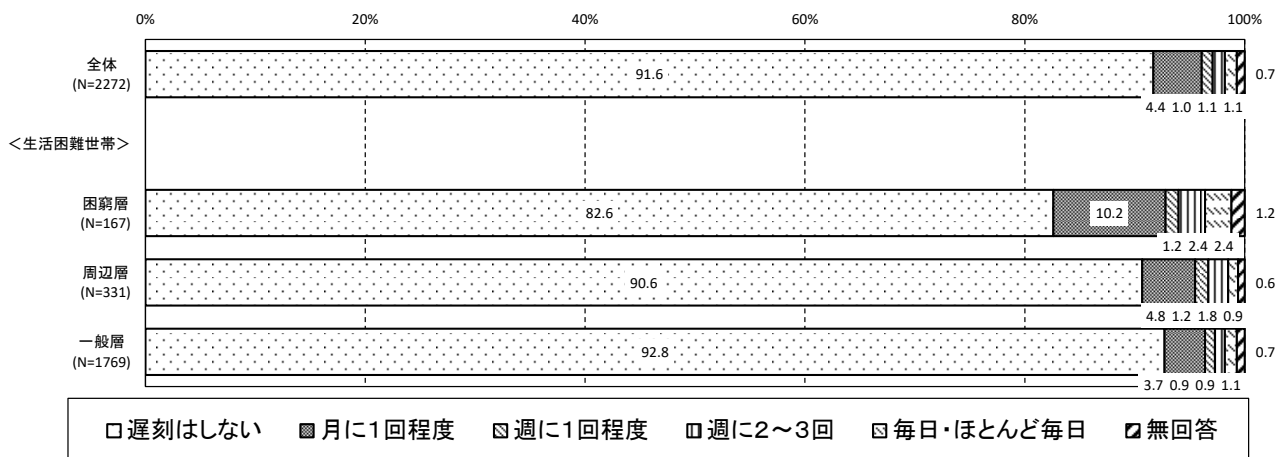
(5) 学校に遅刻する頻度

問 12 あなたは、学校に遅刻することがありますか。（あてはまる番号 1 つだけに○）

全体では、「遅刻はしない」が 91.6% で最も高い。

【生活困難世帯別】

「遅刻はしない」の割合は、困窮層では 82.6%、周辺層では 90.6%、一般層では 92.8% と、困窮度が高まるにつれて低くなり、「月に 1 回程度」の割合は高くなる。



【困っていることについての相談者別】

「遅刻はしない」の割合は、『子どもが通う学校等』では77.7%、『インターネットの子育てサイトや会員サービス（SNS）』では81.8%、公的な相談窓口（市役所等）では82.5%、『その他』では77.2%となり、全体と比較してやや低くなっている。

	サンプル数	遅刻はしない	月に1回程度	週に1回程度	週に2〜3回	毎日・ほとんど毎日	無回答	
上段:実数、下段:%								
全体	2,272 100.0	2,079 91.5	98 4.3	22 1.0	26 1.1	26 1.1	21 0.9	
困っていることについての相談者	家族・親族	1,400 100.0	1,289 92.1	56 4.0	13 0.9	14 1.0	16 1.1	12 0.9
	友人・知人	830 100.0	760 91.6	35 4.2	8 1.0	5 0.6	13 1.6	9 1.1
	職場の人	401 100.0	366 91.3	16 4.0	5 1.2	4 1.0	5 1.2	5 1.2
	子どもが通う学校等	139 100.0	108 77.7	10 7.2	2 1.4	4 2.9	11 7.9	4 2.9
	子どもの友達の親	246 100.0	225 91.5	6 2.4	4 1.6	2 0.8	8 3.3	1 0.4
	近所の人・地域の人	51 100.0	47 92.2	1 2.0	1 2.0	1 2.0	1 2.0	0 0.0
	子育てサークル団体	6 100.0	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	NPOなど民間の団体	10 100.0	5 50.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	3 30.0	1 10.0
	インターネットの子育てサイトや会員制サービス(SNS)	11 100.0	9 81.8	1 9.1	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	民生委員・児童委員	6 100.0	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	2 33.3
	公的な相談窓口(市役所等)	57 100.0	47 82.5	4 7.0	1 1.8	2 3.5	2 3.5	1 1.8
	適切な相談相手がない(いなかった)	119 100.0	104 87.4	8 6.7	2 1.7	2 1.7	3 2.5	0 0.0
	相談しない(相談しなかった)	296 100.0	262 88.5	16 5.4	2 0.7	8 2.7	4 1.4	4 1.4
	その他	57 100.0	44 77.2	5 8.8	0 0.0	0 0.0	4 7.0	4 7.0

3. 健康の状況

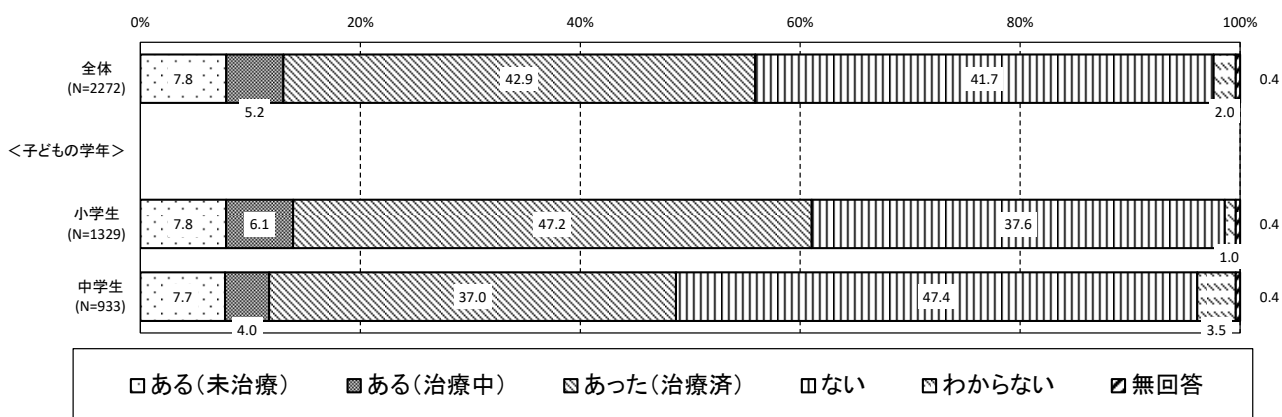
(1) 虫歯の有無

問5 お子さんに、むし歯はありますか。(○は1つ)

全体では、「あった(治療済)」が42.9%で最も高く、次いで「ない」が41.7%と続く。

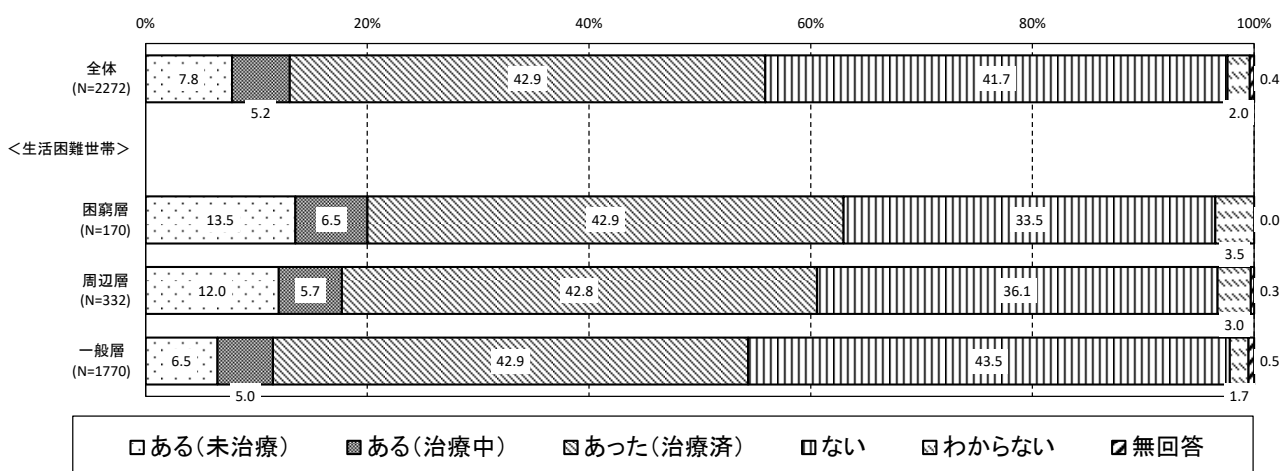
【学年別】

小学生では「あった(治療済)」が47.2%で最も高く、中学生では「ない」が47.4%で最も高い。



【生活困難世帯別】

「ある(未治療)」の割合は、一般層の6.5%に対し、困窮層では13.5%、周辺層では12.0%と高くなっている。



【相談相手別（小学生）】

小学生を対象に、後述する保護者向け調査の間 13「困っていることについての相談者」（p.122 参照）の回答別に、その子どもの虫歯の有無について集計した。

サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、おおむね全ての層で「あった（治療中）」が最も高くなっている。一方、「ある（未治療）」に着目すると、10%を超えたのは、保護者の相談相手が「近所の人・地域の人」の家庭の子どもで 11.5%、「インターネットの子育てサイトや会員制サービス（SNS）」の家庭の子どもで 11.1%、保護者が「相談しない（相談しなかった）」という家庭の子どもで 10.4%となっている。

		サンプル数	ある（未治療）	ある（治療中）	あった（治療済）	ない	わからない	無回答
上段:実数、下段:%								
全体		1,329 100.0	103 7.8	81 6.1	627 47.2	500 37.6	13 1.0	5 0.4
困っていることについての相談者	家族・親族	834 100.0	67 8.0	50 6.0	390 46.8	320 38.4	6 0.7	1 0.1
	友人・知人	480 100.0	29 6.0	36 7.5	244 50.8	164 34.2	5 1.0	2 0.4
	職場の人	227 100.0	19 8.4	13 5.7	122 53.7	72 31.7	0 0.0	1 0.4
	子どもが通う学校等	82 100.0	4 4.9	6 7.3	42 51.2	30 36.6	0 0.0	0 0.0
	子どもの友達の親	150 100.0	14 9.3	8 5.3	72 48.0	54 36.0	1 0.7	1 0.7
	近所の人・地域の人	26 100.0	3 11.5	1 3.8	13 50.0	9 34.6	0 0.0	0 0.0
	子育てサークル団体	3 100.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	NPOなど民間の団体	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0
	インターネットの子育てサイトや会員制サービス(SNS)	9 100.0	1 11.1	2 22.2	2 22.2	4 44.4	0 0.0	0 0.0
	民生委員・児童委員	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	公的な相談窓口(市役所等)	37 100.0	3 8.1	0 0.0	20 54.1	14 37.8	0 0.0	0 0.0
	適当な相談相手がない(いなかった)	66 100.0	6 9.1	3 4.5	33 50.0	23 34.8	1 1.5	0 0.0
	相談しない(相談しなかった)	163 100.0	17 10.4	11 6.7	72 44.2	59 36.2	4 2.5	0 0.0
	その他	24 100.0	2 8.3	1 4.2	13 54.2	8 33.3	0 0.0	0 0.0

【相談相手別（中学生）】

中学生を対象に、保護者向け調査の間 13「困っていることについての相談者」の回答別に、その子どもの虫歯の有無について集計した。

サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、「ある（未治療）」の割合が10%以上となったのは、保護者の相談相手が「公的な相談窓口（市役所等）」の家庭の子どもで10.0%、保護者が「相談しない（相談しなかった）」という家庭の子どもで10.7%、保護者の相談相手が「その他」の家庭の子どもで15.6%となっている。

		サンプル数	ある（未治療）	ある（治療中）	あった（治療済）	ない	わからない	無回答
上段:実数、下段:%								
全 体		933 100.0	72 7.7	37 4.0	345 37.0	442 47.4	33 3.5	4 0.4
困 っ て い る こ と に つ い て の 相 談 者	家族・親族	562 100.0	37 6.6	26 4.6	214 38.1	264 47.0	20 3.6	1 0.2
	友人・知人	345 100.0	24 7.0	10 2.9	148 42.9	151 43.8	11 3.2	1 0.3
	職場の人	171 100.0	9 5.3	6 3.5	74 43.3	79 46.2	3 1.8	0 0.0
	子どもが通う学校等	57 100.0	5 8.8	2 3.5	21 36.8	25 43.9	4 7.0	0 0.0
	子どもの友達の親	95 100.0	5 5.3	2 2.1	43 45.3	42 44.2	3 3.2	0 0.0
	近所の人・地域の人	25 100.0	2 8.0	0 0.0	10 40.0	12 48.0	1 4.0	0 0.0
	子育てサークル団体	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0
	NPOなど民間の団体	7 100.0	1 14.3	0 0.0	2 28.6	3 42.9	1 14.3	0 0.0
	インターネットの子育てサイトや会員制サービス(SNS)	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	民生委員・児童委員	4 100.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
	公的な相談窓口(市役所等)	20 100.0	2 10.0	0 0.0	8 40.0	9 45.0	1 5.0	0 0.0
	適当な相談相手がない(いなかった)	53 100.0	3 5.7	2 3.8	21 39.6	25 47.2	2 3.8	0 0.0
	相談しない(相談しなかった)	131 100.0	14 10.7	5 3.8	46 35.1	64 48.9	2 1.5	0 0.0
	その他	32 100.0	5 15.6	1 3.1	14 43.8	12 37.5	0 0.0	0 0.0

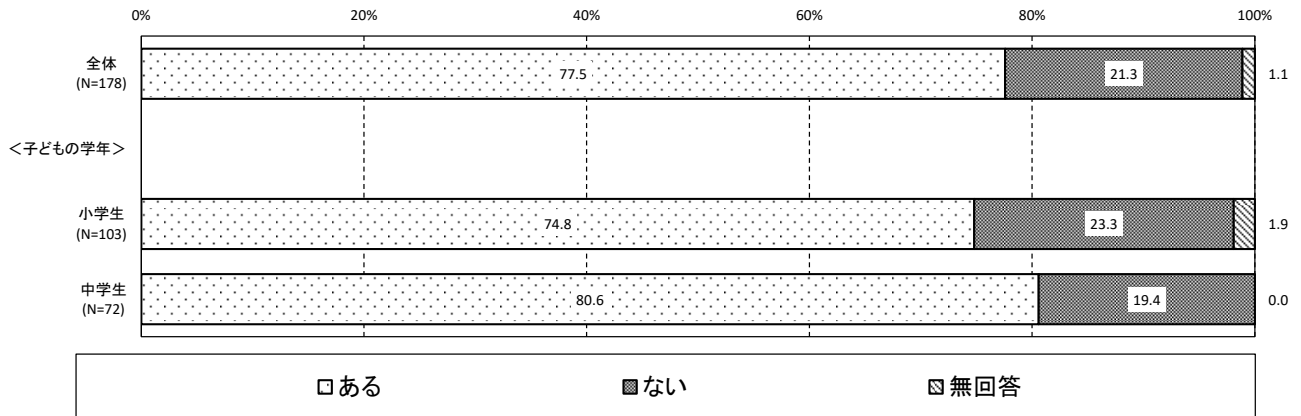
(2) 治療の予定

問5-1 「1. ある(未治療)」と答えた方は、治療の予定はありますか(○は1つ)

全体では、「ある」が77.5%、「ない」が21.3%となっている。

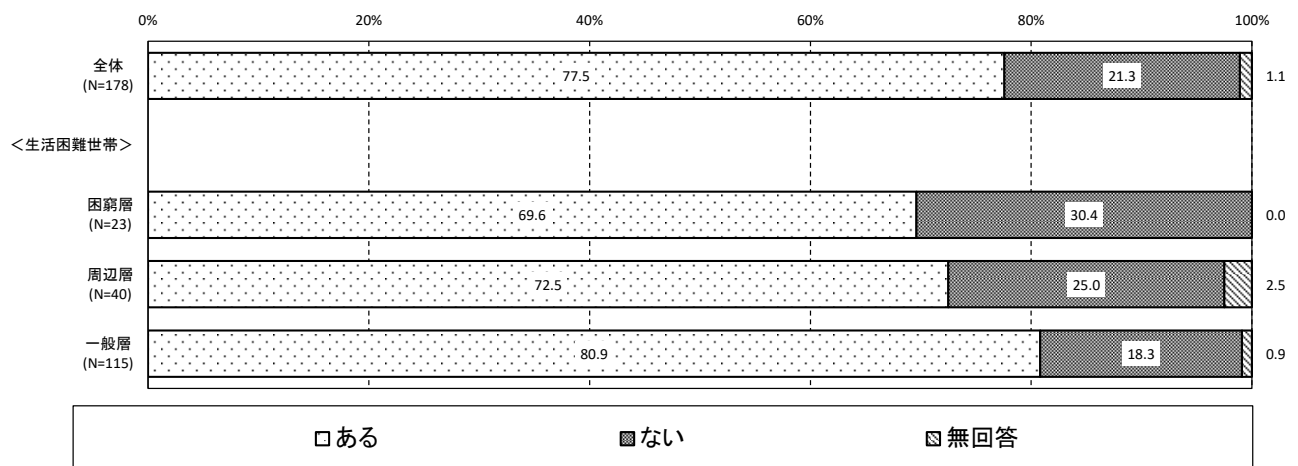
【学年別】

小学生、中学生ともに「ある」の割合が最も高く、小学生では74.8%、中学生では80.6%となっている。



【生活困難世帯別】

「ない」の割合は、困窮層では30.4%、周辺層では25.0%、一般層では18.3%となり、困窮度が高まるにつれて高くなっている。



第3章 子ども編

(3) 治療をしていない理由

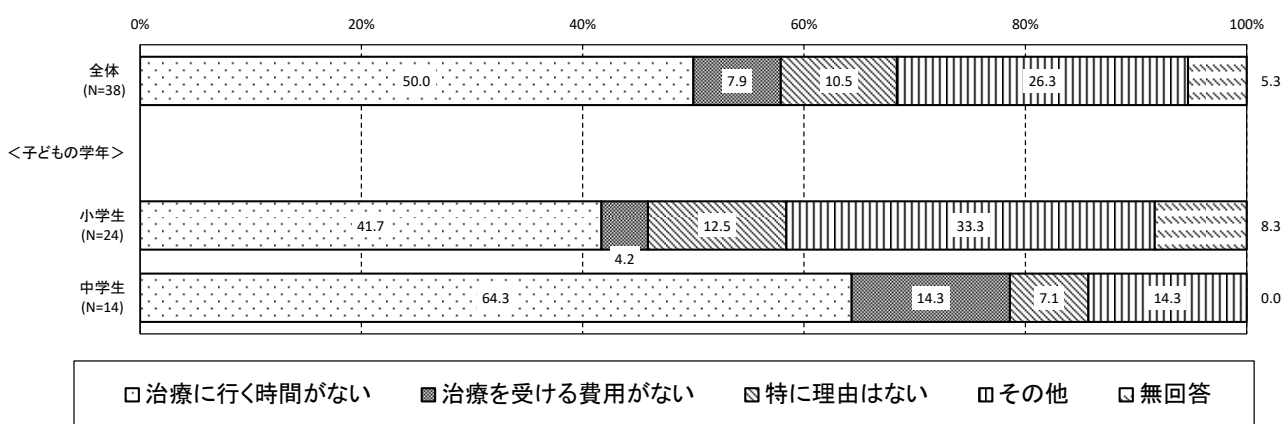
問5-2 「2. ない」と答えた方は、治療をしていない理由は何ですか（○は1つ）

全体では、「治療に行く時間がない」が50.0%で最も高く、次いで「特に理由はない」が10.5%と続く。

【学年別】

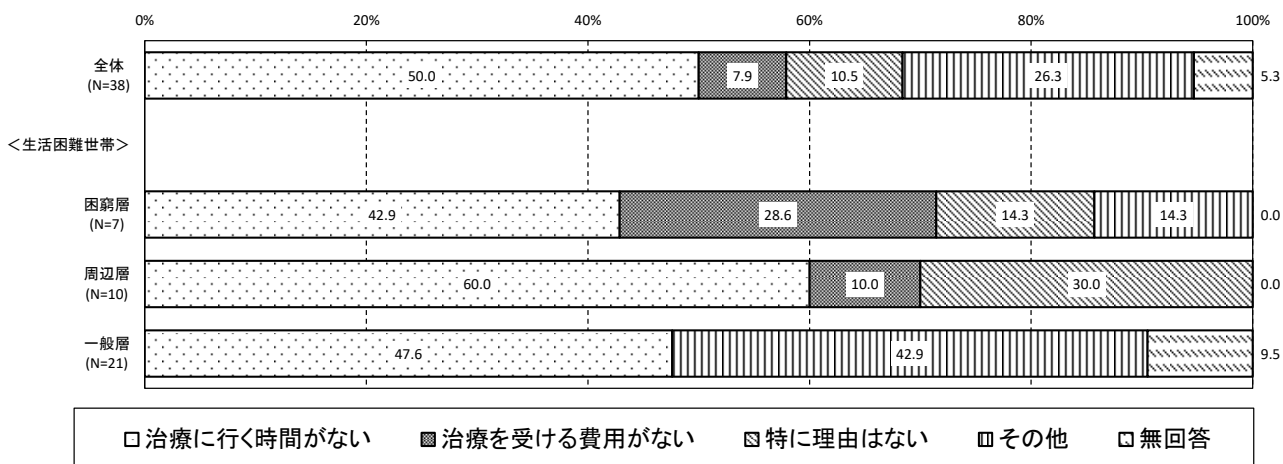
小学生、中学生ともに「治療に行く時間がない」の割合が最も高く、小学生では41.7%、中学生では64.3%となっている。

「治療を受ける費用がない」の割合は、小学生では4.2%であるのに対し、中学生では14.3%と高くなっている。



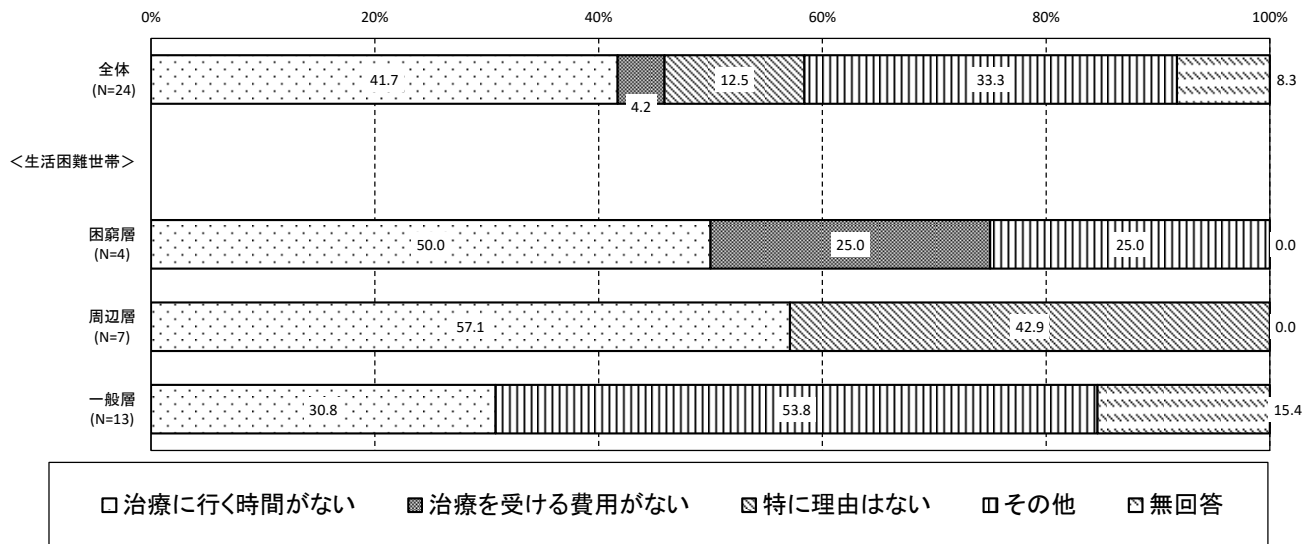
【生活困難世帯別】

「治療を受ける費用がない」の割合は、困窮層では28.6%、周辺層では10.0%、一般層では0%と、困窮度が高まるにつれて高くなっている。



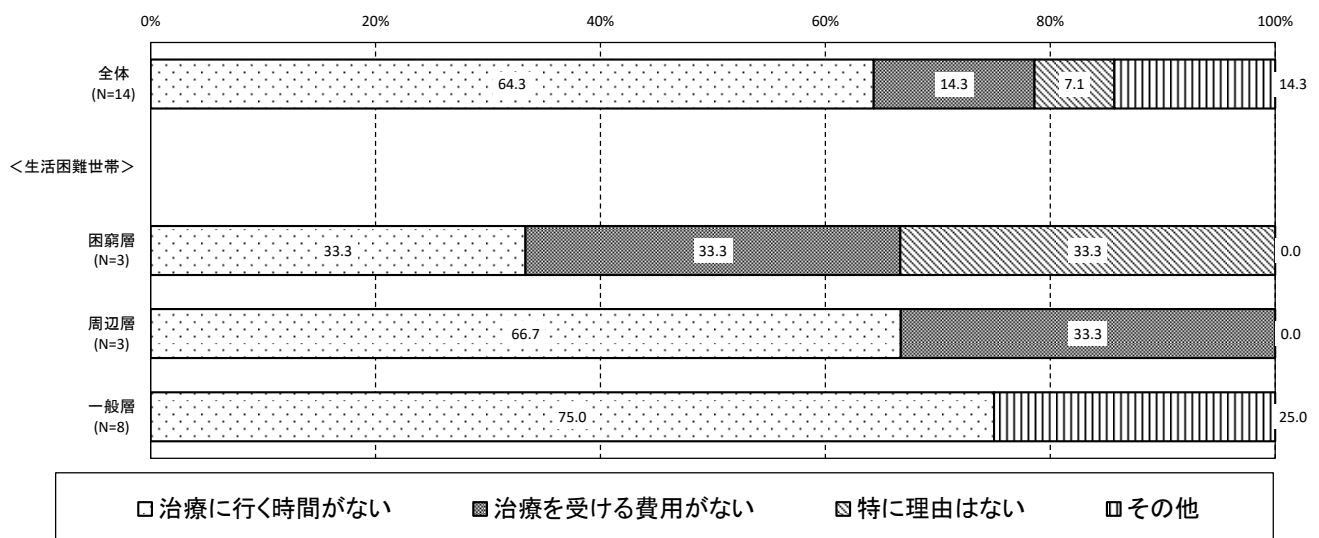
【生活困難世帯別（小学生）】

小学生の生活困難世帯別の集計はサンプル数が少ないため、以下に図表を掲載するにとどめる。



【生活困難世帯別（中学生）】

中学生の生活困難世帯別の集計はサンプル数が少ないため、以下に図表を掲載するにとどめる。



4. 食の状況

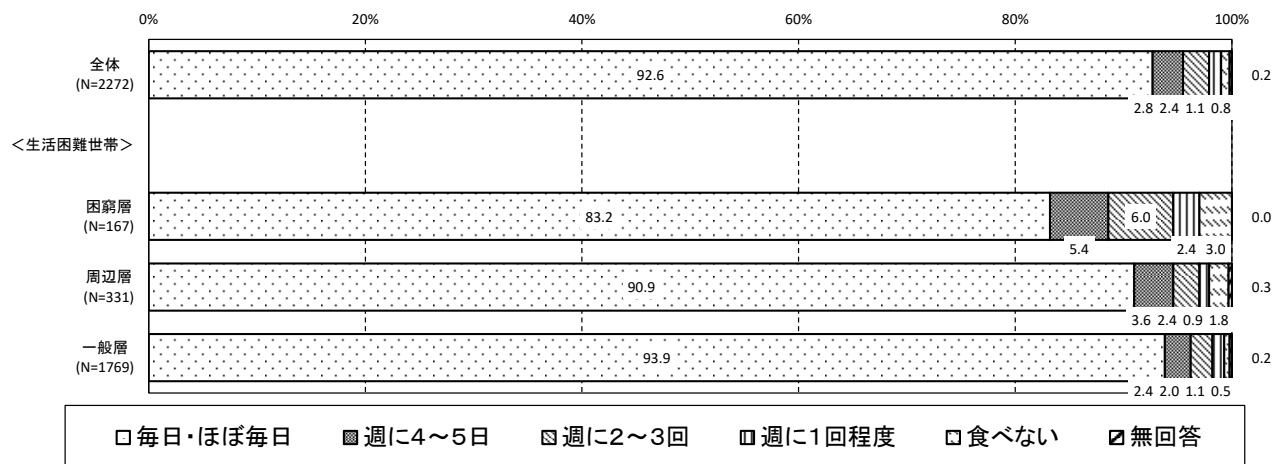
(1) 朝食を食べる頻度

問7 あなたは朝ごはんをいつも食べていますか。(あてはまる番号1つだけに○)

全体では、「毎日・ほぼ毎日」が92.6%で最も高い。

【生活困難世帯別】

「毎日・ほぼ毎日」の割合は、困窮層では83.2%、周辺層では90.9%、一般層では93.9%と、困窮度が高まるにつれて低くなっている。



(2)朝食を食べない日がある理由

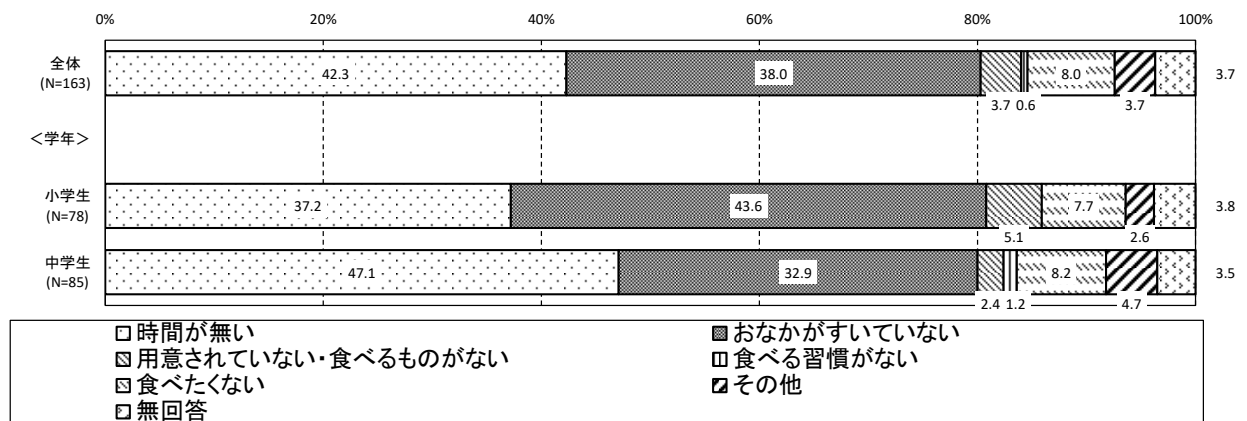
問7で「2~5(=朝食を食べない日がある)」と答えた方におたずねします。

問7-1 朝ごはんを食べない理由は何ですか。(あてはまる番号1つだけに○)

全体では、「時間がない」が42.3%で最も高く、次いで「おなかがすいていない」が38.0%と続く。

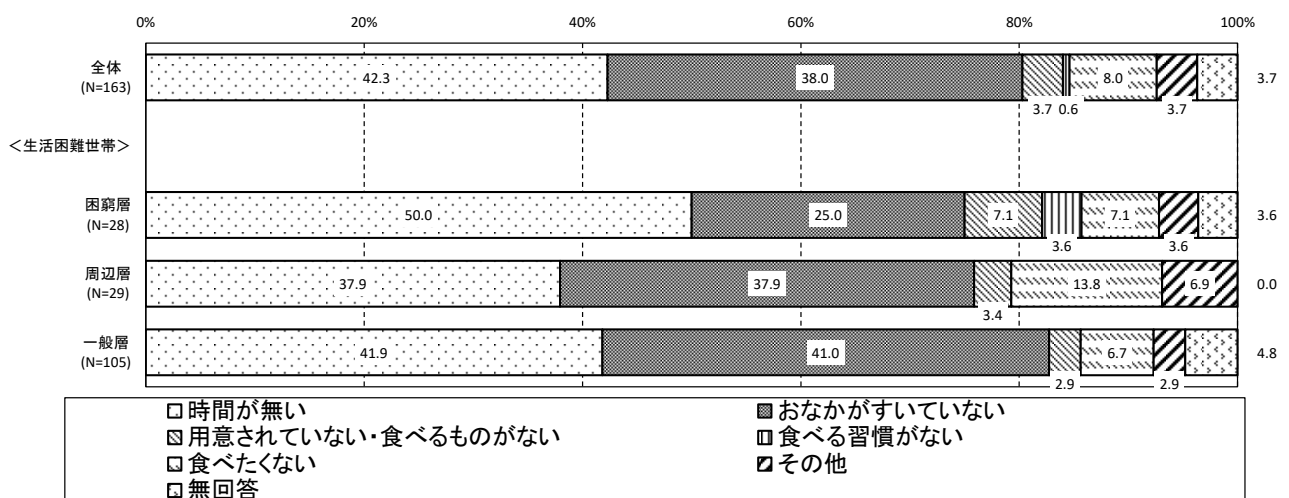
【学年別】

小学生では「おなかがすいていない」が43.6%で最も高く、中学生では「時間がない」が47.1%で最も高い。



【生活困難世帯別】

困窮層では「時間がない」が50.0%と、周辺層(37.9%)、一般層(41.9%)と比較して高い。また困窮層のみ「食べる習慣がない」(3.6%)の回答がみられる。



第3章 子ども編

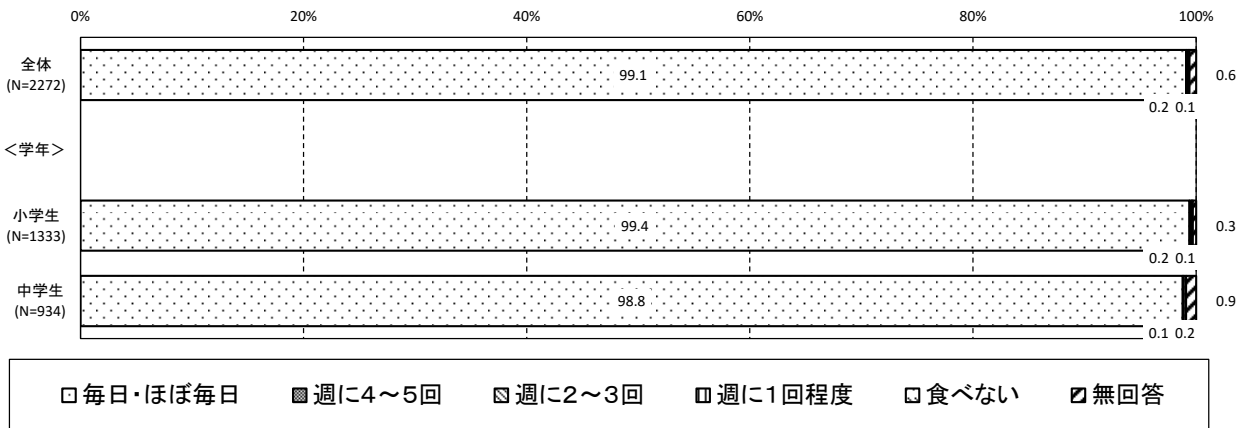
(3) 夕食を食べる頻度

問8 あなたは晩ごはんをいつも食べていますか。(あてはまる番号1つだけに○)

全体では、「毎日・ほぼ毎日」が99.1%で最も高い。

【学年別】

小学生、中学生ともに「毎日・ほぼ毎日」の割合が最も高く、小学生では99.4%、中学生では98.8%となっている。



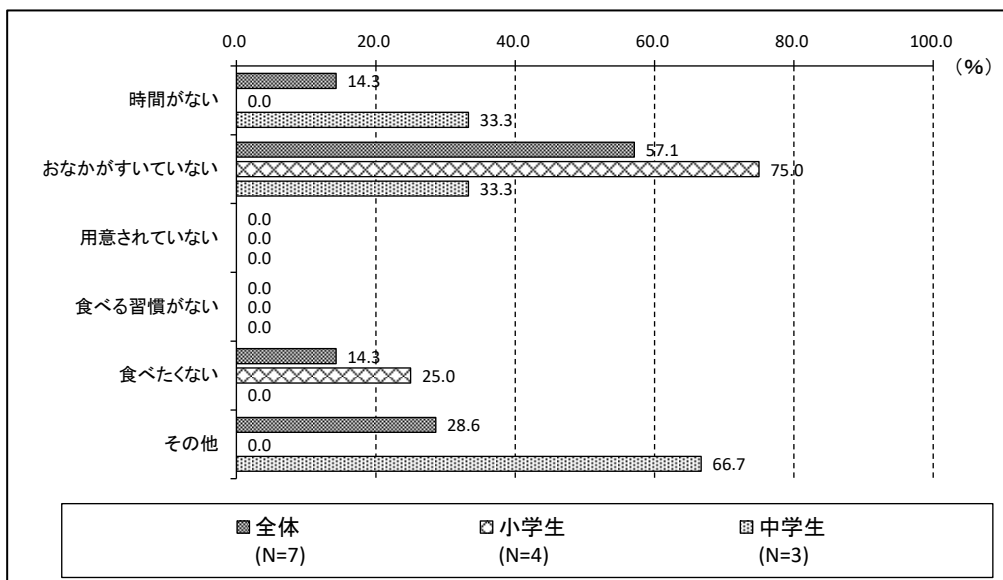
(4) 夕食を食べない日がある理由

問8で「2~5(=夕食を食べない日がある)」と答えた方におたずねします。

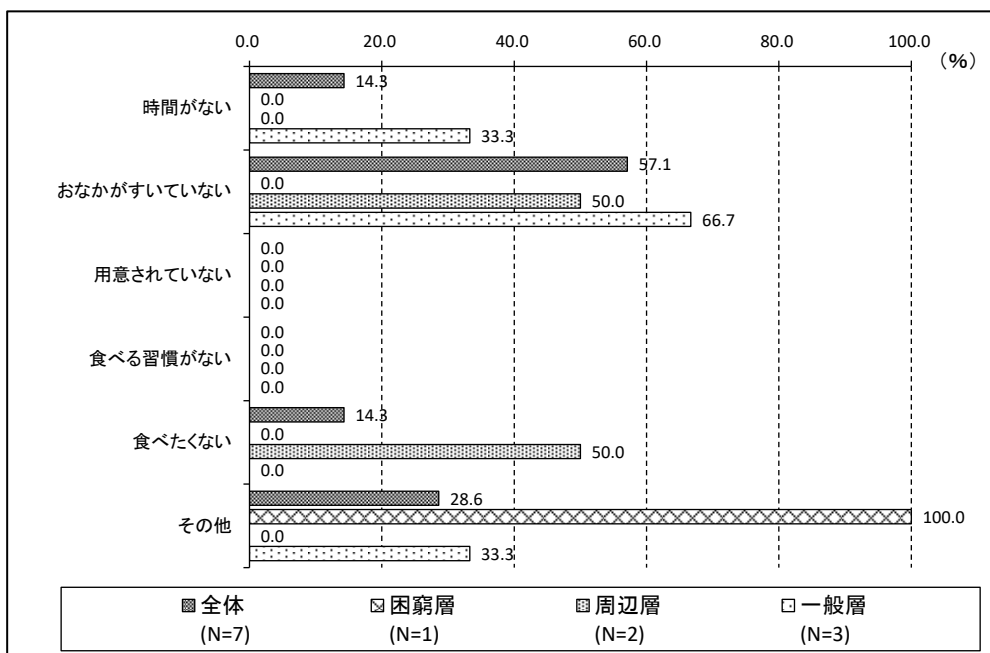
問8-1 晩ごはんを食べない日があるのはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○)

サンプル数が少ないため、以下に図表を掲載するにとどめる。

【学年別】



【生活困難世帯別】



第3章 子ども編

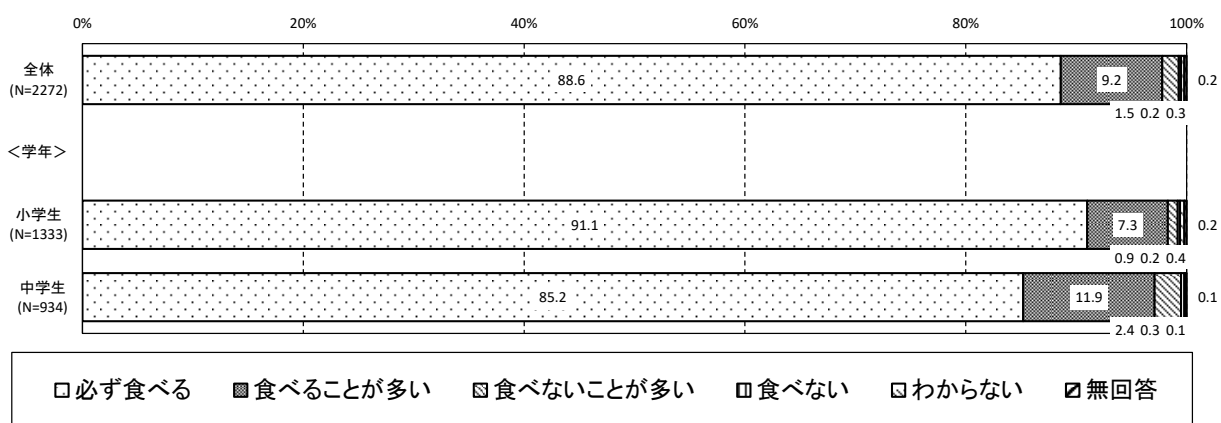
(5) 休日に昼食を食べる頻度

問9 あなたは学校がお休みの日にいつも昼ごはんを食べていますか。(夏休みなどの長期のお休みの日を含みます)(あてはまる番号1つだけに○)

全体では、「必ず食べる」が88.6%で最も高い。

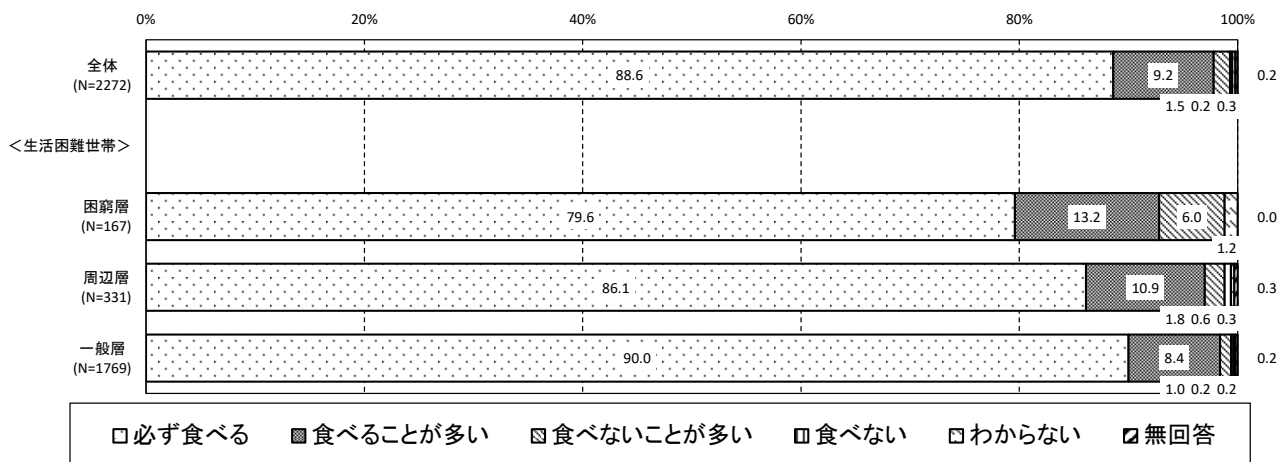
【学年別】

小学生、中学生ともに「必ず食べる」の割合が最も高く、小学生では91.1%、中学生では85.2%となっている。



【生活困難世帯別】

「必ず食べる」の割合は、困窮層では79.6%、周辺層では86.1%、一般層では90.0%と、困窮度が高まるにつれて低くなっている。一方、「食べないことが多い」の割合は、困窮層では6.0%、周辺層では1.8%、一般層では1.0%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。



(6) 昼食を食べない日がある理由

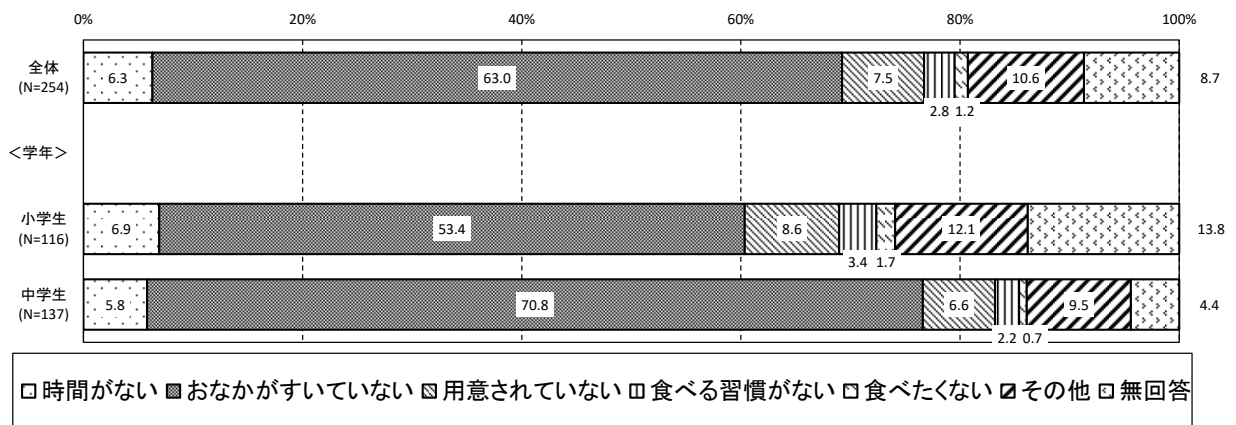
問9で「2~5 (=昼食を食べない日がある)」と答えた方におたずねします。

問9-1 昼食を食べない日があるのはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○)

全体では、「おなかがすいていない」が63.0%で最も高い。

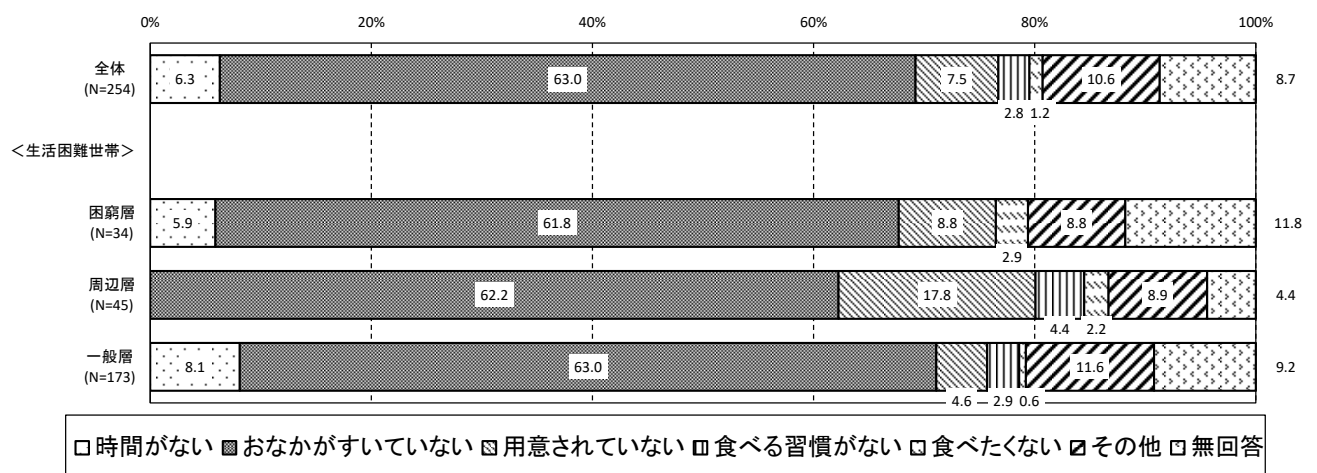
【学年別】

小学生、中学生ともに「おなかがすいていない」の割合が最も高く、小学生では53.4%、中学生では70.8%となっている。



【生活困難世帯別】

周辺層では、困窮層、一般層と比較して「用意されていない」(17.8%)の割合が高い。



第3章 子ども編

(7)ひとりでご飯を食べる頻度

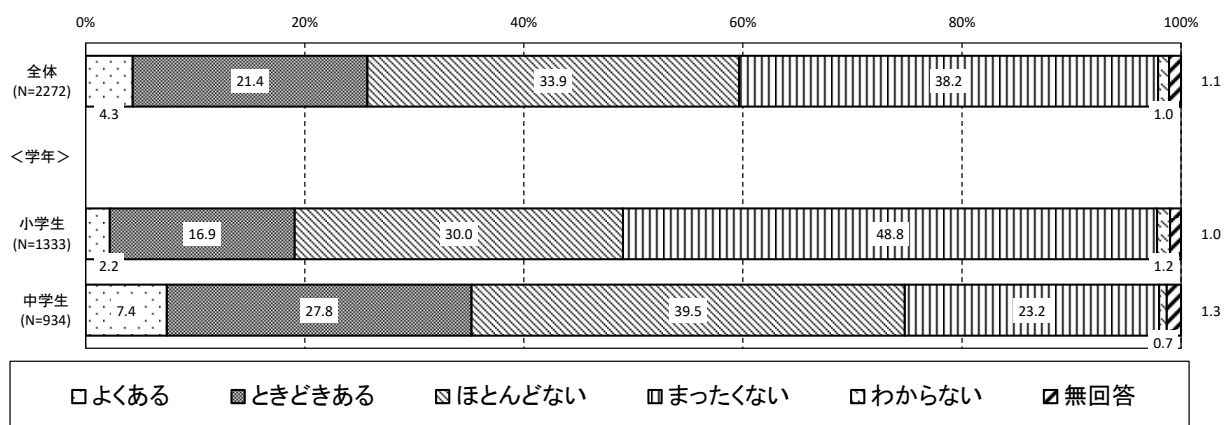
問 10 あなたは、家でひとりでごはんを食べることがありますか。(あてはまる番号1つだけに○)

全体では、「まったくない」が38.2%で最も高く、次いで「ほとんどない」が33.9%と続く。

【学年別】

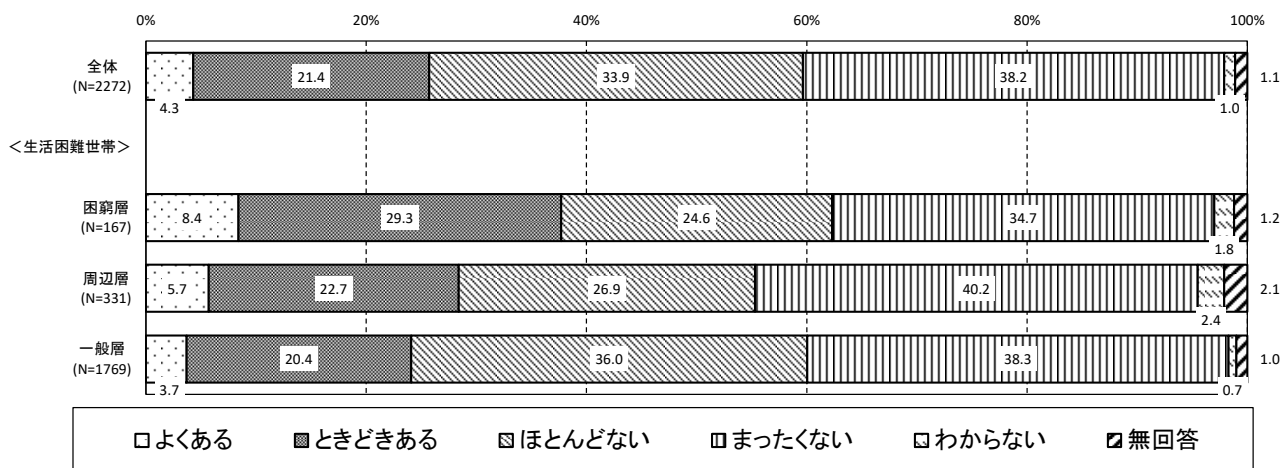
小学生では「まったくない」が48.8%で最も高く、中学生では「ほとんどない」が39.5%で最も高い。

「よくある」「ときどきある」を合わせた割合をみると、小学生では19.1%、中学生では35.2%で、中学生の方がひとりでご飯を食べる頻度が高い傾向にある。



【生活困難世帯別】

「よくある」「ときどきある」を合わせた割合をみると、困窮層では37.7%、周辺層では28.4%、一般層では24.1%と、困窮度が高まるにつれて高くなっている。



(8)ひとりでご飯を食べる際のメニュー

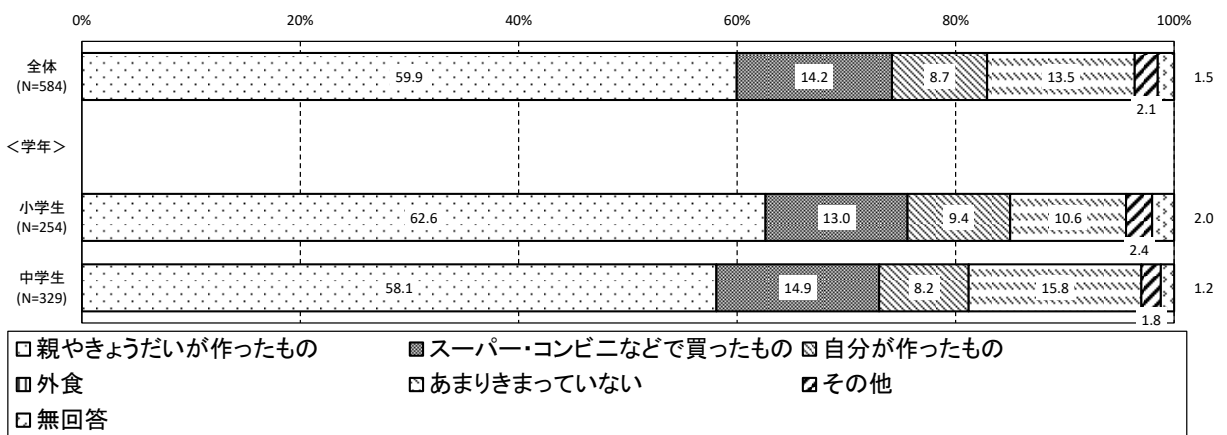
問 10 で「1.よくある」「2.ときどきある」と答えた方におたずねします。

問 10-1 ひとりでごはんを食べるとき、なにをよく食べていますか。

全体では、「親やきょうだい作ったもの」が 59.9%で最も高く、次いで「スーパー・コンビニなどで買ったもの」が 14.2%と続く。

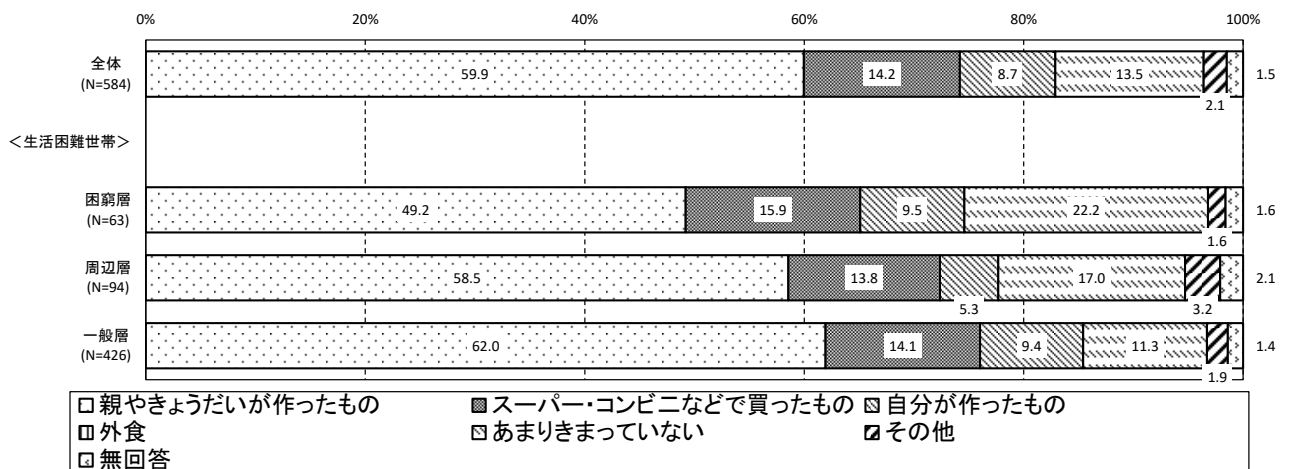
【学年別】

小学生、中学生ともに「親やきょうだい作ったもの」の割合が最も高く、小学生では 62.6%、中学生では 58.1%となっている。



【生活困難世帯別】

「親やきょうだい作ったもの」の割合は、困窮層では 49.2%、周辺層では 58.5%、一般層では 62.0%と、困窮度が高まるにつれて低くなっている。



5. 子どもの学び

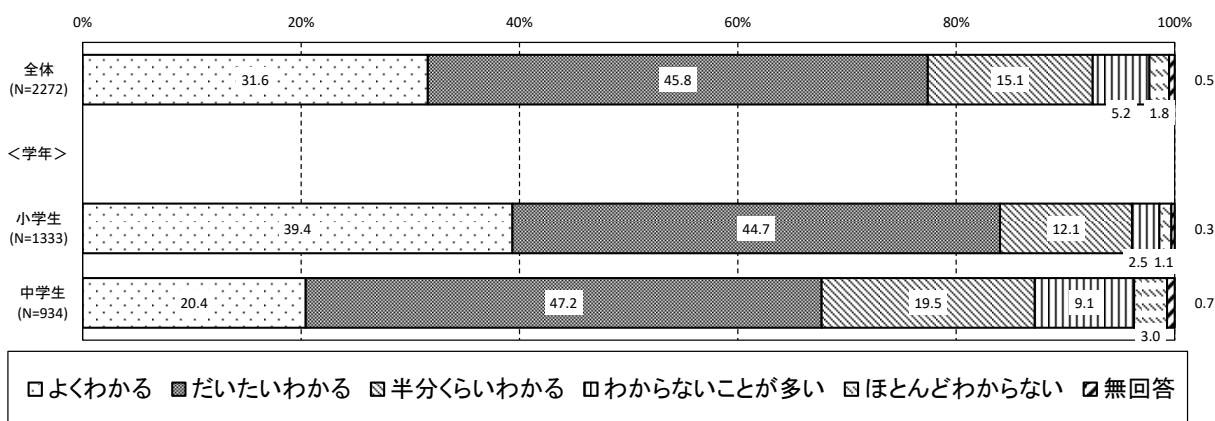
(1) 学校の授業の理解度

問 24 あなたは、学校の授業がどのくらいわかりますか。(あてはまる番号 1 つだけに○)

全体では、「だいたいわかる」が 45.8%で最も高く、次いで「よくわかる」が 31.6%と続く。

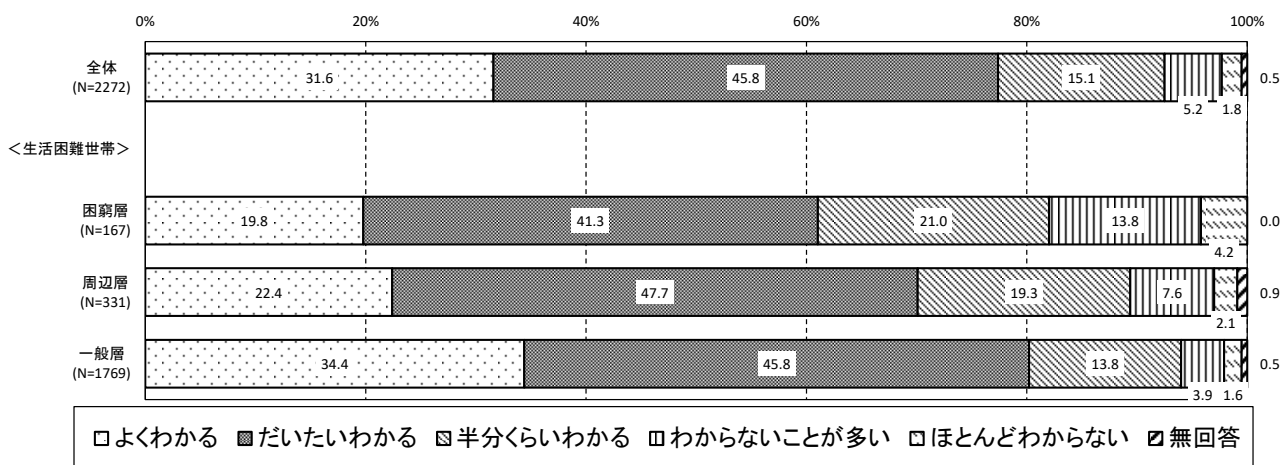
【学年別】

「よくわかる」「だいたいわかる」を合わせた割合をみると、小学生では 84.1%、中学生では 67.6%となっている。



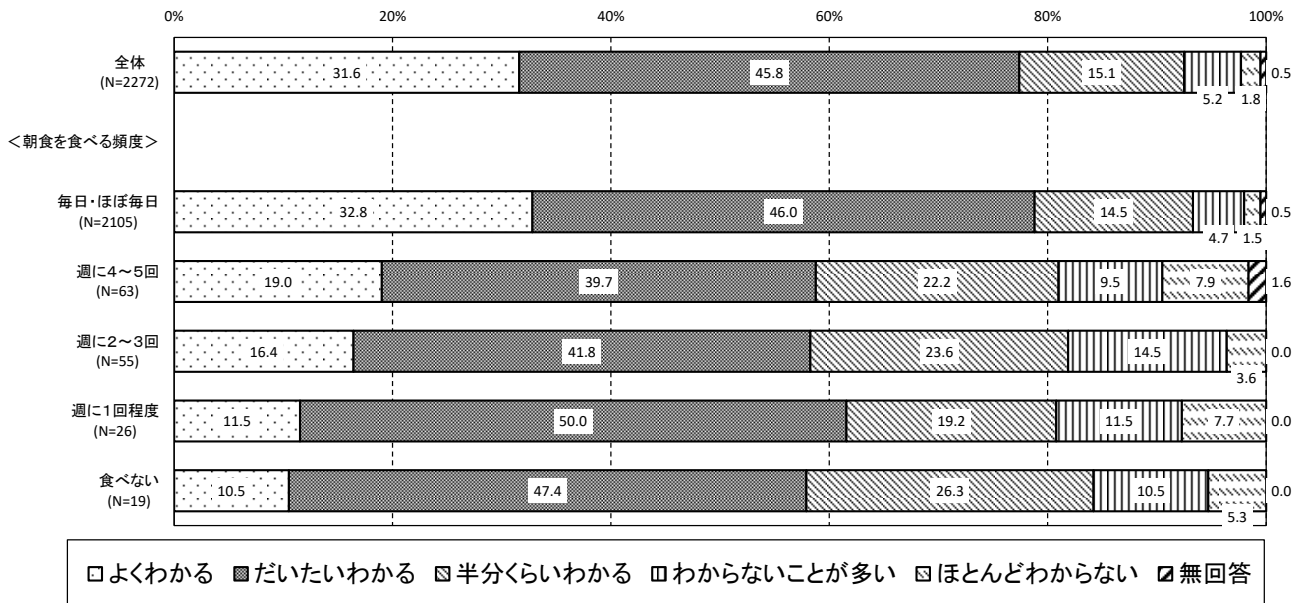
【生活困難世帯別】

「よくわかる」「だいたいわかる」を合わせた割合をみると、困窮層では 61.1%、周辺層では 70.1%、一般層では 80.2%と、困窮度が高まるにつれて低くなっている。



【朝食の頻度別】

前出の問7「朝食を食べる頻度」(p.46 参照)の回答別に、学校の授業の理解度について集計した。朝食の頻度が下がるにつれ学校の授業が「よくわかる」割合は低くなる傾向にあり、朝食を「毎日・ほぼ毎日」食べる層では授業が「よくわかる」割合が32.8%であるのに対し、朝食を「食べない」層では授業が「よくわかる」割合は10.5%にとどまっている。



第3章 子ども編

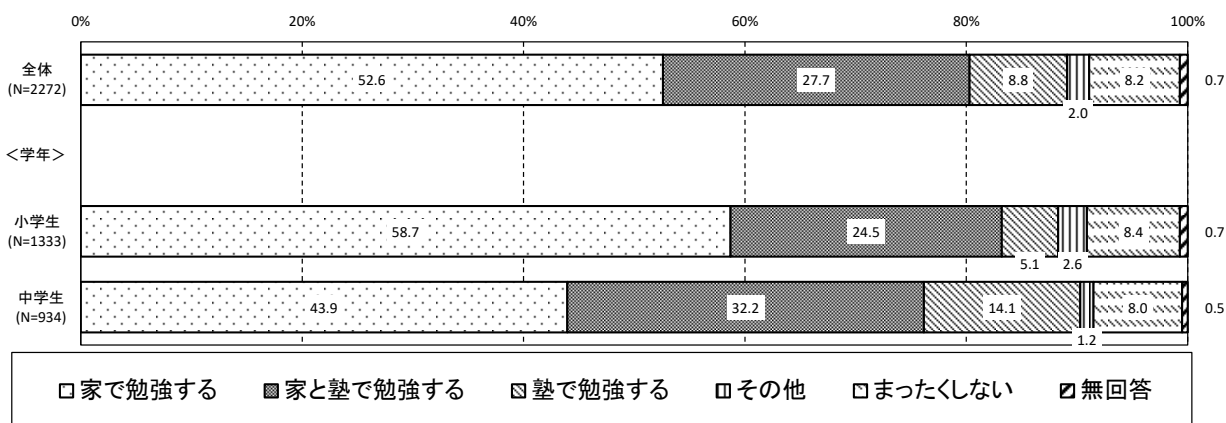
(2) 学校の授業時間以外の学習状況

問 18 あなたは、学校の授業時間以外に勉強をしますか。(あてはまる番号 1 つだけに○)

全体では、「家で勉強をする」が 52.6% で最も高く、次いで「家と塾で勉強する」が 27.7% と続く。

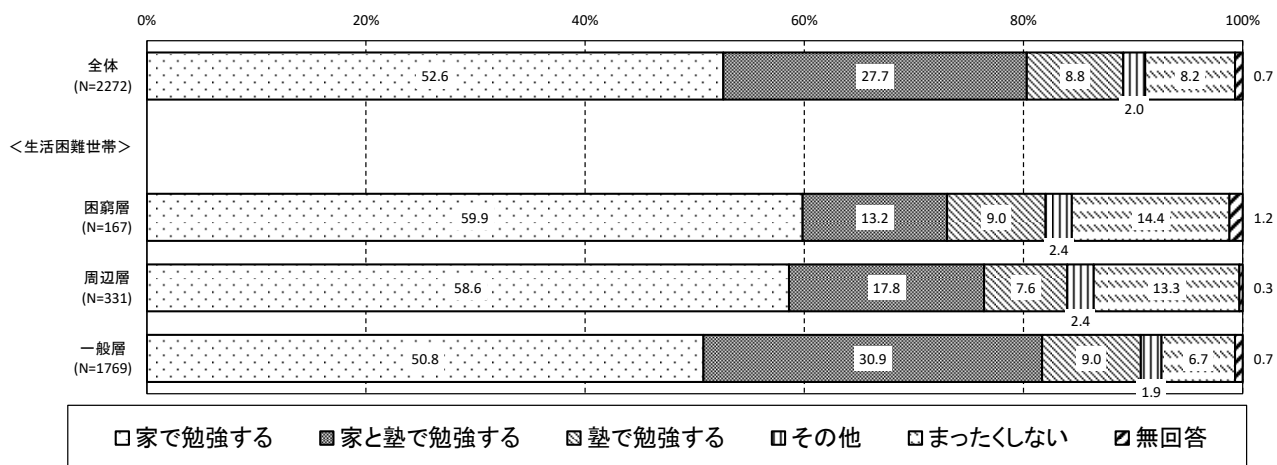
【学年別】

小学生、中学生ともに「家で勉強する」の割合が最も高く、小学生では 58.7%、中学生では 43.9% となっている。



【生活困難世帯別】

「家と塾で勉強する」「塾で勉強する」を合わせた割合をみると、困窮層では 22.2%、周辺層では 25.4%、一般層では 39.9% と、困窮度が高まるにつれて低くなっている。



(3) 1日あたりの学習時間

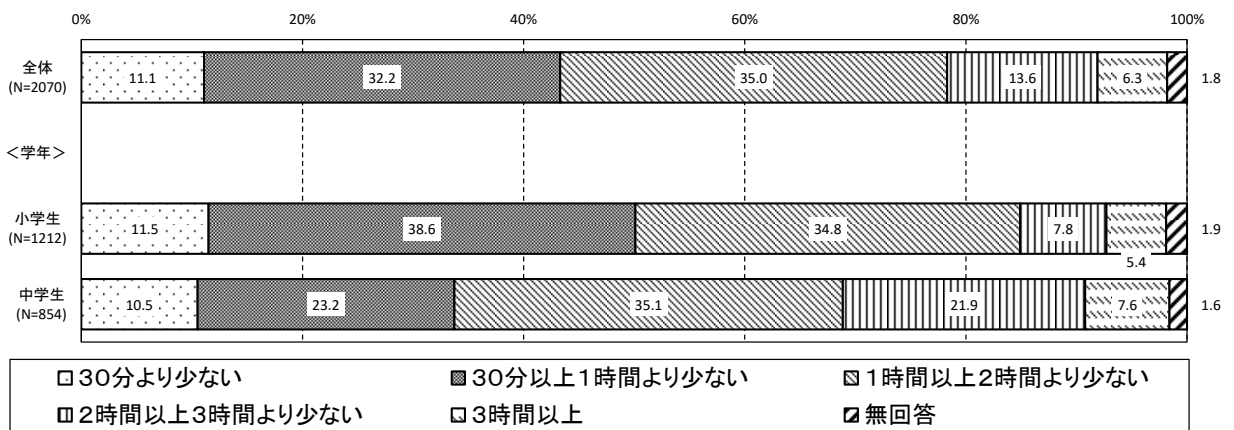
問 18 で「1～4 (=勉強する)」と答えた人におたずねします。

問 18-1 1日あたりどれくらい勉強をしますか。(あてはまる番号1つだけに○)

全体では、「1時間以上2時間より少ない」が35.0%で最も高く、次いで「30分以上1時間より少ない」が32.2%と続く。

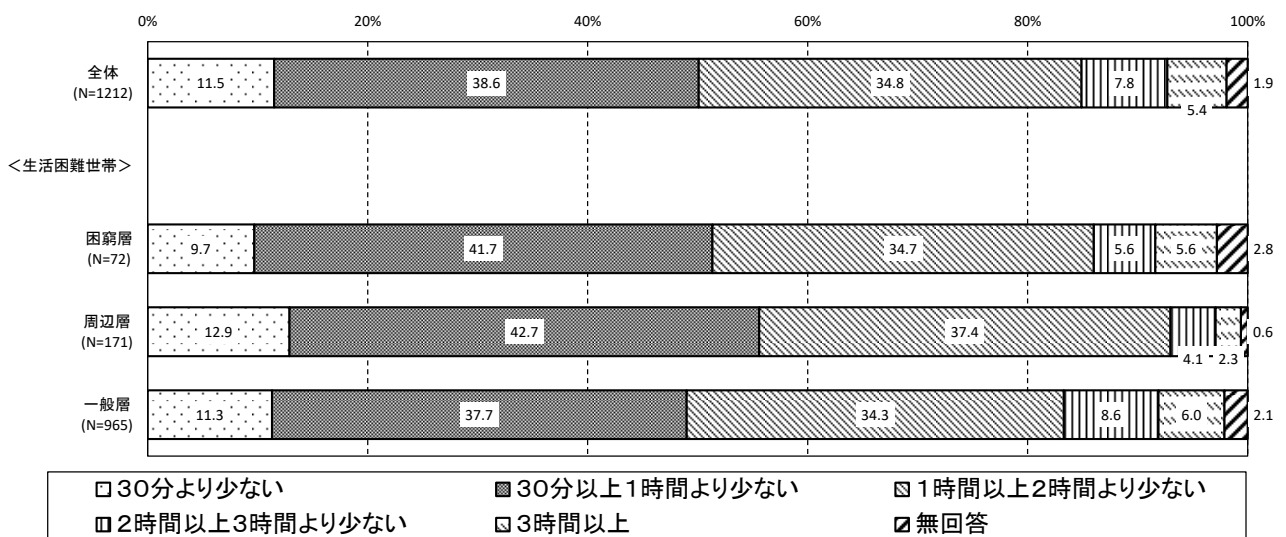
【学年別】

小学生では「30分以上1時間より少ない」が38.6%で最も高く、中学生では「1時間以上2時間より少ない」が35.1%で最も高い。



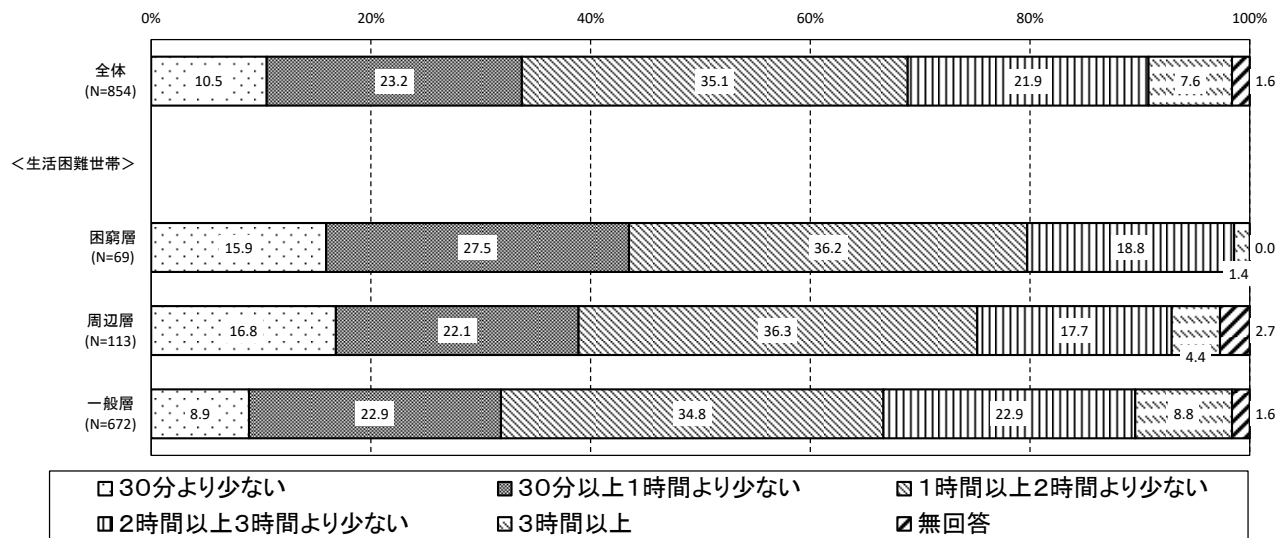
【生活困難世帯別 (小学生)】

小学生の生活困難世帯別では、困窮度による大きな差はみられないが、2時間未満でまとめてみると、困窮層では86.1%、周辺層で93.0%、一般層で83.3%となり、周辺層では学校以外の学習時間が比較的少ないといえる。



【生活困難世帯別（中学生）】

中学生は困窮度が高まるにつれ学習時間が少なくなる傾向があり、1時間以上でまとめてみると、困窮層では56.4%、周辺層で58.4%、一般層で66.5%となっている。



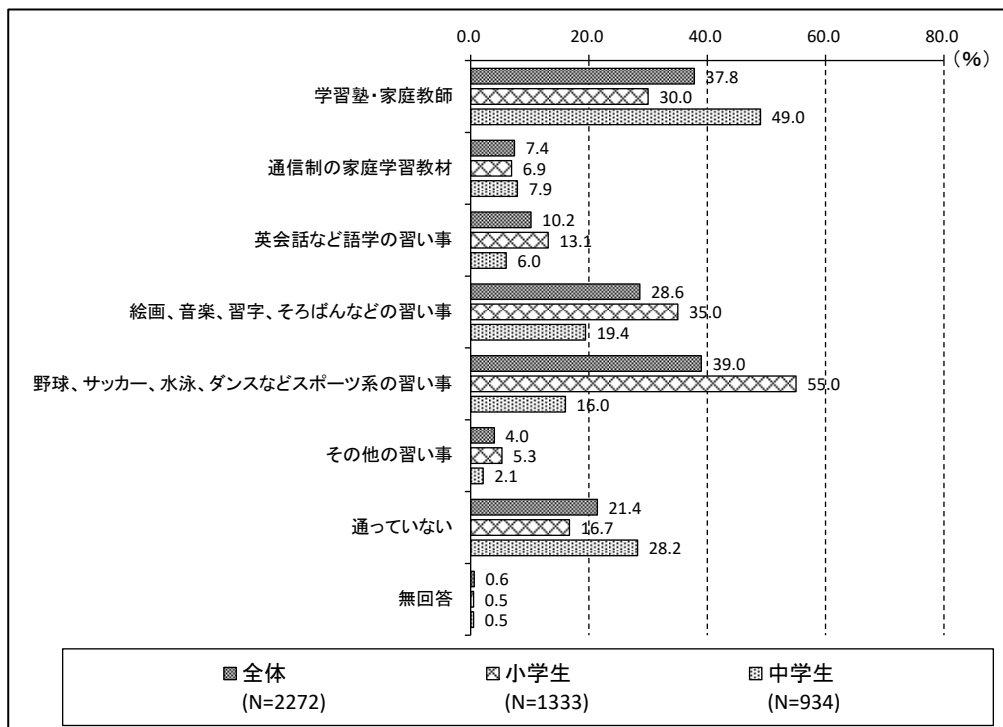
(4) 学習塾や家庭教師、習い事に通っている状況

問 25 あなたは、学習塾や家庭教師、習い事に通っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

全体では、「野球、サッカー、水泳、ダンスなどのスポーツ系の習い事」が 39.0%で最も高く、次いで「学習塾・家庭教師」が 37.8%と続く。

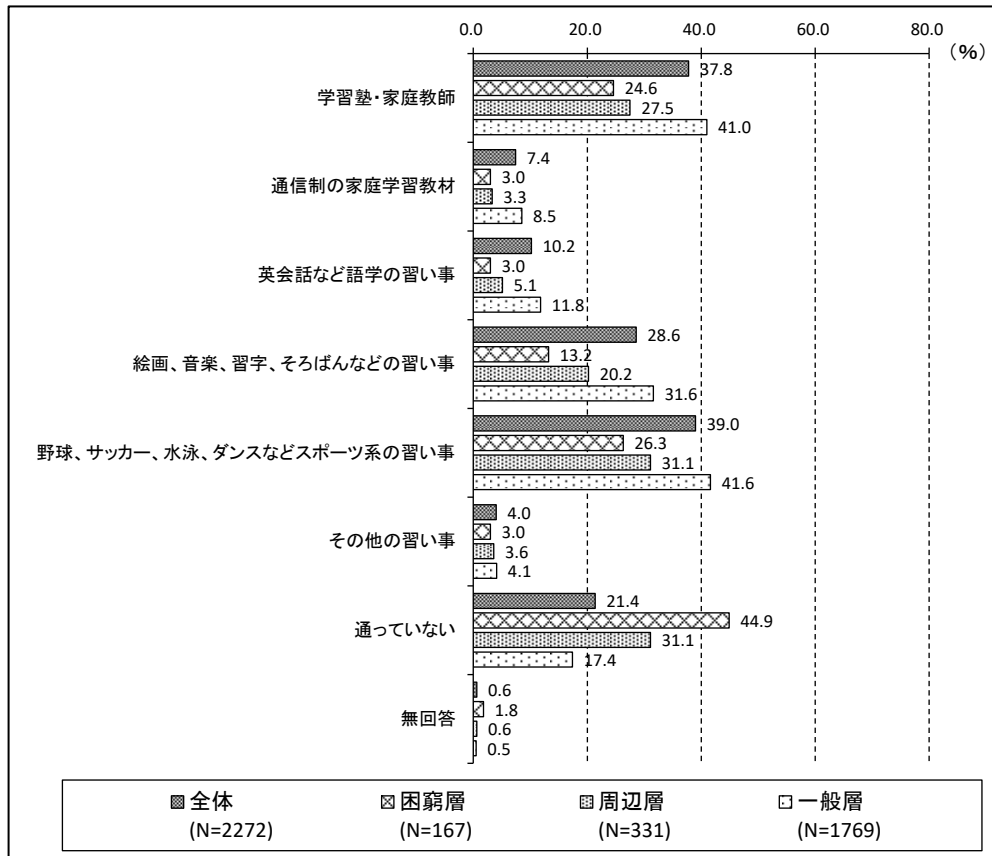
【学年別】

小学生では「野球、サッカー、水泳、ダンスなどのスポーツ系の習い事」が 55.0%で最も高く、中学生では「学習塾・家庭教師」が 49.0%で最も高い。



【生活困難世帯別】

困窮層、周辺層では、一般層と比較して「通っていない」以外の項目の割合が低い。
 また、「通っていない」の割合は、困窮層では44.9%、周辺層では31.1%、一般層では17.4%と、困窮度が高まるにつれて高くなっている。



(5) 習い事に通っていない理由

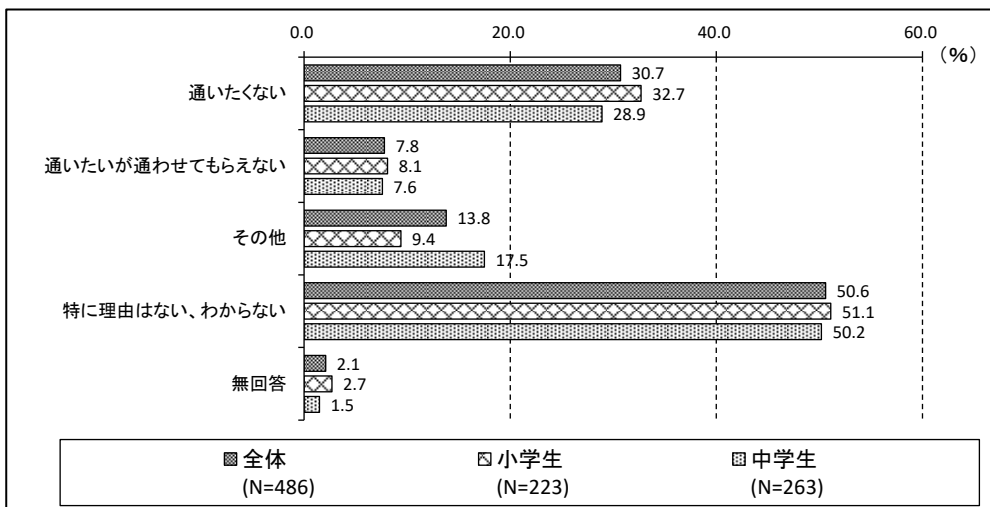
問 25 で「7. 通っていない」と答えた方におたずねします。

問 25-1 通っていない理由はなんですか。(あてはまる番号すべてに○)

全体では、「特に理由はない、わからない」が 50.6%で最も高く、次いで「通いたくない」が 30.7%と続く。

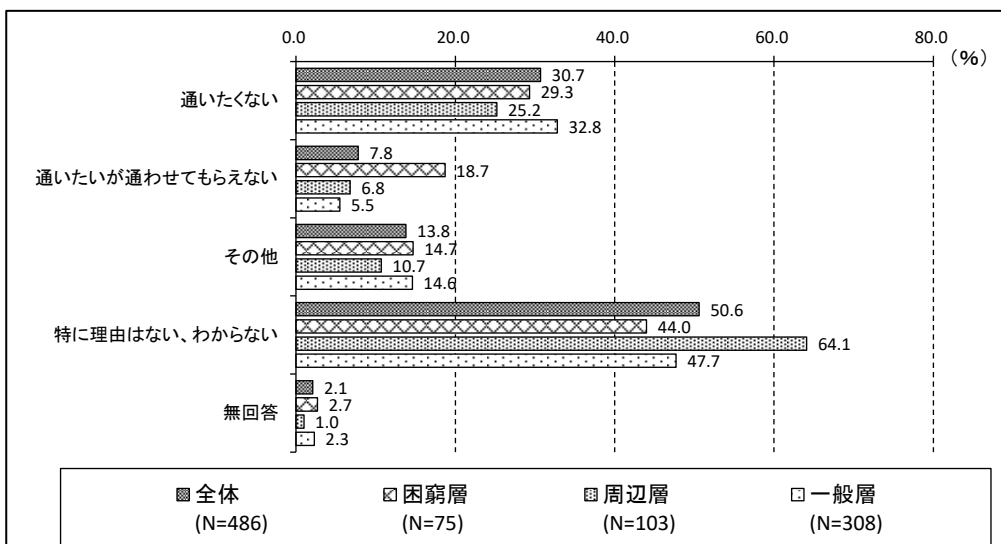
【学年別】

小学生、中学生ともに「特に理由はない、わからない」の割合が最も高く、小学生では 51.1%、中学生では 50.2%となっている。



【生活困難世帯別】

「通いたいが通わせてもらえない」の割合は困窮層で特に高く、困窮層では 18.7%、周辺層では 6.8%、一般層では 5.5%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。



第3章 子ども編

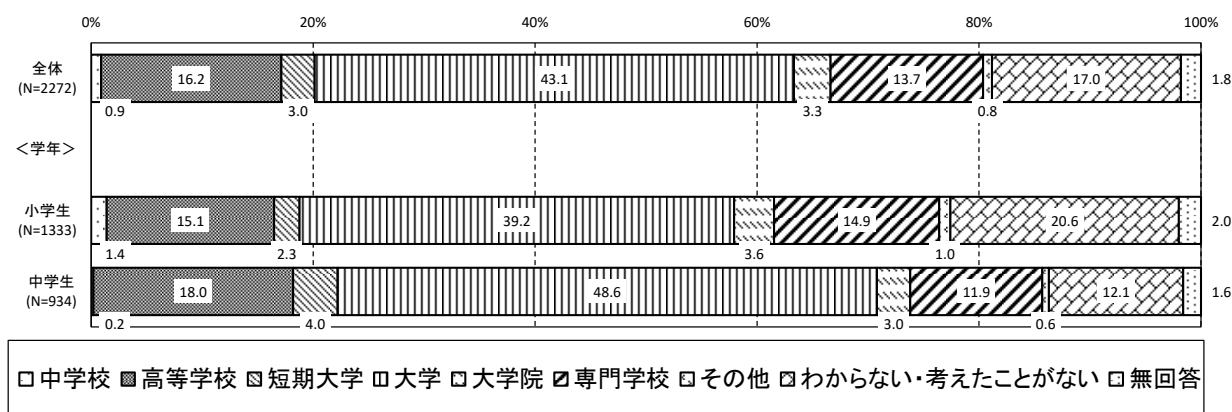
(6) 進学希望

問 29 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。(あてはまる番号1つだけに○)

全体では、「大学」が43.1%で最も高く、次いで「わからない・考えたことがない」が17.0%、「高等学校」が16.2%と続く。

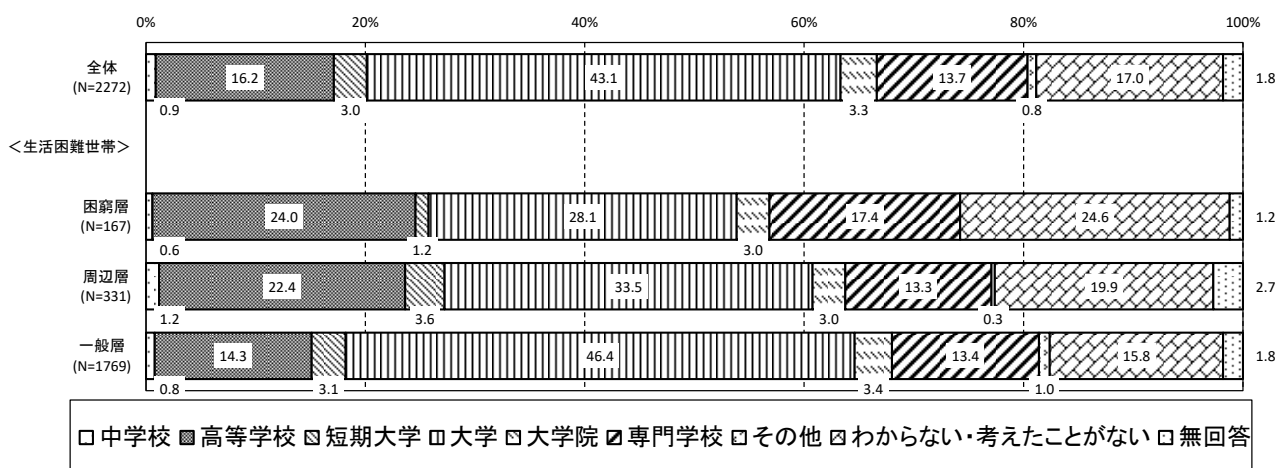
【学年別】

小学生、中学生ともに「大学」の割合が最も高く、小学生では39.2%、中学生では48.6%となっている。



【生活困難世帯別】

いずれの階層でも「大学」の割合が最も高いが、困窮層では28.1%、周辺層では33.5%、一般層では46.4%と、困窮度が高まるにつれ低くなっている。また「高等学校」については困窮度が高まるにつれて高くなり、困窮層では24.0%、周辺層では22.4%、一般層では14.3%となっている。なお困窮層では、「わからない・考えたことがない」も24.6%と比較的高い。



6. 子どもの生活

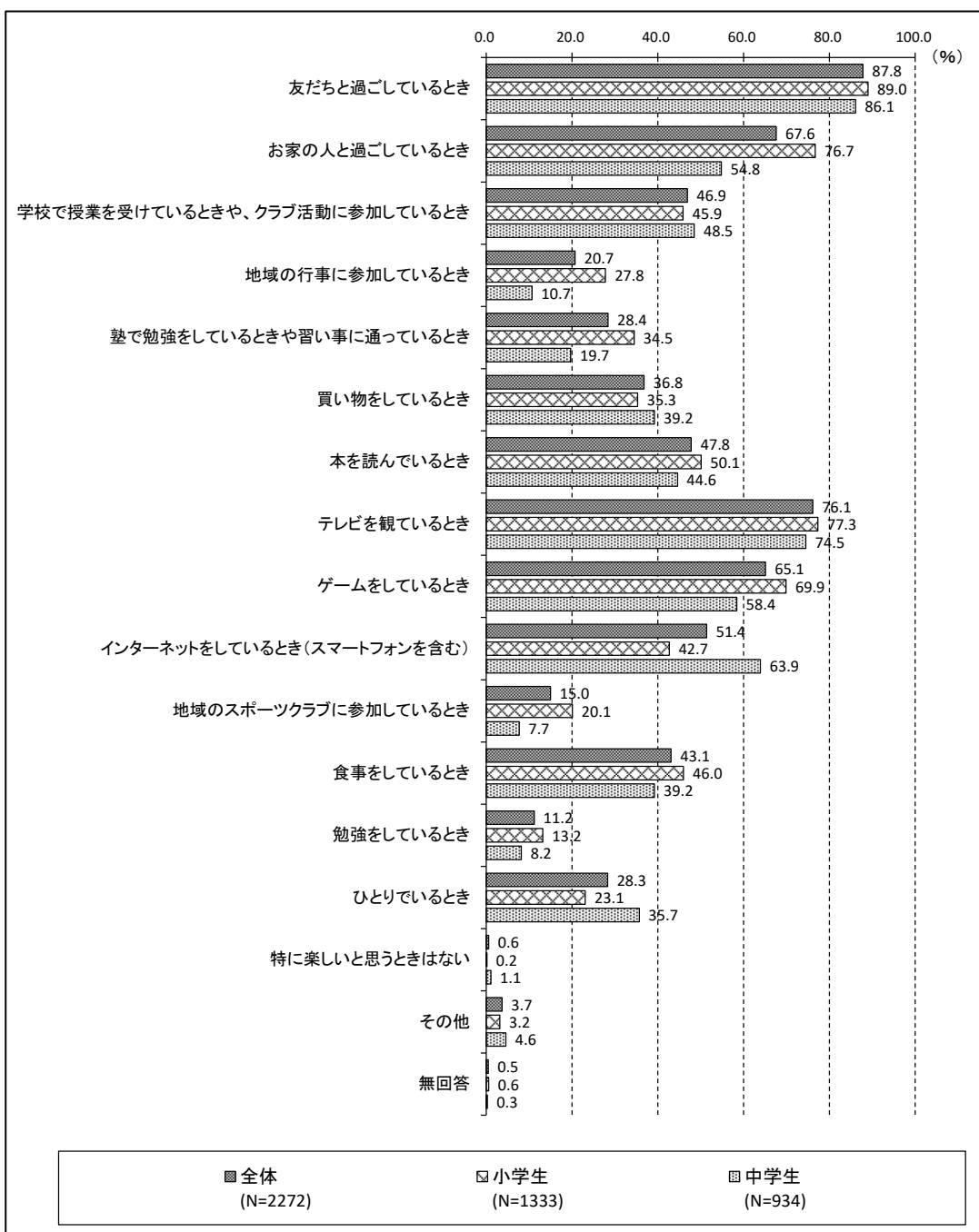
(1) 毎日の生活で楽しいと思う場面

問 13 あなたは、毎日の生活でどのようなときに楽しいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

全体では、「友だちと過ごしているとき」が87.8%で最も高く、次いで「テレビを観ているとき」が76.1%、「おうちの人と過ごしているとき」が67.6%と続く

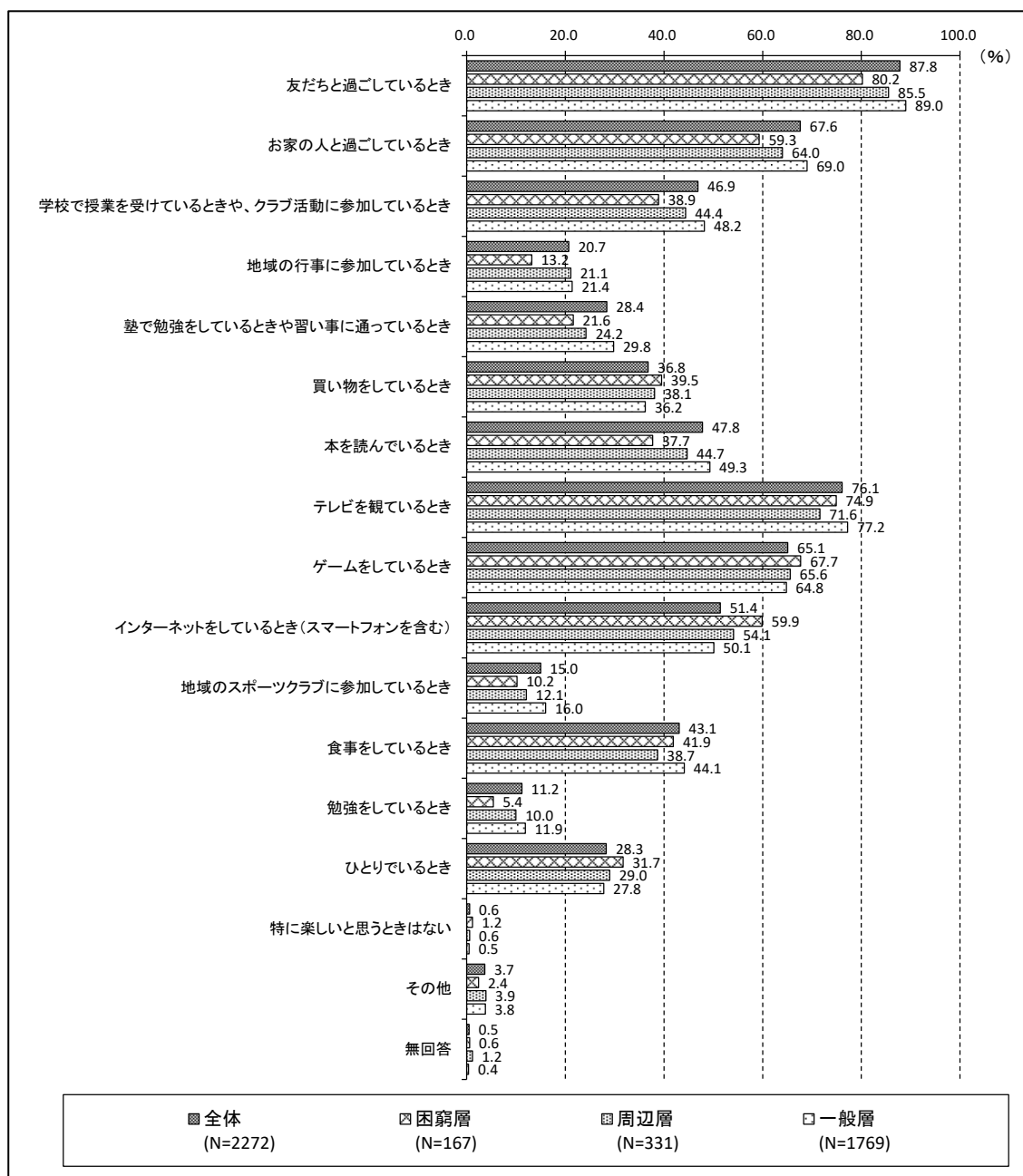
【学年別】

小学生、中学生ともに「友だちと過ごしているとき」の割合が最も高く、小学生では89.0%、中学生では86.1%となっている。



【生活困難世帯別】

困窮層では、周辺層、一般層と比較して、「友達と過ごしているとき」(80.2%)、「お家の人と過ごしているとき」(59.3%)、「学校で授業を受けているときや、クラブ活動に参加しているとき」(38.9%)、「地域の行事に参加しているとき」(13.2%)、「塾で勉強をしているときや習い事に通っているとき」(21.6%)、「本を読んでいるとき」(37.7%)、「地域のスポーツクラブに参加しているとき」(10.2%)、「勉強しているとき」(5.4%)、の割合が低い、「買い物をしているとき」(39.5%)、「ゲームをしているとき」(67.7%)、「インターネットをしているとき(スマートフォン含む)」(59.9%)、「ひとりであるとき」(31.7%)、の割合は高い。



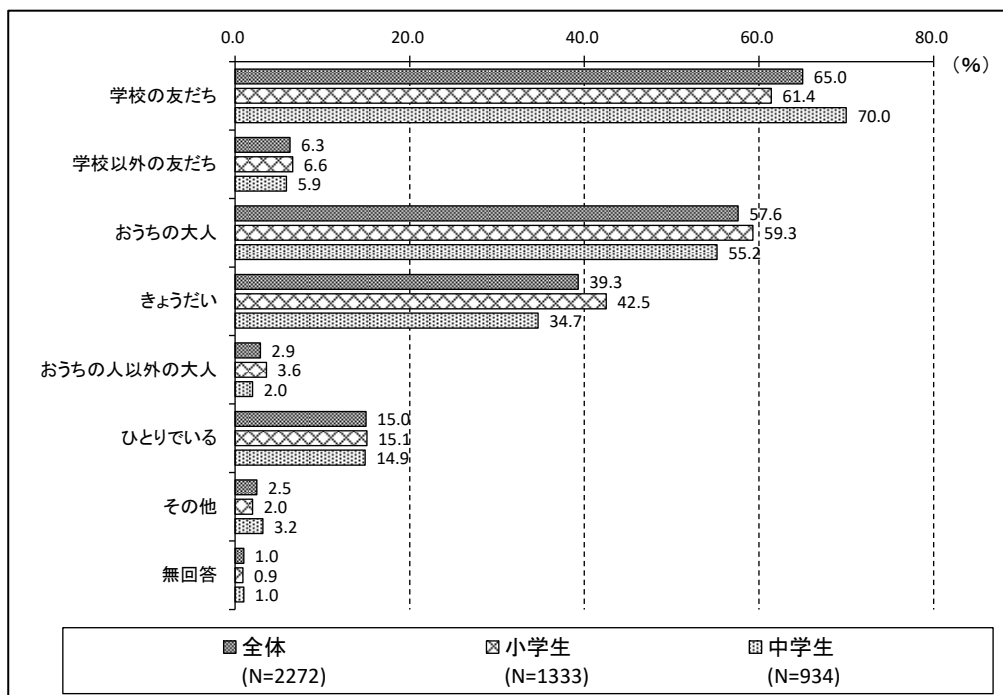
(2) 放課後過ごすことが多い人

問 14 あなたは放課後ふだん誰と過ごすことが多いですか。(あてはまる番号すべてに○)

全体では、「学校の友だち」が 65.0%で最も高く、次いで「おうちの大人」が 57.6%と続く。

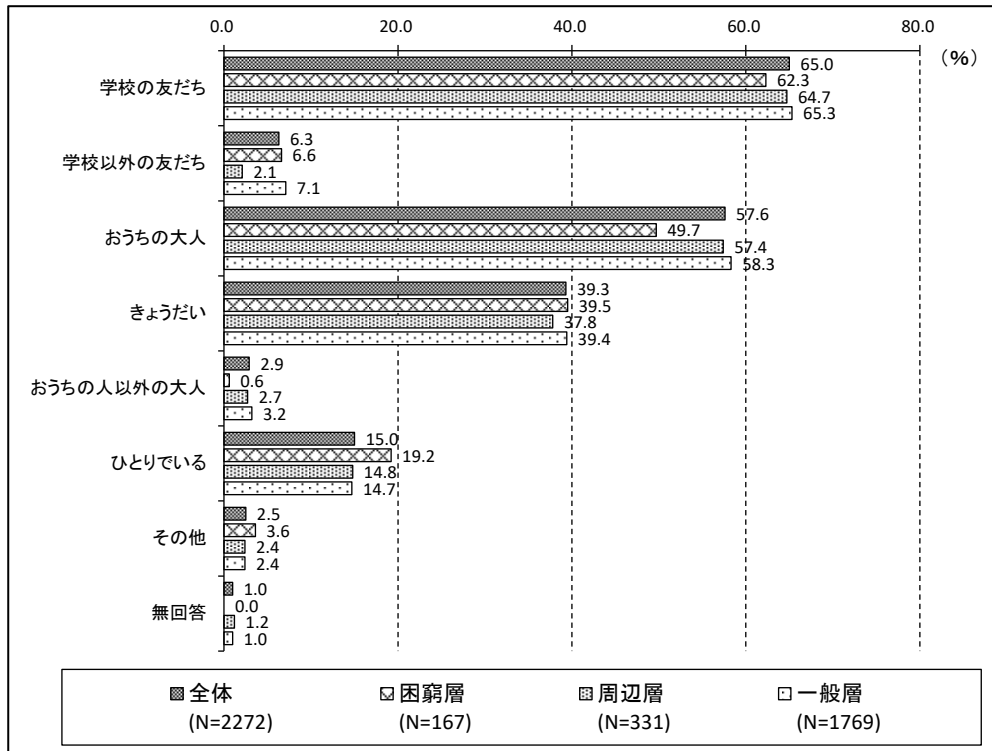
【学年別】

小学生、中学生ともに「学校の友だち」の割合が最も高く、小学生では 61.4%、中学生では 70.0%となっている。



【生活困難世帯別】

困窮層では、周辺層、一般層と比較して「おうちの大人」（49.7％）の割合が低く、「ひとりである」（19.2％）の割合が高い。



(3) 放課後過ごす場所

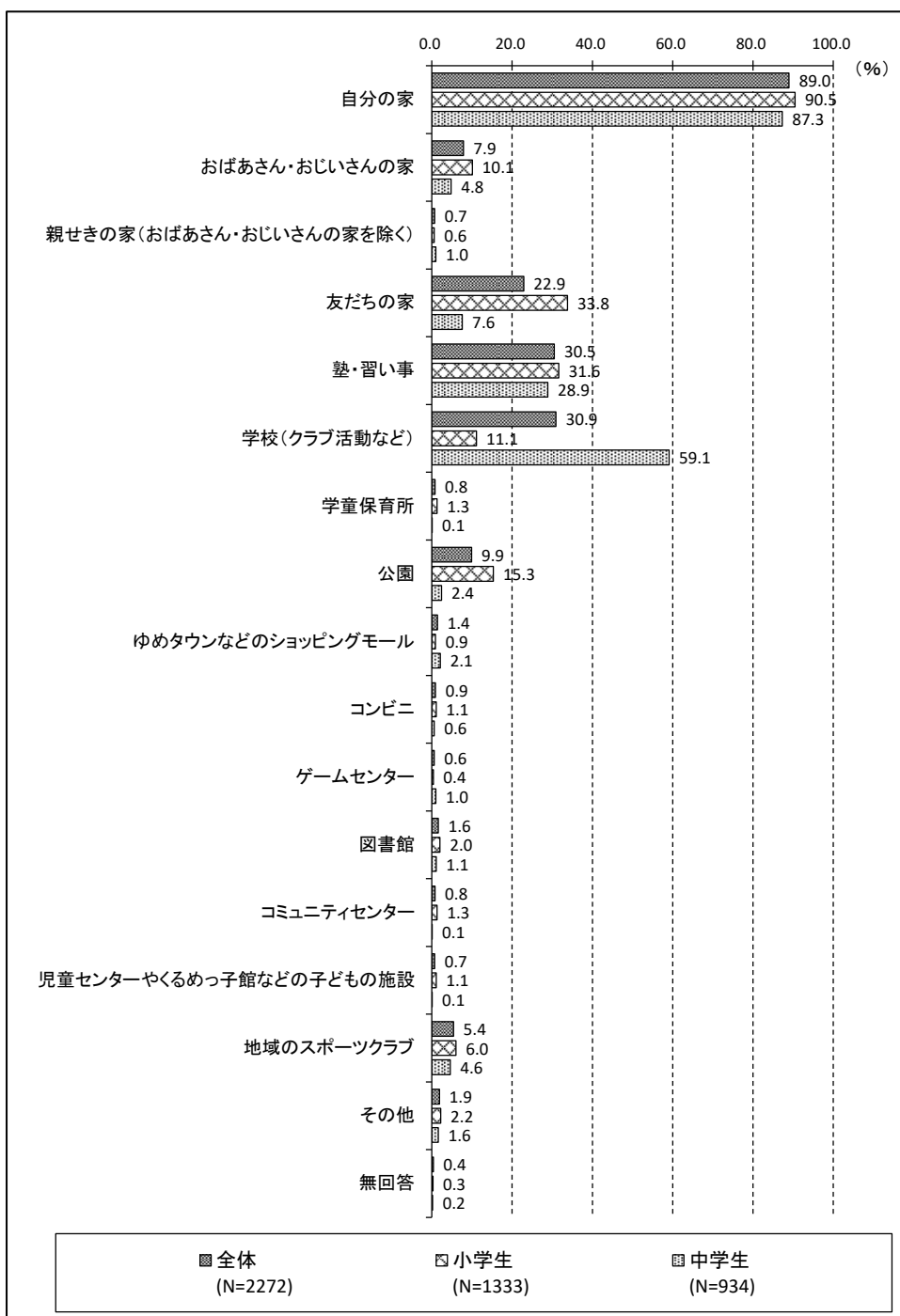
問 15 あなたは放課後どこで過ごすことが多いですか。(あてはまる番号を3つまで選んで○)

全体では、「自分の家」が 89.0%で最も高く、次いで「学校（クラブ活動など）」が 30.9%、「塾・習い事」が 30.5%と続く。

【学年別】

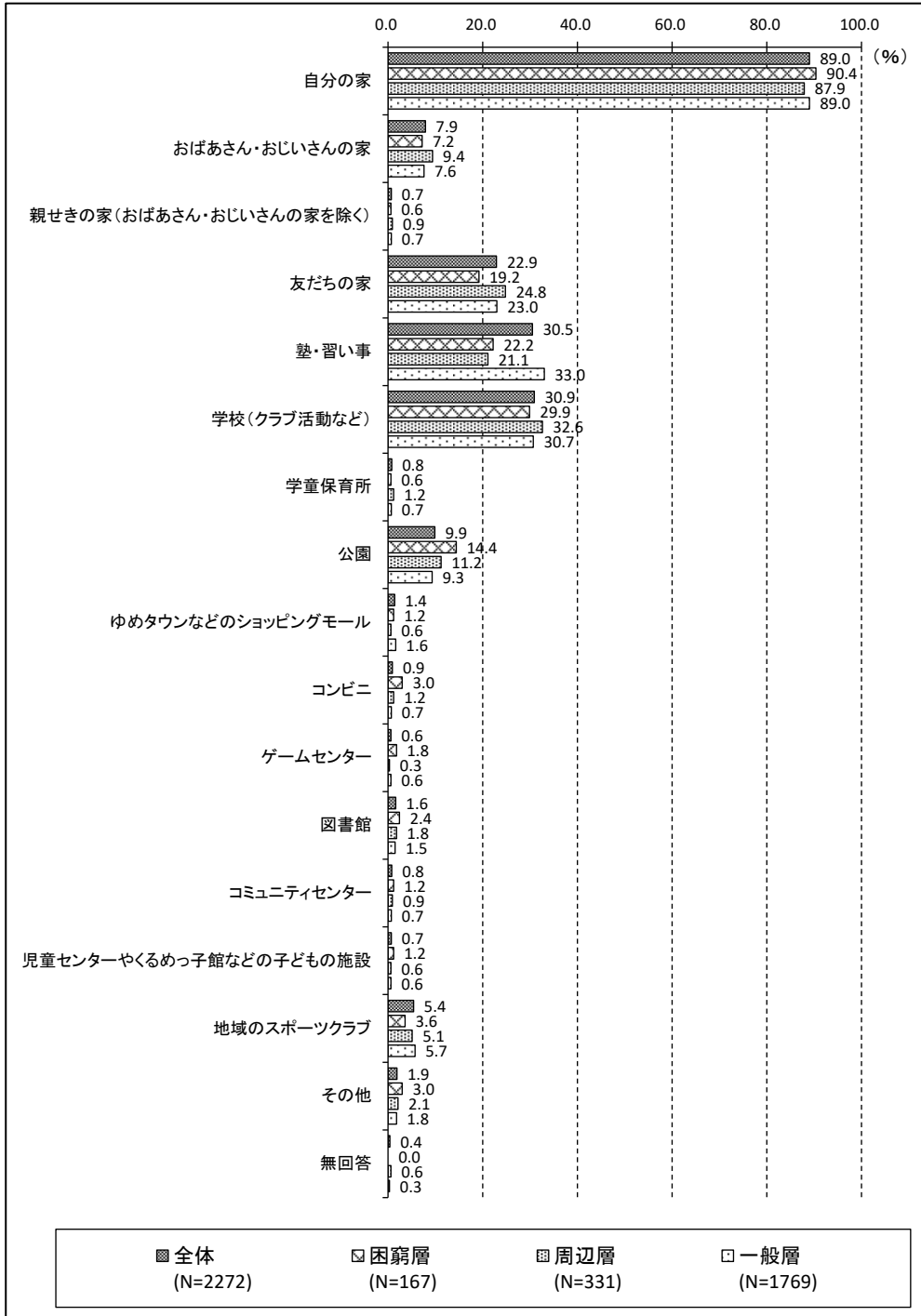
小学生、中学生ともに「自分の家」の割合が最も高く、小学生では 90.5%、中学生では 87.3%となっている。

また、小学生では「友だちの家」33.8%）、中学生では「学校（クラブ活動など）」（59.1%）の割合も高い。



【生活困難世帯別】

「公園」で過ごす割合は、困窮層では14.4%、周辺層では11.2%、一般層では9.3%と、困窮度が高まるにつれて高くなる。



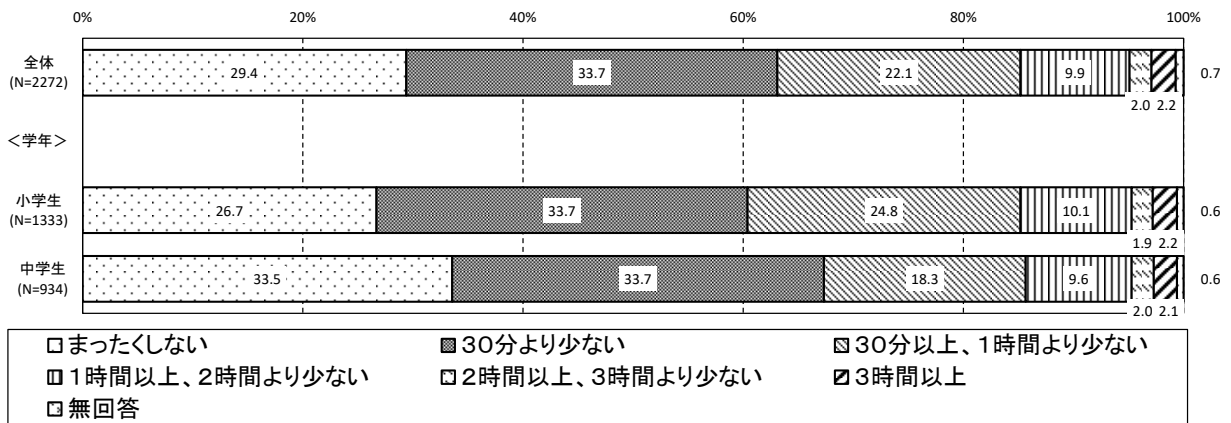
(4) 学校の授業時間外の読書時間

問 22 あなたは、学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらい読書をしますか（教科書や参考書、マンガや雑誌をのぞきます）。（あてはまる番号1つだけに○）

全体では、「30分より少ない」が33.7%で最も高く、次いで「まったくしない」が29.4%と続く。

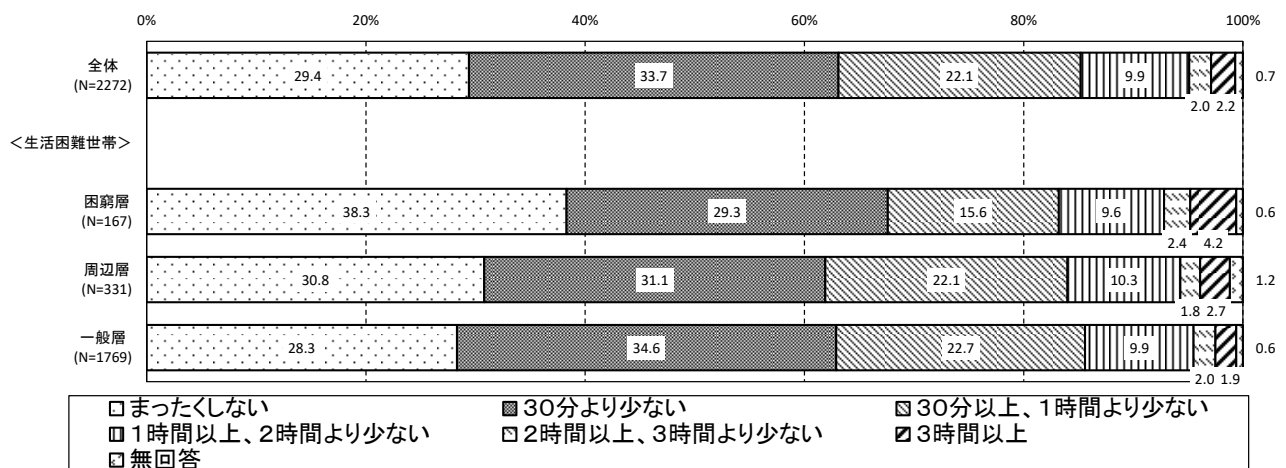
【学年別】

小学生、中学生ともに「30分より少ない」（ともに33.7%）の割合が最も高い。



【生活困難世帯別】

「まったくしない」の割合は、困窮層では38.3%、周辺層では30.8%、一般層では28.3%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。



第3章 子ども編

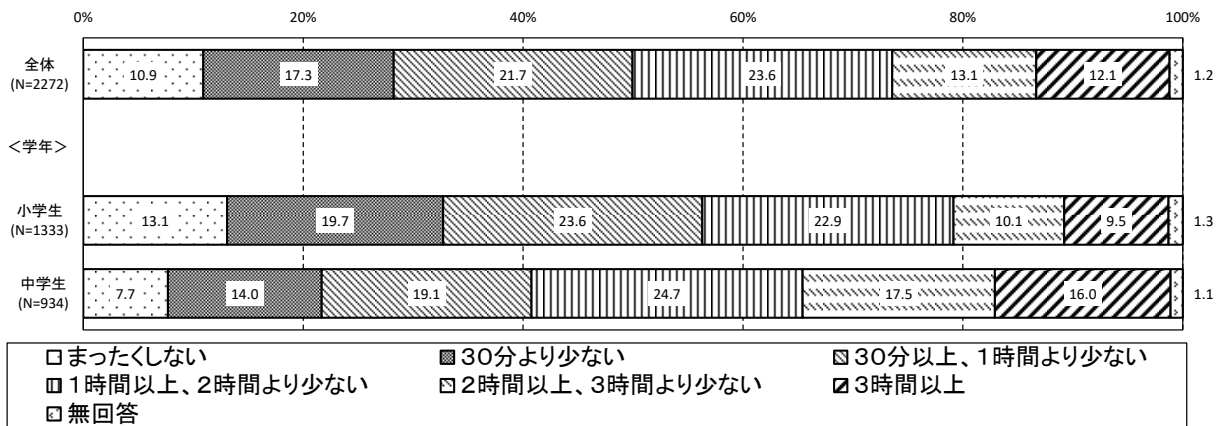
(5) ゲーム機やスマートフォンの使用時間

問 23 あなたは1日あたりどれくらいゲーム機や携帯電話（スマートフォン）を使いますか。（あてはまる番号1つだけに○）

全体では、「1時間以上、2時間より少ない」が23.6%で最も高く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が21.7%と続く。

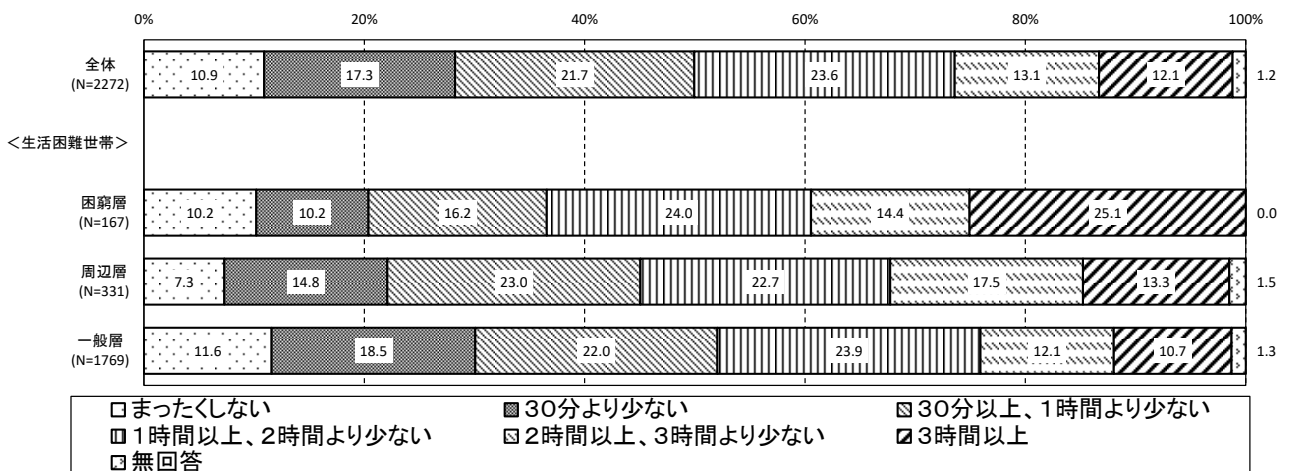
【学年別】

小学生では「30分以上、1時間より少ない」が23.6%で最も高く、中学生では「1時間以上、2時間より少ない」が24.7%で最も高い。



【生活困難世帯別】

「1時間以上、2時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」「3時間以上」を合わせた割合をみると、困窮層では63.5%、周辺層では53.5%、一般層では46.7%と、困窮度が高まるにつれて高くなっている。



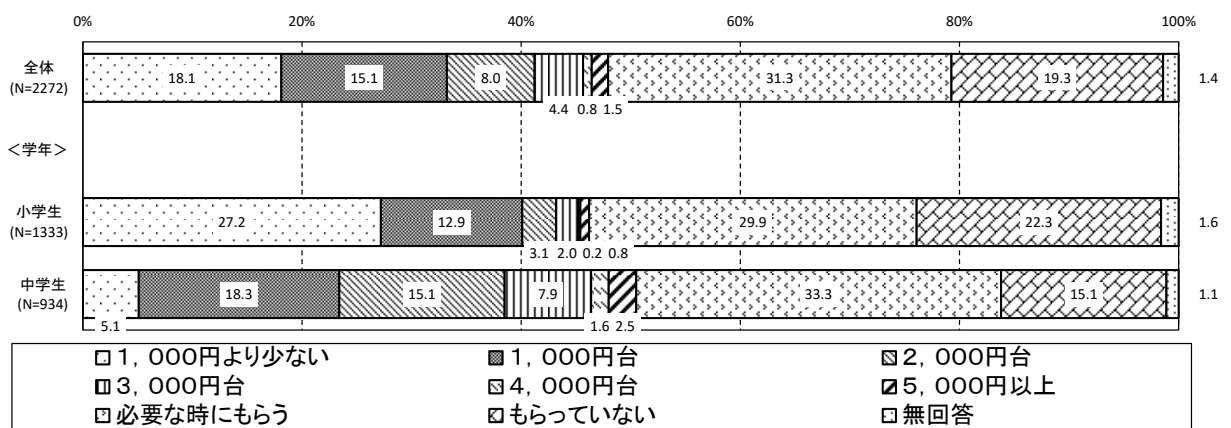
(6) 毎月のおこづかいの金額

問 19 あなたの毎月のおこづかいについておたずねします。あなたの毎月のおこづかいはいくらですか。(時々もらう場合は、1か月あたりにするとどのくらいかで選んでください。ただし、お年玉など臨時にもらうお金はのぞきます)(あてはまる番号1つだけに○)

全体では、「必要なときにもらう」が31.3%で最も高く、次いで「もらっていない」が19.3%と続く。

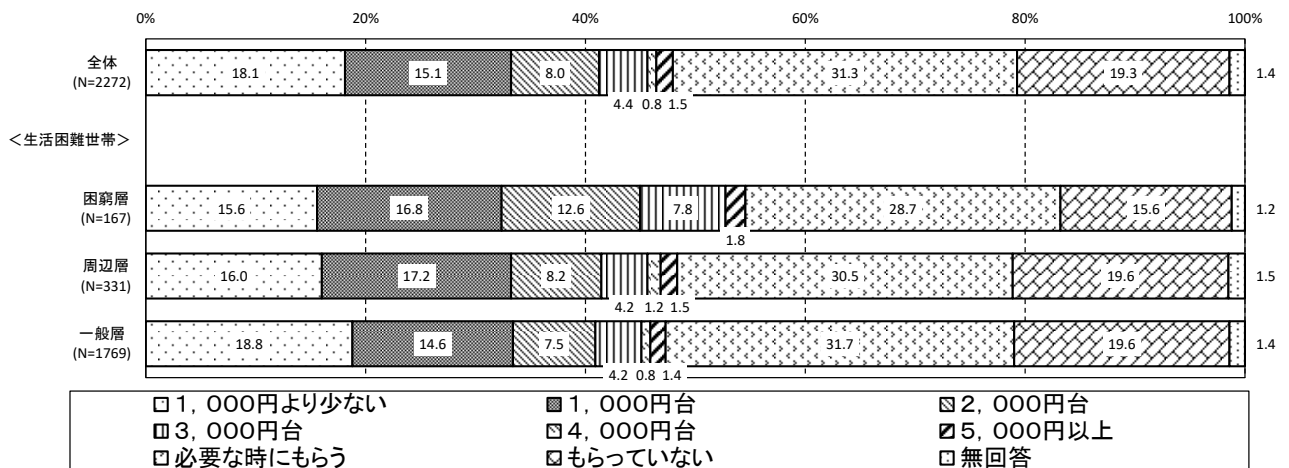
【学年別】

小学生、中学生ともに「必要なときにもらう」の割合が最も高く、小学生では29.9%、中学生では33.3%となっている。



【生活困難世帯別】

定額でおこづかいをもらっている割合は、困窮層では54.6%、周辺層では48.3%、一般層では47.3%と、困窮度が高まるにつれて高くなっている。



第3章 子ども編

(7) おこづかいの使用目的

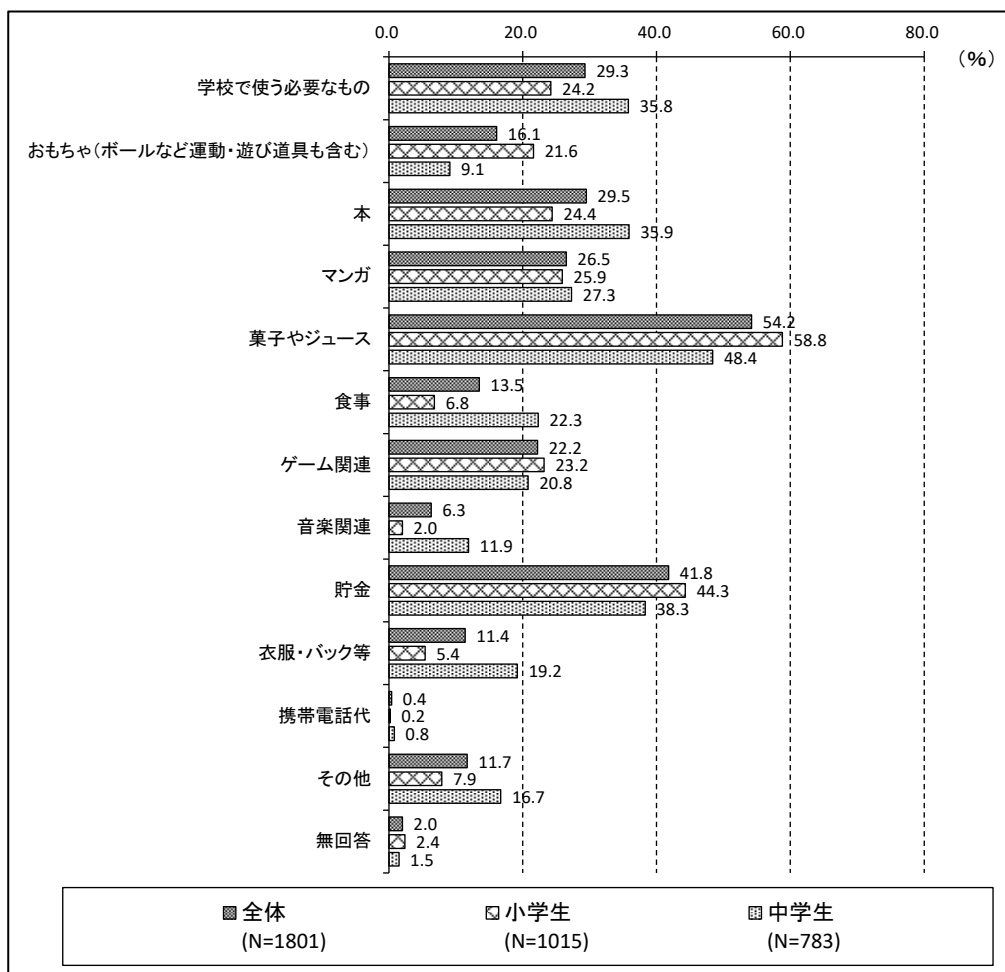
問 19 で「1～7（おこづかいをもらっている）」と答えた方におたずねします。

問 19-1 おこづかいは何に使っていますか。（あてはまる番号すべてに○）

全体では、「菓子やジュース」が 54.2% で最も高く、次いで「貯金」が 41.8% と続く。

【学年別】

小学生、中学生ともに「菓子やジュース」の割合が最も高く、小学生では 58.8%、中学生では 48.4% となっている。



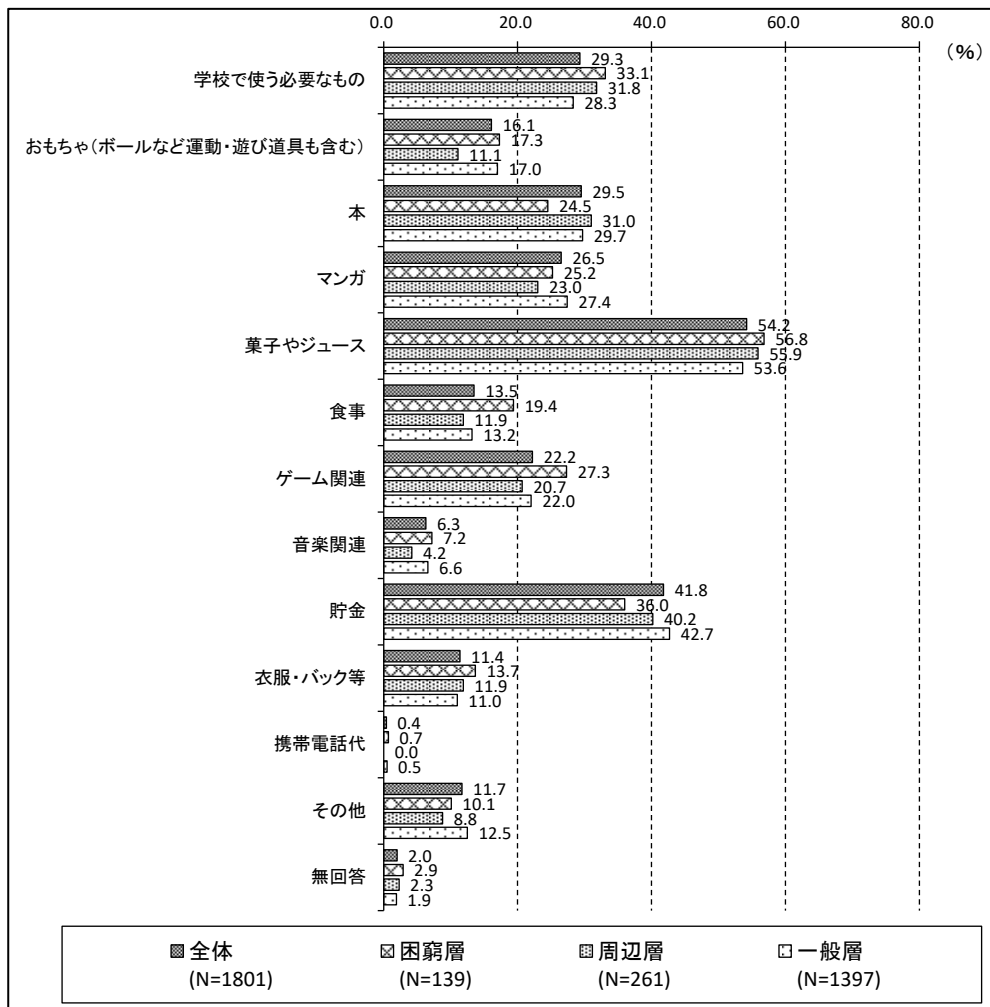
【生活困難世帯別】

「貯金」の割合は、困窮層では 36.0%、周辺層では 40.2%、一般層では 42.7%となり、困窮度が高まるにつれて低くなる。

一方、「学校で使う必要なもの」の割合は、困窮層では 33.1%、周辺層では 31.8%、一般層では 28.3%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「菓子やジュース」の割合も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では 56.8%、周辺層では 55.9%、一般層では 53.6%となっている。

「衣服・バック等」も同様の傾向を示し、困窮層では 13.7%、周辺層では 11.9%、一般層では 11.0%となっている。



第3章 子ども編

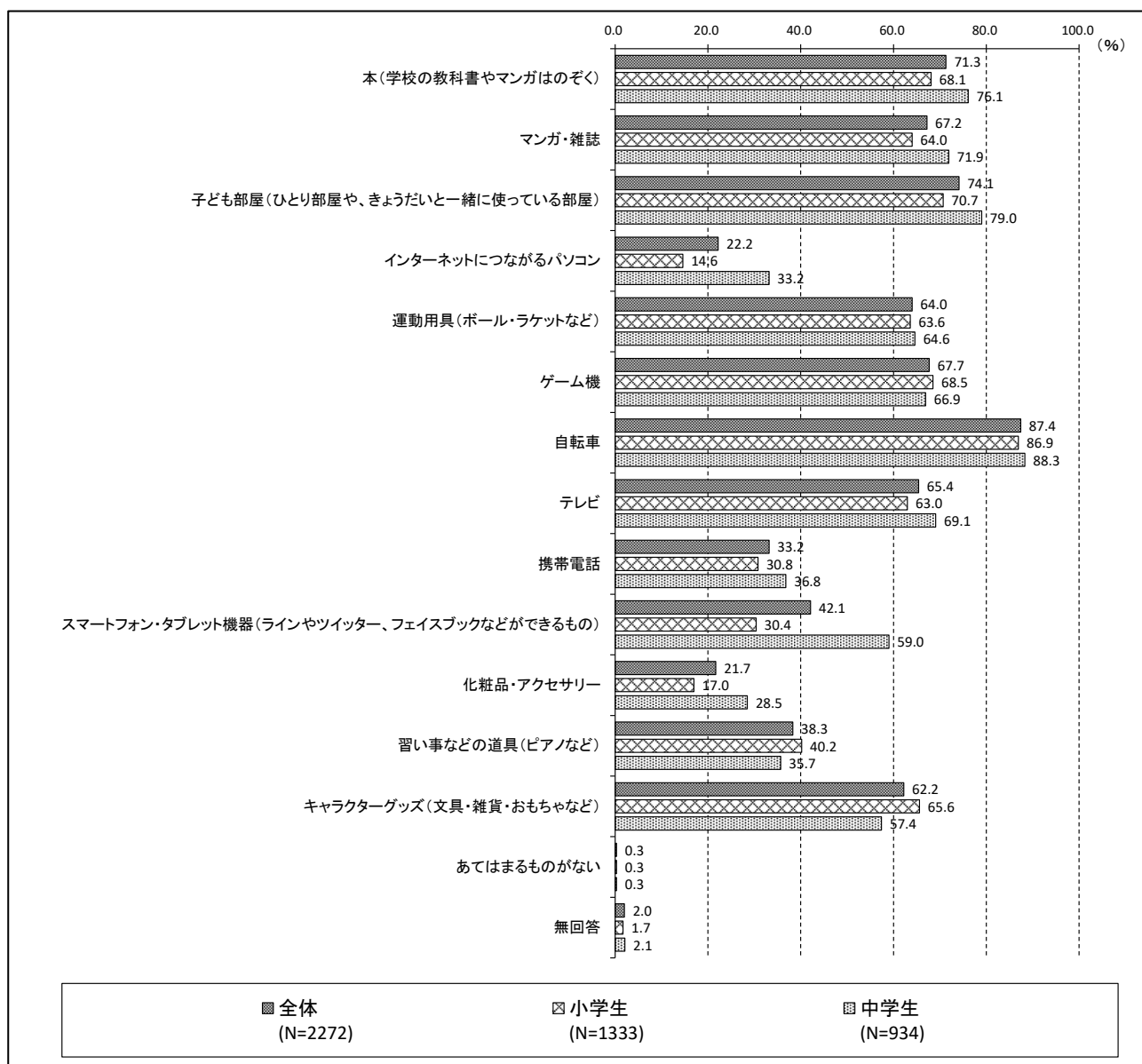
(8)所持品・自由に使うことができるもの

問 20 あなたが持っているものや、自由に使うことができるものを教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

全体では、「自転車」が87.4%で最も高く、次いで「子ども部屋」が74.1%、「本」が71.3%と続く。

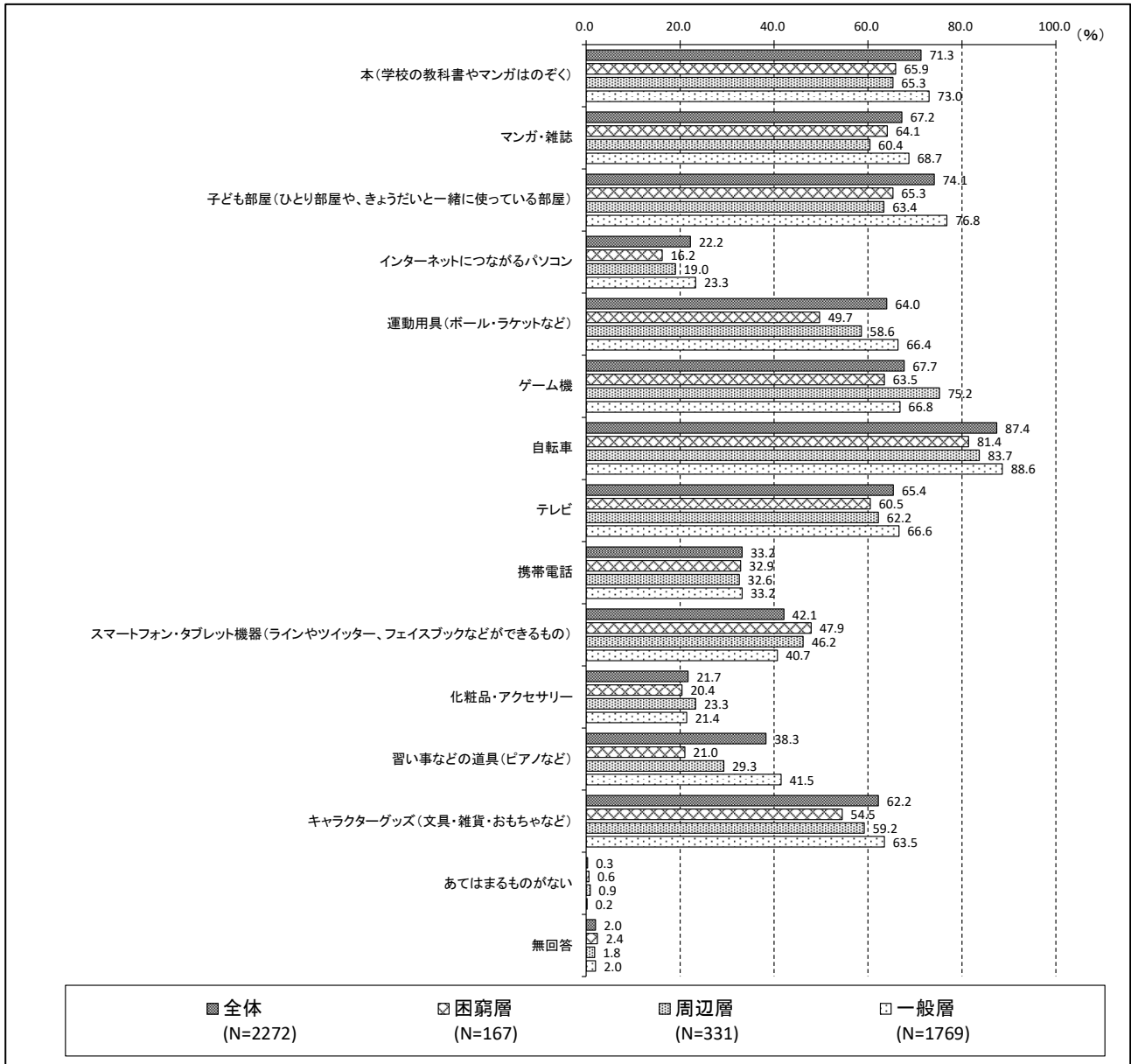
【学年別】

小学生、中学生ともに「自転車」の割合が最も高く、小学生では86.9%、中学生では88.3%となっている。また、中学生では小学生と比較して「スマートフォン・タブレット機器」(59.0%)、「インターネットにつながるパソコン」(33.2%)、「化粧品・アクセサリー」(28.5%)の割合が特に高い。



【生活困難世帯別】

「インターネットにつながるパソコン」「運動用具（ボール・ラケットなど）」「自転車」「テレビ」「習い事などの道具（ピアノなど）」「キャラクターグッズ（文具・雑貨・おもちゃなど）」は、困窮度が高まるにつれ低くなる。特に「習い事などの道具（ピアノなど）」について、困窮層は21.0%、一般層は41.5%と大きな差がみられる。



第3章 子ども編

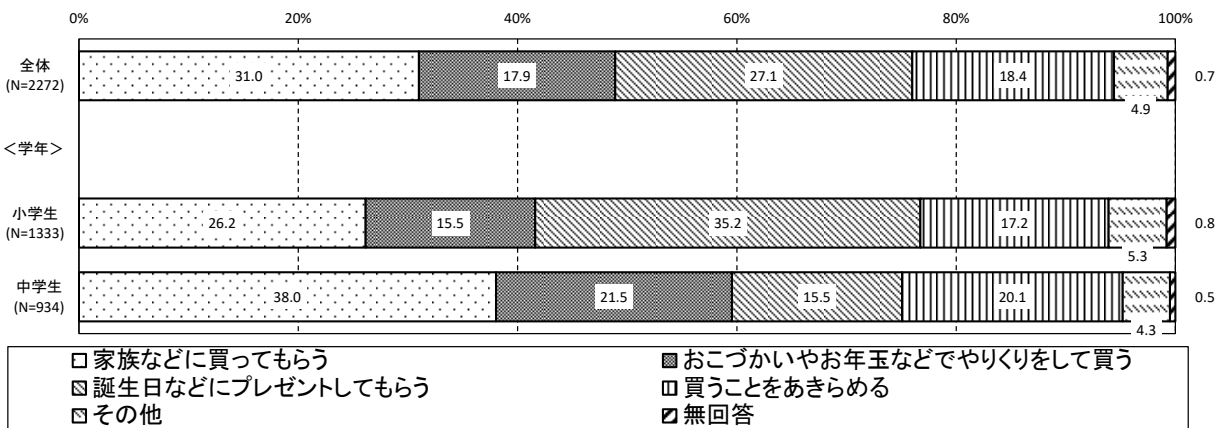
(9) 欲しいものがあってもお金がないときの対処法

問 21 今欲しいものがある、お金がない場合はどうしていますか。(あてはまる番号 1 つだけに○)

全体では、「家族などを買ってもらう」が 31.0%で最も高く、次いで「誕生日などにプレゼントしてもらう」が 27.1%と続く。

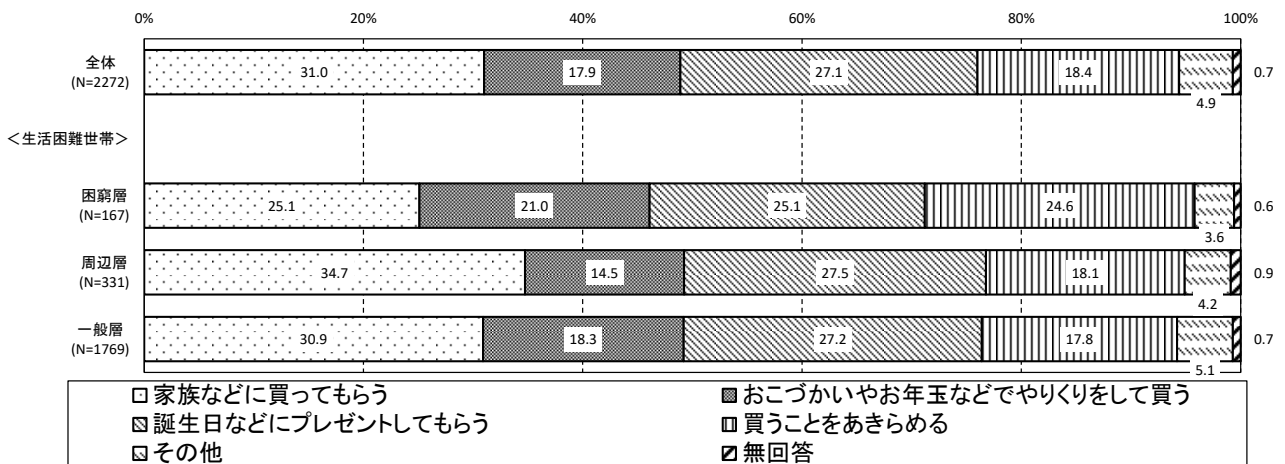
【学年別】

小学生では「誕生日などにプレゼントしてもらう」が 35.2%で最も高く、中学生では「家族などを買ってもらう」が 38.0%で最も高い。



【生活困難世帯別】

「買うことをあきらめる」の割合は、周辺層の 18.1%、一般層の 17.8%に対し、困窮層では 24.6%と高くなっている。



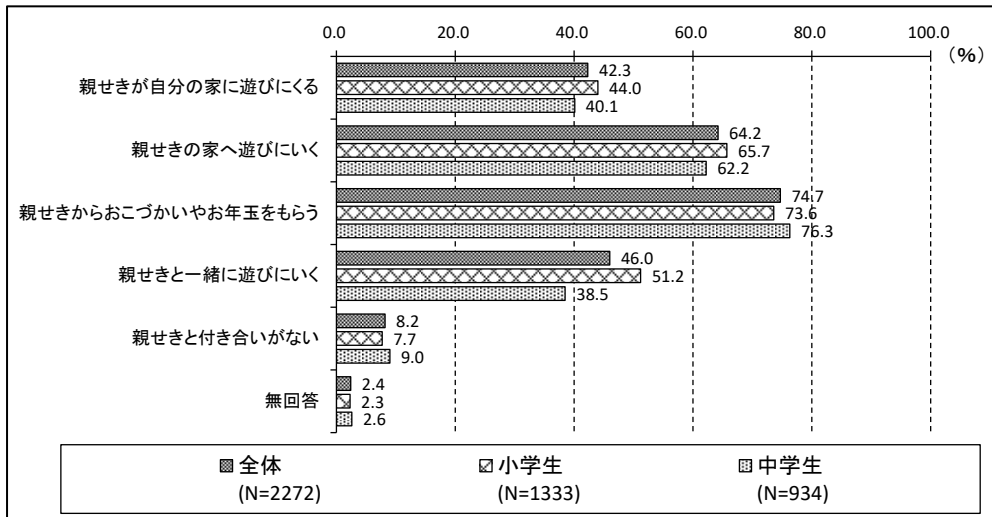
(10) 親戚付き合いについて

問 16 親せきのことについて教えてください（あてはまる番号すべてに○）

全体では、「親せきからおこづかいやお年玉をもらう」が74.7%で最も高く、次いで「親せきの家へ遊びに行く」が64.2%と続く。

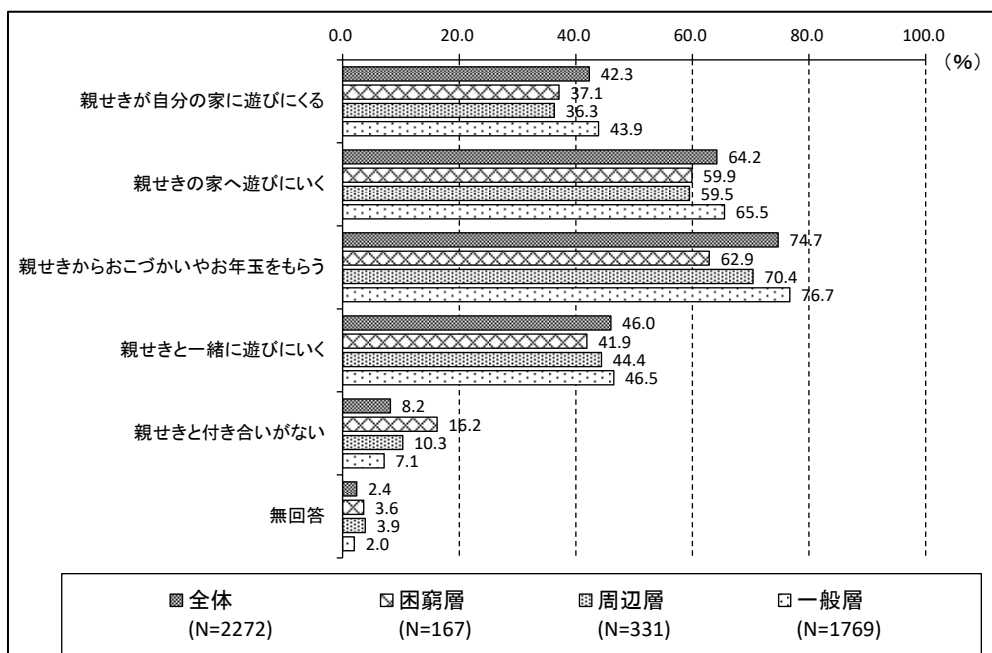
【学年別】

小学生、中学生ともに「親せきからおこづかいやお年玉をもらう」の割合が最も高く、小学生で73.6%、中学生では76.3%となっている。



【生活困難世帯別】

「親せきからおこづかいやお年玉をもらう」の割合は、困窮層では62.9%、周辺層では70.4%、一般層では76.7%となり、困窮度が高まるにつれて低くなる。「親せきと一緒に遊びに行く」も同様に困窮度が高まるにつれて低くなっており、困窮層では41.9%、周辺層では44.4%、一般層では46.5%となっている。



第3章 子ども編

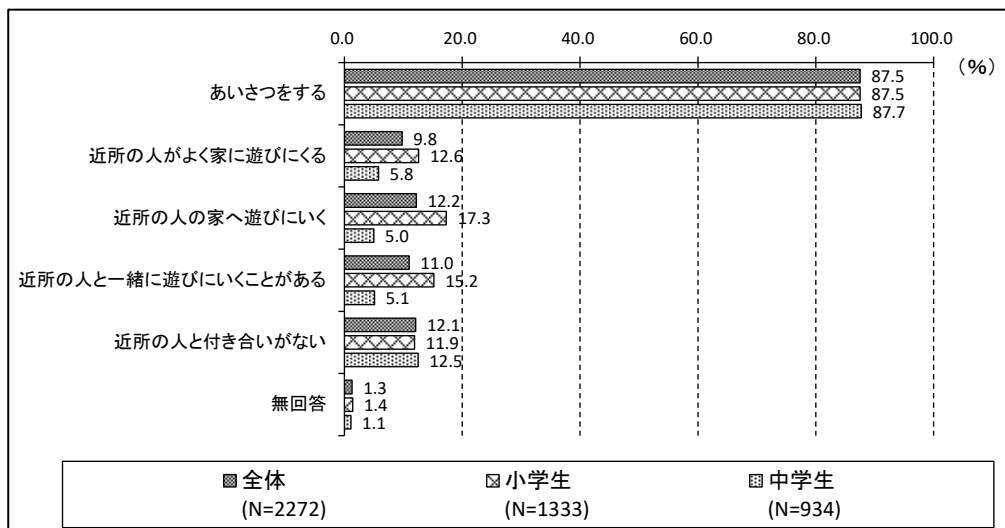
(11) 近所付き合いについて

問 17 近所の人について教えてください（あてはまる番号すべてに○）

全体では、「あいさつをする」が 87.5% で最も高い。

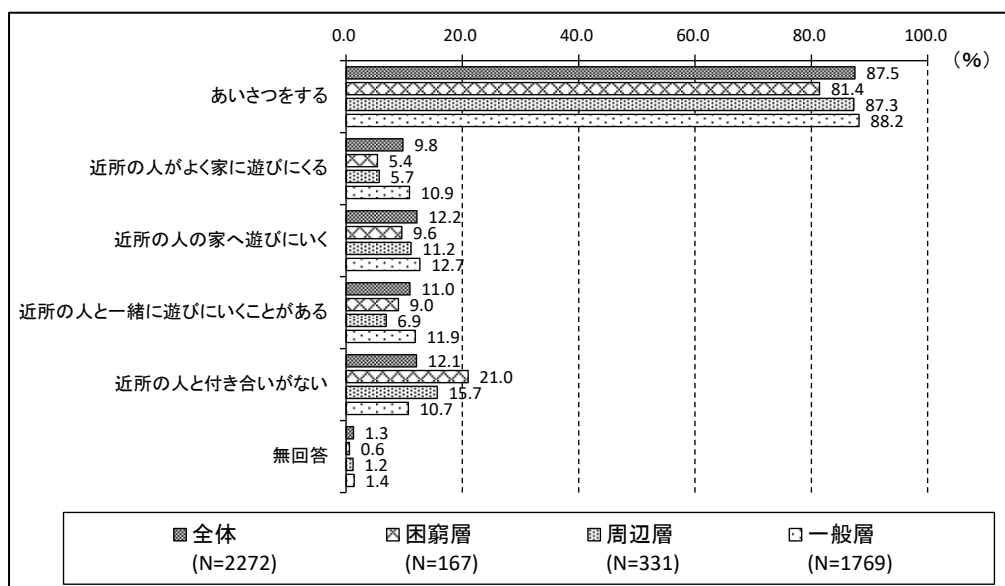
【学年別】

小学生、中学生ともに「あいさつをする」の割合が最も高く、小学生では 87.5%、中学生では 87.7% となっている。



【生活困難世帯別】

「近所の人と付き合いがない」の割合は、困窮層では 21.0%、周辺層では 15.7%、一般層では 10.7% と、困窮度が高まるにつれて高くなっている。



7. 自己肯定感

(1) 自分自身について【自分に自信がある】

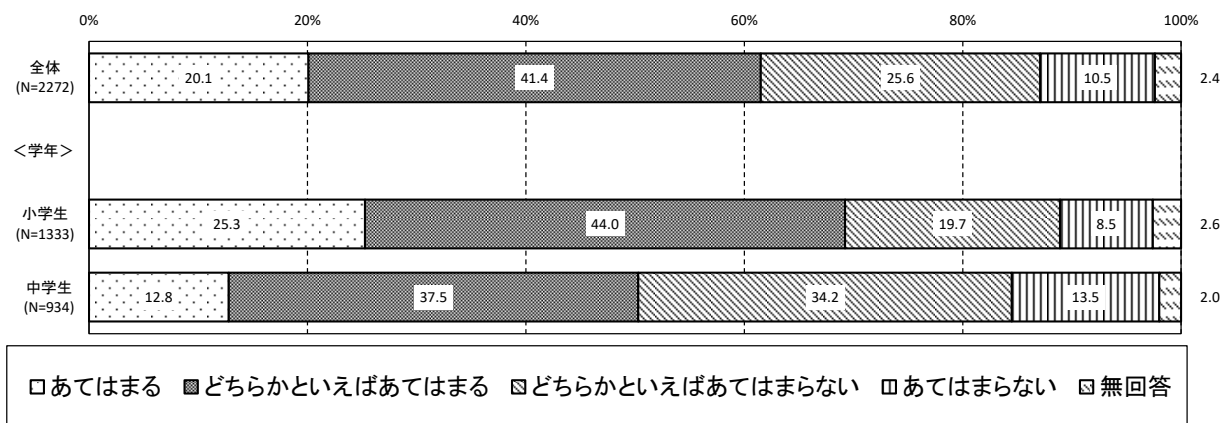
問 30 あなたは、自分自身のことをどう思いますか。(それぞれ1つに○)

1. 自分に自信がある

全体では、「あてはまる」(20.1%)、「どちらかといえばあてはまる」(41.1%)を合わせると61.5%となっている。

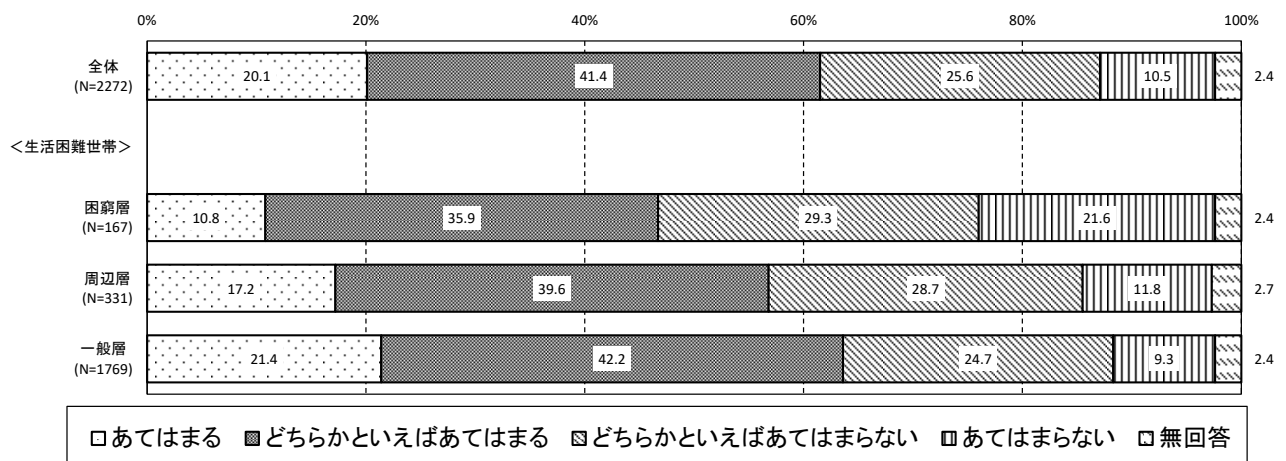
【学年別】

「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合をみると、小学生では69.3%、中学生では50.3%と、小学生の方が高い。



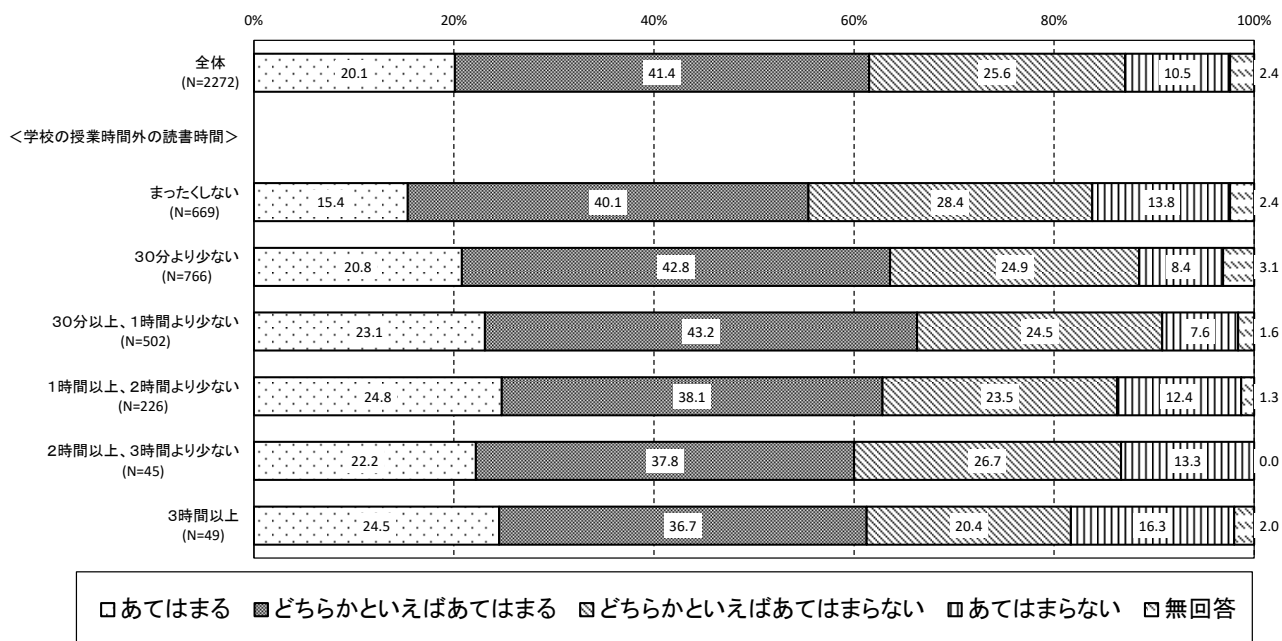
【生活困難世帯別】

「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、困窮層では46.7%、周辺層では56.8%、一般層では63.6%と、困窮度が高まるにつれて自己肯定感は低くなっている。



【学校の授業時間外の読書時間別】

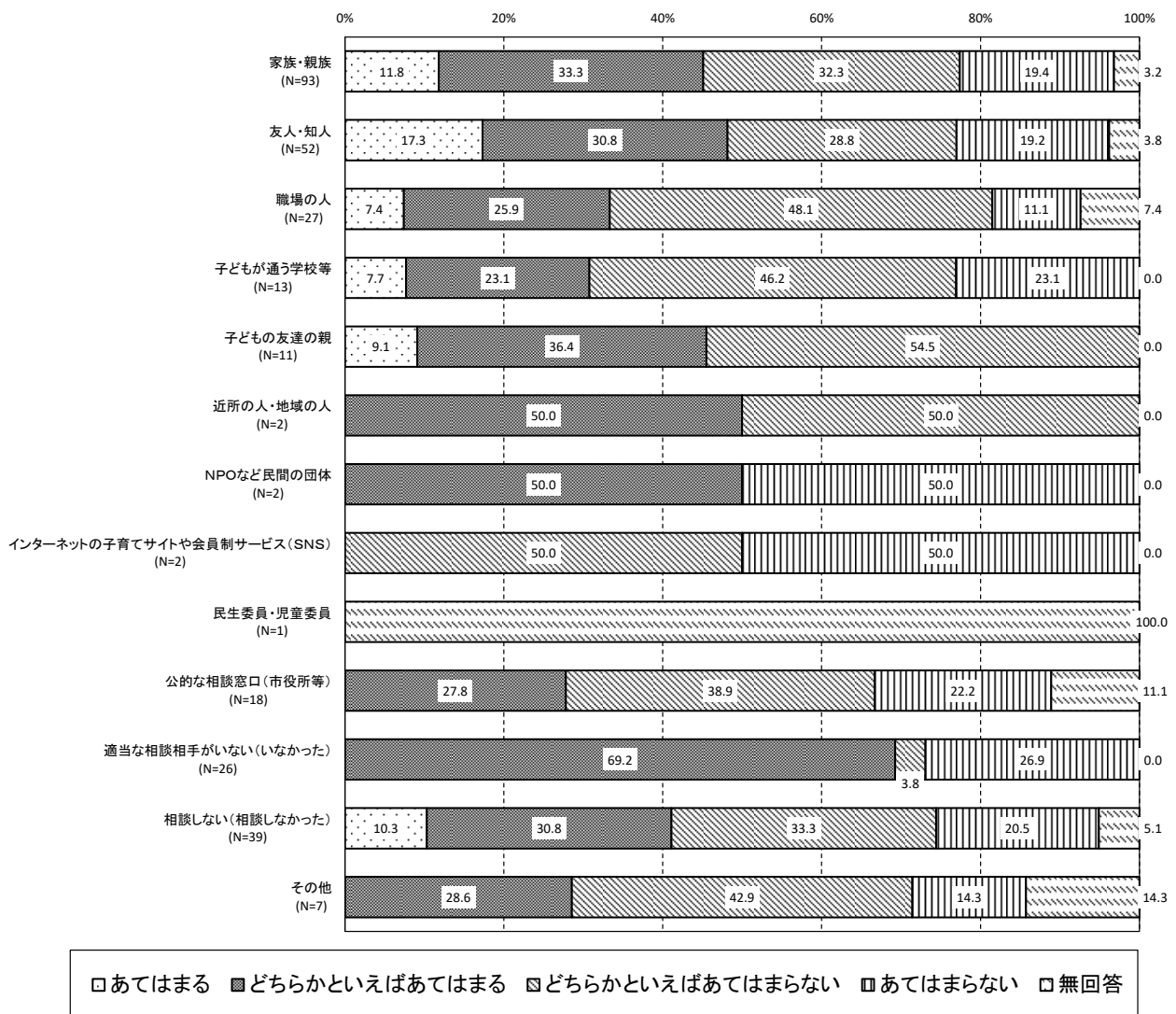
前出の問 22 「学校の授業時間外の読書時間」(p. 69 参照) の回答別に、自己肯定感【自分に自信がある】について集計した。「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合をみると、授業時間外の読書を「まったくしない」と回答したグループで比較的低く、55.5%となっている。その他のグループではいずれも60%以上となっている。



【相談相手別（困窮層）】

困窮層を対象に、後述する保護者向け調査の問 13「困っていることについての相談者」（p.122 参照）の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分に自信がある】について集計した。

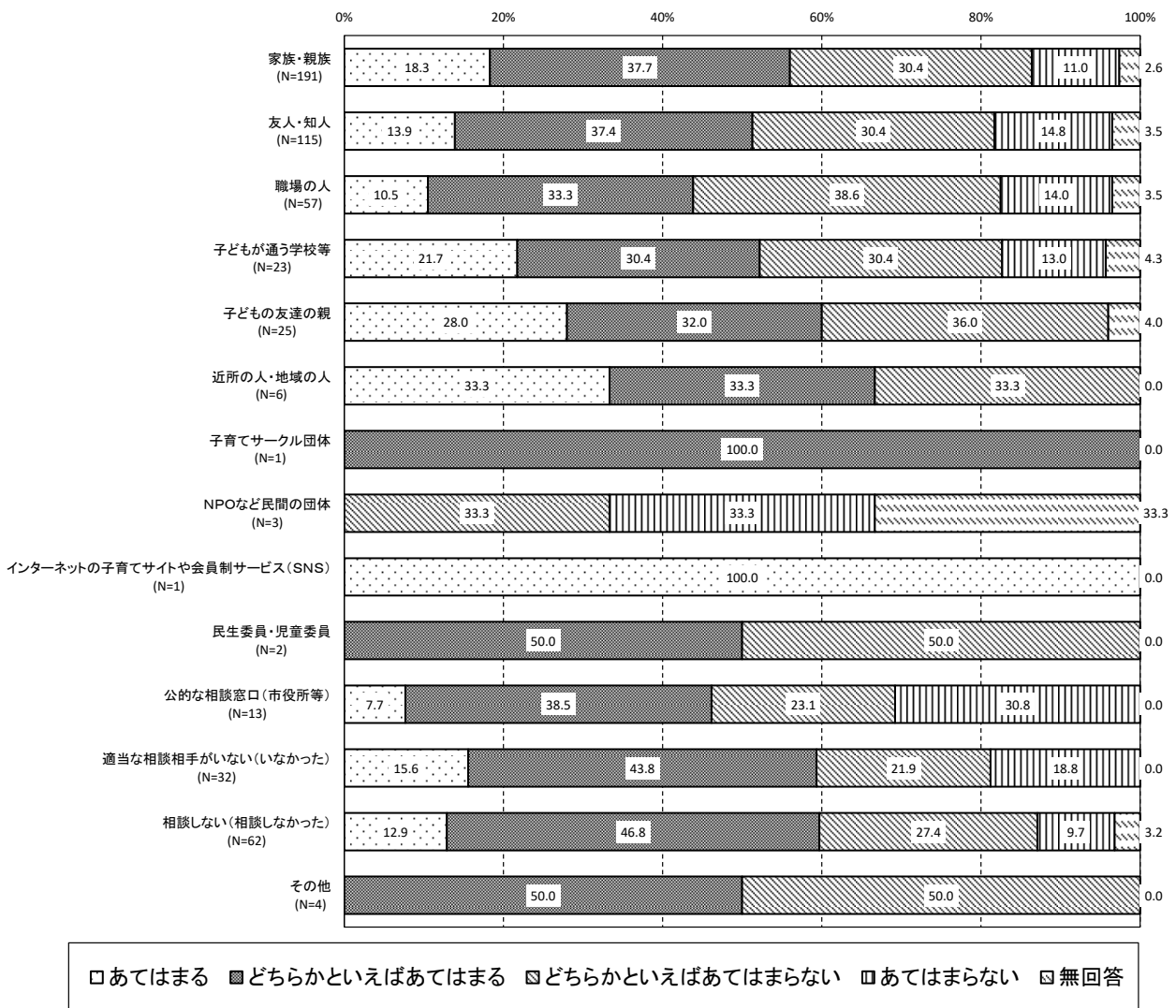
サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合が低いのは、保護者が相談相手に「公的な相談窓口（市役所等）」を選んだグループで 27.8%、「子どもが通う学校等」を選んだグループで 30.8%となっており、保護者が公的機関に相談するという家庭の子どもは、【自分に自信がある】という自己肯定感が比較的低いといえる。



【相談相手別（周辺層）】

周辺層を対象に、保護者向け調査の間 13「困っていることについての相談者」の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分に自信がある】について集計した。

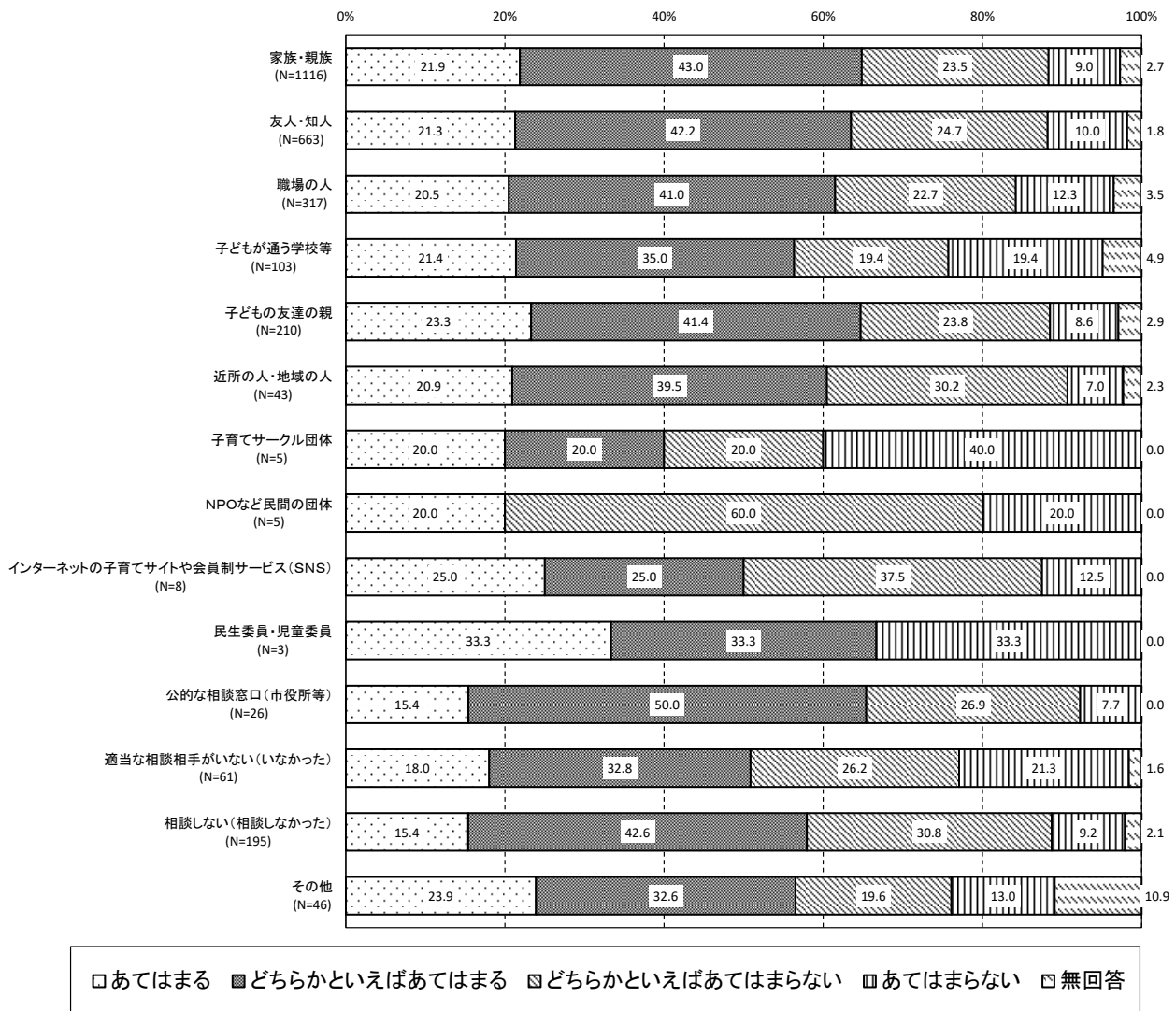
サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合が低いのは、保護者が相談相手に「職場の人」を選んだグループで 43.8%、「公的な相談窓口（市役所等）」を選んだグループで 46.2%となっている。



【相談相手別（一般層）】

一般層を対象に、保護者向け調査の間 13「困っていることについての相談者」の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分に自信がある】について集計した。

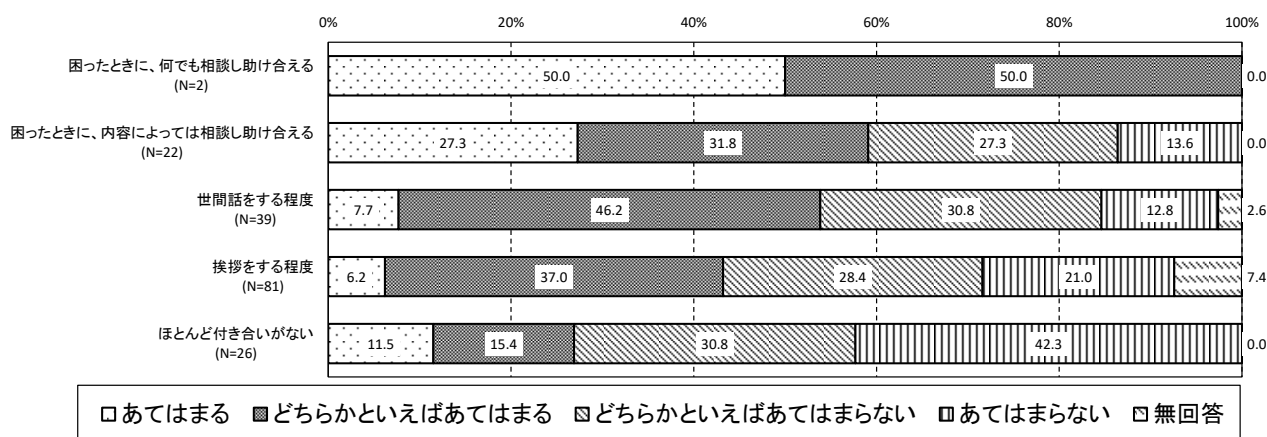
サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、保護者が「適切な相談相手がない（いなかった）」を選んだグループでも 50.8%となるなど、自己肯定感のある子どもがおおむね半数を超えている。



【近所での付き合いの状況別（困窮層）】

困窮層を対象に、後述する保護者向け調査の間 14 『近所・地域』での付き合いの状況（p. 149 参照）の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分に自信がある】について集計した。

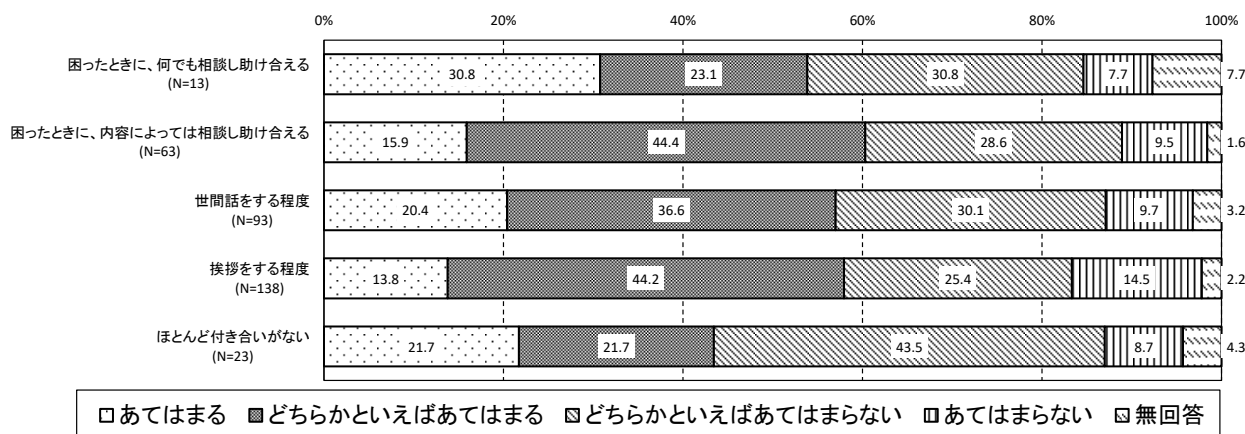
サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、近所付き合いの程度が浅い家庭ほど子どもの自己肯定感が低くなる傾向がみられ、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、近所付き合いについて「ほとんど付き合いがない」としたグループで 26.9%、「挨拶をする程度」というグループで 43.2%など、半数を下回る結果となっている。



【近所での付き合いの状況別（周辺層）】

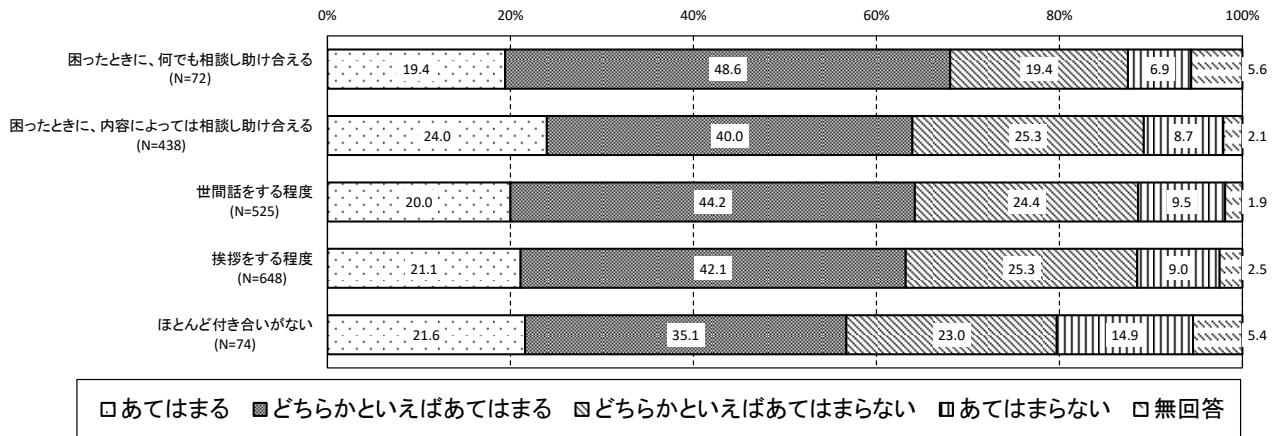
周辺層を対象に、保護者向け調査の間 14 『近所・地域』での付き合いの状況の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分に自信がある】について集計した。

サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、近所付き合いについて「ほとんど付き合いがない」とした家庭の子どもで 43.4%と低く、半数を下回る結果となった。



【近所での付き合いの状況別（一般層）】

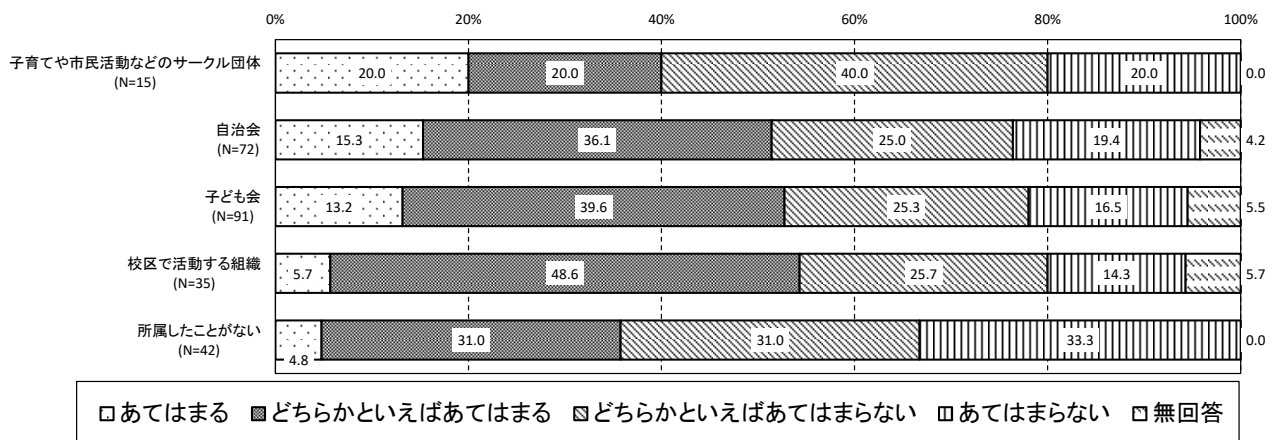
一般層を対象に、保護者向け調査の間 14 『近所・地域』での付き合いの状況』の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分に自信がある】について集計したところ、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、近所付き合いについて「ほとんど付き合いがない」とした家庭の子どもで 56.7%と比較的低い。



【団体への所属経験別（困窮層）】

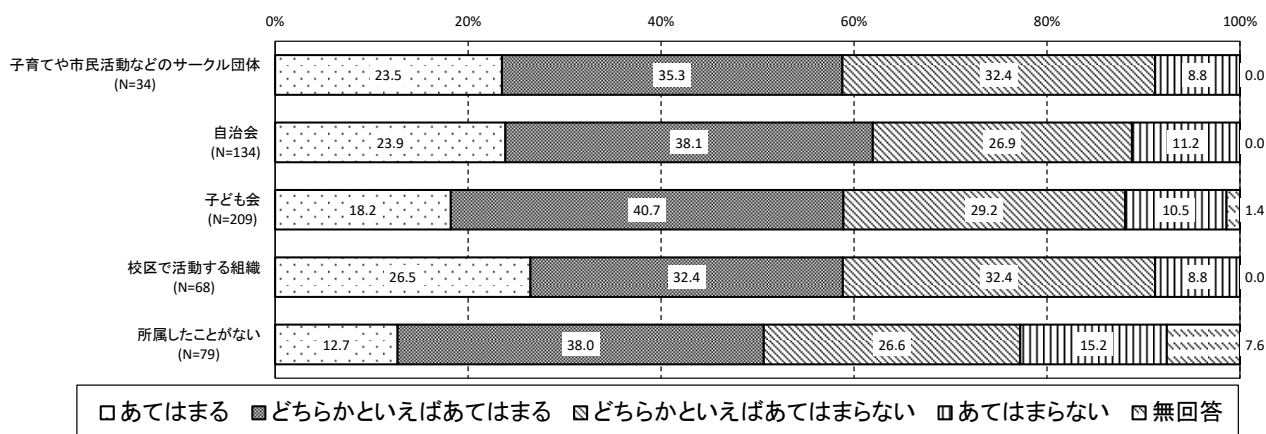
困窮層を対象に、後述する保護者向け調査の間 15 「団体への所属経験」(p. 150 参照)の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分に自信がある】について集計した。

サンプル数が少ない層もあるため注意して見る必要があるが、保護者が団体に「所属したことがない」と回答した家庭の子どもは、自己肯定感【自分に自信がある】が比較的的低く、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は 35.8%にとどまっている。



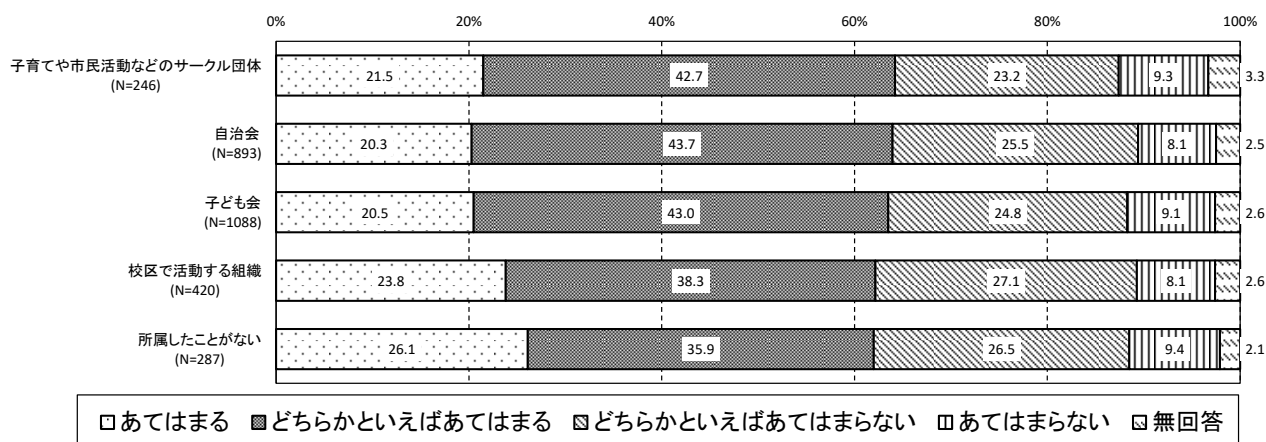
【団体への所属経験別（周辺層）】

周辺層を対象に、保護者向け調査の問 15「団体への所属経験の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分に自信がある】について集計したところ、保護者が団体に「所属したことがない」と回答した家庭の子どもは、自己肯定感【自分に自信がある】が比較的低く、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は 50.7% となっている。



【団体への所属経験別（一般層）】

一般層を対象に、保護者向け調査の問 15「団体への所属経験の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分に自信がある】について集計したところ、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、いずれのグループでも 60% を超えている。



(2)自分自身について【自分の将来の夢や目標を持っている】

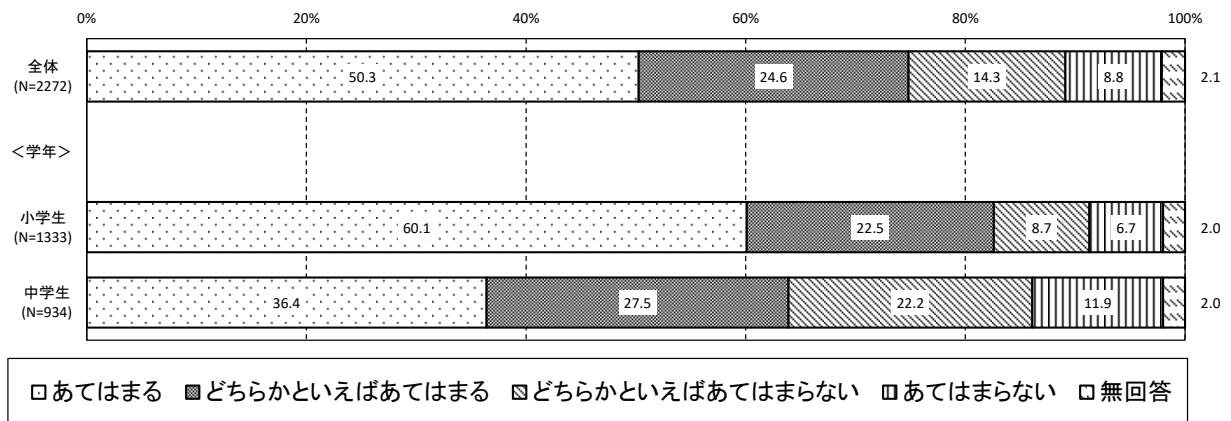
問 30 あなたは、自分自身のことをどう思いますか。(それぞれ1つに○)

2. 自分の将来の夢や目標を持っている

全体では、「あてはまる」(50.3%)、「どちらかといえばあてはまる」(24.6%)を合わせると74.9%となっている。

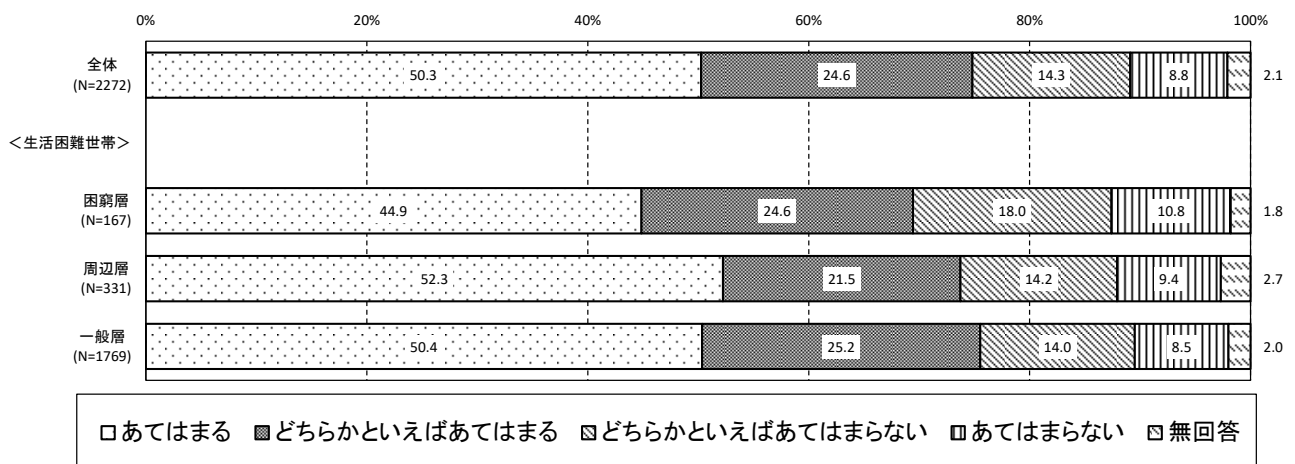
【学年別】

「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合をみると、小学生では82.6%、中学生では63.9%と、小学生の方が高い。



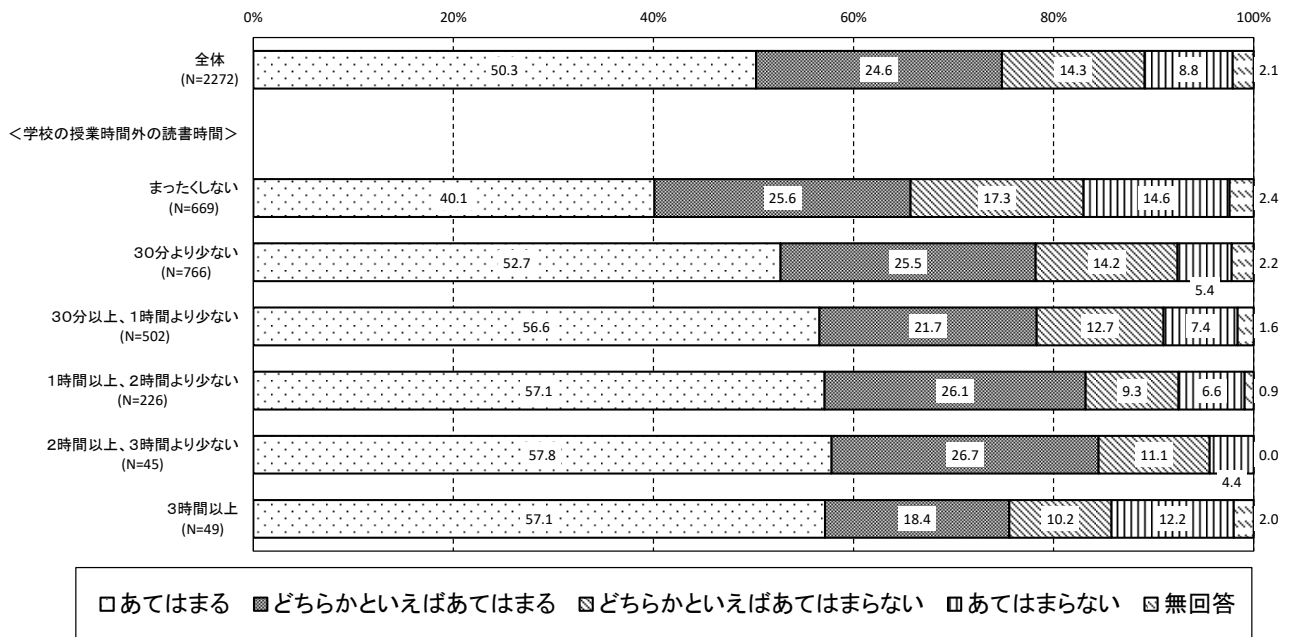
【生活困難世帯別】

「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、困窮層では69.5%、周辺層では73.8%、一般層では75.6%と、困窮度が高まるにつれて自己肯定感は低くなっている。



【学校の授業時間外の読書時間別】

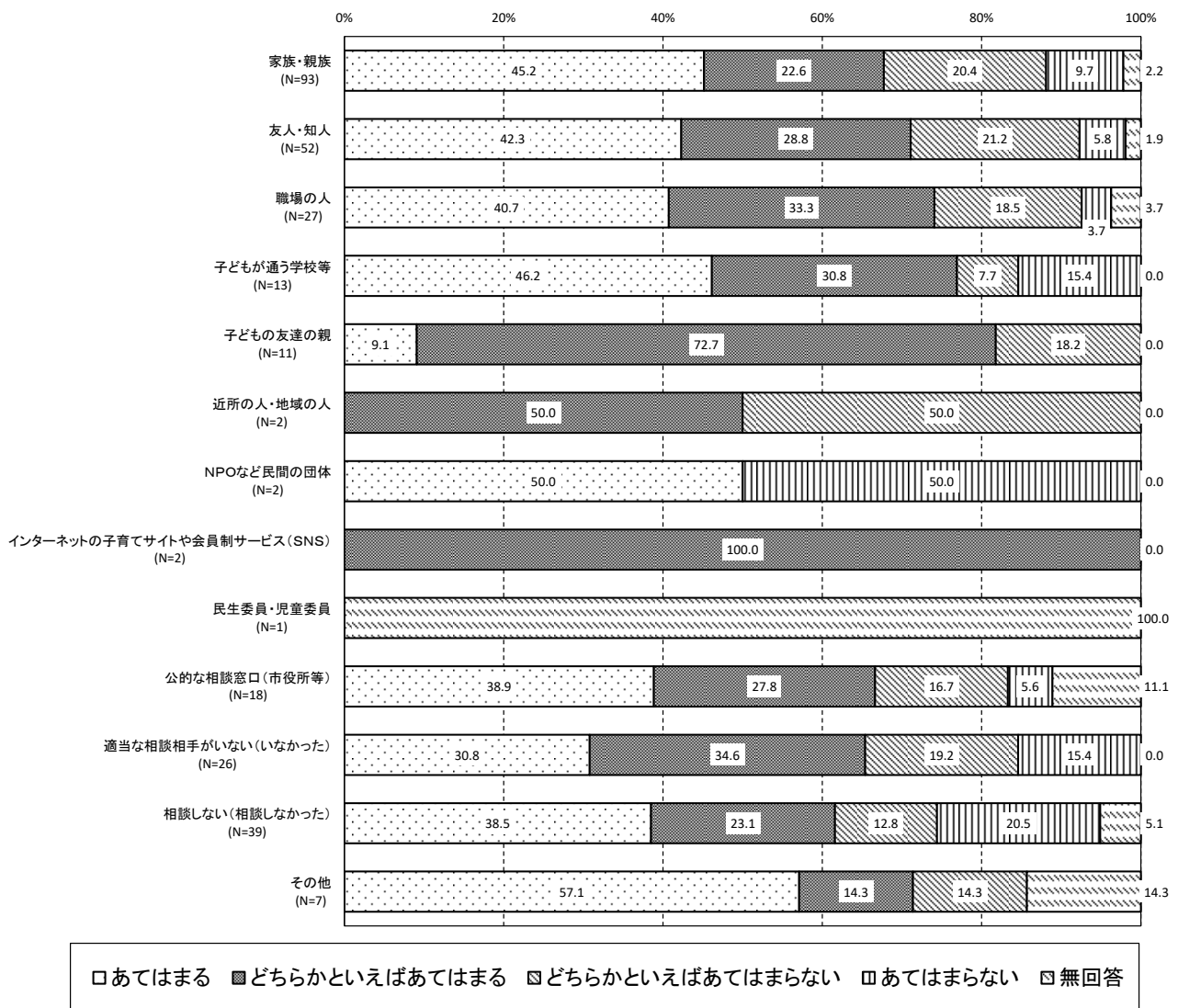
前出の問 22 「学校の授業時間外の読書時間」の回答別に、自己肯定感【自分の将来の夢や目標を持っている】について集計した。「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合をみると、授業時間外の読書を「まったくしない」と回答したグループで比較的低く、65.7%となっている。その他のグループではいずれも75%を超えている。



【相談相手別（困窮層）】

困窮層を対象に、後述する保護者向け調査の問 13「困っていることについての相談者」の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分の将来の夢や目標を持っている】について集計した。

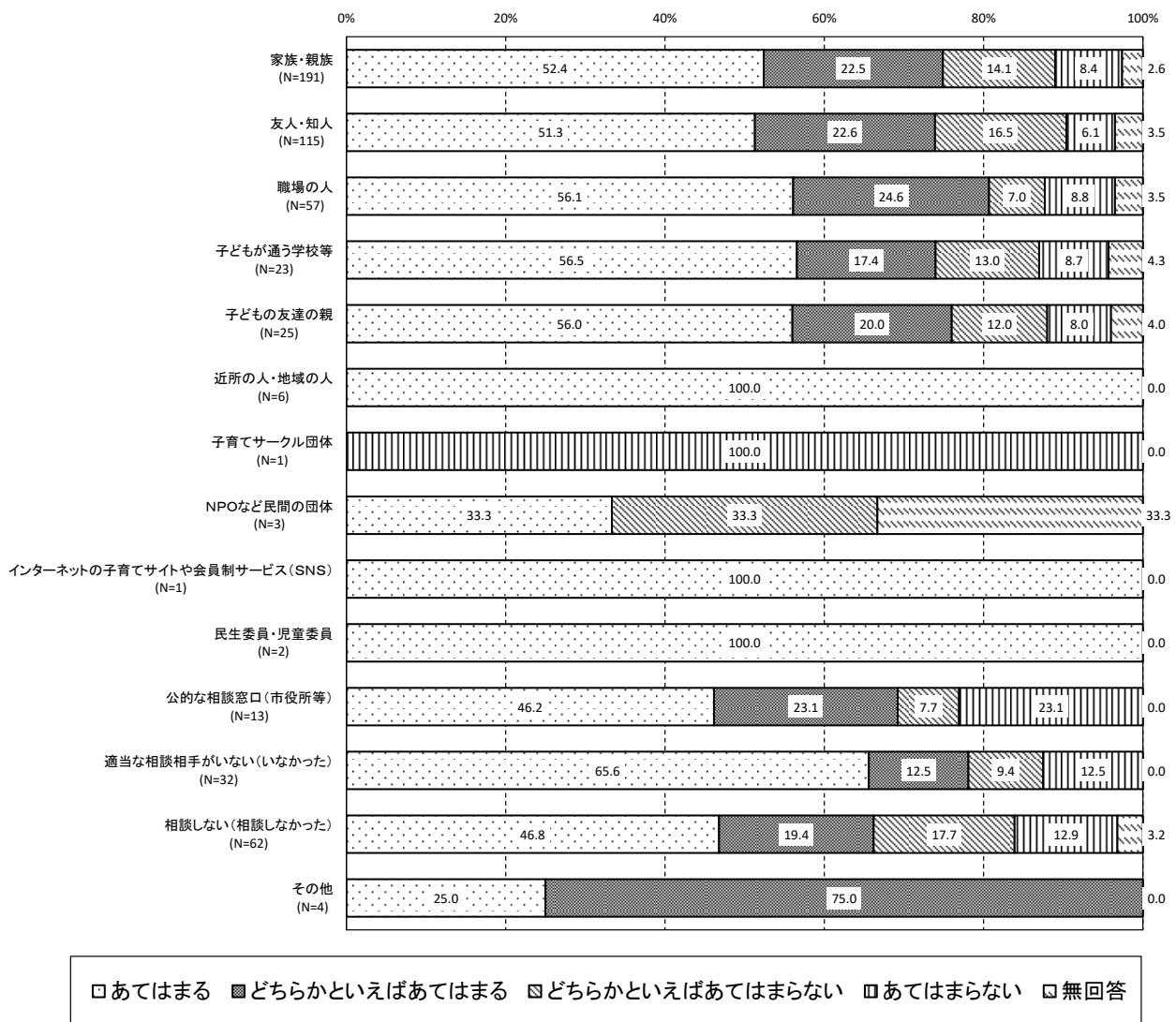
サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合が低いのは、「相談しない（相談しなかった）」と回答した家庭の子どもで 61.6%、「適切な相談相手がない（いなかった）」と回答した家庭の子どもで 65.4%、「公的な相談窓口（市役所等）」と回答した家庭の子どもで 66.7%などとなっている。



【相談相手別（周辺層）】

周辺層を対象に、保護者向け調査の間 13「困っていることについての相談者」の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分の将来の夢や目標を持っている】について集計した。

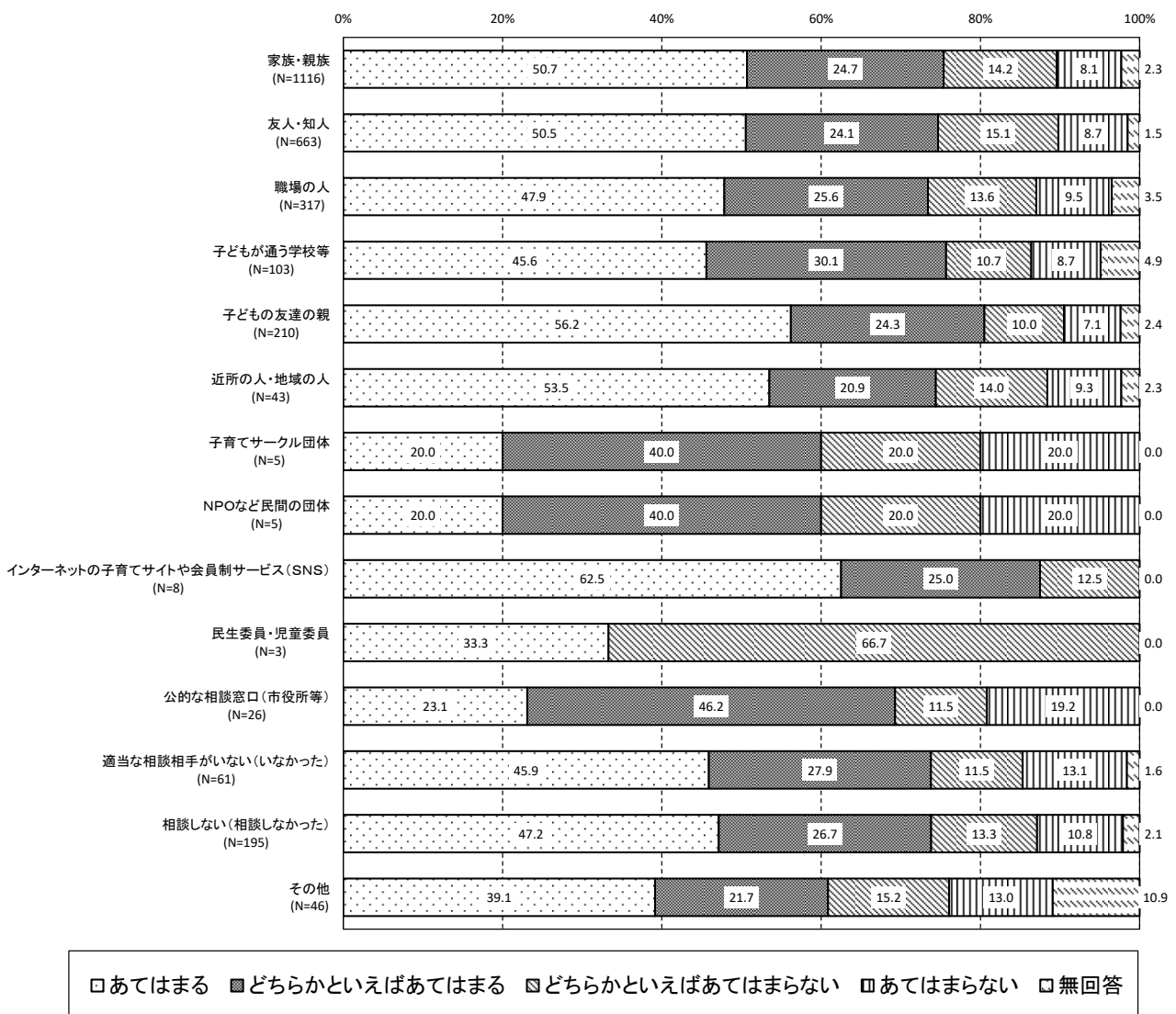
サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合が低いのは、「相談しない（相談しなかった）」と回答した家庭の子どもで 66.2%、「公的な相談窓口（市役所等）」と回答した家庭の子どもで 69.3%となっている。



【相談相手別（一般層）】

一般層を対象に、保護者向け調査の間 13「困っていることについての相談者」の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分の将来の夢や目標を持っている】について集計した。

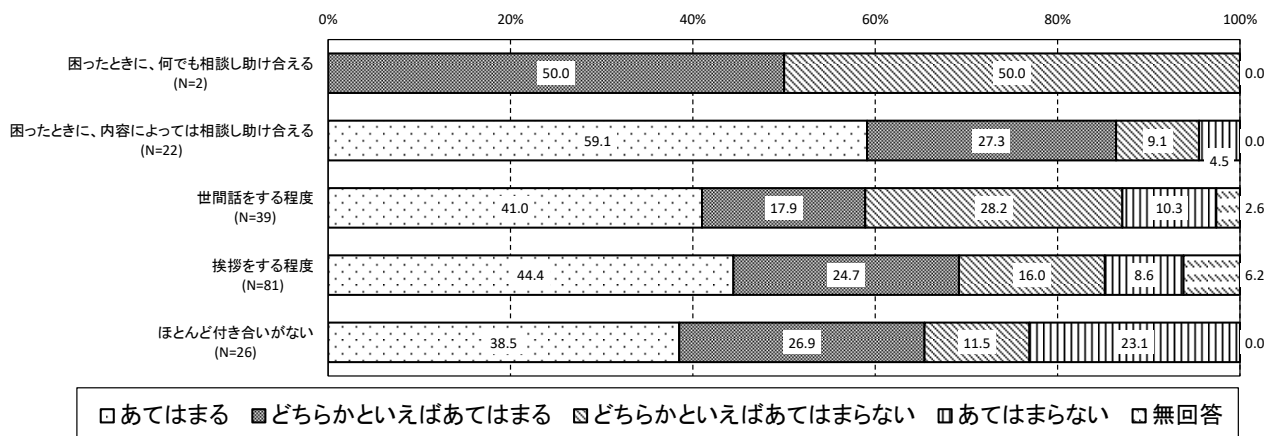
サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、保護者が「公的な相談窓口（市役所等）」に相談すると回答した家庭の子どもで比較的低く、69.3%となっている。



【近所での付き合いの状況別（困窮層）】

困窮層を対象に、後述する保護者向け調査の間 14 「『近所・地域』での付き合いの状況」の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分の将来の夢や目標を持っている】について集計した。

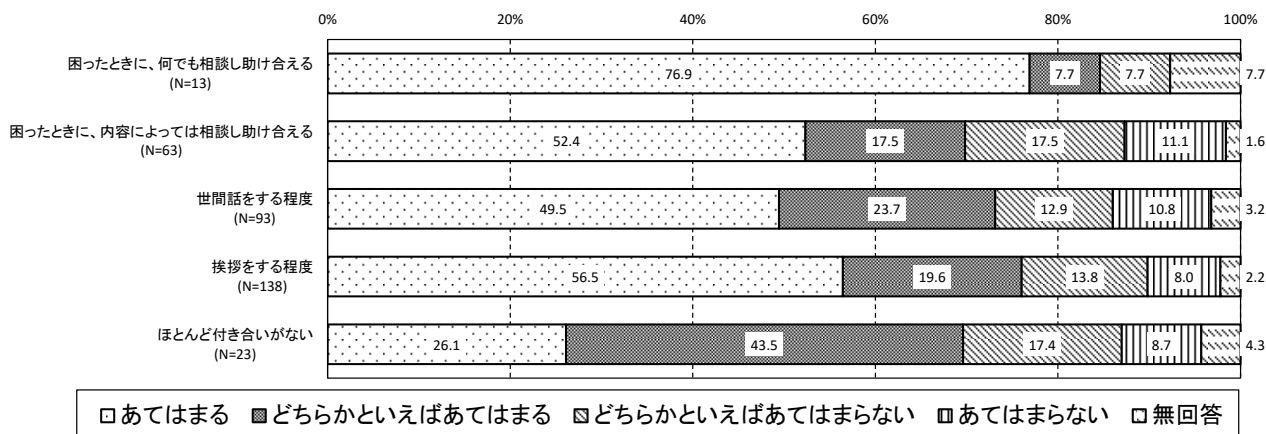
サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、近所付き合いについて「ほとんど付き合いがない」とした家庭の子どもでは、「あてはまる」の割合が 38.5% と比較的低くなっている。



【近所での付き合いの状況別（周辺層）】

周辺層を対象に、保護者向け調査の間 14 「『近所・地域』での付き合いの状況」の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分の将来の夢や目標を持っている】について集計した。

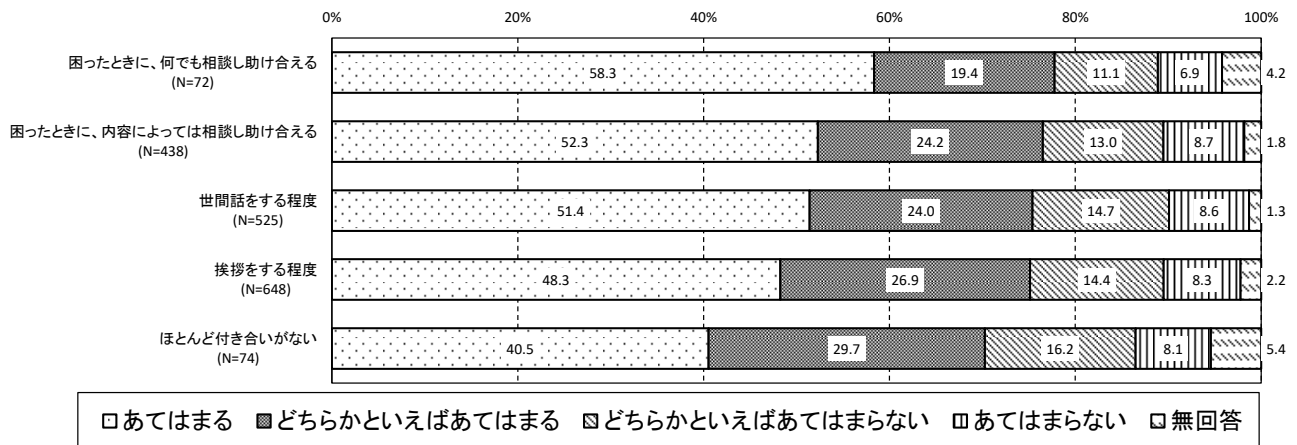
サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、近所付き合いについて「ほとんど付き合いがない」とした家庭の子どもでは、「あてはまる」の割合が 26.1% で最も低い。



【近所での付き合いの状況別（一般層）】

一般層を対象に、保護者向け調査の間 14 『近所・地域』での付き合いの状況」の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分の将来の夢や目標を持っている】について集計した。

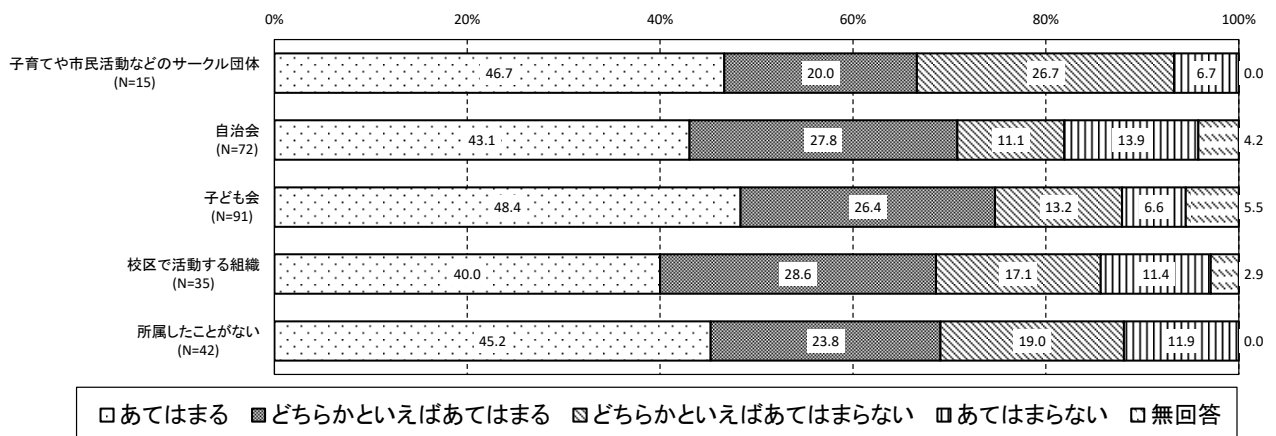
近所付き合いの程度が浅くなるほど子どもの自己肯定感は低くなる傾向がみられ、「ほとんど付き合いがない」とした家庭の子どもでは、「あてはまる」の割合が 40.5%と最も低くなっている。



【団体への所属経験別（困窮層）】

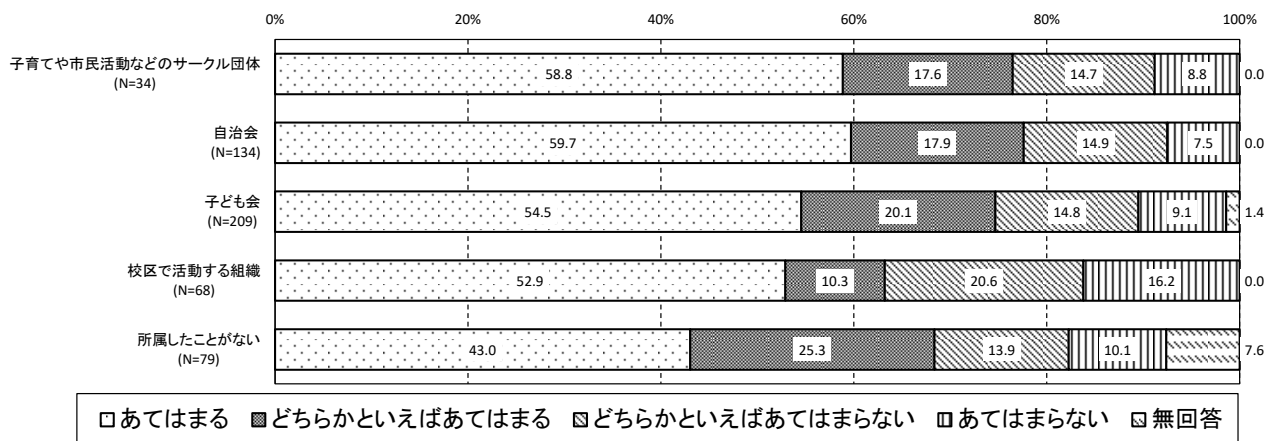
困窮層を対象に、後述する保護者向け調査の間 15 「団体への所属経験」の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分の将来の夢や目標を持っている】について集計した。

サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合をみると、「校区で活動する組織」や、団体に「所属したことがない」と回答した家庭の子どもで比較的 low、70%未満となっている。



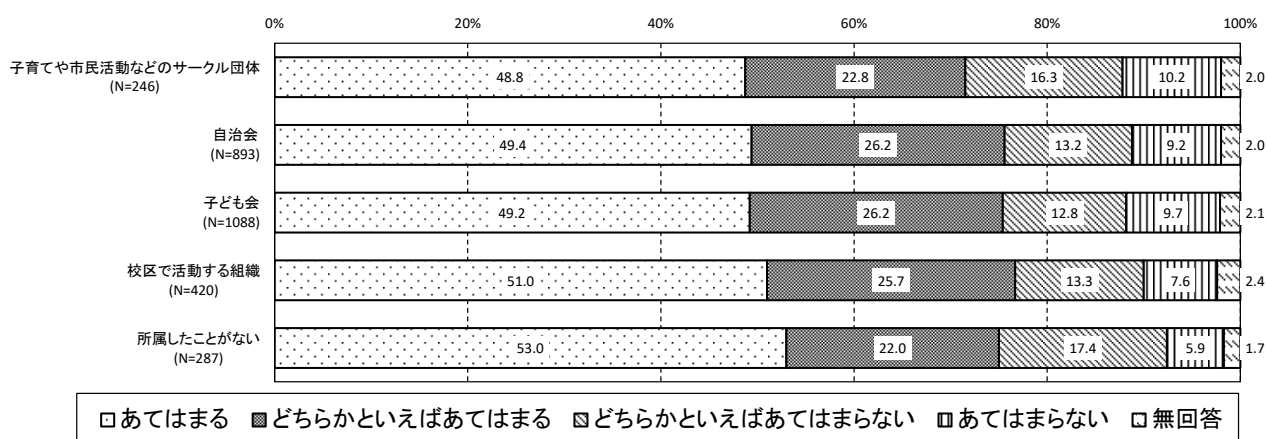
【団体への所属経験別（周辺層）】

周辺層を対象に、保護者向け調査の問 15「団体への所属経験の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分の将来の夢や目標を持っている】について集計したところ、保護者が団体に「所属したことがない」と回答した家庭の子どもは、「あてはまる」と回答した割合が特徴的に低く、43.0%となっている。



【団体への所属経験別（一般層）】

一般層を対象に、保護者向け調査の問 15「団体への所属経験の回答別に、その子どもの自己肯定感【自分の将来の夢や目標を持っている】について集計したところ、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、いずれのグループでも 70%を超えている。



(3)自分自身について【将来のためにも、今、頑張りたいと思う】

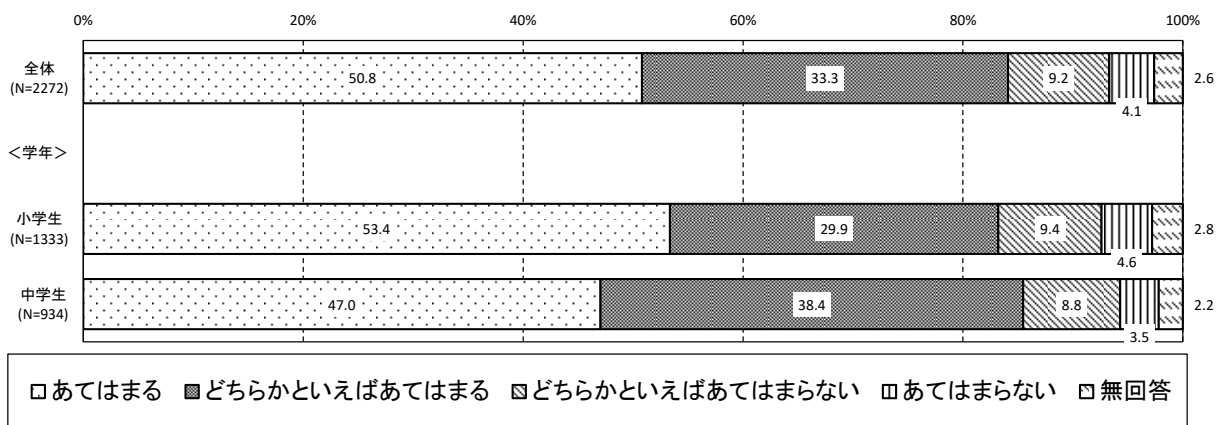
問 30 あなたは、自分自身のことをどう思いますか。(それぞれ1つに○)

3. 将来のためにも、今、頑張りたいと思う

全体では、「あてはまる」(50.8%)、「どちらかといえばあてはまる」(33.3%)を合わせると84.1%となっている。

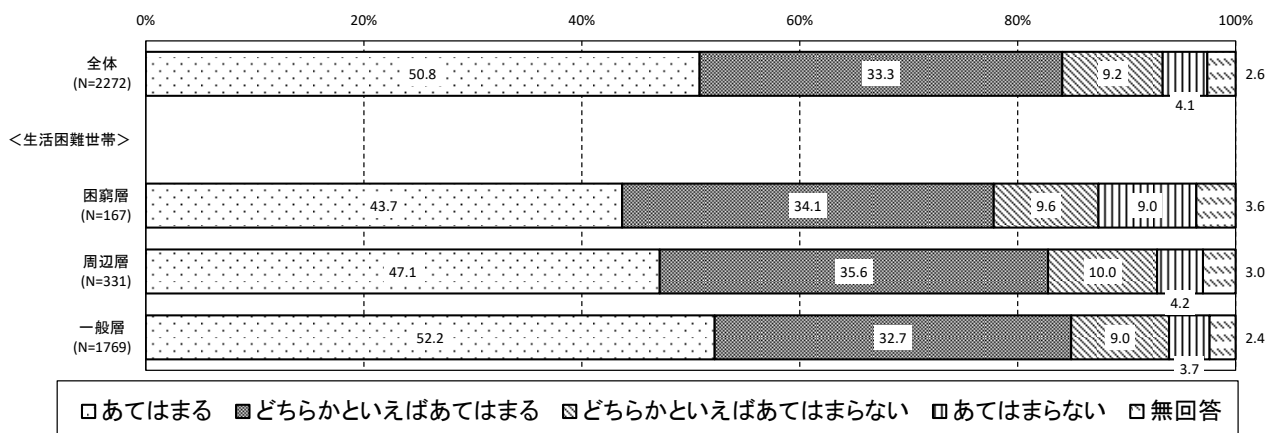
【学年別】

「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合をみると、小学生では83.3%、中学生では85.4%となっている。



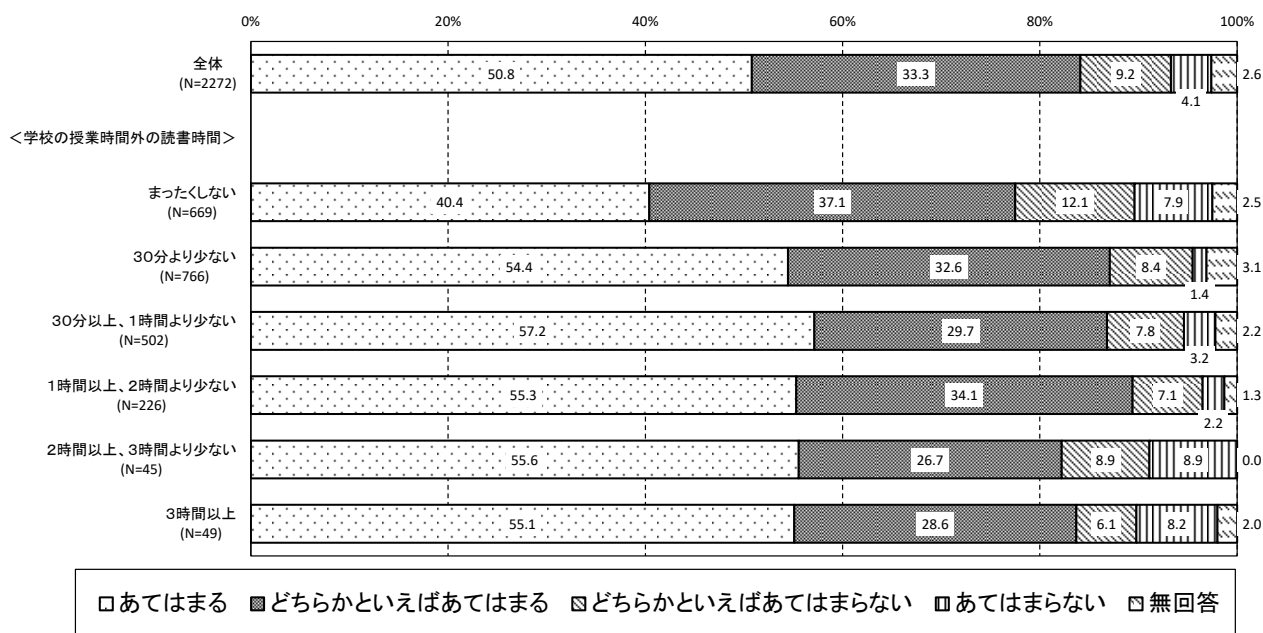
【生活困難世帯別】

「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、困窮層では77.8%、周辺層では82.7%、一般層では84.9%と、困窮度が高まるにつれて自己肯定感は低くなっている。



【学校の授業時間外の読書時間別】

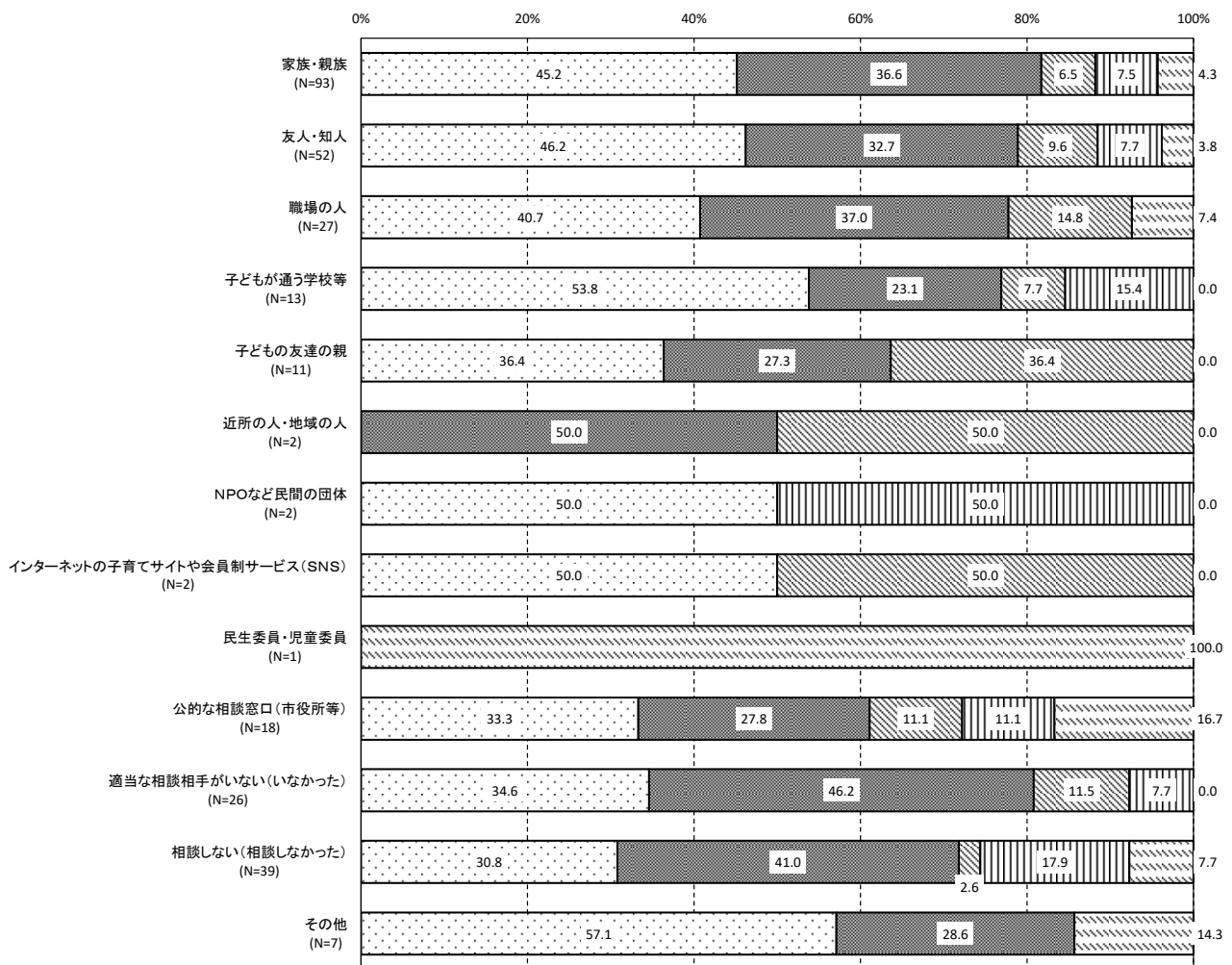
前出の問 22 「学校の授業時間外の読書時間」の回答別に、自己肯定感【将来のためにも、今、頑張りたいと思う】について集計した。授業時間外の読書を「まったくしない」と回答したグループでは、「あてはまる」の割合が40.4%と比較的低い。「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせてみると、授業時間外の読書時間の違いによる大きな差はみられない。



【相談相手別（困窮層）】

困窮層を対象に、後述する保護者向け調査の間 13「困っていることについての相談者」の回答別に、その子どもの自己肯定感【将来のためにも、今、頑張りたいと思う】について集計した。

サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、自己肯定感が比較的低いのは、保護者が相談相手に「公的な相談窓口（市役所等）」と回答した家庭の子どもで、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせて 61.1% となっている。

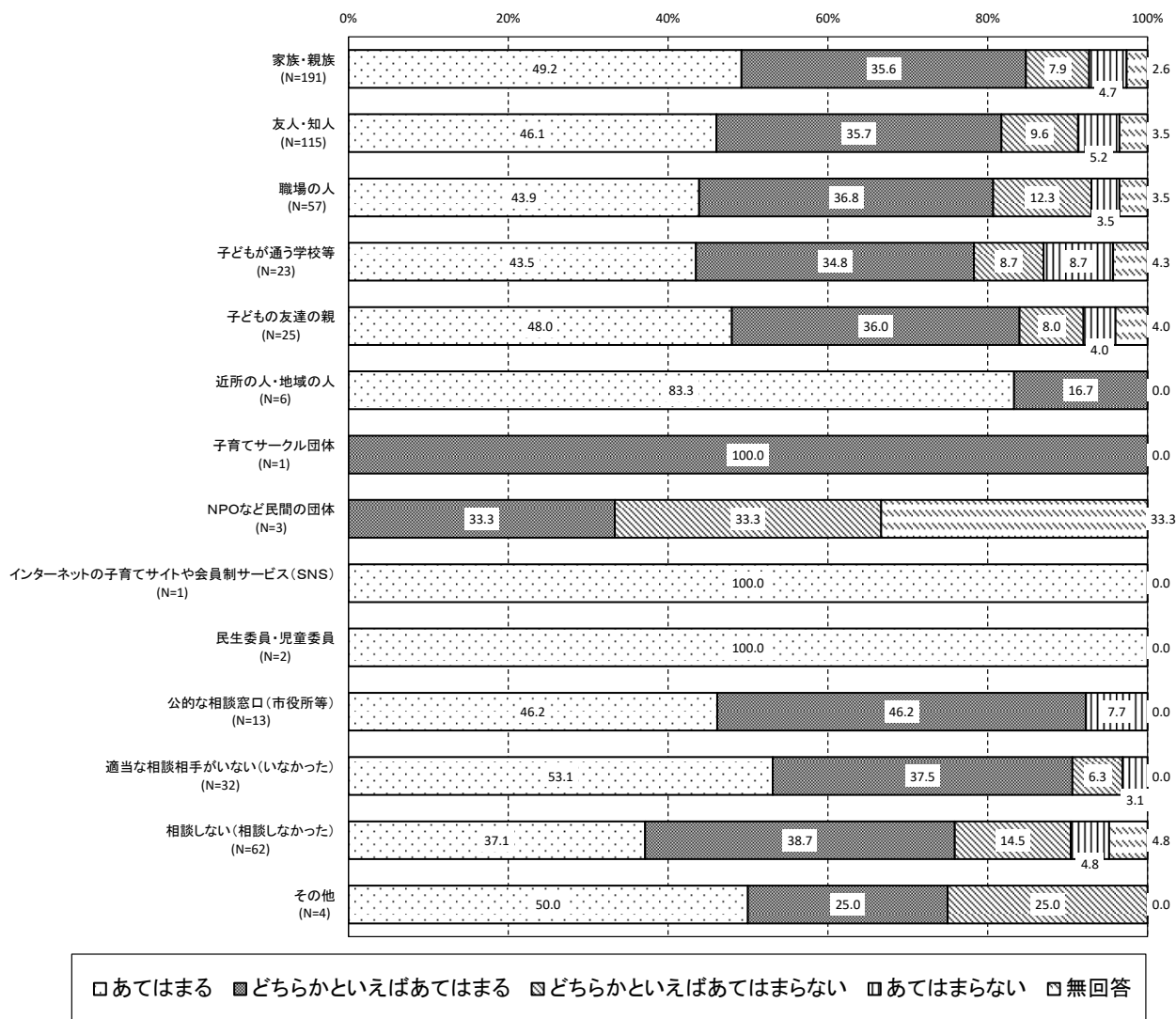


□あてはまる ■どちらかといえばあてはまる ▨どちらかといえばあてはまらない □あてはまらない □無回答

【相談相手別（周辺層）】

周辺層を対象に、保護者向け調査の間 13「困っていることについての相談者」の回答別に、その子どもの自己肯定感【将来のためにも、今、頑張りたいと思う】について集計した。

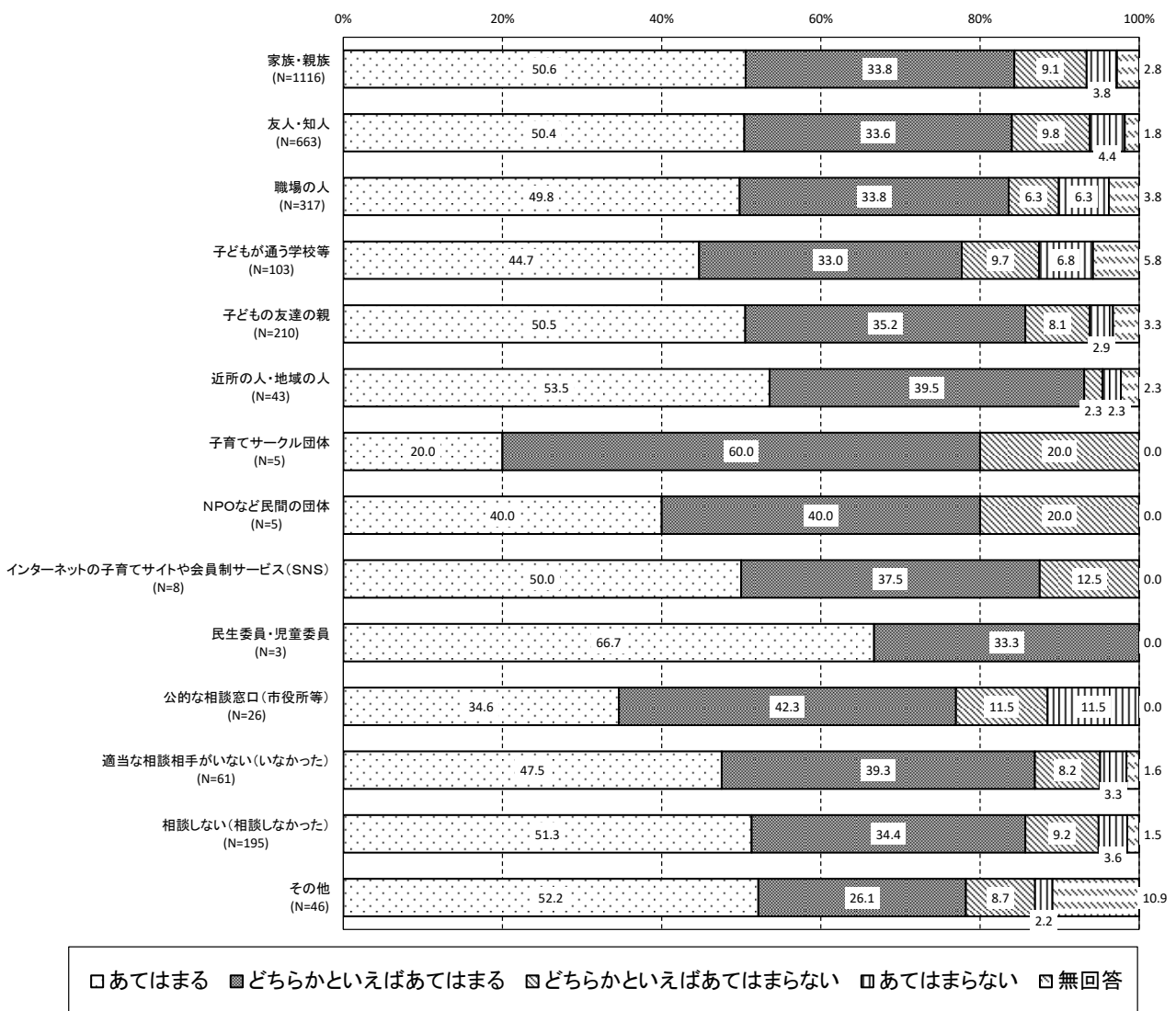
サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、「相談しない（相談しなかった）」と回答した家庭の子どもで 75.8%と比較的低くなっている。



【相談相手別（一般層）】

一般層を対象に、保護者向け調査の間 13「困っていることについての相談者」の回答別に、その子どもの自己肯定感【将来のためにも、今、頑張りたいと思う】について集計した。

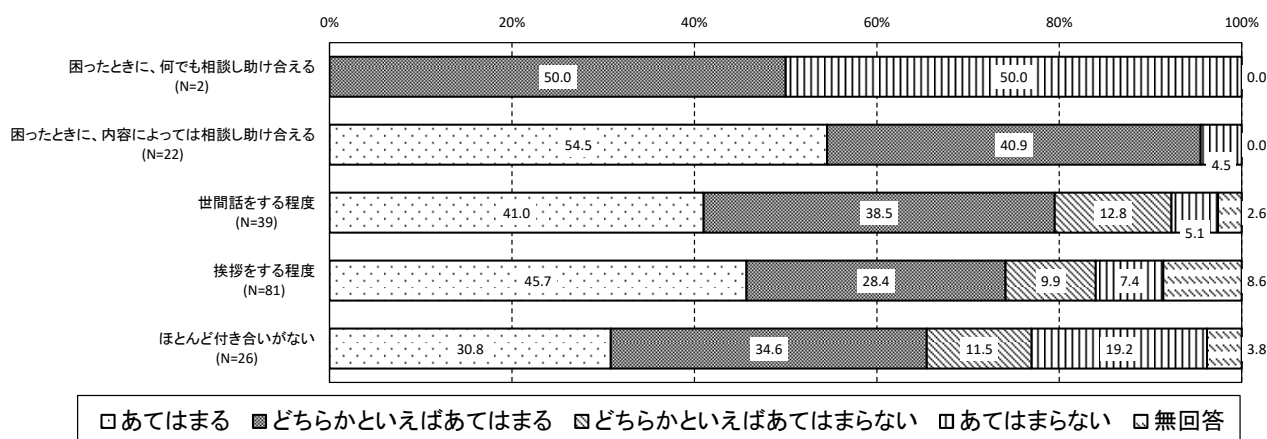
サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合が低いのは、保護者の相談先を「公的な相談窓口（市役所等）」と回答した家庭の子どもで 76.9%、相談先を「子どもが通う学校等」と回答した家庭の子どもで 77.7%などとなっている。



【近所での付き合いの状況別（困窮層）】

困窮層を対象に、後述する保護者向け調査の間 14「『近所・地域』での付き合いの状況」の回答別に、その子どもの自己肯定感【将来のためにも、今、頑張りたいと思う】について集計した。

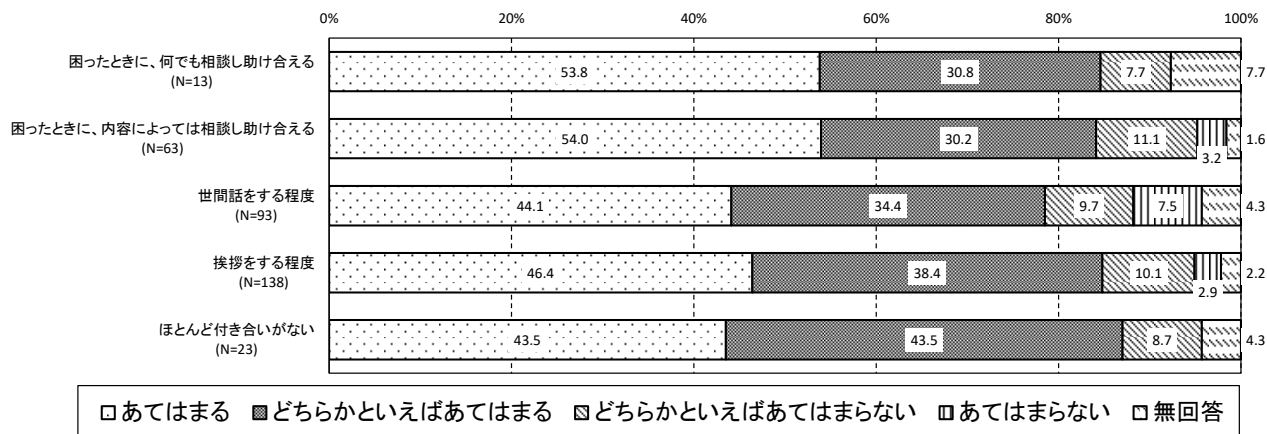
サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、近所付き合いの程度が浅い家庭ほど子どもの自己肯定感が低くなる傾向がみられ、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、近所付き合いについて「ほとんど付き合いがない」としたグループで 65.4%、「挨拶をする程度」というグループで 74.1%などとなっている。



【近所での付き合いの状況別（周辺層）】

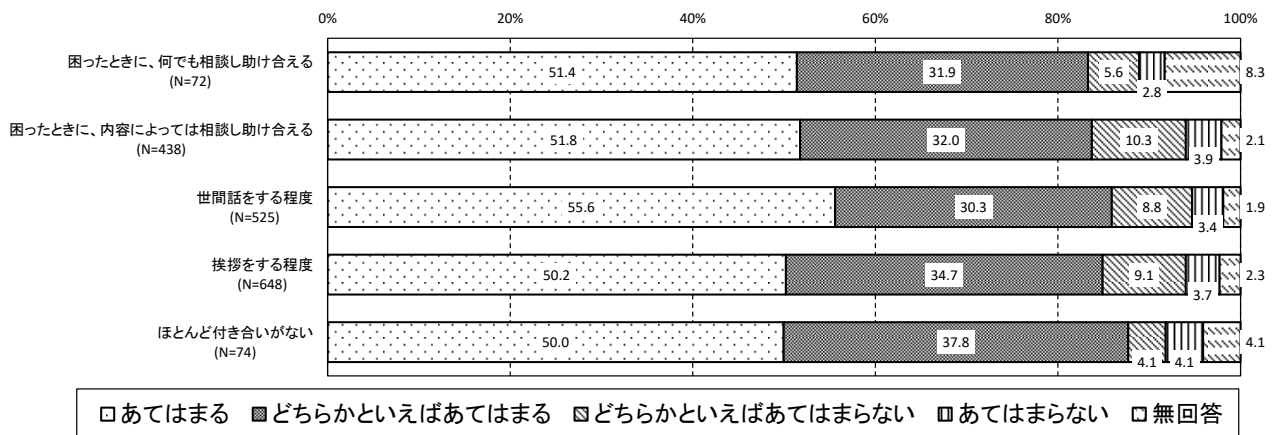
周辺層を対象に、保護者向け調査の間 14「『近所・地域』での付き合いの状況」の回答別に、その子どもの自己肯定感【将来のためにも、今、頑張りたいと思う】について集計した。

サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、「あてはまる」の割合は、近所付き合いについて「ほとんど付き合いがない」とした家庭の子どもで最も低く、43.5%となっている。



【近所での付き合いの状況別（一般層）】

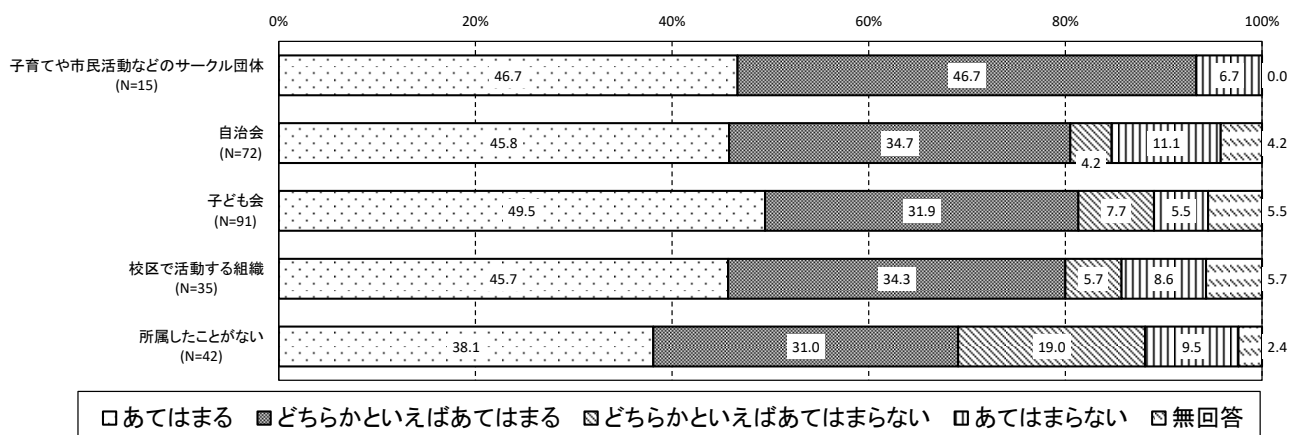
一般層を対象に、保護者向け調査の間 14 『近所・地域』での付き合いの状況」の回答別に、その子どもの自己肯定感【将来のためにも、今、頑張りたいと思う】について集計したところ、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、いずれのグループでも 80%を超えており、近所付き合いの程度による大きな差はみられない。



【団体への所属経験別（困窮層）】

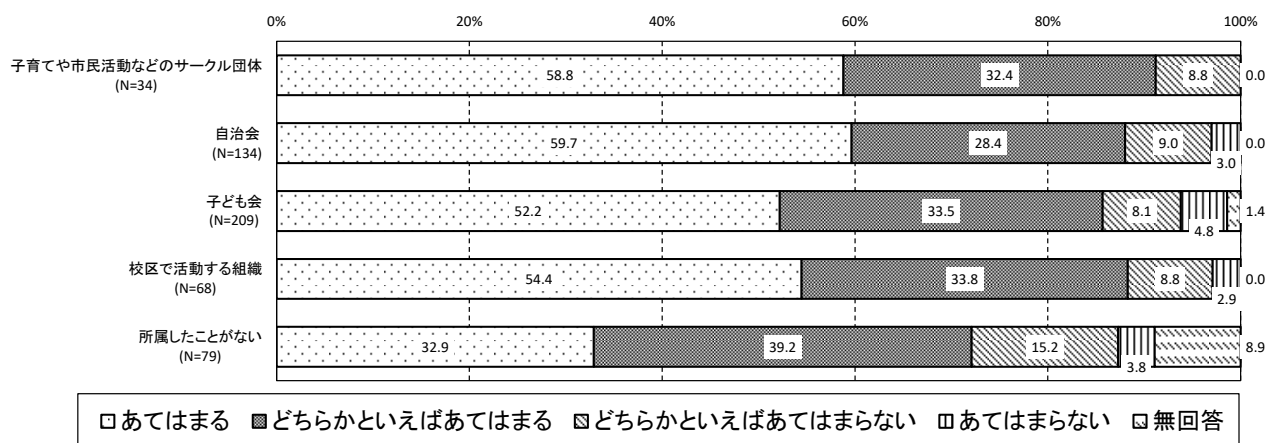
困窮層を対象に、後述する保護者向け調査の間 15 「団体への所属経験」の回答別に、その子どもの自己肯定感【将来のためにも、今、頑張りたいと思う】について集計した。

サンプル数が少ない層もあるため注意してみる必要があるが、保護者が団体に「所属したことがない」と回答した家庭の子どもは、自己肯定感が比較的低く、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は 69.1%となっている。



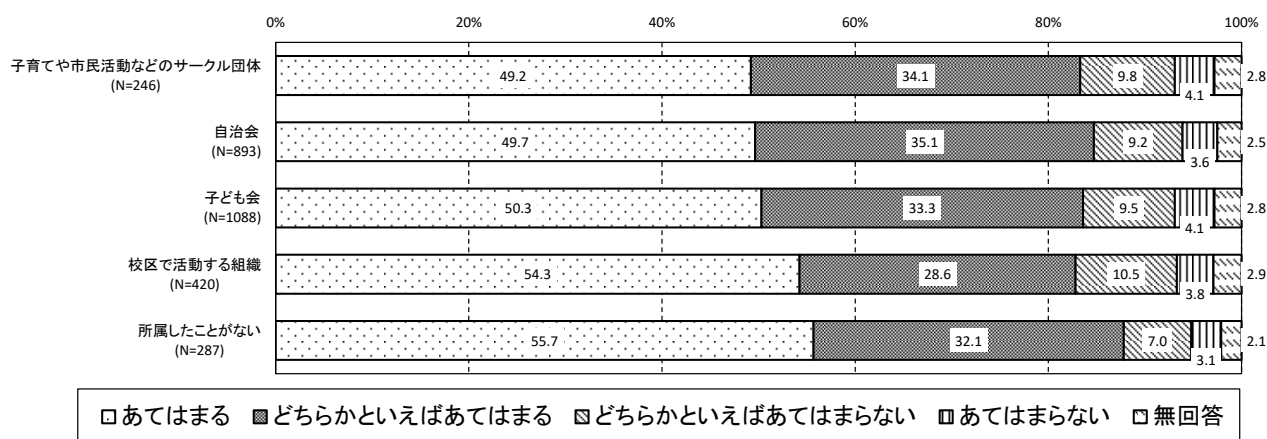
【団体への所属経験別（周辺層）】

周辺層を対象に、保護者向け調査の問 15「団体への所属経験の回答別に、その子どもの自己肯定感【将来のためにも、今、頑張りたいと思う】について集計したところ、保護者が団体に「所属したことがない」と回答した家庭の子どもで自己肯定感は比較的 low、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は 72.1% となっている。



【団体への所属経験別（一般層）】

一般層を対象に、保護者向け調査の問 15「団体への所属経験の回答別に、その子どもの自己肯定感【将来のためにも、今、頑張りたいと思う】について集計したところ、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、いずれのグループでも 80% を超えている。



(4)自分自身について【さみしさや不安を感じることがない】

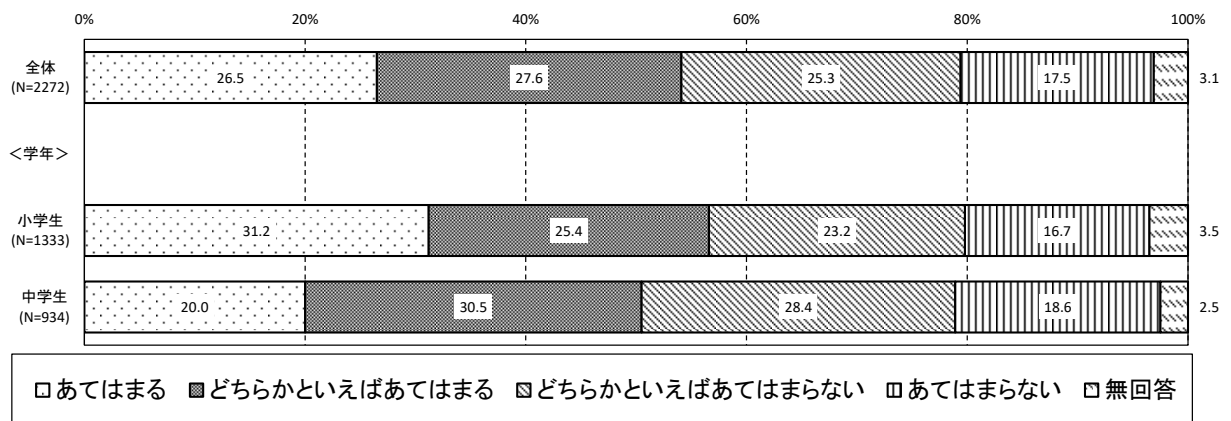
問 30 あなたは、自分自身のことをどう思いますか。(それぞれ1つに○)

4. さみしさや不安を感じることがない

全体では、「あてはまる」(26.5%)、「どちらかといえばあてはまる」(27.6%)を合わせると54.1%となっている。

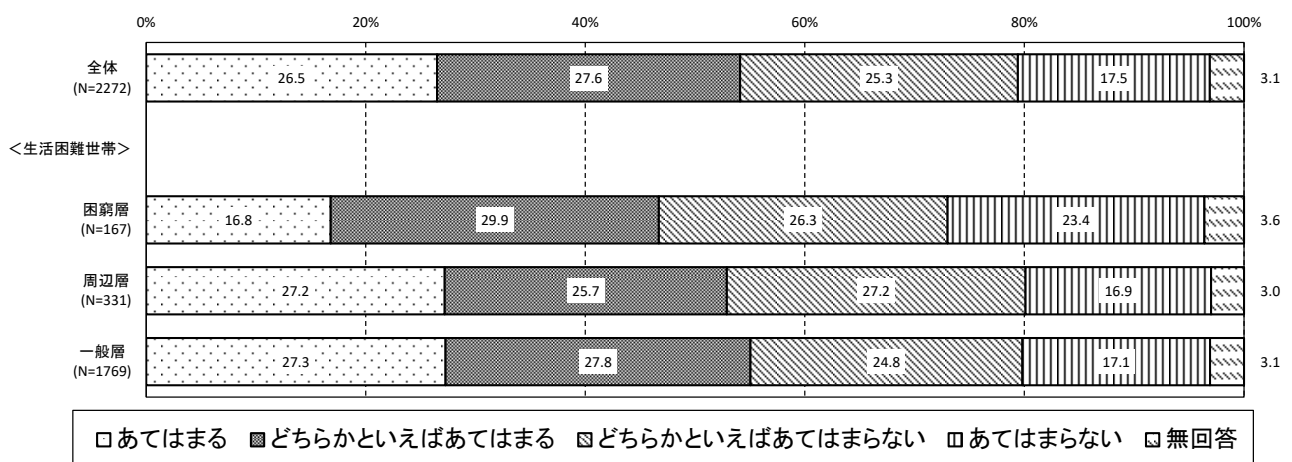
【学年別】

「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合をみると、小学生では56.6%、中学生では50.5%と、小学生の方が高い。



【生活困難世帯別】

「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、困窮層では46.7%、周辺層では52.9%、一般層では55.1%と、困窮度が高まるにつれて自己肯定感は低くなっている。



第3章 子ども編

(5)自分自身について【将来、働きたいと思う】

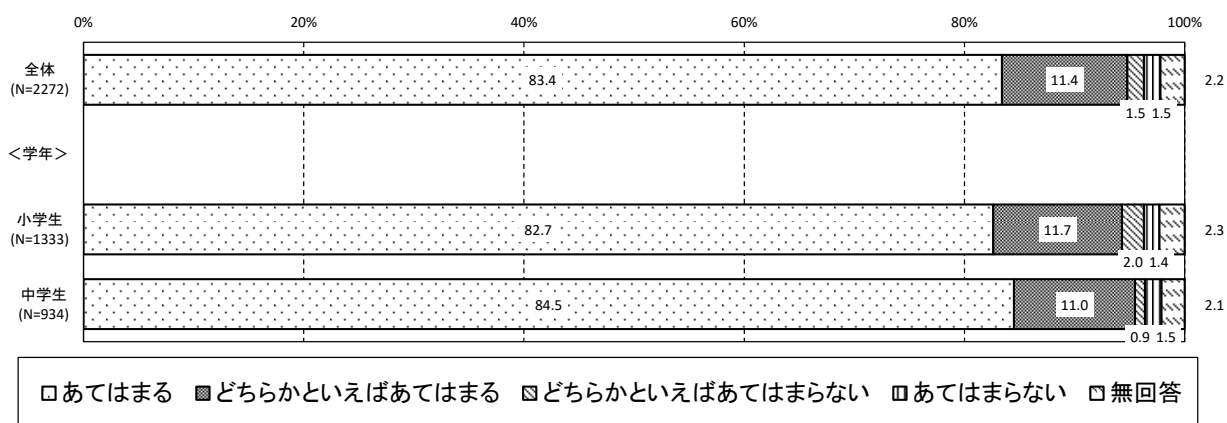
問 30 あなたは、自分自身のことをどう思いますか。(それぞれ1つに○)

5. 将来、働きたいと思う

全体では、「あてはまる」(83.4%)、「どちらかといえばあてはまる」(11.4%)を合わせると94.8%となっている。

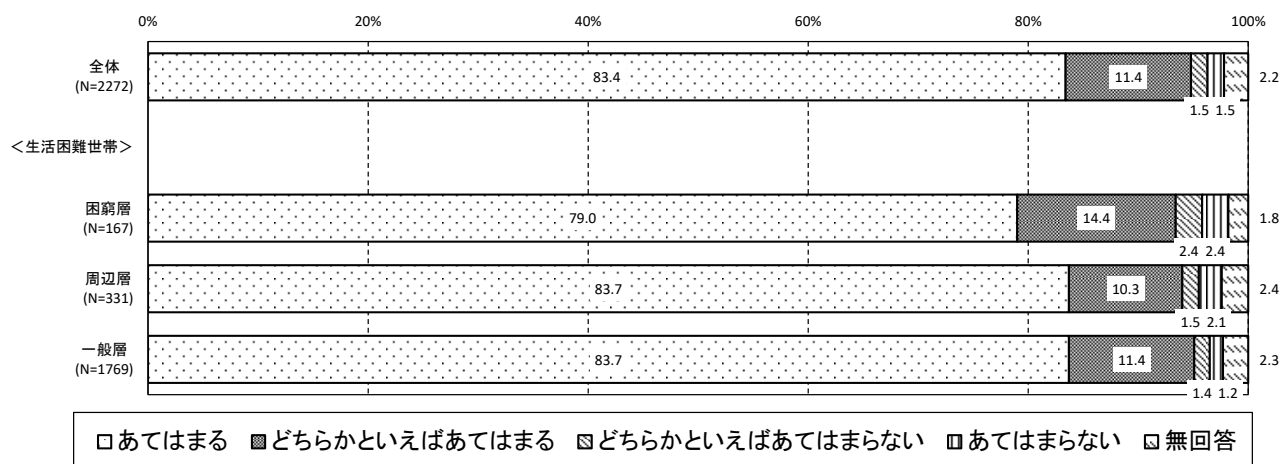
【学年別】

「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合をみると、小学生では94.4%、中学生では95.5%となっている。



【生活困難世帯別】

「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は、困窮層では93.4%、周辺層では94.0%、一般層では95.1%で、いずれも9割を超えており、困窮度の違いにより大きな差はみられない。



8. 子どもの困っていること

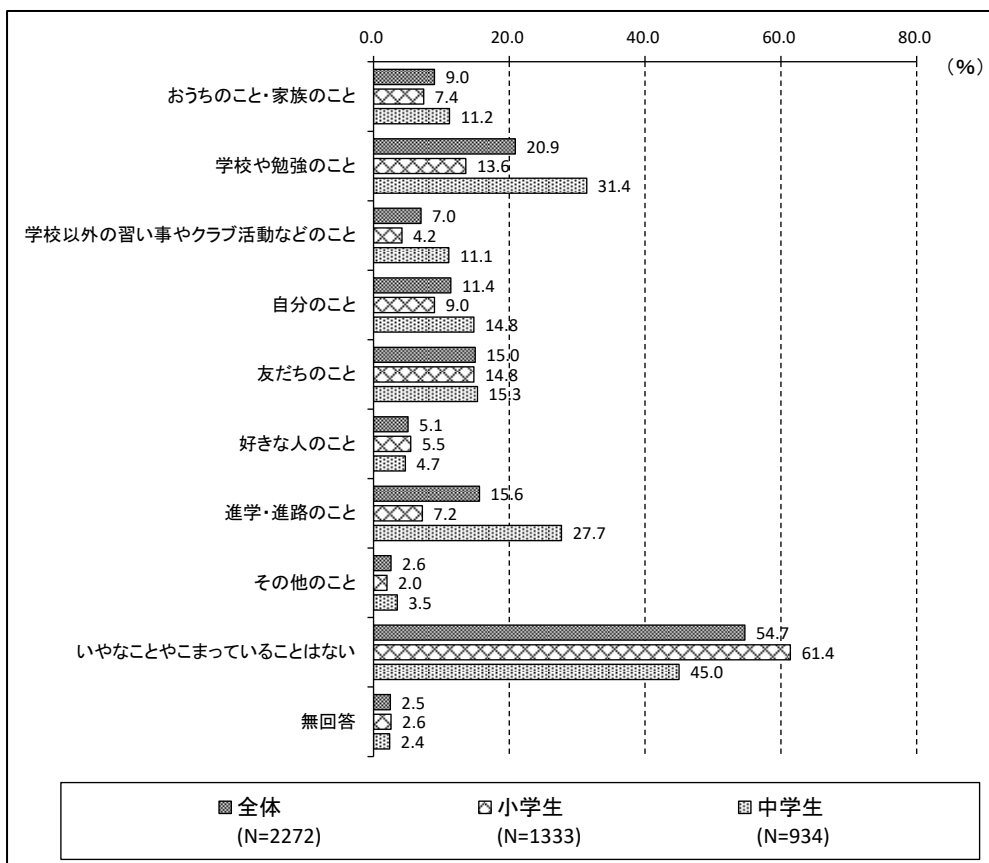
(1) 嫌なことや困っていること

問 26 あなたは、いやなことやこまっていることがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

全体では、「いやなことやこまっていることはない」が54.7%で最も高く、次いで「学校や勉強のこと」が20.9%と続く。

【学年別】

小学生、中学生ともに「いやなことやこまっていることはない」の割合が最も高い(小学生では61.4%、中学生では45.0%)が、中学生では「学校や勉強のこと」(31.4%)、「進学・進路のこと」(27.7%)の割合も高い。



第3章 子ども編

【放課後過ごす場所別】

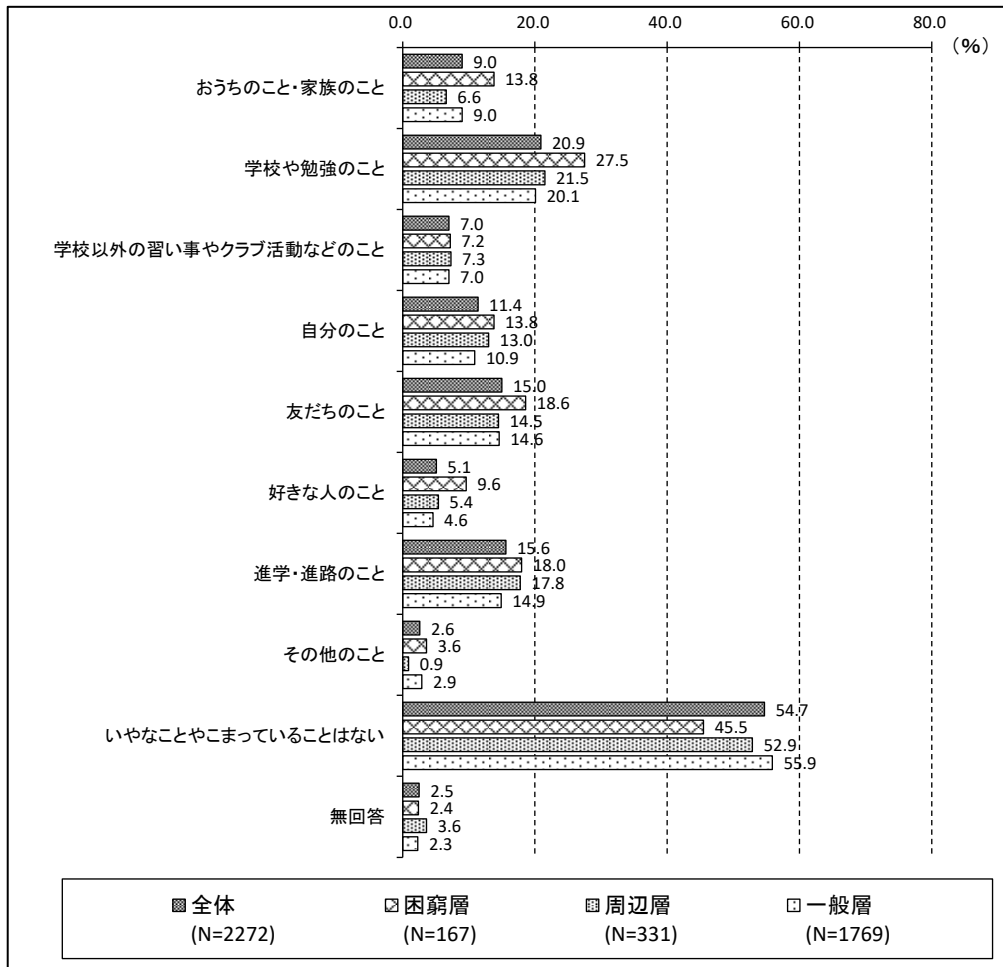
放課後過ごす場所が『学校（クラブ活動など）』では、「学校や勉強のこと」が28.4%、「進学・進路のこと」が25.7%でとなり、全体と比較してやや高くなっている。

	サンプル数	おうちのこと・家族のこと	学校や勉強のこと	学校以外の習い事やクラブ活動などのこと	自分のこと	友だちのこと	好きな人のこと	進学・進路のこと	その他のこと	いやなことやこまっていることはない	無回答	
	上段:実数、下段:%											
全体	2,272 100.0	204 9.0	474 20.9	160 7.0	258 11.4	340 15.0	117 5.1	355 15.6	60 2.6	1,242 54.7	57 2.5	
放課後過ごす場所	自分の家	2,022 100.0	176 8.7	434 21.5	137 6.8	234 11.6	305 15.1	100 4.9	315 15.6	59 2.9	1,098 54.3	50 2.5
	おばあさん・おじいさんの家	179 100.0	18 10.1	35 19.6	15 8.4	27 15.1	32 17.9	14 7.8	25 14.0	4 2.2	103 57.5	1 0.6
	親せきの家(おばあさん・おじいさんの家を除く)	17 100.0	2 11.8	6 35.3	1 5.9	2 11.8	4 23.5	3 17.6	6 35.3	2 11.8	4 23.5	1 5.9
	友だちの家	521 100.0	49 9.4	81 15.5	24 4.6	46 8.8	84 16.1	30 5.8	37 7.1	16 3.1	306 58.7	15 2.9
	塾・習い事	692 100.0	65 9.4	147 21.2	57 8.2	81 11.7	98 14.2	36 5.2	117 16.9	15 2.2	373 53.9	17 2.5
	学校(クラブ活動など)	701 100.0	72 10.3	199 28.4	81 11.6	97 13.8	115 16.4	44 6.3	180 25.7	26 3.7	337 48.1	16 2.3
	学童保育所	18 100.0	2 11.1	4 22.2	0 0.0	1 5.6	2 11.1	1 5.6	1 5.6	0 0.0	11 61.1	0 0.0
	公園	226 100.0	26 11.5	36 15.9	10 4.4	26 11.5	30 13.3	7 3.1	21 9.3	7 3.1	143 63.3	4 1.8
	ゆめタウンなどのショッピングモール	32 100.0	5 15.6	6 18.8	5 15.6	3 9.4	4 12.5	3 9.4	8 25.0	2 6.3	21 65.6	0 0.0
	コンビニ	21 100.0	6 28.6	6 28.6	3 14.3	4 19.0	4 19.0	2 9.5	3 14.3	0 0.0	11 52.4	0 0.0
	ゲームセンター	14 100.0	2 14.3	3 21.4	1 7.1	1 7.1	2 14.3	1 7.1	1 7.1	0 0.0	8 57.1	0 0.0
	図書館	36 100.0	6 16.7	13 36.1	4 11.1	6 16.7	10 27.8	2 5.6	9 25.0	3 8.3	13 36.1	2 5.6
	コミュニティセンター	18 100.0	2 11.1	1 5.6	1 5.6	2 11.1	4 22.2	3 16.7	1 5.6	1 5.6	11 61.1	0 0.0
	児童センターやくるめっ子館などの子どもの施設	15 100.0	1 6.7	2 13.3	1 6.7	2 13.3	3 20.0	1 6.7	2 13.3	0 0.0	7 46.7	0 0.0
	地域のスポーツクラブ	123 100.0	4 3.3	25 20.3	14 11.4	9 7.3	12 9.8	3 2.4	13 10.6	1 0.8	80 65.0	3 2.4
	その他	44 100.0	7 15.9	9 20.5	4 9.1	7 15.9	9 20.5	4 9.1	4 9.1	3 6.8	18 40.9	1 2.3

【生活困難世帯別】

困窮層では、周辺層、一般層と比較して「学校以外の習い事やクラブ活動などのこと」「いやなことやこまっていることはない」以外のすべての項目の割合が高く、特に「学校や勉強のこと」が27.5%、「友だちのこと」が18.6%、「おうちのこと・家族のこと」が13.8%、「好きな人のこと」が9.6%と割合が高い。

「いやなことやこまっていることはない」の割合は、困窮層では45.5%、周辺層では52.9%、一般層では55.9%と、困窮度が高まるにつれて低くなっている。



第3章 子ども編

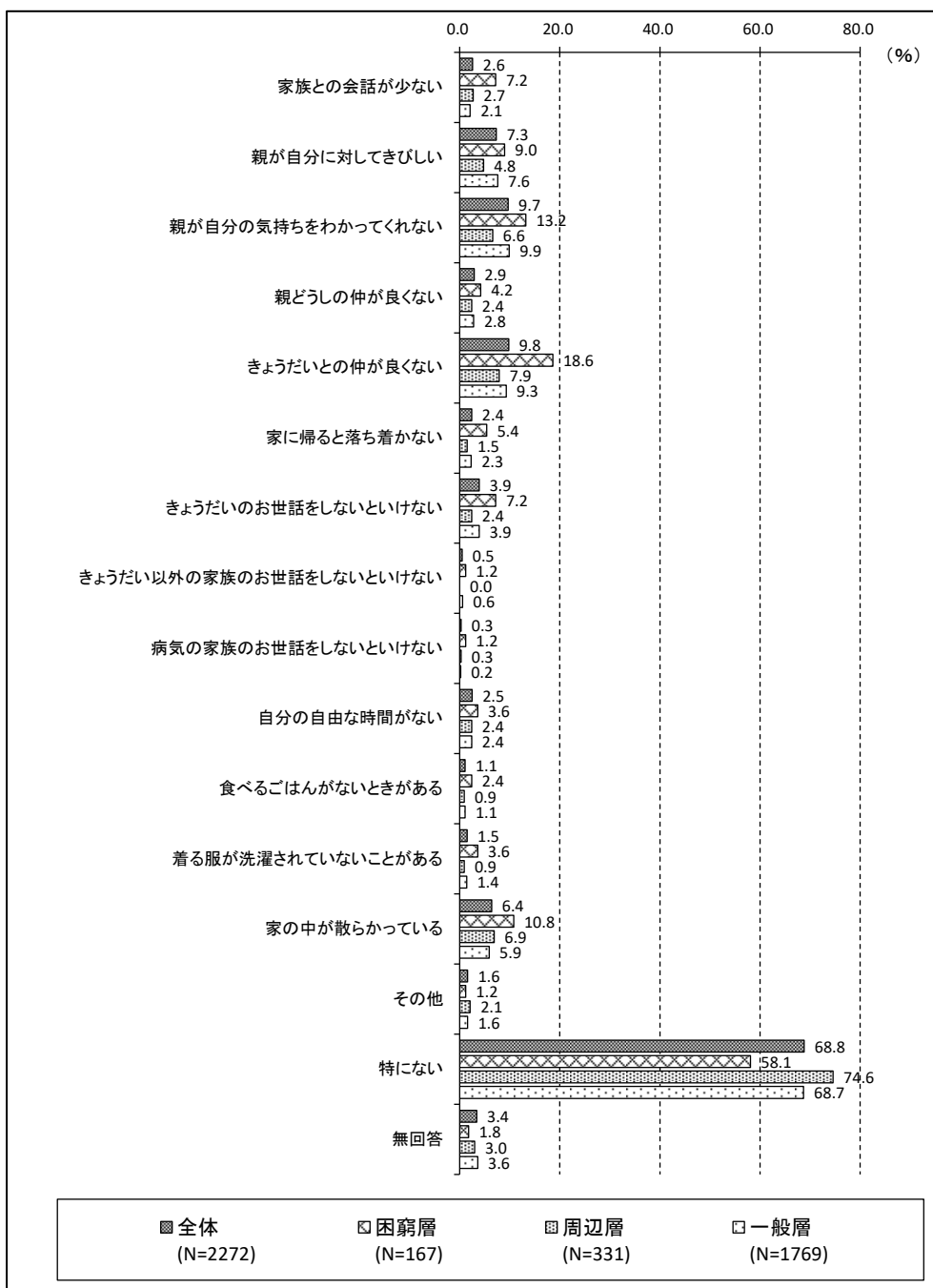
(2) 家族のことなどで困っていること

問 27 あなたは、家族のことなどで、こまっていることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

全体では、「特にない」が 68.8% で最も高い。

【生活困難世帯別】

困窮層では一般層と比較して困っていることが多く挙げられており、特に「きょうだいの仲が良くない」については一般層の 9.3% に対して困窮層では 18.6%、「家族との会話が少ない」については一般層の 2.1% に対して困窮層では 7.2% などとなっている。



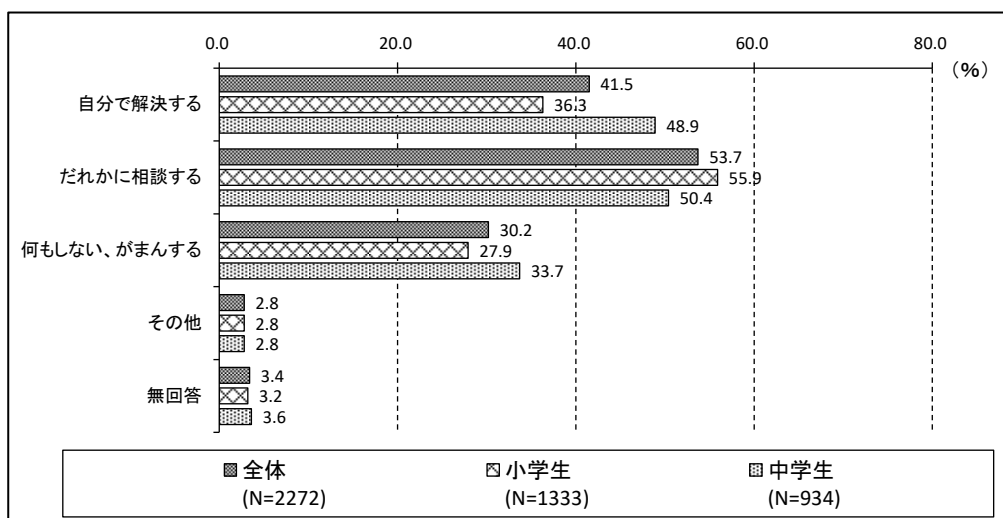
(3) 嫌なことや困ったことがあった場合の対処法

問 28 こまっていることやいやなことがあった場合、あなたはどうしますか。(あてはまる番号すべてに○)

全体では、「だれかに相談する」が 53.7%で最も高く、次いで「自分で解決する」が 41.5%と続く。

【学年別】

小学生、中学生ともに「だれかに相談する」の割合が最も高く、小学生では 55.9%、中学生では 50.4%となっている。



第3章 子ども編

(4) 相談相手

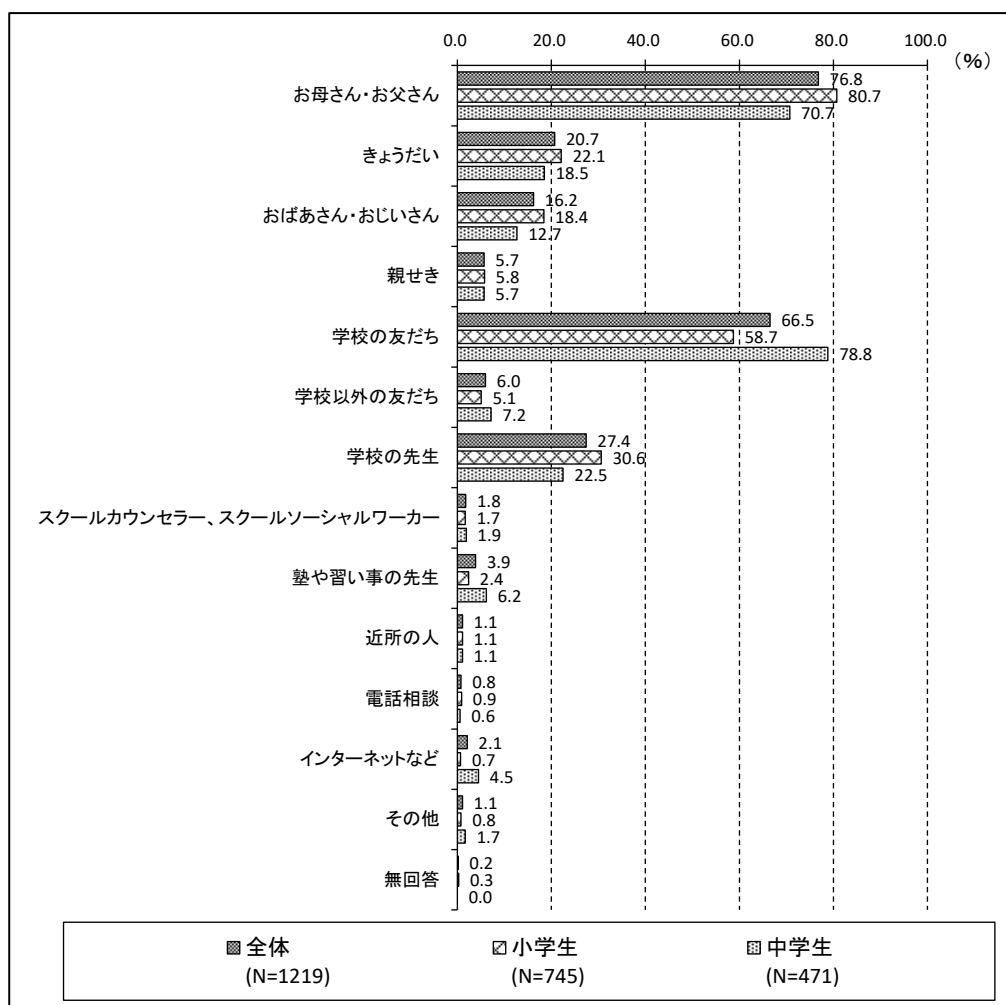
問 28 で「2. だれかに相談する」と答えた方におたずねします。

問 28-1 だれに相談しますか。(あてはまる番号すべてに○)

全体では、「お母さん・お父さん」が 76.8% で最も高く、次いで「学校の友だち」が 66.5% と続く。

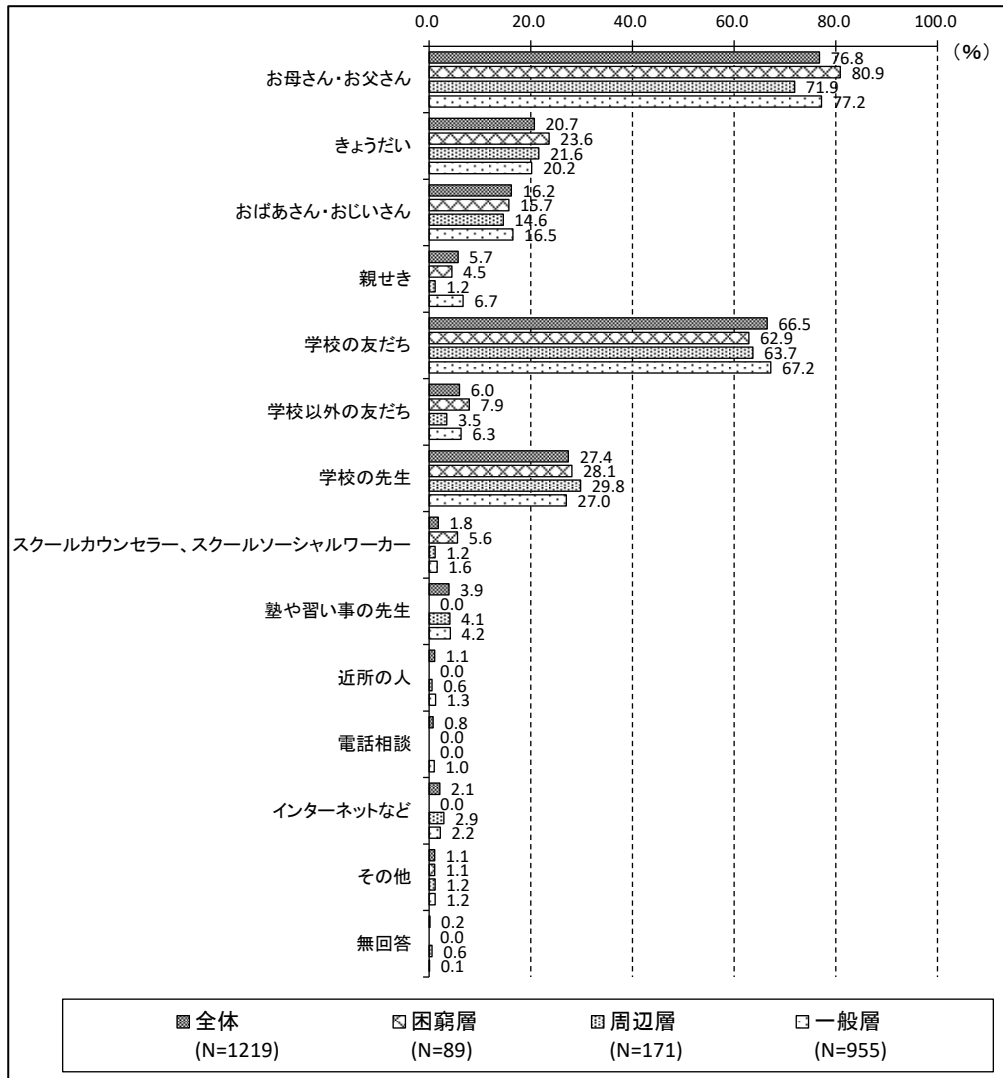
【学年別】

小学生では「お母さん・お父さん」が 80.7% で最も高く、中学生では「学校の友だち」が 78.8% で最も高い。



【生活困難世帯別】

困窮層では、周辺層、一般層と比較して「スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」の割合が5.6%と高い。



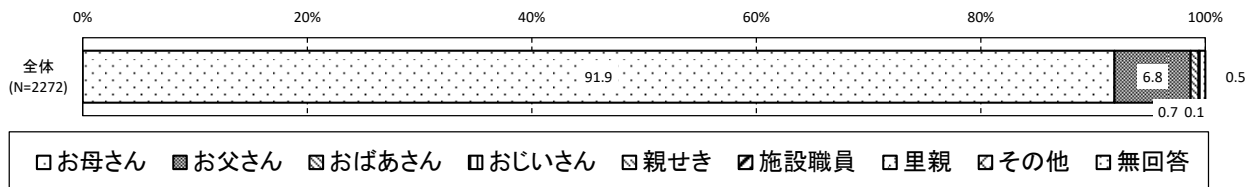
第4章 保護者編

1. 属性

(1) 子どもとの関係

問1 お子さんから見たあなたの関係について教えてください。(〇は1つ)

全体では、「お母さん」が91.9%で最も高い。



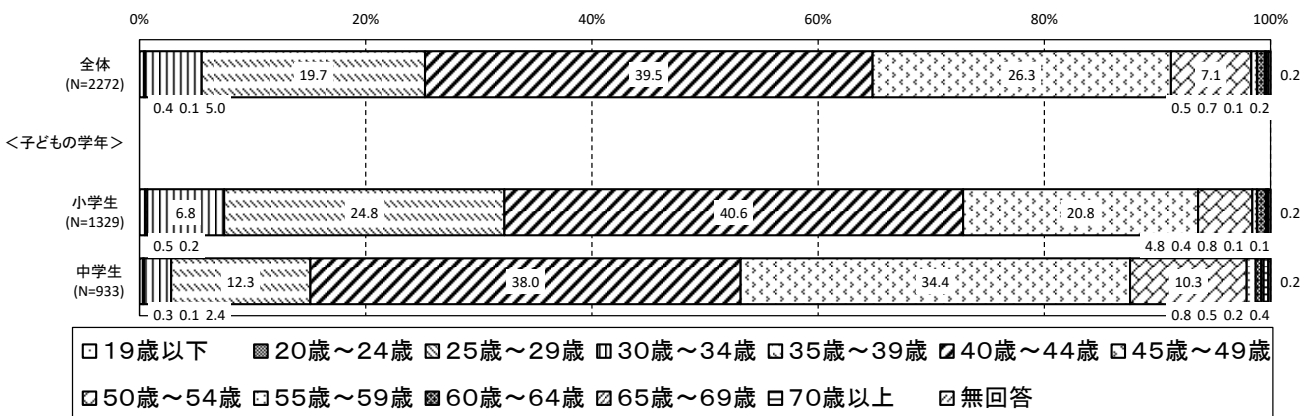
(2) 回答者の年齢

問8 あなたの年齢は現在いくつですか。(〇は1つ)

全体では、「40～44歳」が39.5%で最も高く、次いで「45～49歳」が26.3%と続く。

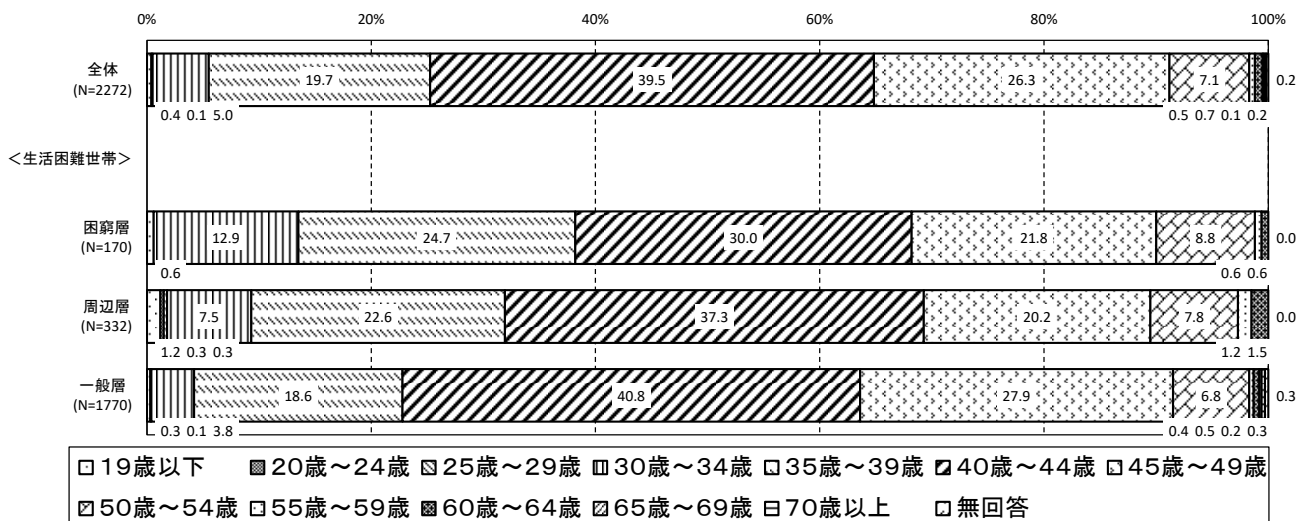
【学年別】

小学生、中学生ともに「40～44歳」の割合が最も高く、小学生では40.6%、中学生では38.0%となっている。



【生活困難世帯別】

「39歳以下」の割合は、困窮度が高まるにつれ高くなる。



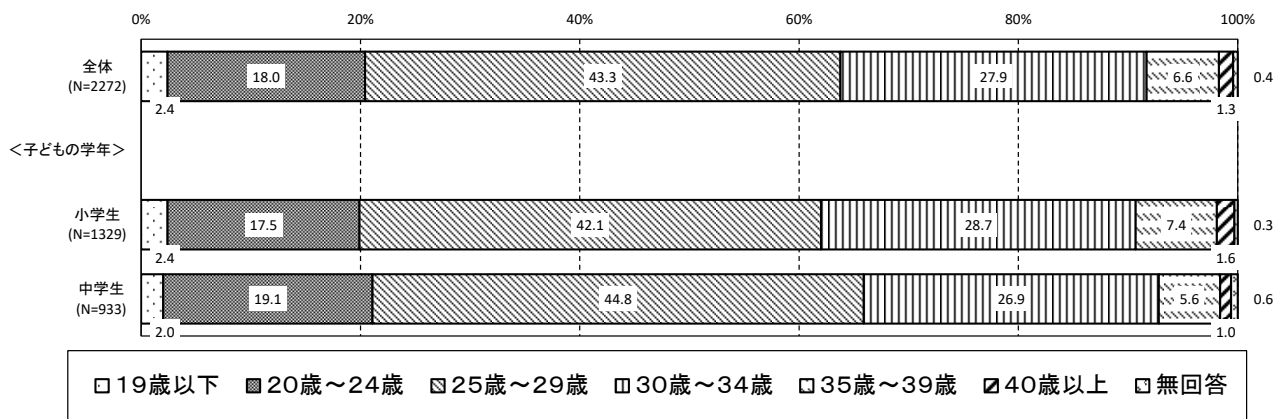
(3) 初めて親になった年齢

問9 初めて親となった年齢はおいくつですか（実子以外も含む）。（○は1つ）

全体では、「25～29歳」が43.3%で最も高く、次いで「30～34歳」が27.9%と続く。

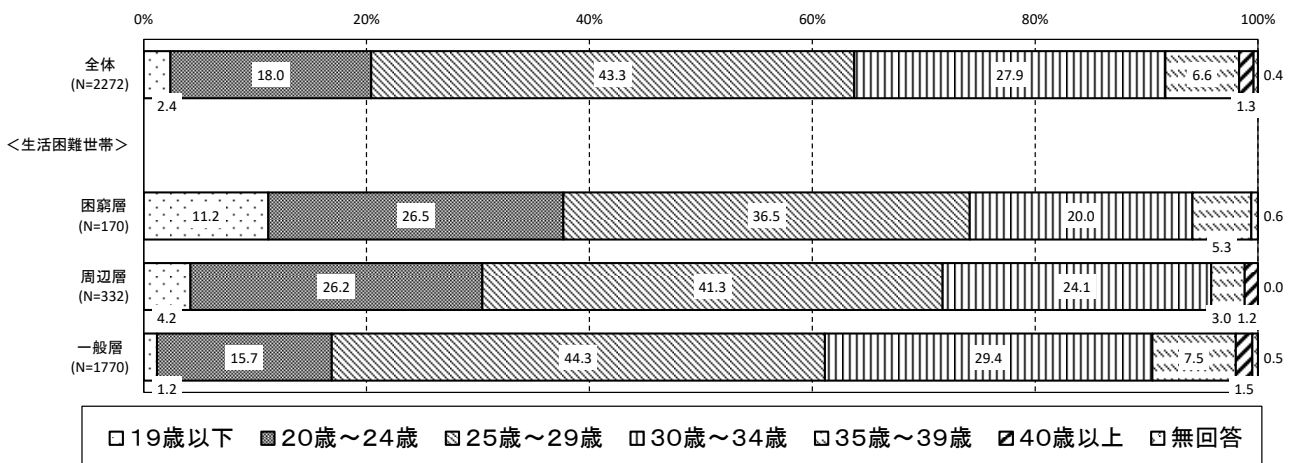
【学年別】

小学生、中学生ともに「25～29歳」の割合が最も高く、小学生では42.1%、中学生では44.8%となっている。



【生活困難世帯別】

「19歳以下」の割合は、困窮層では11.2%、周辺層では4.2%、一般層では1.2%と、困窮度が高まるにつれて高くなる。



2. 保護者の意識

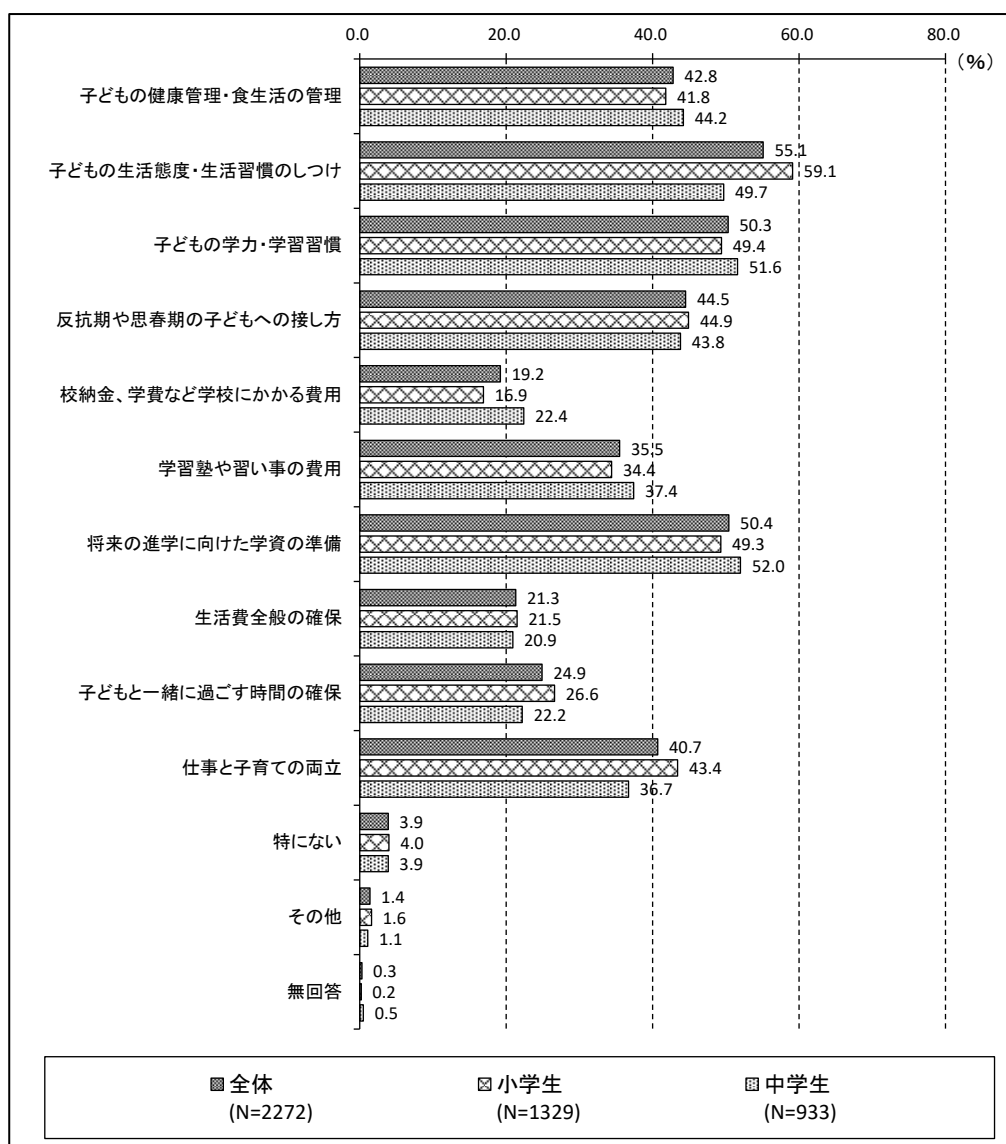
(1) 子育てで特に大変だと感じること

問 10 子育てをしていて特に大変だと感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「子どもの生活態度・生活習慣のしつけ」が55.1%で最も高く、次いで「将来の進学に向けた学資の準備」が50.4%、「子どもの学力・学習習慣」が50.3%と続く。

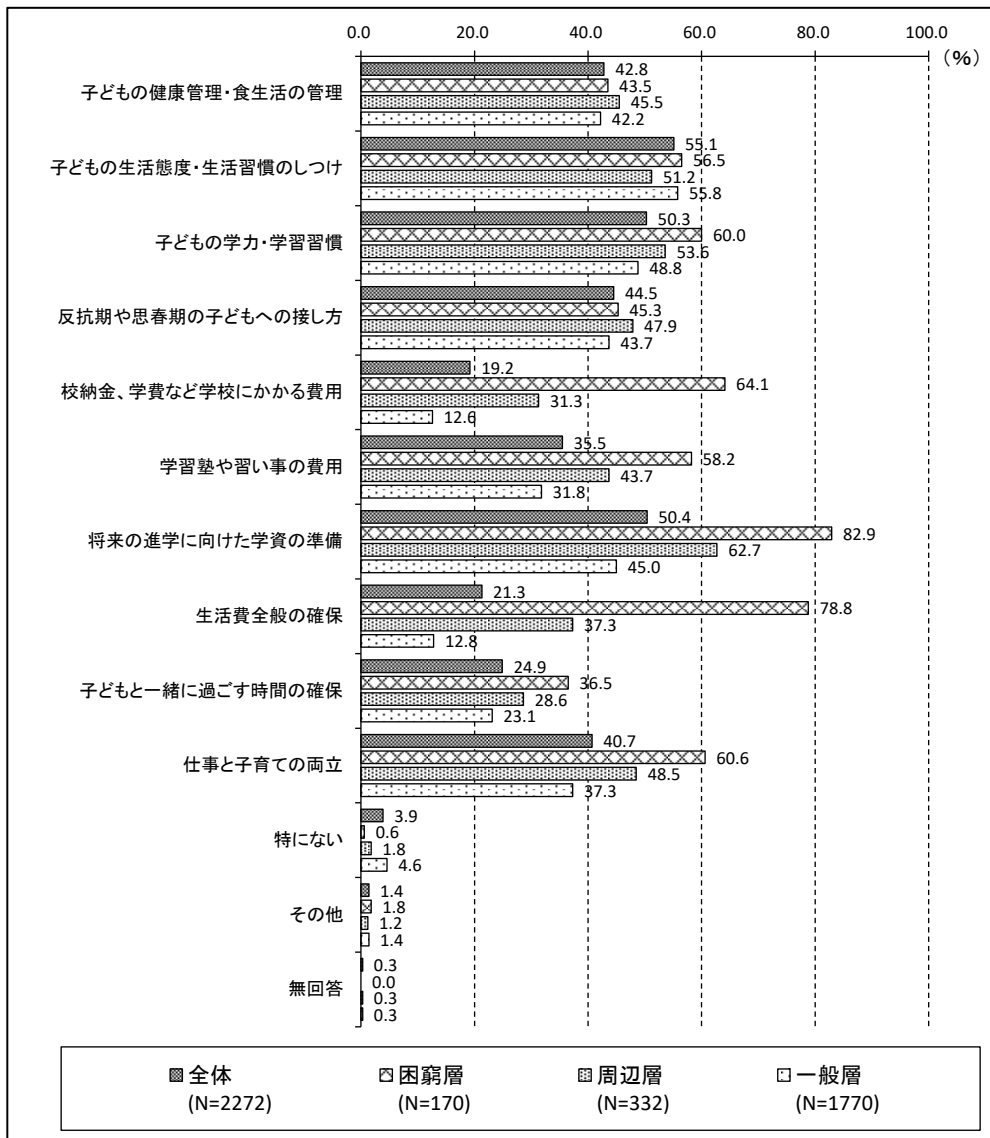
【学年別】

小学生では「子どもの生活態度・生活習慣のしつけ」が59.1%で最も高く、中学生では「将来の進学に向けた学資の準備」が52.0%で最も高い。



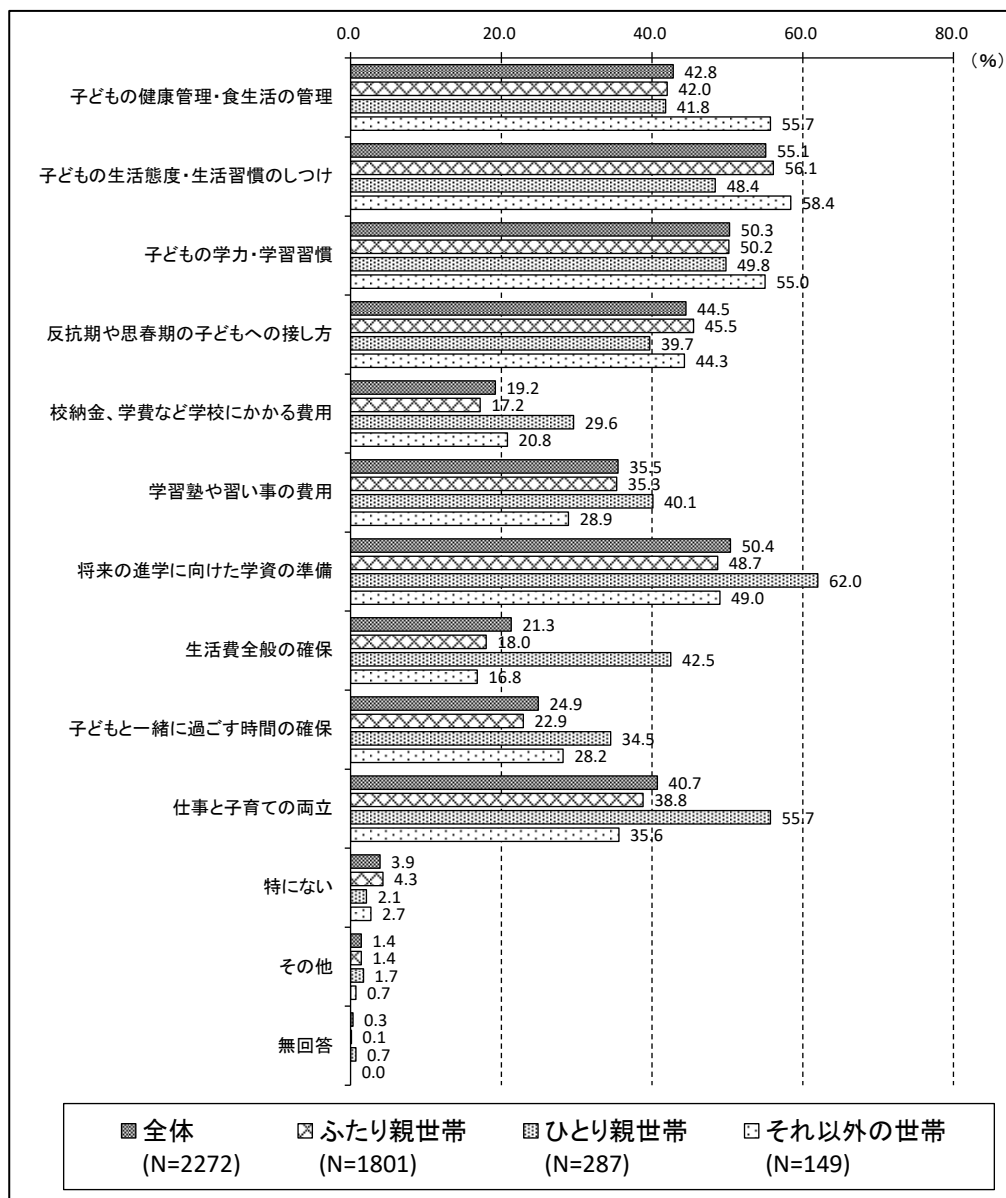
【生活困難世帯別】

多くの項目で、困窮度が上がるほど割合が高くなる傾向がみられる。特に困窮層の上位3項目は周辺層、一般層と比較して困窮層の割合が突出して高く、困窮層の第1位「将来の進学に向けた学資の準備」は困窮層で82.9%、周辺層では62.7%、一般層では45.0%、困窮層の第2位「生活費全般の確保」は困窮層で78.8%、周辺層では37.3%、一般層では12.8%、困窮層の第3位「校納金、学費など学校にかかる費用」は困窮層で64.1%、周辺層では31.3%、一般層では12.6%となっている。



【世帯類型別】

ひとり親世帯では、ふたり親世帯、それ以外の世帯と比較して「校納金、学費など学校にかかる費用」(29.6%)、「学習塾や習い事の費用」(40.1%)、「将来の進学に向けた学資の準備」(62.0%)、「生活費全般の確保」(42.5%)、「子どもと一緒に過ごす時間の確保」(34.5%)、「仕事と子育ての両立」(55.7%)の割合が高い。



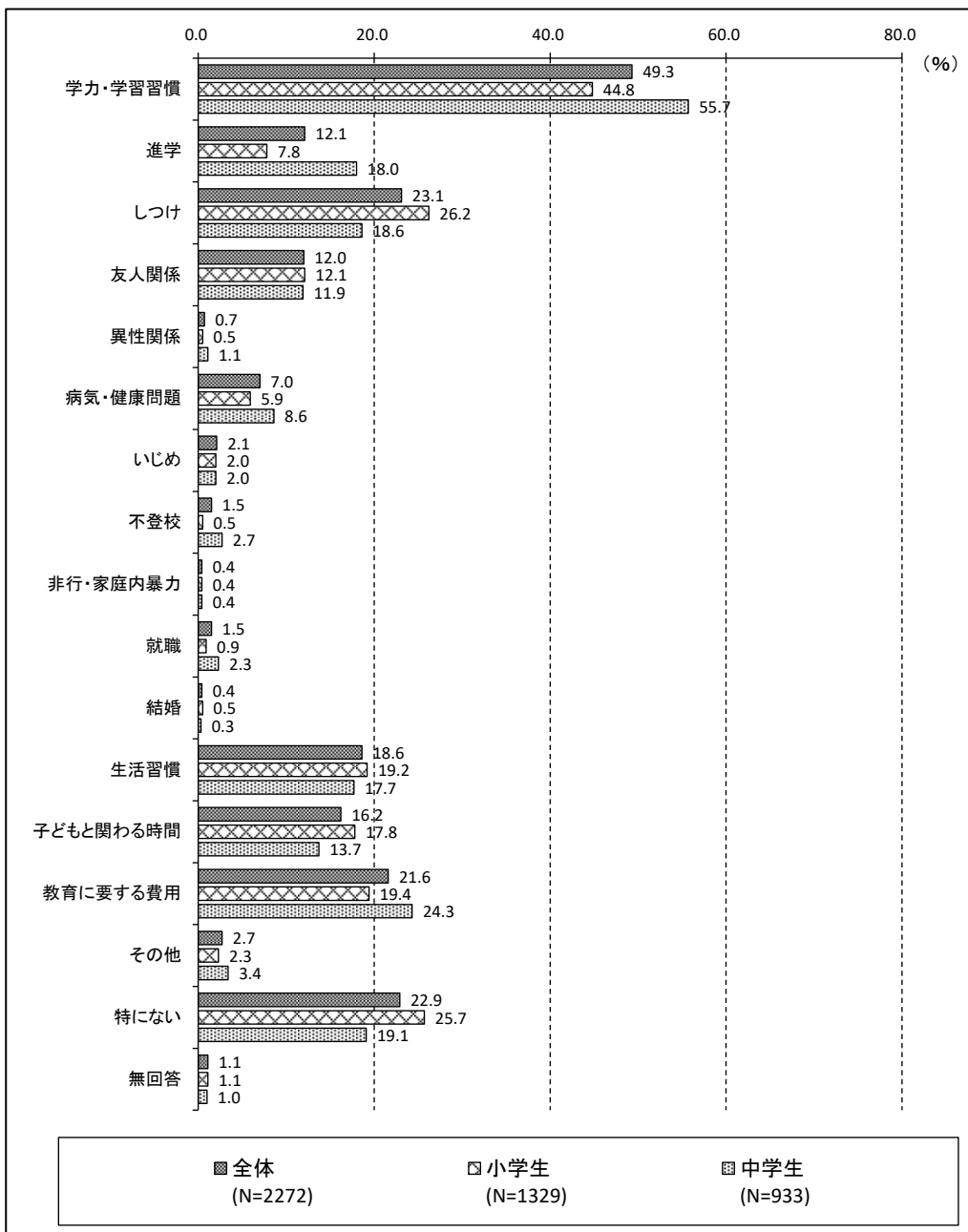
(2)子どもに関して困っていること

問 11 あなたは、現在、お子さんに関してどのようなことに困っていますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「学力・学習習慣」が49.3%で最も高く、次いで「しつけ」が23.1%と続く。

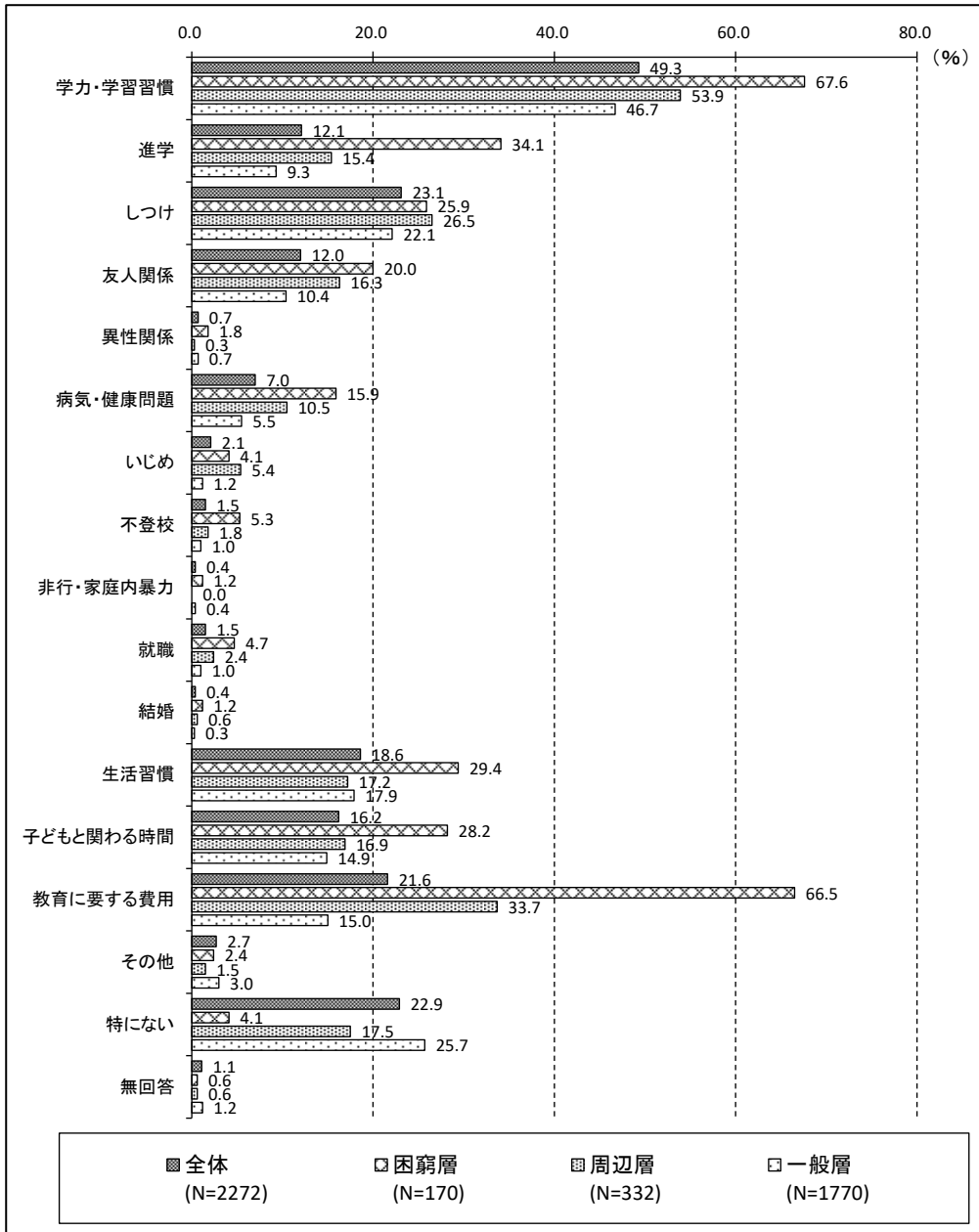
【学年別】

小学生、中学生ともに「学力・学習習慣」の割合が最も高く、小学生では44.8%、中学生では55.7%となっている。



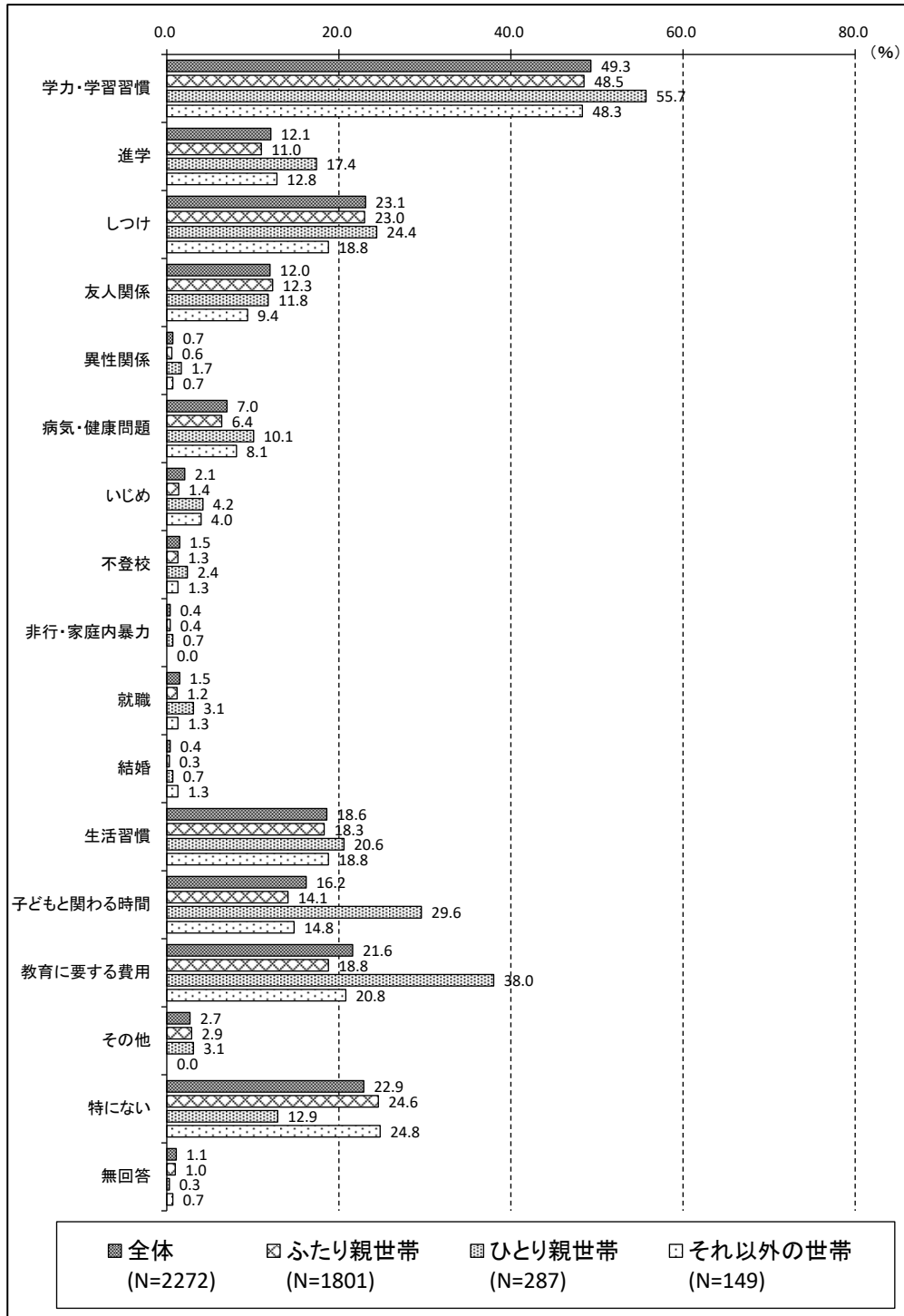
【生活困難世帯別】

困窮層では、周辺層、一般層と比較して教育関連の項目が非常に高く、「学力・学習習慣」(67.6%)、「教育に要する費用」(66.5%)、「進学」(34.1%) などとなっている。また、「特にない」と回答した世帯は困窮層で4.1%と特徴的に低い。



【世帯類型別】

ひとり親世帯では、ふたり親世帯、それ以外の世帯と比較して「子どもと関わる時間の確保」(29.6%)、「教育に要する費用」(38.0%)の割合が非常に高い。



第4章 保護者編

(3)自身の生活で困っていること

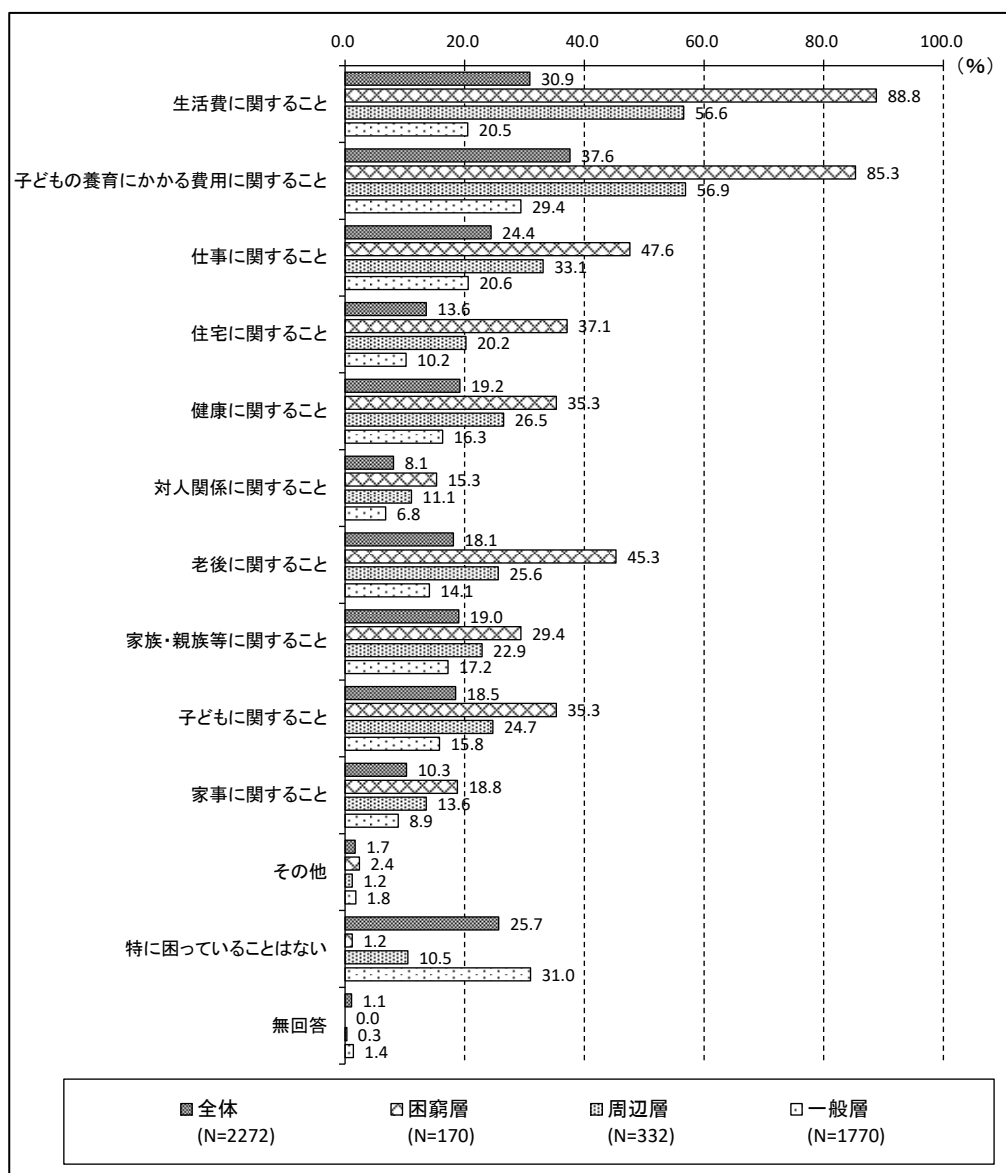
問 12 あなたは、現在、ご自身の生活に関して、どのようなことについて困っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

全体では、「子どもの養育にかかる費用に関すること」が37.6%で最も高く、次いで「生活に関すること」が30.9%と続く。

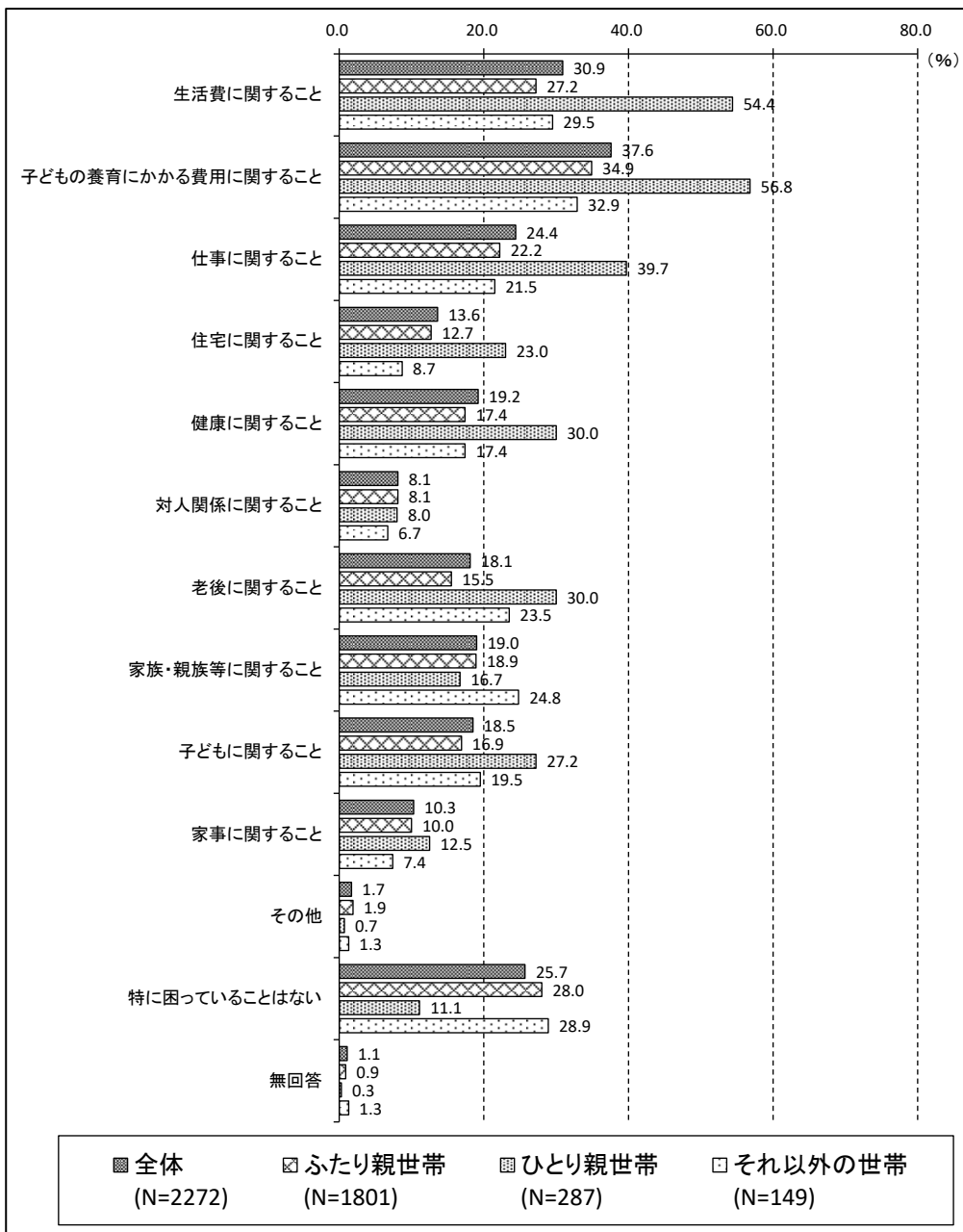
【生活困難世帯別】

おおむねすべての項目で、困窮度が高まるにつれ回答割合は高くなる傾向がある。とくに困窮層では「生活費に関すること」(88.8%)、「子どもの養育にかかる費用に関すること」(85.3%)が突出して高く、いずれも8割を超える。他に困窮層では「仕事に関すること」(47.6%)、「住宅に関すること」(37.1%)、「老後に関すること」(45.3%)なども目立つ。また、「特に困っていることはない」と回答した世帯は困窮層で1.2%と特徴的に低い。



【世帯類型別】

ふたり親世帯とひとり親世帯の割合に着目すると、「対人関係に関すること」「家族・親族等に関すること」「その他」「特に困っていることはない」以外のすべての項目でひとり親世帯の割合が高く、特に「生活費に関すること」は、ふたり親世帯では27.2%に対しひとり親世帯は54.4%、「子どもの教育にかかる費用に関すること」は、ふたり親世帯では34.9%に対しひとり親世帯は56.8%と非常に大きな差がみられる。



第4章 保護者編

(4) 困っていることについての相談者

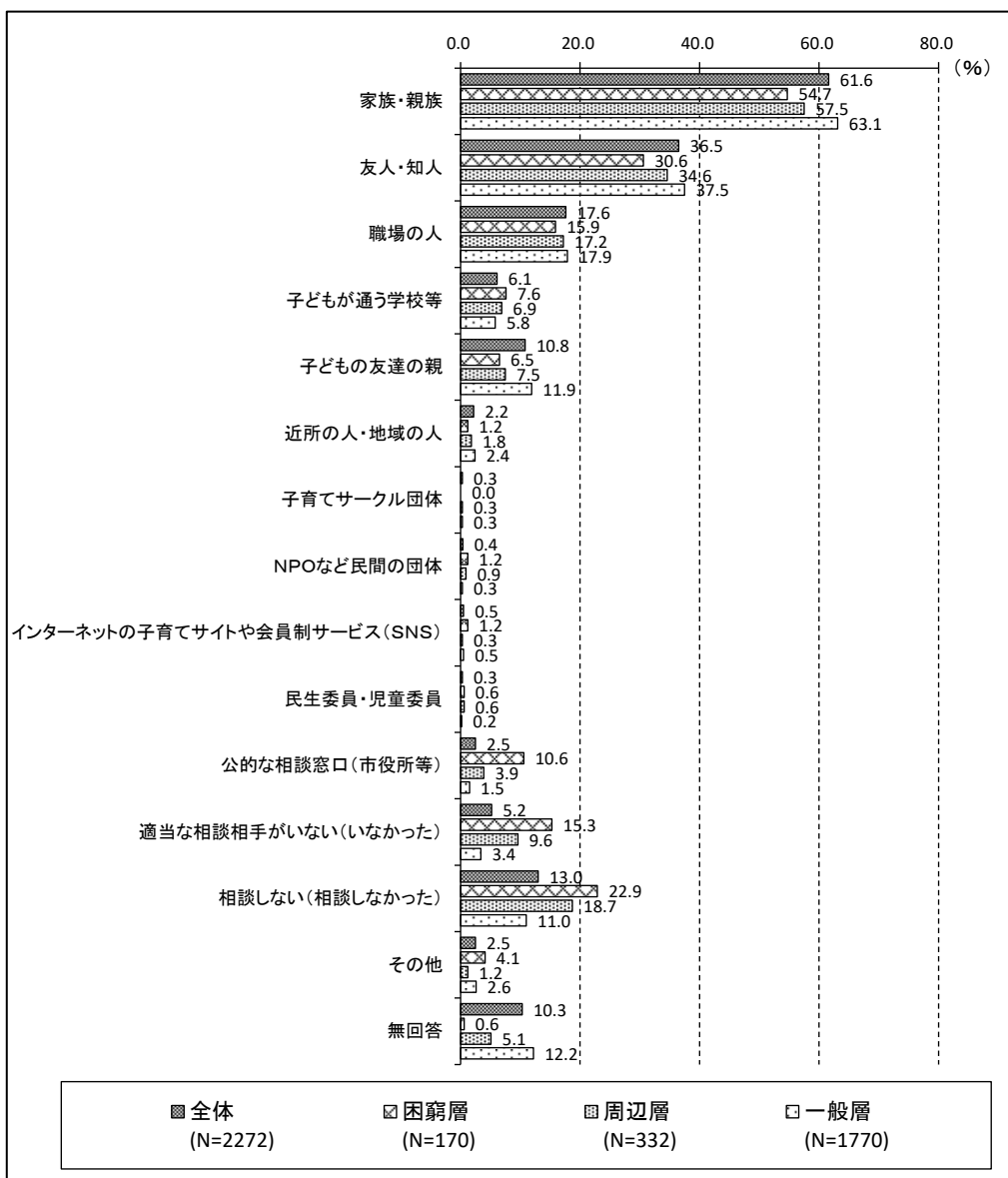
問13 あなたは、問11・12の困っていることをどなた(どこ)に相談されていますか(されましたか)。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「家族・親族」が61.6%で最も高く、次いで「友人・知人」が36.5%と続く。

【生活困難世帯別】

「適切な相談相手がない(いなかった)」の割合は、困窮層では15.3%、周辺層では9.6%、一般層では3.4%となり、困窮度が高まるにつれ高くなる。

「相談しない(相談しなかった)」も同様に困窮度が高まるにつれ高くなり、困窮層では22.9%、周辺層では18.7%、一般層では11.0%となっている。



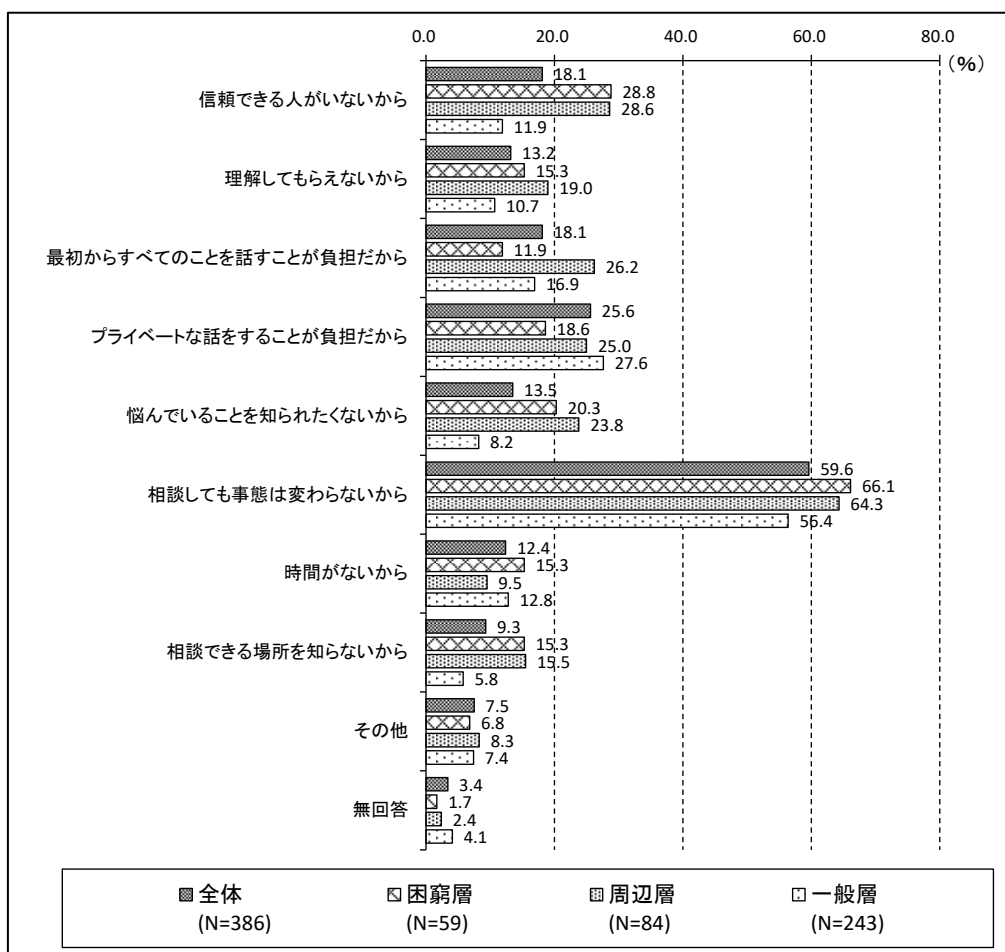
(5) 相談相手がない、または相談しない理由

問 13-1 その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「相談しても事態は変わらないから」が 59.6%で最も高く、次いで「プライベートな話をするのが負担だから」が 25.6%と続く。

【生活困難世帯別】

すべての層で「相談しても事態は変わらないから」の割合が最も高いが、困窮層、周辺層では、一般層と比較して「信頼できる人がいないから」「悩んでいることを知られたくないから」「相談しても事態は変わらないから」「相談できる場所を知らないから」の割合が高く、特に「信頼できる人がいないから」は、困窮層では 28.8%、周辺層では 28.6%であるのに対し、一般層では 11.9%、また「悩んでいることを知られたくない」は、困窮層では 20.3%、周辺層では 23.8%であるのに対し、一般層では 8.2%と大きな差がみられる。また、周辺層では、困窮層、一般層と比較して「理解してもらえないから」(19.0%)、「最初からすべてのことを話すのが負担だから」(26.2%)の割合が高い。



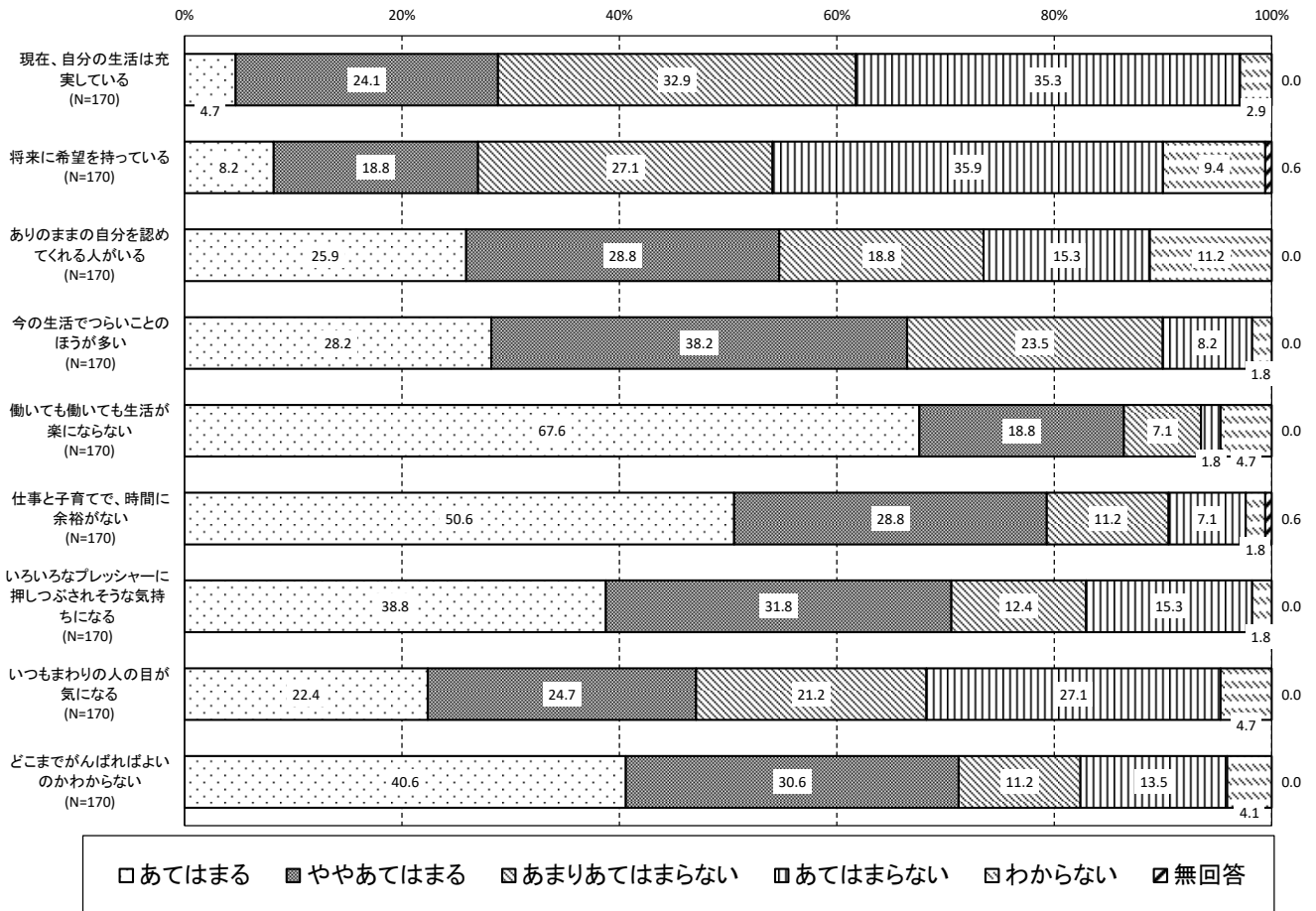
第4章 保護者編

(6) 生活意識について

問 17 あなたの現在の生活意識について教えてください。(それぞれ1つに○)

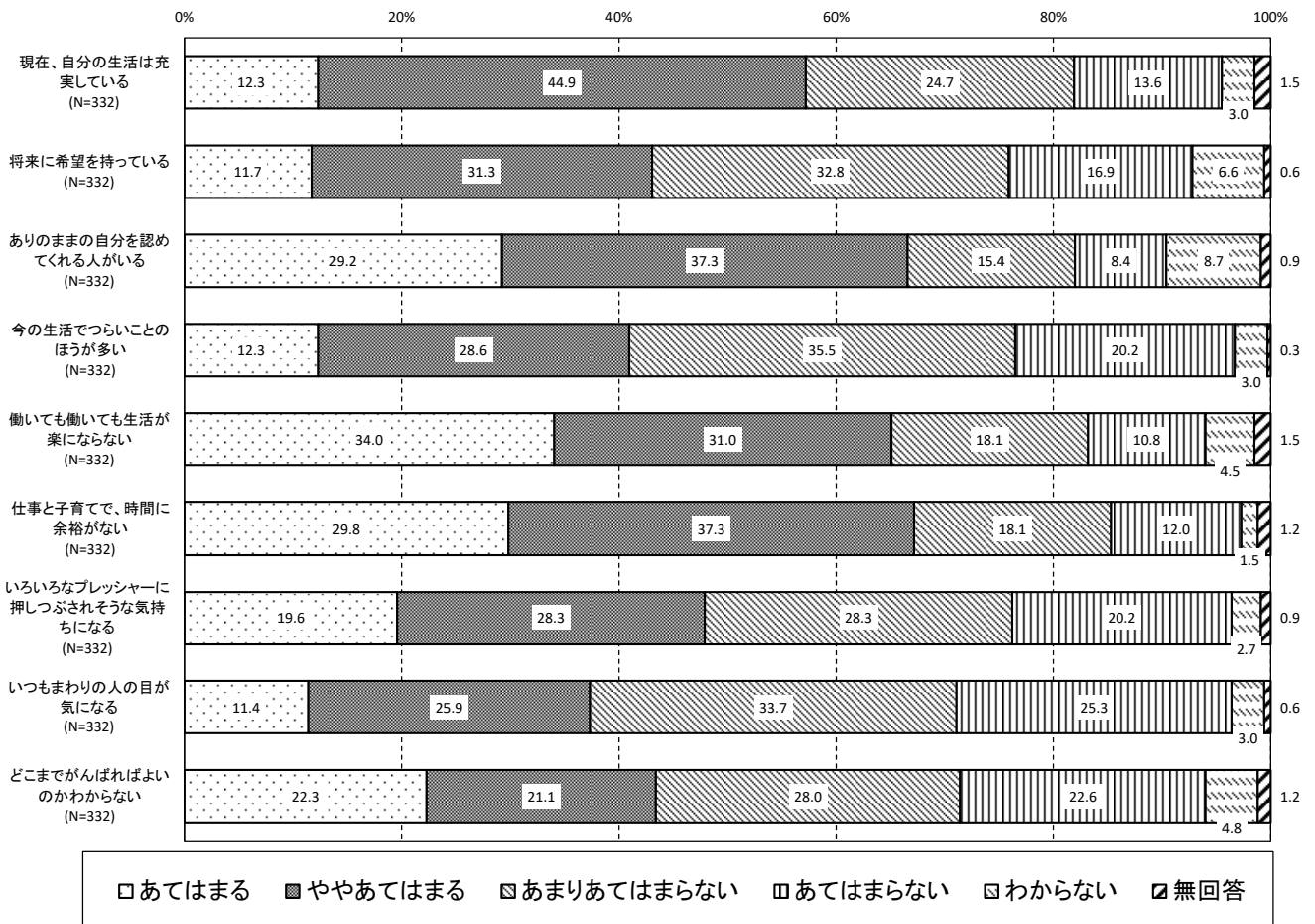
【生活困難世帯別（困窮層）】

「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた割合をみると、『働いても働いても生活が楽にならない』が86.4%で最も高く、次いで『仕事と子育てで、時間に余裕がない』が79.4%、『どこまでがんばればよいかわからない』が71.2%、『いろいろなプレッシャーに押しつぶされそうな気持ちになる』が70.6%と続く。



【生活困難世帯別（周辺層）】

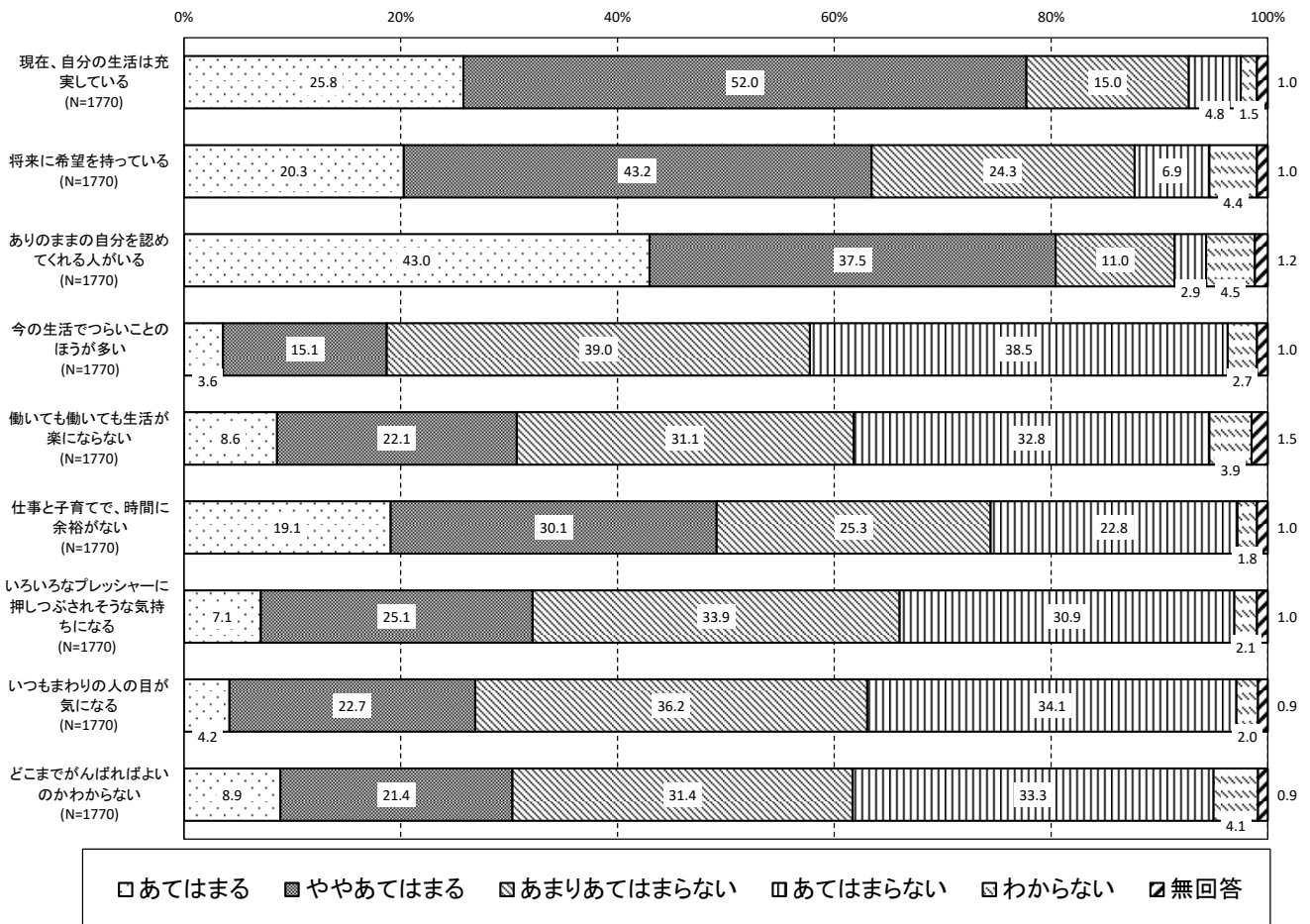
「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた割合をみると、『仕事と子育てで、時間に余裕がない』が67.1%で最も高く、次いで『ありのままの自分を認めてくれる人がいる』が66.5%、『働いても働いても生活が楽にならない』が65.0%と続く。



第4章 保護者編

【生活困難世帯別（一般層）】

「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた割合をみると、『ありのままの自分を認めてくれる人がいる』が80.5%で最も高く、次いで『現在、自分の生活は充実している』が77.8%、『将来に希望を持っている』が63.5%と続く。



3. 子どもとの過ごし方

(1) 子どもと過ごす時間が長い人

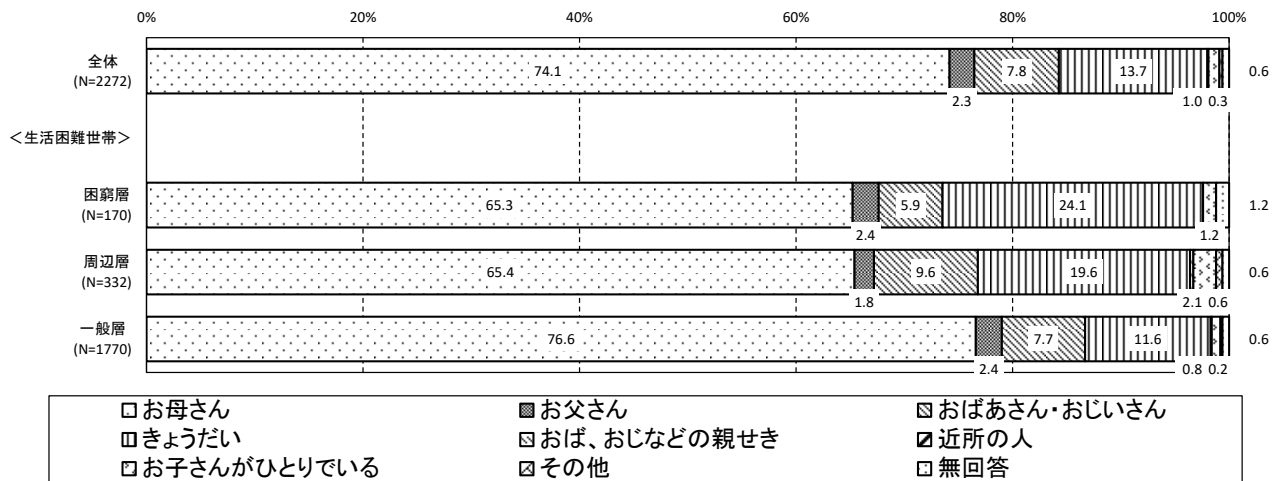
問2 お子さんが家にいるとき、主にお子さんと過ごす時間が長いのはどなたですか。

(お子さんから見た関係で)(○は1つ)

全体では、「お母さん」が74.1%で最も高く、次いで「きょうだい」が13.7%と続く。

【生活困難世帯別】

「お母さん」の割合は、困窮層では65.3%、周辺層では65.4%、一般層では76.6%となり、困窮度が高まるにつれて低くなる。一方「きょうだい」の割合は、困窮層では24.1%、周辺層では19.6%、一般層では11.6%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。



第4章 保護者編

(2) 子どもが頼りにしている大人

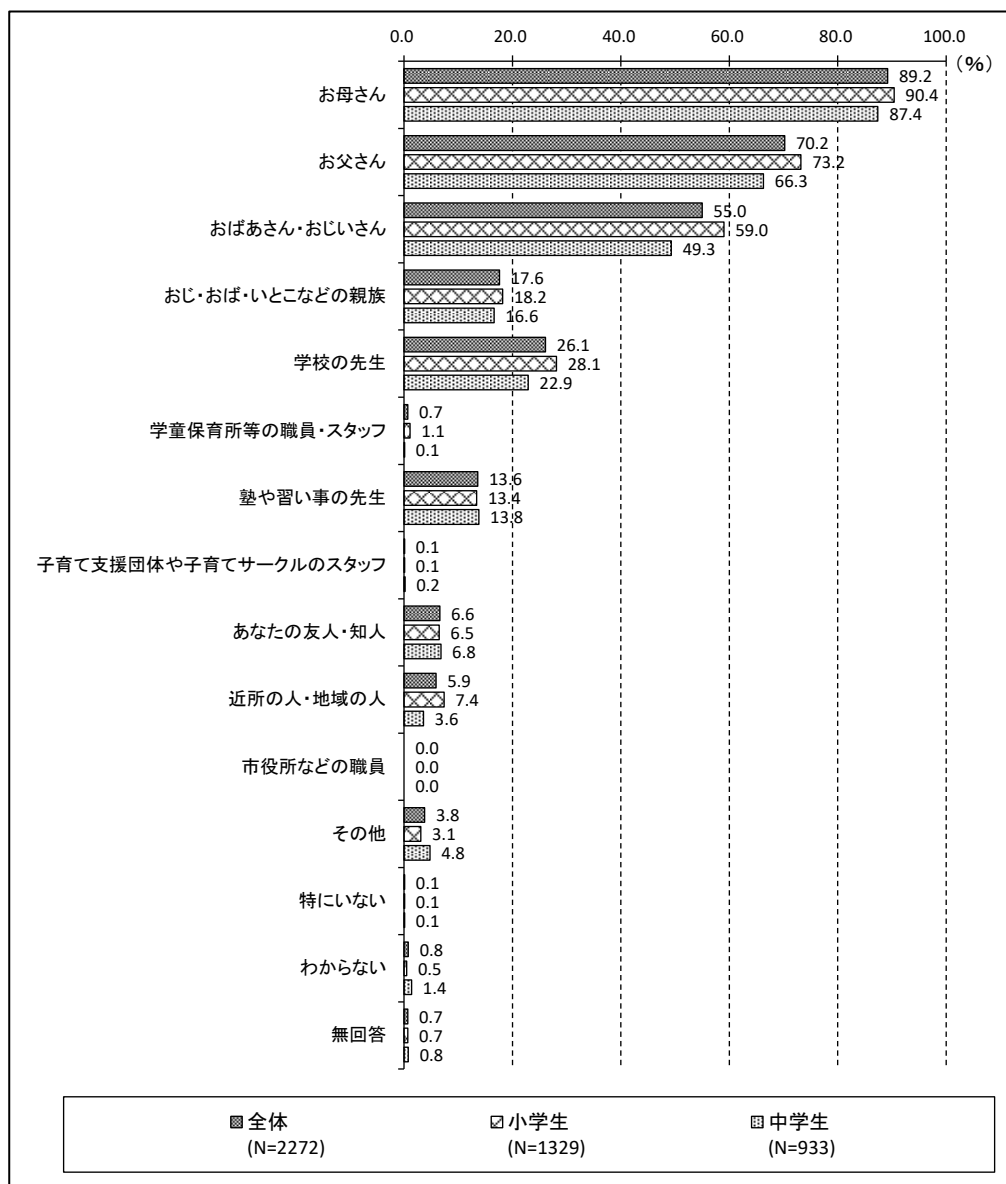
問3 あなたから見て、お子さんが頼りにしていると思われる大人がいますか。

(子どもからみた関係で、あてはまるものすべてに○)

全体では、「お母さん」が89.2%で最も高く、次いで「お父さん」が70.2%、「おばあさん・おじいさん」が55.0%と続く。

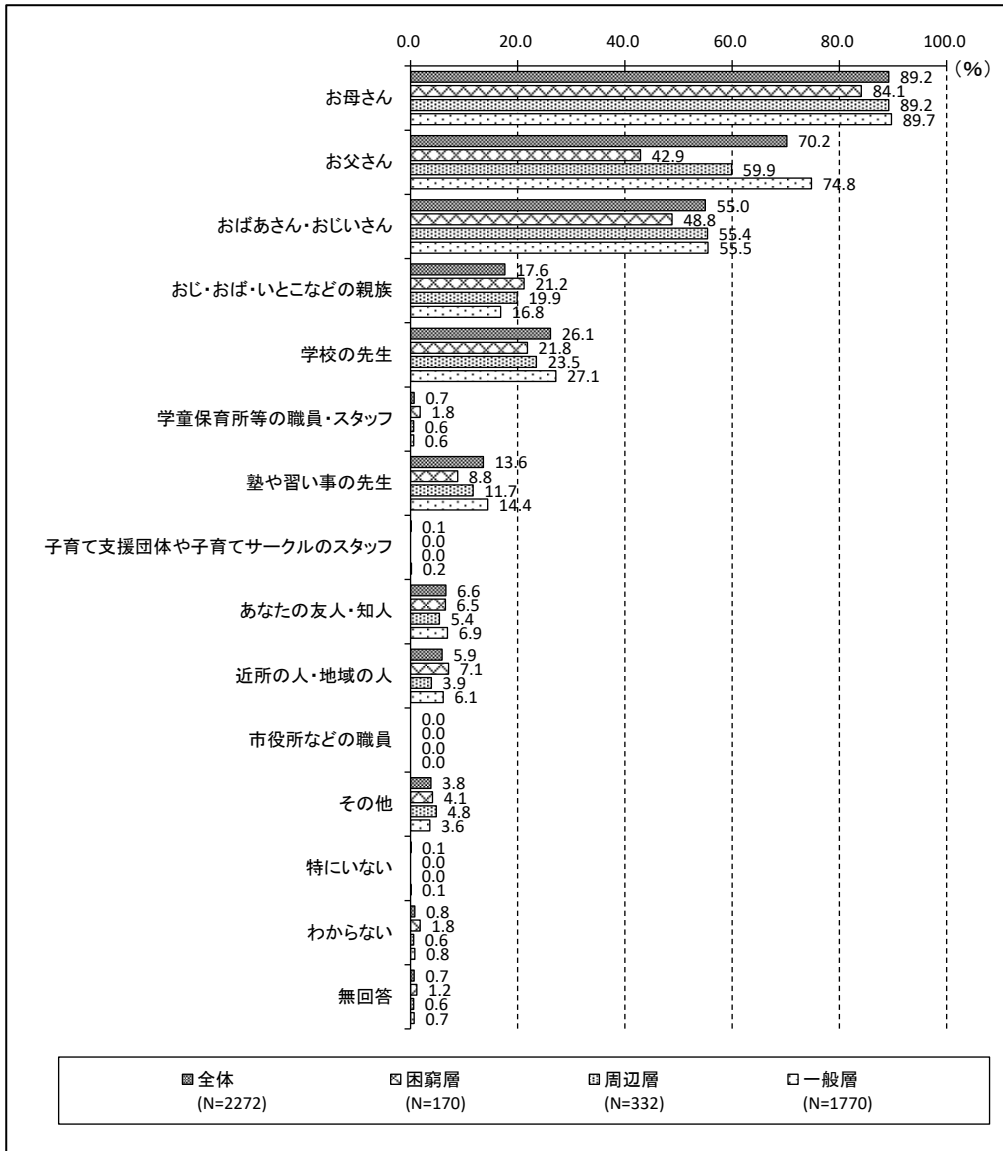
【学年別】

小学生、中学生ともに「お母さん」の割合が最も高く、小学生では90.4%、中学生では87.4%となっている。



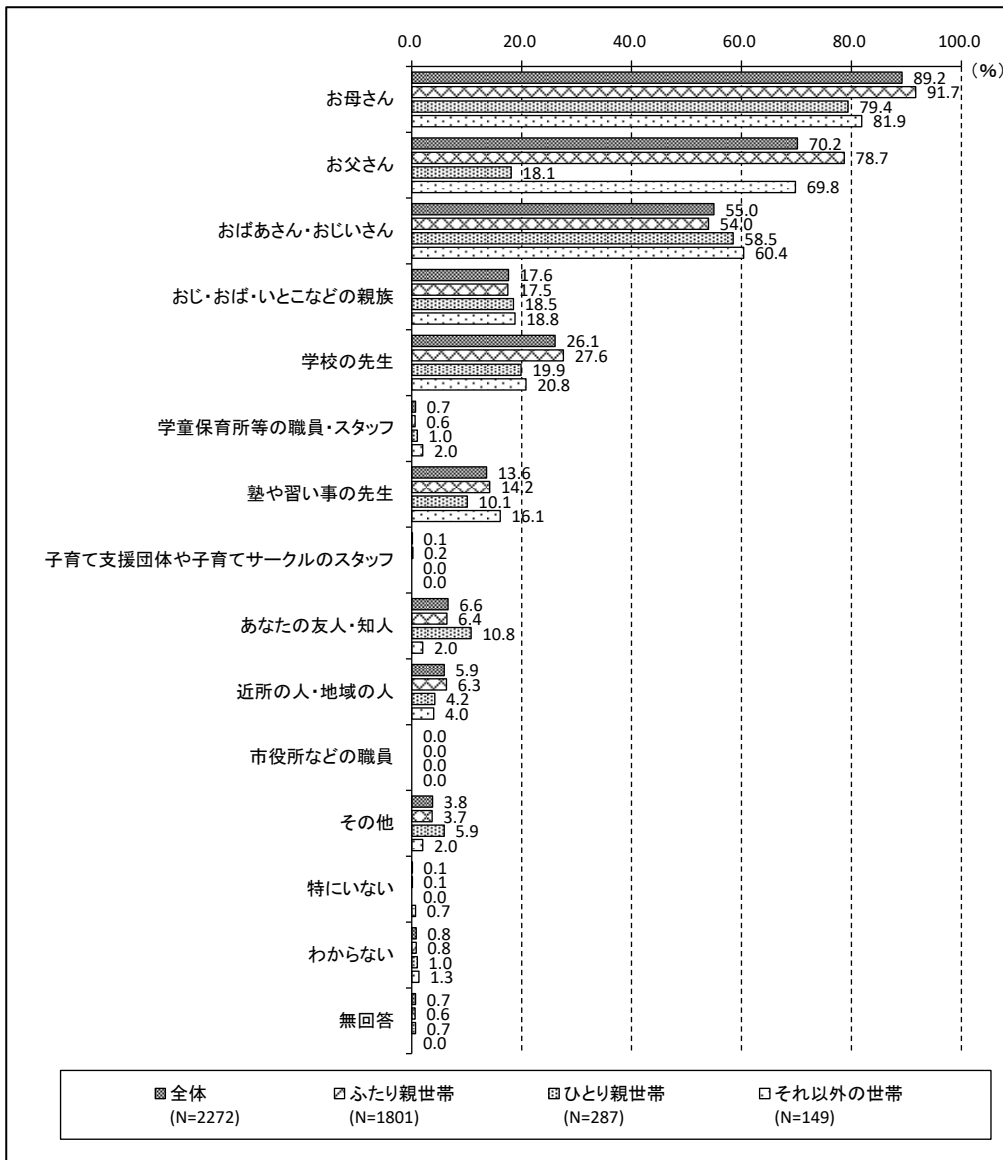
【生活困難世帯別】

「お母さん」「お父さん」「おばあさん・おじいさん」「学校の先生」「塾の習い事の先生」の割合は、困窮度が高まるにつれ低くなり、特に「お父さん」は困窮層では42.9%、一般層では74.8%と大きな差がみられる。



【世帯類型別】

ふたり親世帯とひとり親世帯の割合に着目すると、「お母さん」「お父さん」「学校の先生」「塾や習い事の先生」「近所の人・地域の人」ではひとり親世帯よりもふたり親世帯の割合が高く、特に「お父さん」はふたり親世帯では78.7%であるのに対し、ひとり親世帯では18.1%と非常に大きな差がみられる。



(3)子どもとの過ごし方【お子さんの勉強をみる】

問4 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。

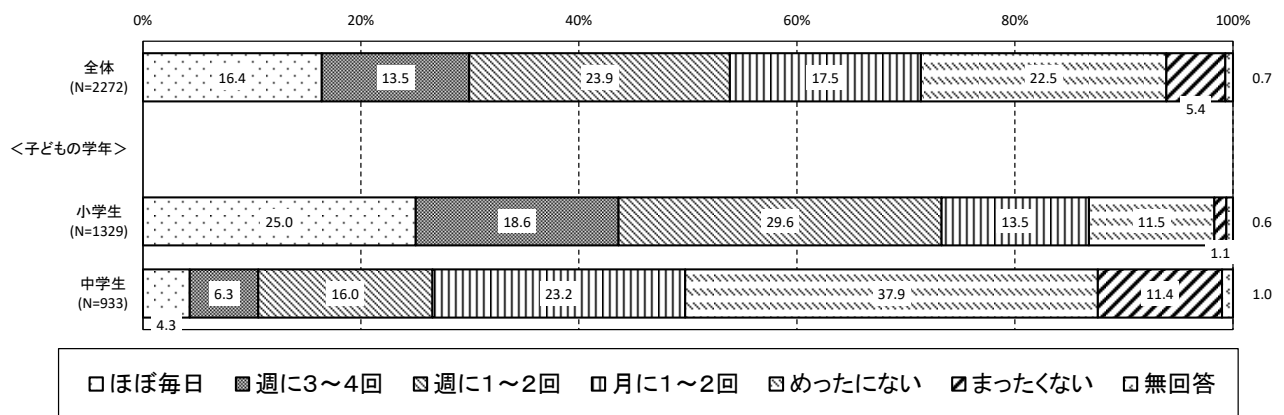
(それぞれ○は1つ)

1. お子さんの勉強をみる

全体では、「週に1~2回」が23.9%で最も高く、次いで「めったにない」が22.5%と続く。

【学年別】

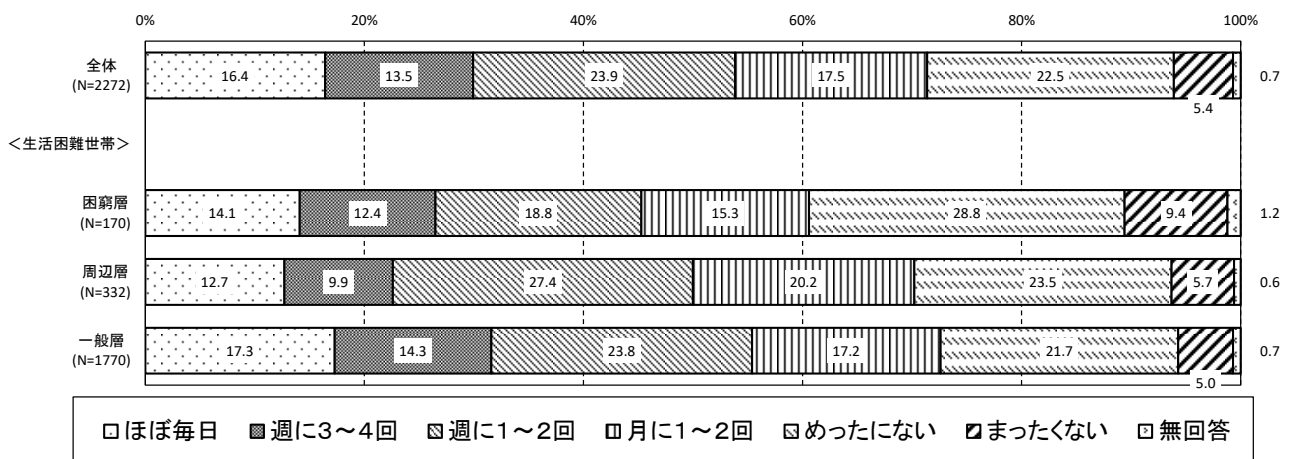
小学生では「週に1~2回」が29.6%で最も高く、中学生では「めったにない」が37.9%で最も高い。



【生活困難世帯別】

「めったにない」の割合は、困窮層では28.8%、周辺層では23.5%、一般層では21.7%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「まったくない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では9.4%、周辺層では5.7%、一般層では5.0%となっている。



第4章 保護者編

(4)子どもとの過ごし方【お子さんと運動をする】

問4 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。

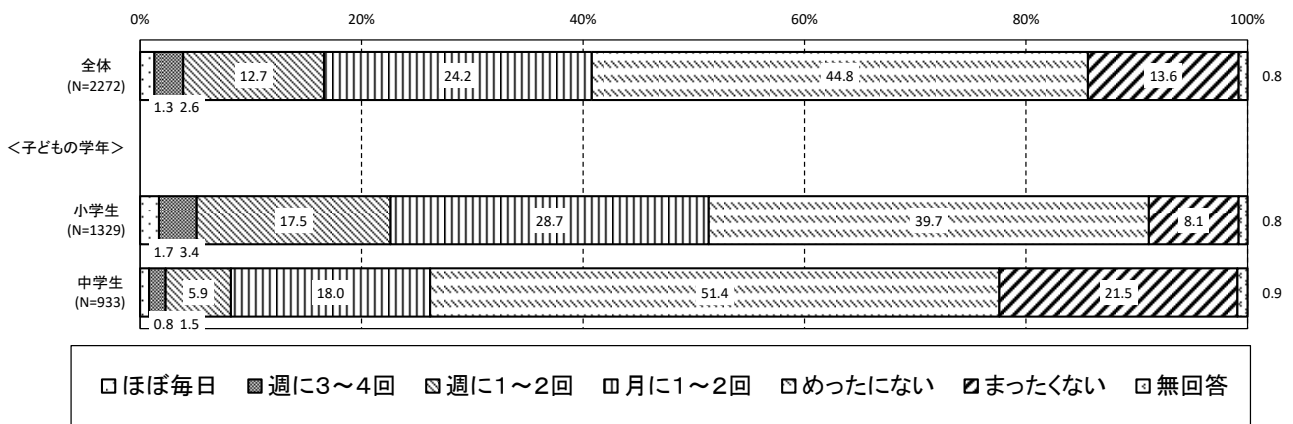
(それぞれ○は1つ)

2. お子さんと運動をする

全体では、「めったにない」が44.8%で最も高く、次いで「月に1～2回」が24.2%と続く。

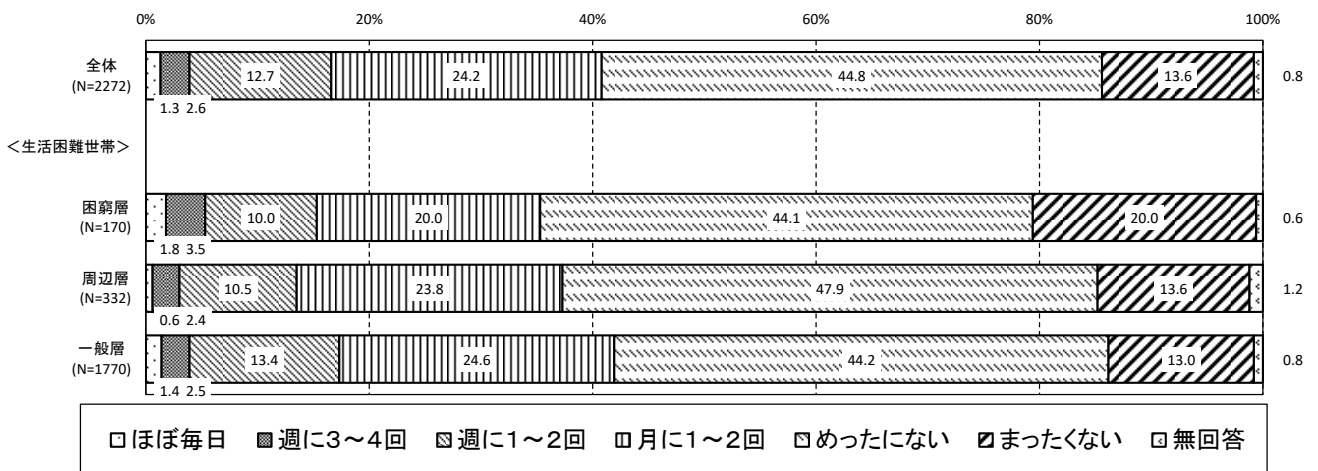
【学年別】

小学生、中学生ともに「めったにない」の割合が最も高く、小学生では39.7%、中学生では51.4%となっている。



【生活困難世帯別】

「まったくない」の割合は、困窮層では20.0%、周辺層では13.6%、一般層では13.0%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。



(5)子どもとの過ごし方【お子さんと電子機器で遊ぶ】

問4 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。

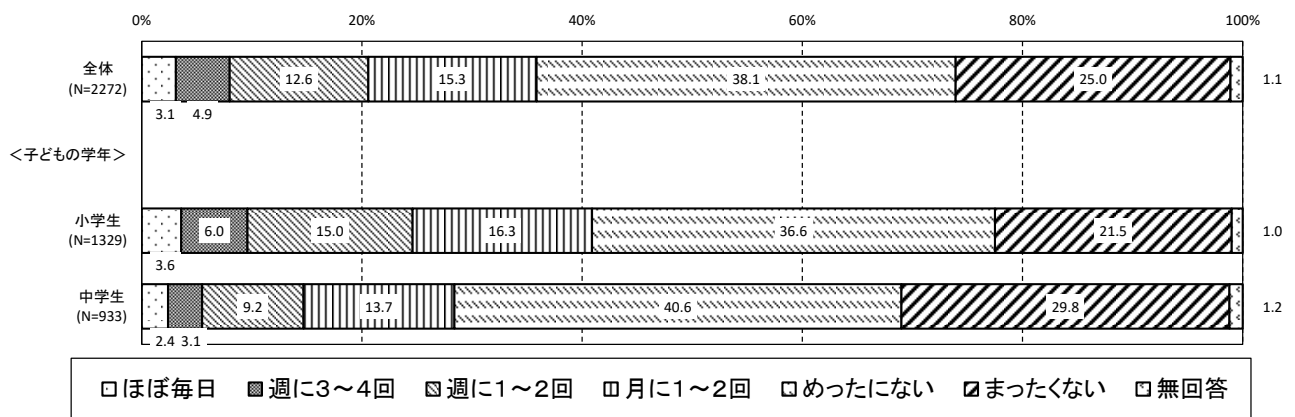
(それぞれ○は1つ)

3. お子さんと電子機器で遊ぶ

全体では、「めったにない」が38.1%で最も高く、次いで「まったくない」が25.0%と続く。

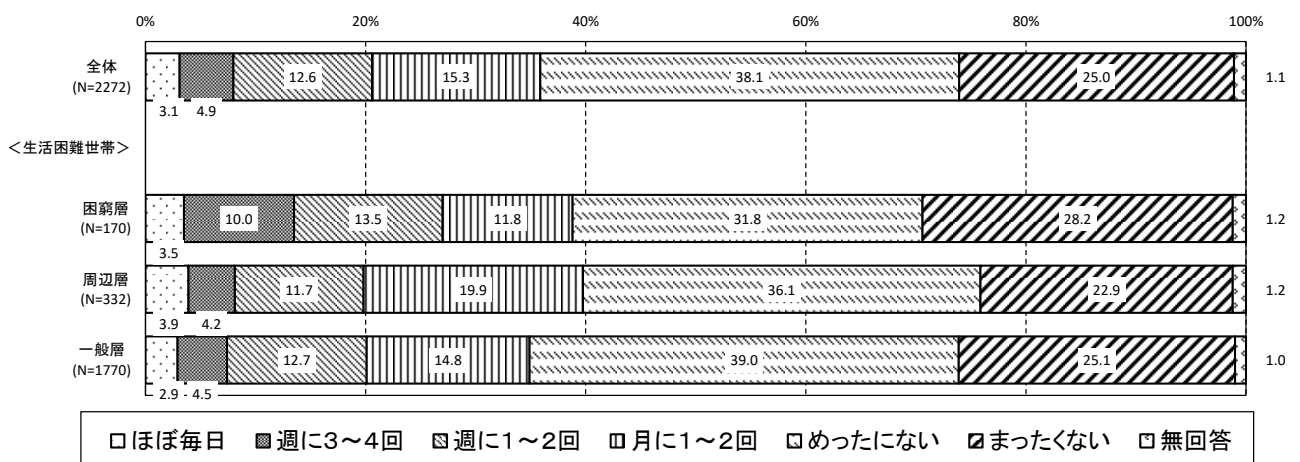
【学年別】

小学生、中学生ともに「めったにない」の割合が最も高く、小学生では36.6%、中学生では40.6%となっている。



【生活困難世帯別】

「ほぼ毎日」「週に3~4回」「週に1~2回」をあわせた「週に1回以上」の割合は困窮層が最も高く、困窮層では27.0%、周辺層では19.8%、一般層では20.1%となっている。



第4章 保護者編

(6)子どもとの過ごし方【お子さんと電子機器以外で遊ぶ】

問4 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることができますか。

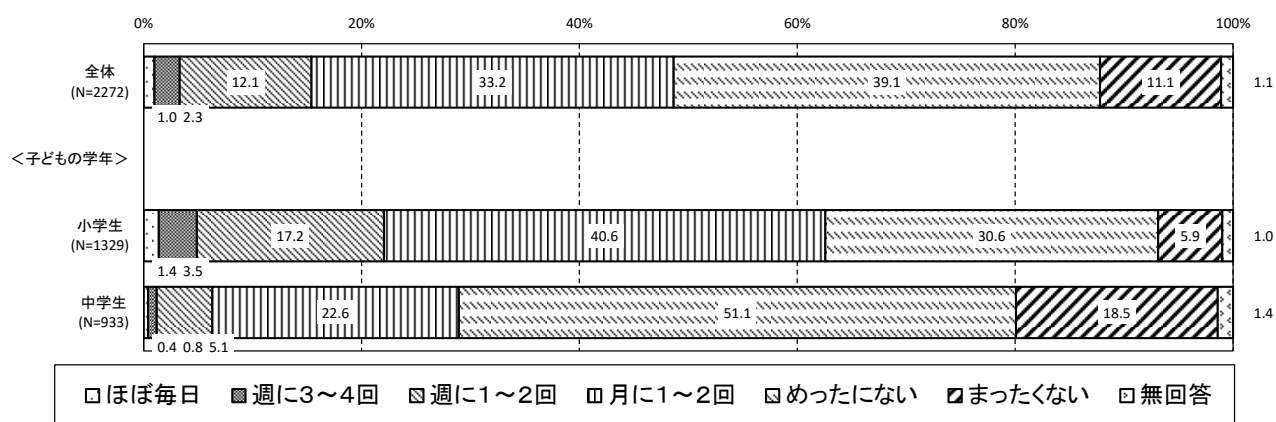
(それぞれ○は1つ)

4. お子さんと電子機器以外で遊ぶ

全体では、「めったにない」が39.1%で最も高く、次いで「月に1～2回」が33.2%と続く。

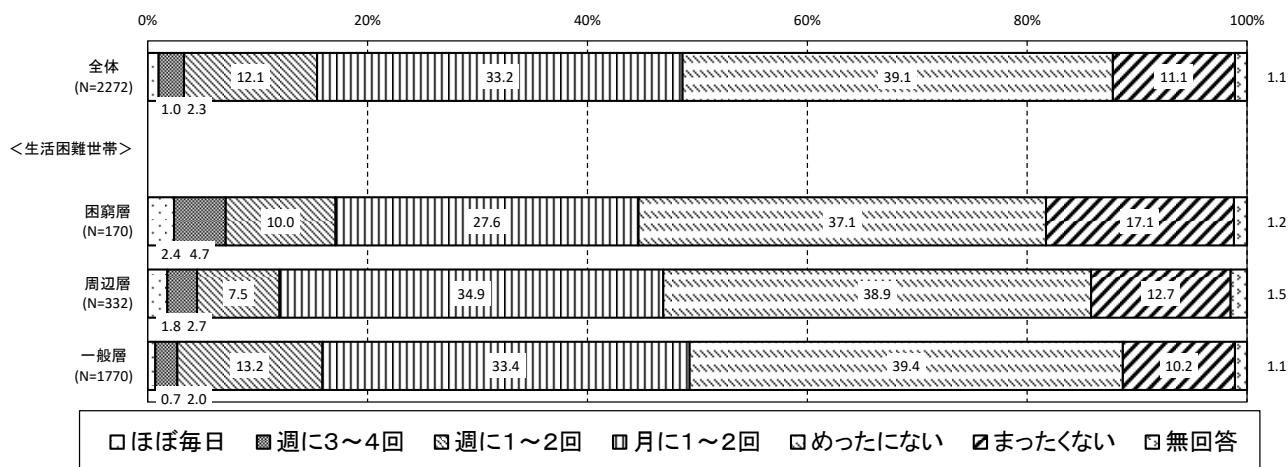
【学年別】

小学生では「月に1～2回」が40.6%で最も高く、中学生では「めったにない」が51.1%で最も高い。



【生活困難世帯別】

「まったくない」の割合は、困窮層では17.1%、周辺層では12.7%、一般層では10.2%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。



(7)子どもとの過ごし方【お子さんと学校生活の話をする】

問4 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。

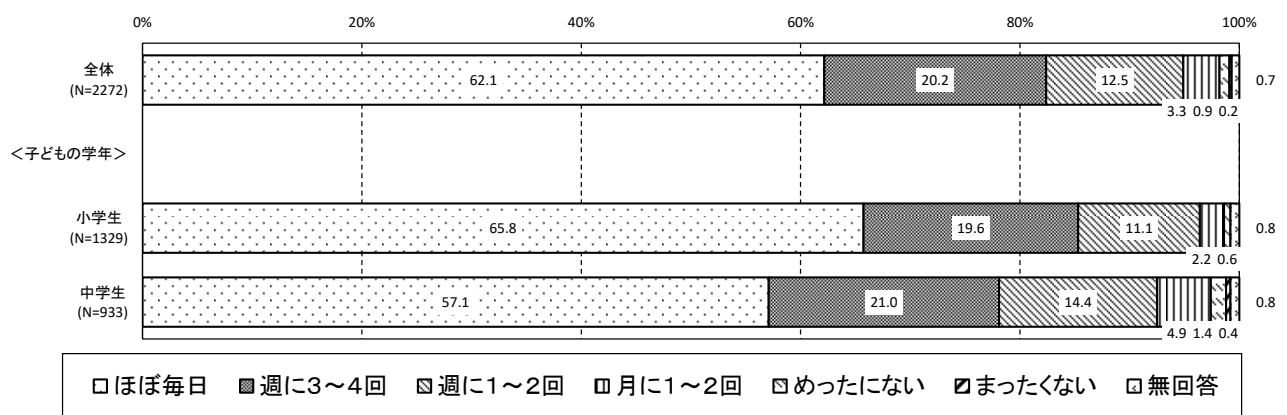
(それぞれ○は1つ)

5. お子さんと学校生活の話をする

全体では、「ほぼ毎日」が62.1%で最も高く、次いで「週に3～4回」が20.2%と続く。

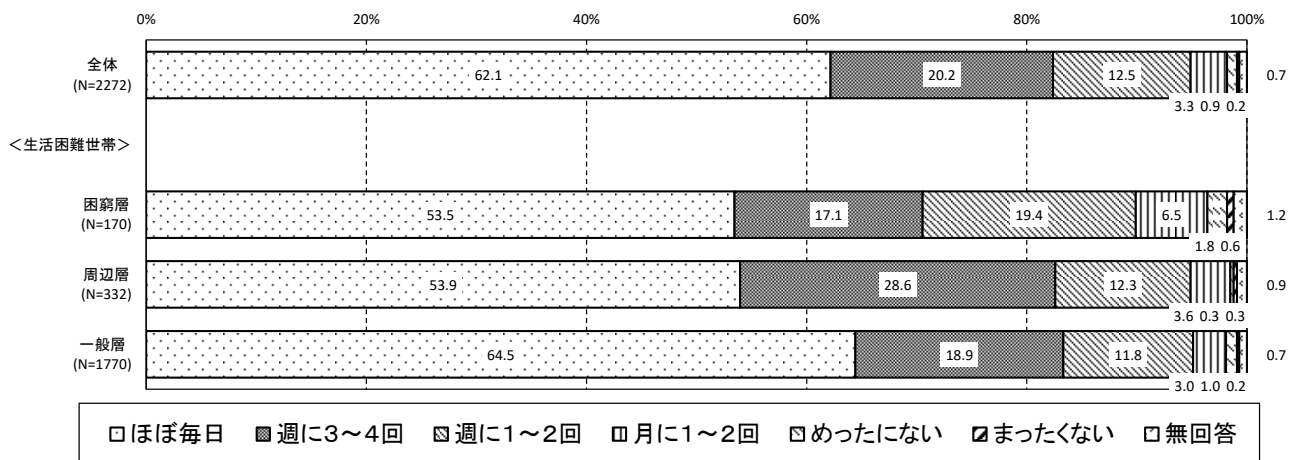
【学年別】

小学生、中学生ともに「ほぼ毎日」の割合が最も高く、小学生では65.8%、中学生では57.1%となっている。



【生活困難世帯別】

「ほぼ毎日」の割合は、困窮層では53.5%、周辺層では53.9%、一般層では64.5%となり、困窮度が高まるにつれて低くなる。



第4章 保護者編

(8)子どもとの過ごし方【お子さんと政治、経済、社会問題などのニュースの話をする】

問4 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。

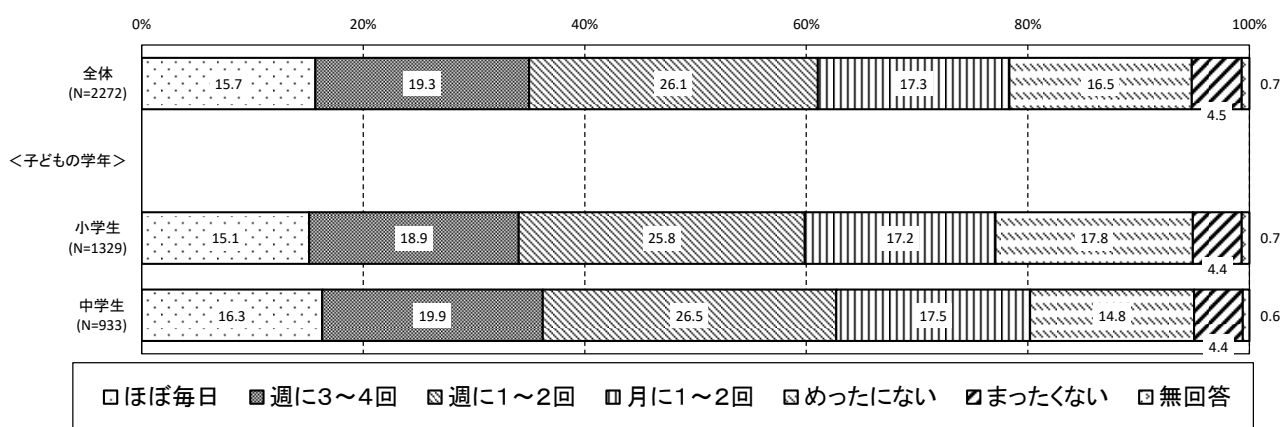
(それぞれ○は1つ)

6. お子さんと政治、経済、社会問題などのニュースの話をする

全体では、「週に1～2回」が26.1%で最も高く、次いで「週に3～4回」が19.3%、「月に1～2回」が17.3%と続く。

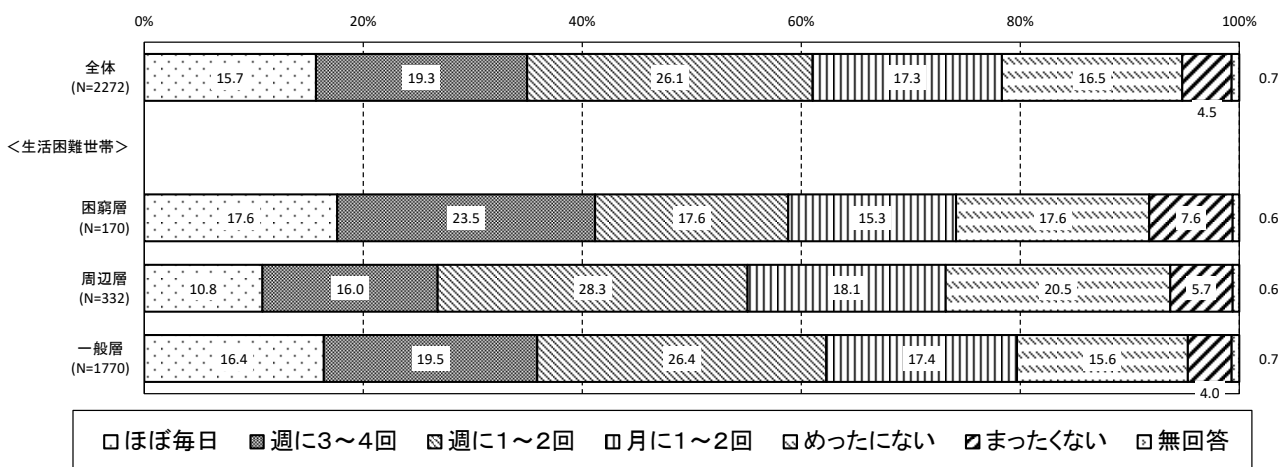
【学年別】

小学生、中学生ともに「週に1～2回」の割合が最も高く、小学生では25.8%、中学生では26.5%となっている。



【生活困難世帯別】

「めったにない」「まったくくない」を合わせた割合は、困窮層では25.2%、周辺層では26.2%、一般層では19.6%となり、困窮層・周辺層と比較して一般層の割合が低い。



(9)子どもとの過ごし方【お子さんとテレビ（ニュースを除く）の話をする】

問4 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。

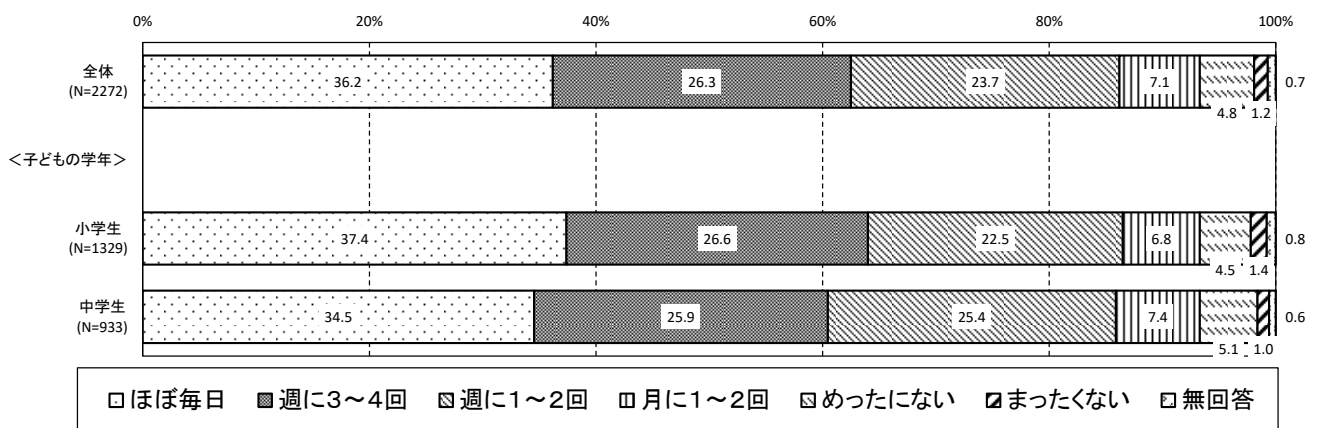
(それぞれ○は1つ)

7. お子さんとテレビ（ニュースを除く）の話をする

全体では、「ほぼ毎日」が36.2%で最も高く、次いで「週に3～4回」が26.3%、「週に1～2回」が23.7%と続く。

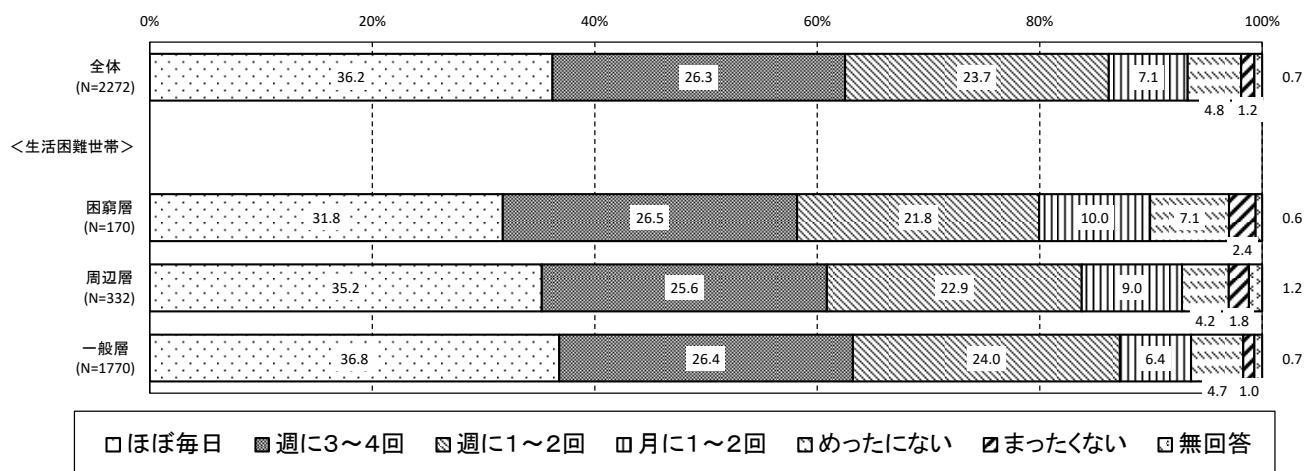
【学年別】

小学生、中学生ともに「ほぼ毎日」の割合が最も高く、小学生では37.4%、中学生では34.5%となっている。



【生活困難世帯別】

生活困難世帯別にみても、特に大きな差はみられないが、困窮層では「めったにない」「まったくない」を合わせた割合が9.5%となり、周辺層・一般層と比較してやや高い。



第4章 保護者編

(10)子どもとの過ごし方【お子さんと一緒に料理をする】

問4 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。

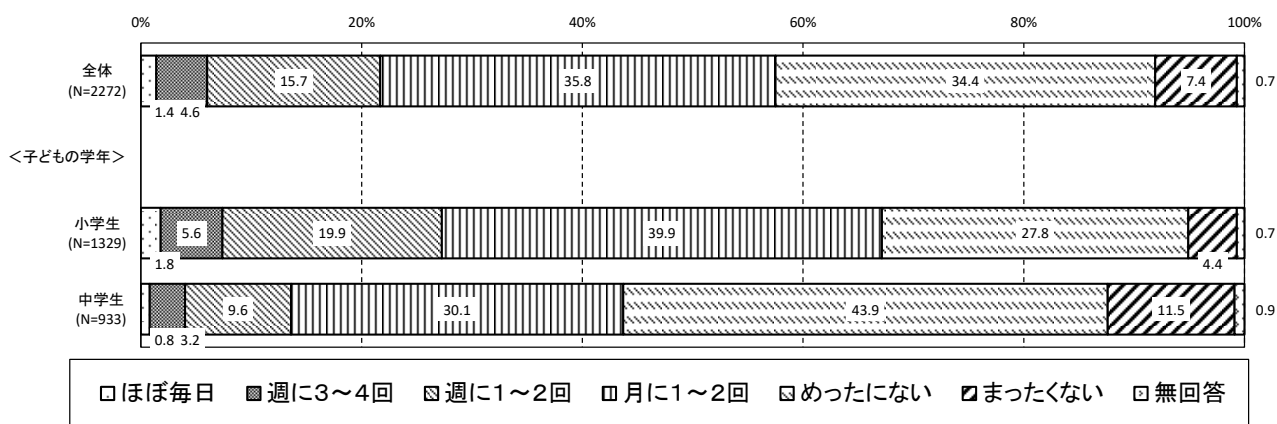
(それぞれ○は1つ)

8. お子さんと一緒に料理をする

全体では、「月に1～2回」が35.8%で最も高く、次いで「めったにない」が34.4%と続く。

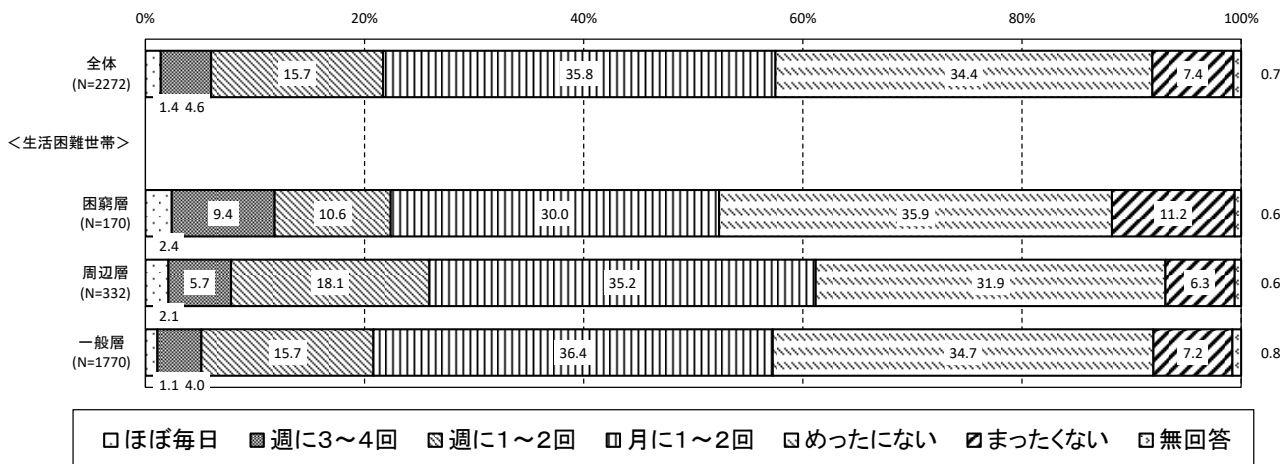
【学年別】

小学生では「月に1～2回」が39.9%で最も高く、中学生では「めったにない」が43.9%で最も高い。



【生活困難世帯別】

「ほぼ毎日」「週に3～4回」を合わせた割合は、困窮層では11.8%、周辺層では7.8%、一般層では5.1%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。



(11)子どもとの過ごし方【お子さんと一緒に外出する（遊びやイベント等）】

問4 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。

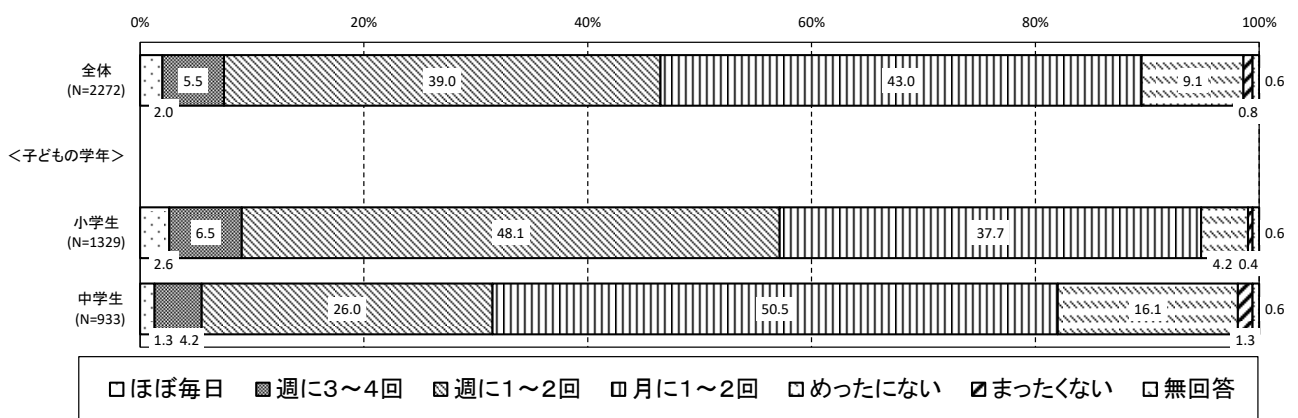
(それぞれ○は1つ)

9. お子さんと一緒に外出する（遊びやイベント等）

全体では、「月に1～2回」が43.0%で最も高く、次いで「週に1～2回」が39.0%と続く。

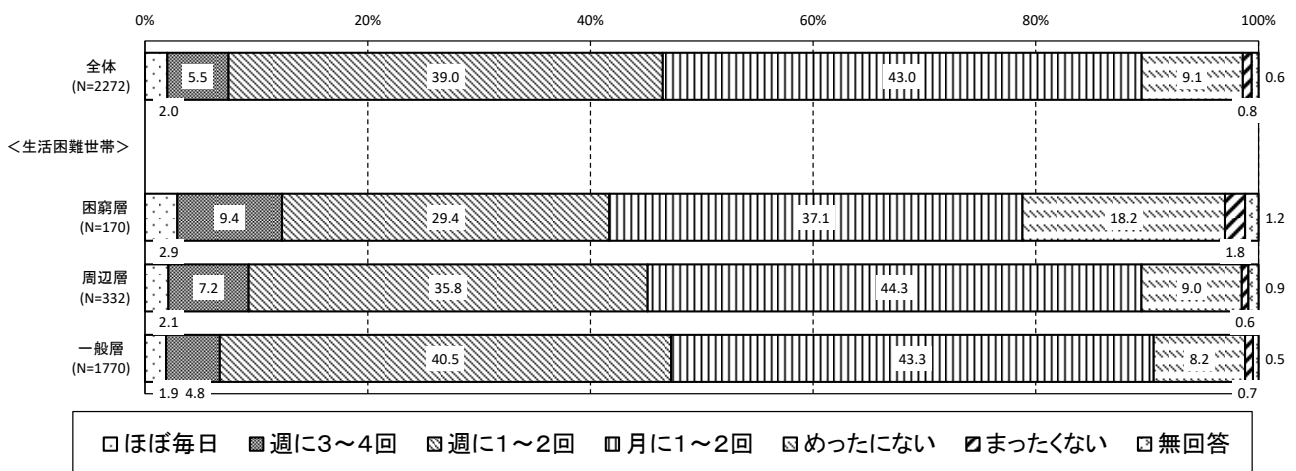
【学年別】

小学生では「週に1～2回」が48.1%で最も高く、中学生では「月に1～2回」が50.5%で最も高い。



【生活困難世帯別】

「めったにない」の割合は、困窮層では18.2%、周辺層では9.0%、一般層では8.2%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。



第4章 保護者編

(12)子どもとの過ごし方【お子さんといっしょに外出する（食事や買い物等）】

問4 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。

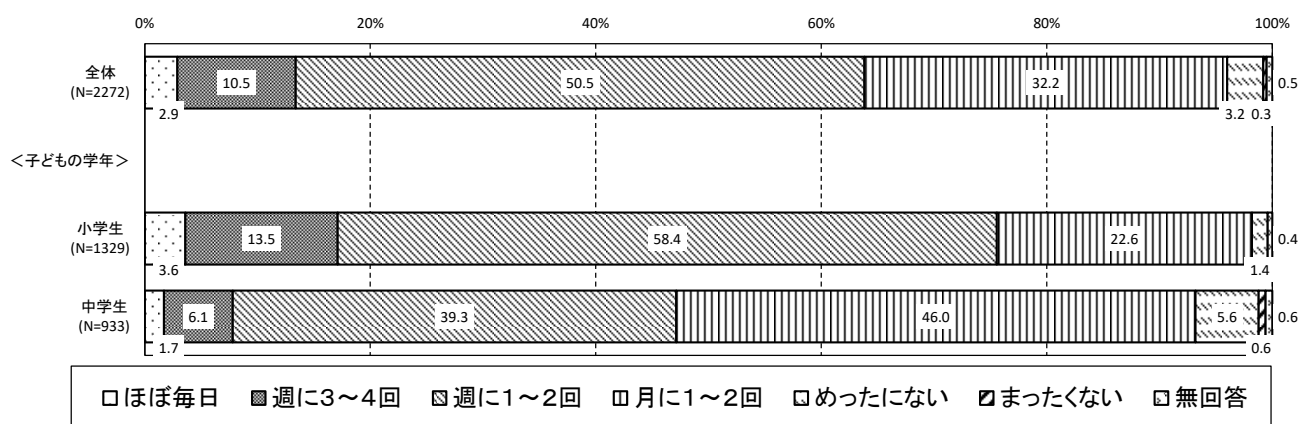
(それぞれ○は1つ)

10. お子さんといっしょに外出する（食事や買い物等）

全体では、「週に1～2回」が50.5%で最も高く、次いで「月に1～2回」が32.2%と続く。

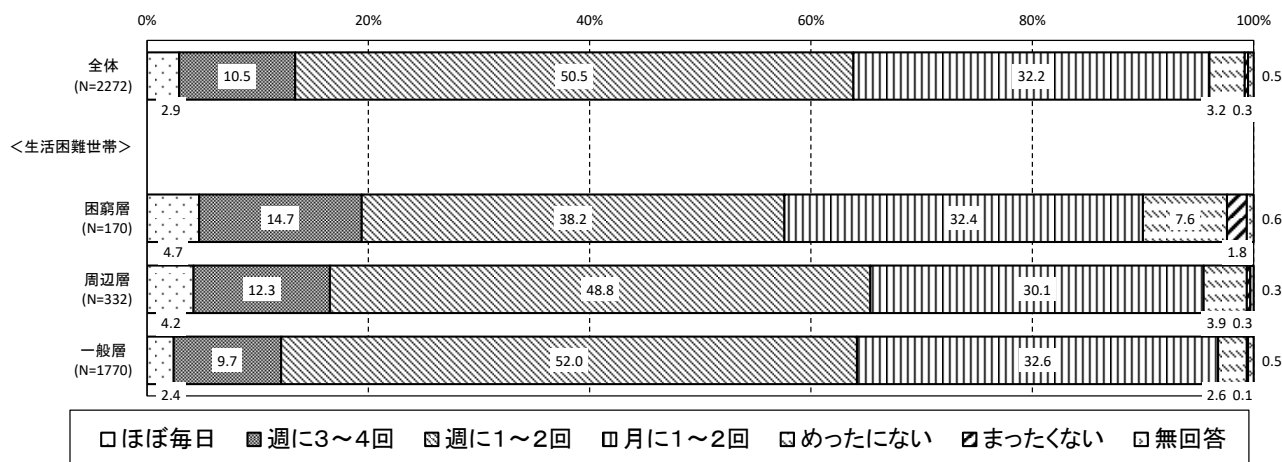
【学年別】

小学生では「週に1～2回」が58.4%で最も高く、中学生では「月に1～2回」が46.0%で最も高い。



【生活困難世帯別】

「ほぼ毎日」「週に3～4回」を合わせた割合は、困窮層では19.4%、周辺層では16.5%、一般層では12.1%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。



4. 子どもの進路

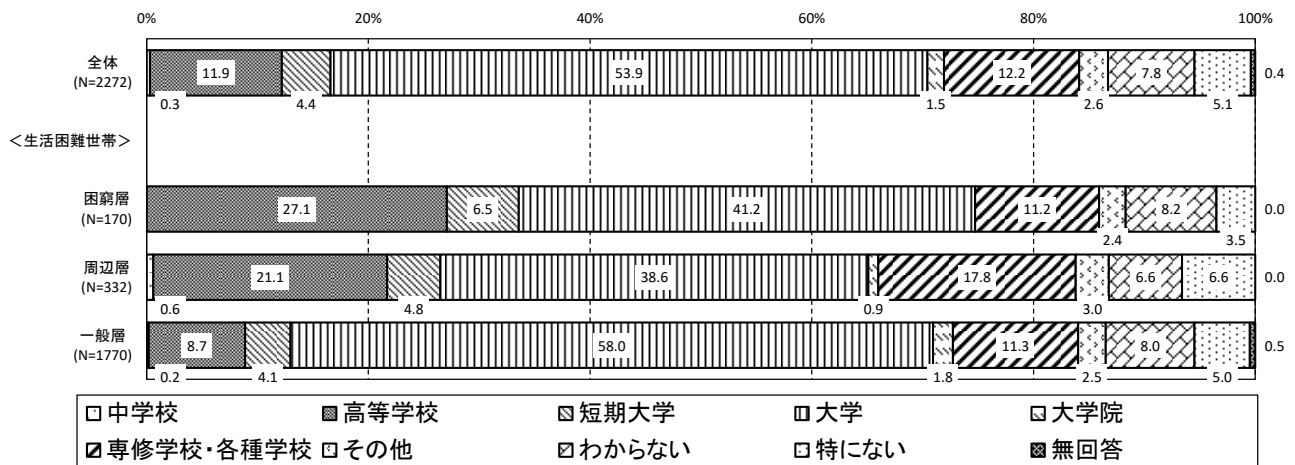
(1) 子どもの希望最終学歴

問7 あなたは、お子さんの最終進路としてどの学校を希望していますか。(〇は1つ)

全体では、「大学」が53.9%で最も高く、次いで「専修学校・各種学校」が12.2%、「高等学校」が11.9%と続く。

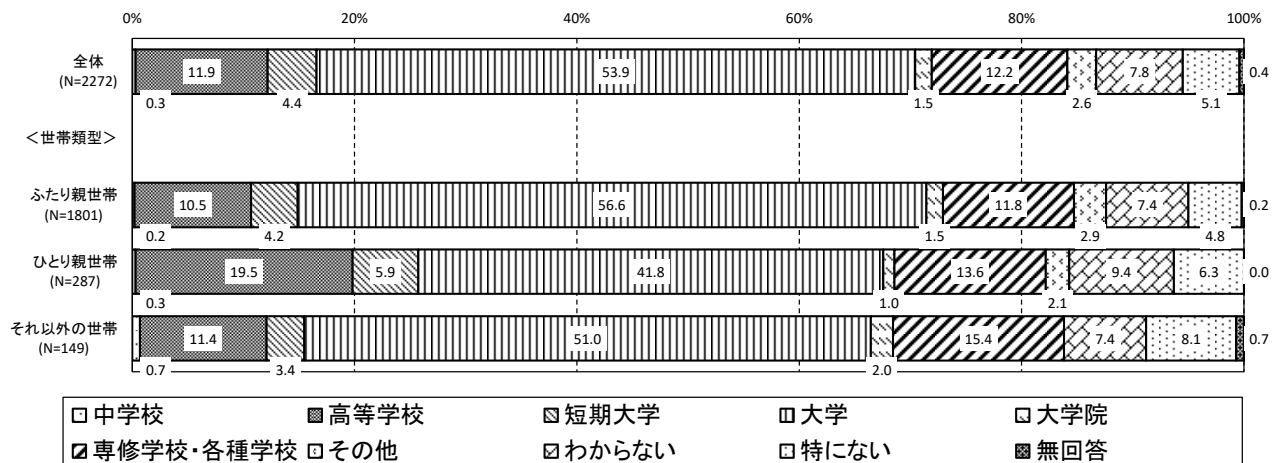
【生活困難世帯別】

「高等学校」の割合は、困窮層では27.1%、周辺層では21.1%、一般層では8.7%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。「大学」の割合は、困窮層が41.2%、周辺層が38.6%に対し、一般層では58.0%と高くなっている。



【世帯類型別】

ふたり親世帯とひとり親世帯の割合に着目すると、「高校」の割合はふたり親世帯が10.5%、ひとり親世帯が19.5%とひとり親世帯の方が高く、「大学」の割合はふたり親世帯が56.6%、ひとり親世帯が41.8%とふたり親世帯の方が高くなっている。



第4章 保護者編

(2) 希望通り進学できるか

問7で「1~7」と答えた方(=希望最終学歴を回答した方)におたずねします。

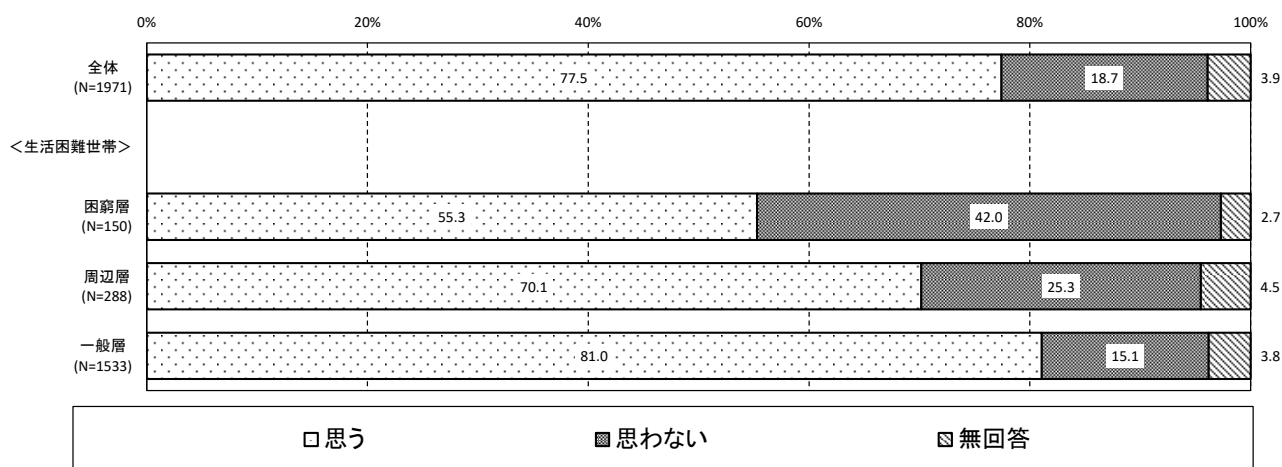
問7-1 あなたはお子さんが問7の希望どおりの学校まで進むことになるとおもいますか。

(○は1つ)

【生活困難世帯別】

全体では、「思う」が77.5%、「思わない」が18.7%となっている。

「思わない」の割合は、困窮層では42.0%、周辺層では25.3%、一般層では15.1%となり、困窮度が高まるにつれ高くなっている。



(3) 希望通り進学できないと思う理由

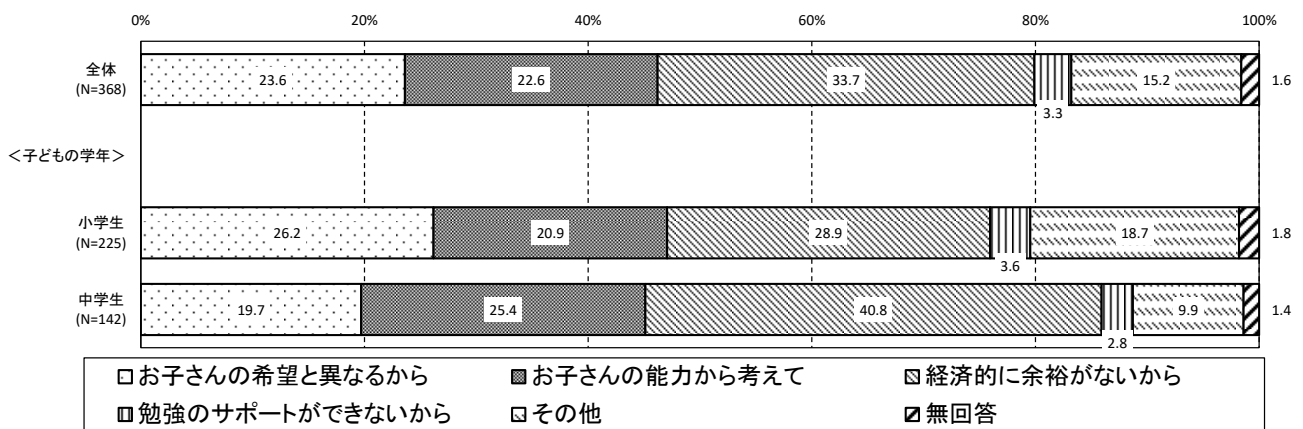
問7-1で「2. 思わない」と答えた方におたずねします。

問7-2 その理由を教えてください。(〇は1つ)

全体では、「経済的に余裕がないから」が33.7%で最も高く、次いで「お子さんの希望と異なるから」が23.6%、「お子さんの能力から考えて」が22.6%と続く。

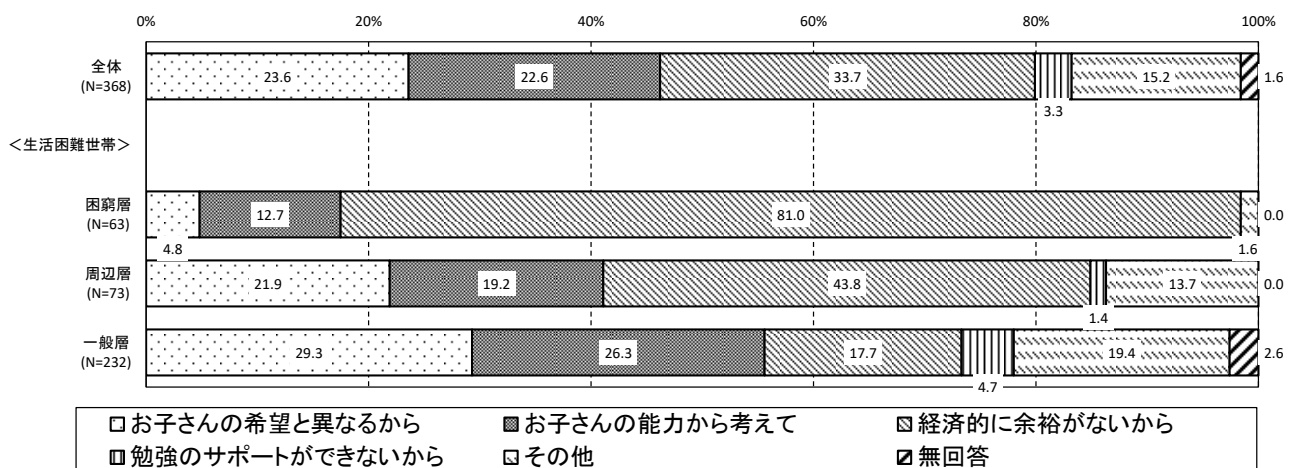
【学年別】

小学生、中学生ともに「経済的に余裕がないから」の割合が最も高く、小学生では28.9%、中学生では40.8%となっている。



【生活困難世帯別】

「経済的に余裕がないから」の割合は困窮層で突出して高く、困窮層では81.0%、周辺層では43.8%、一般層では17.7%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。



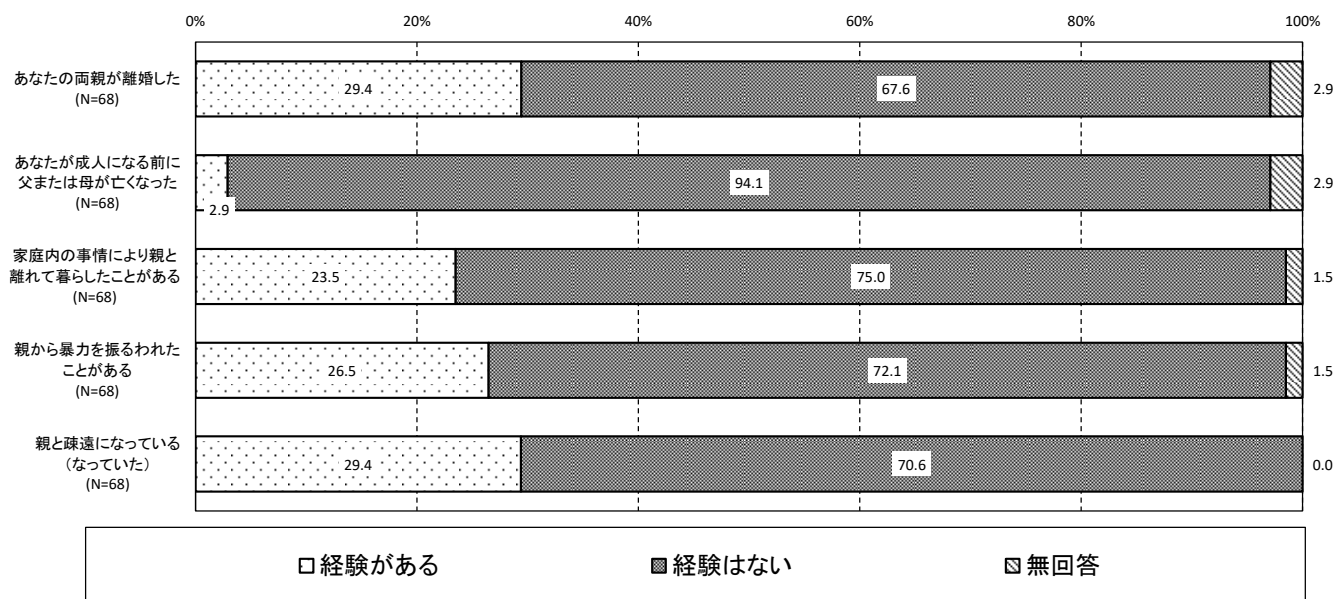
5. これまでの家族との関わり

(1) 家族との関わりについて

問 18 あなた自身の、家族との関わり等についてお答えください。(それぞれ1つに○)

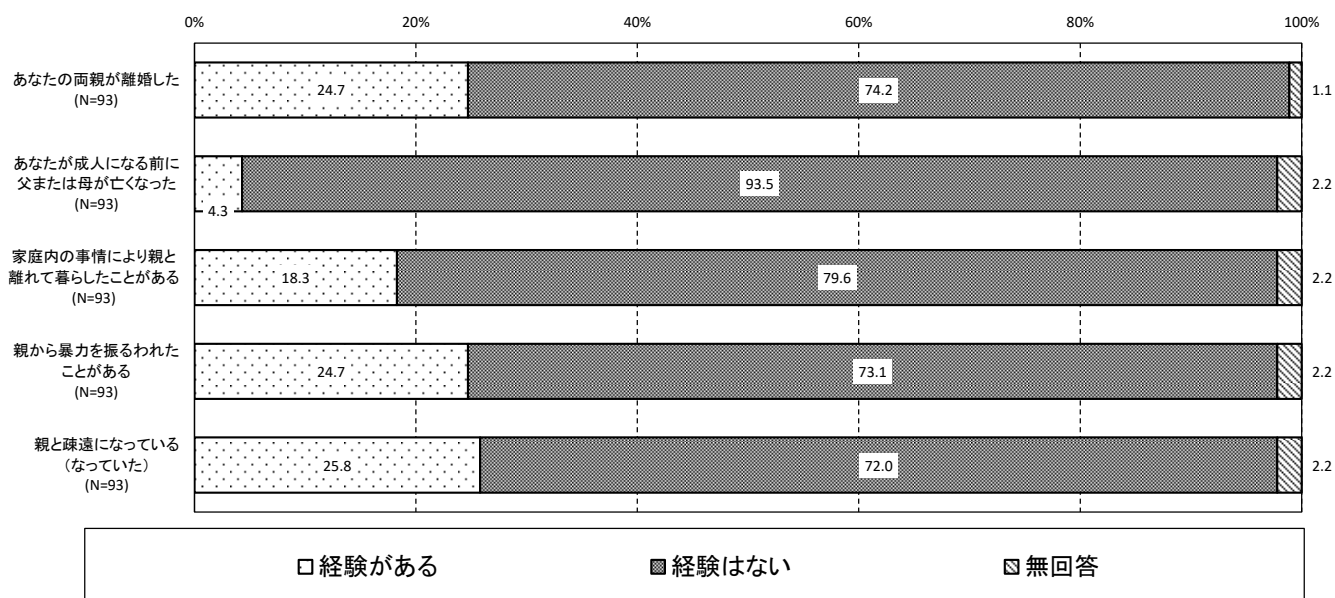
【生活困難世帯別（困窮層・ひとり親世帯）】

「経験がある」割合は、『あなたが成人になる前に父または母が亡くなった』以外の項目でそれぞれ2割以上となっており、『あなたの両親が離婚した・親と疎遠になっている(なっていた)』がそれぞれ29.4%で最も高くなっている。



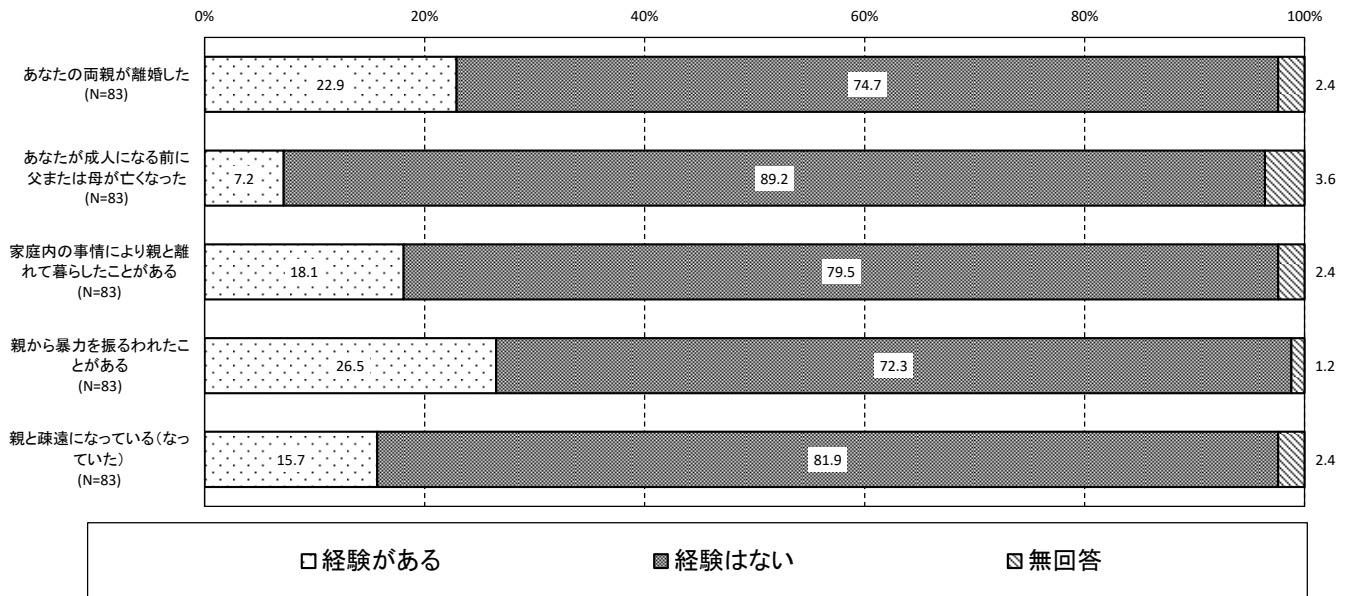
【生活困難世帯別（困窮層・ふたり親世帯）】

「経験がある」の割合は、『親と疎遠になっている(なっていた)』が25.8%で最も高く、次いで『あなたの両親が離婚した』『親から暴力を振るわれたことがある』がそれぞれ24.7%と続く。



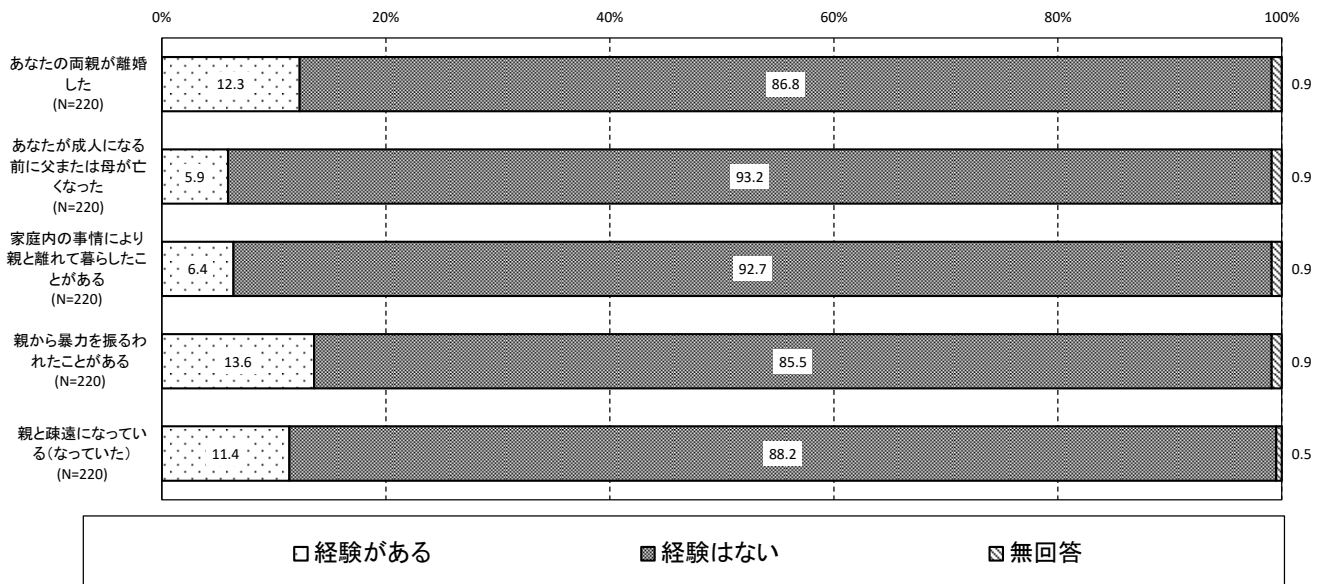
【生活困難世帯別（周辺層・ひとり親世帯）】

「経験がある」の割合は、『親から暴力を振るわれたことがある』が26.5%で最も高く、次いで『あなたの両親が離婚した』が22.9%と続く。



【生活困難世帯別（周辺層・ふたり親世帯）】

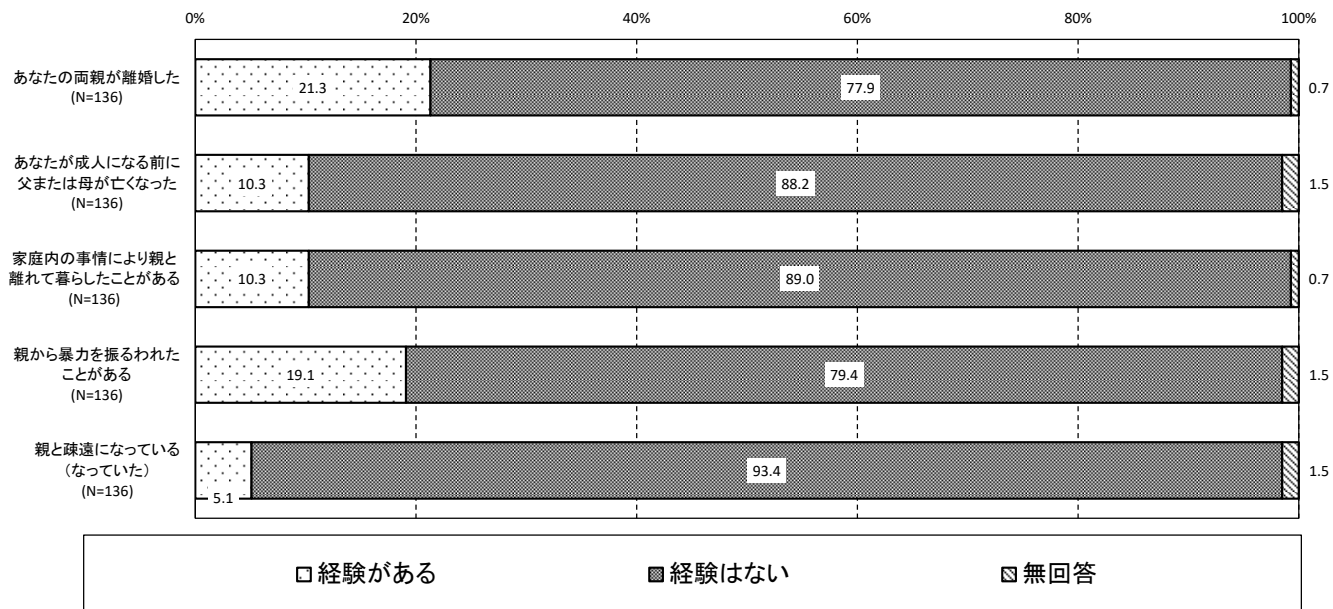
「経験がある」の割合は、『親から暴力を振るわれたことがある』が13.6%で最も高く、次いで『あなたの両親が離婚した』が12.3%と続く。



第4章 保護者編

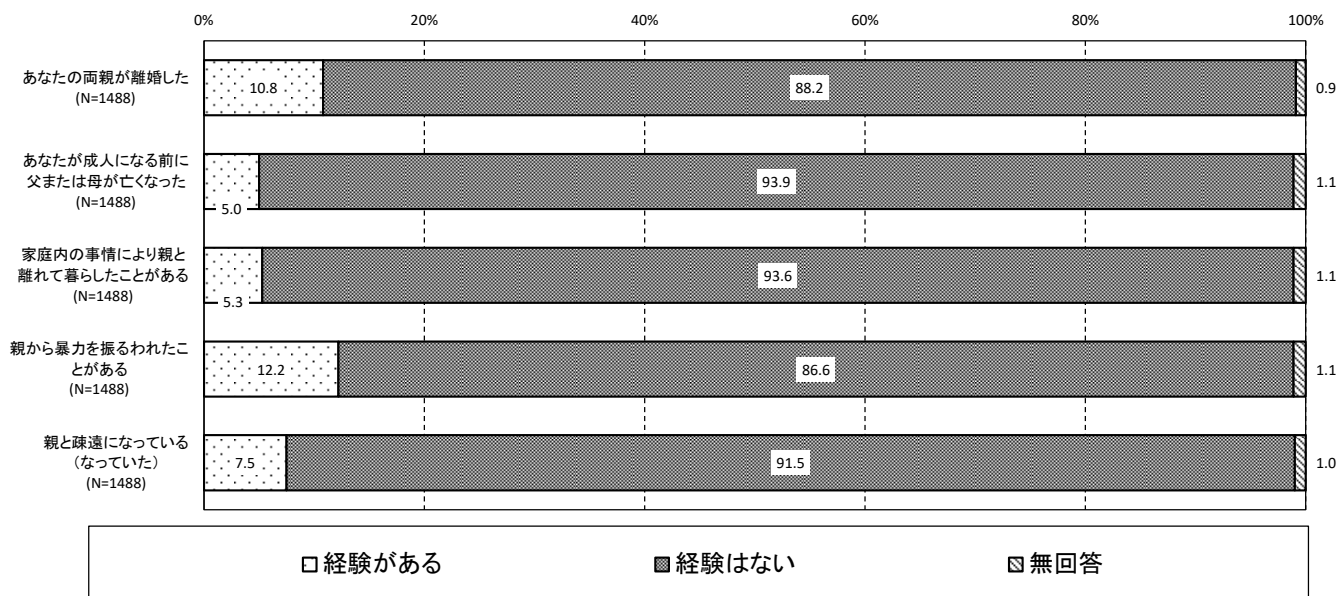
【生活困難世帯別（一般層・ひとり親世帯）】

「経験がある」の割合は、『あなたの両親が離婚した』が21.3%で最も高く、次いで『親から暴力を振るわれたことがある』が19.1%と続く。



【生活困難世帯別（一般層・ふたり親世帯）】

「経験がある」の割合は、『親から暴力を振るわれたことがある』が12.2%で最も高く、次いで『あなたの両親が離婚した』が10.8%と続く。



6. 近所とのつながり

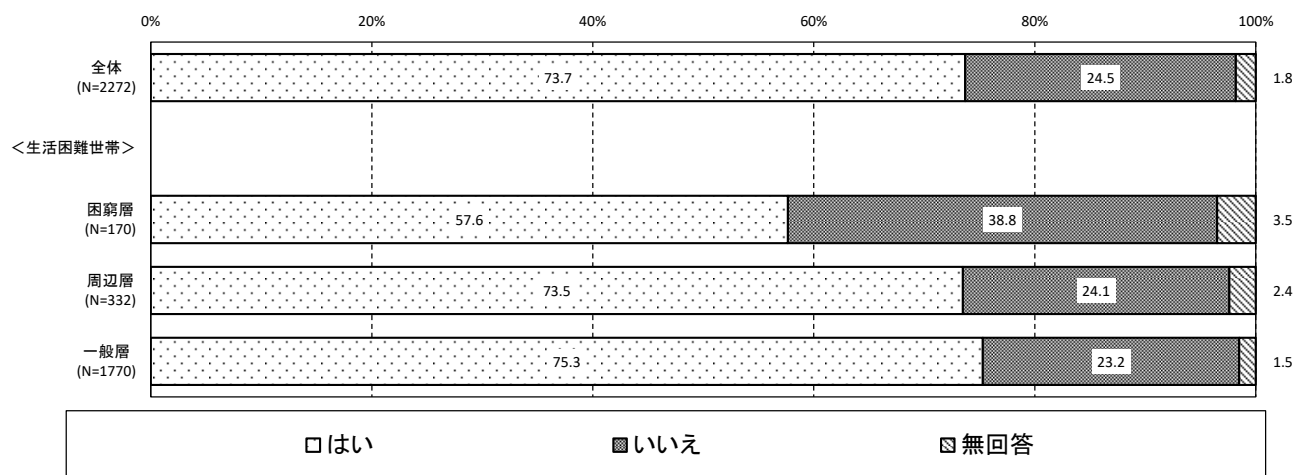
(2)子どもを預かってくれる親族や友人・知人の有無

問 34 住まいの近く（車や徒歩でおおむね30分以内で行き来できる範囲）に、子どもを預かってもらえる親族や友人・知人などがいますか。（○は1つ）

全体では、「はい」が73.7%、「いいえ」が24.5%となっている。

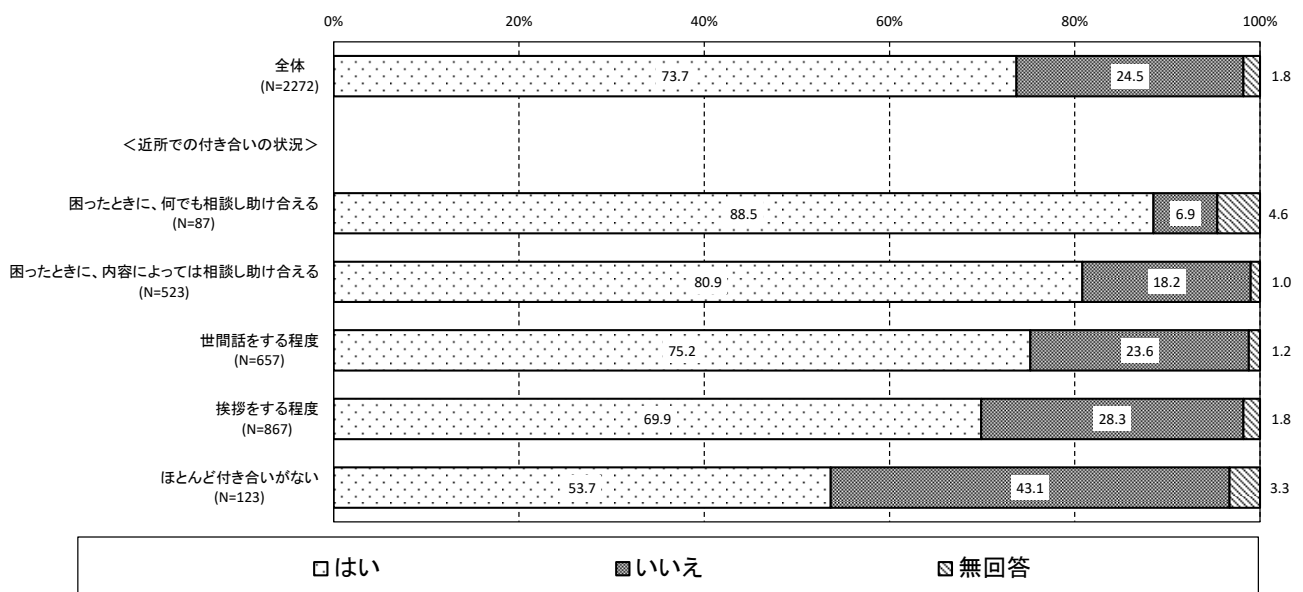
【生活困難世帯別】

「はい」の割合は、困窮層では57.6%、周辺層では73.5%、一般層では75.3%と、困窮度が高まるにつれて低くなっている。



【近所での付き合いの状況別】

「はい」の割合は、近所・地域での付き合いの程度が浅くなるにつれて低くなっている。



第4章 保護者編

(3)子どもを預かってくれる親族や友人・知人

問 34 で「1. はい」と回答した方にお尋ねします。

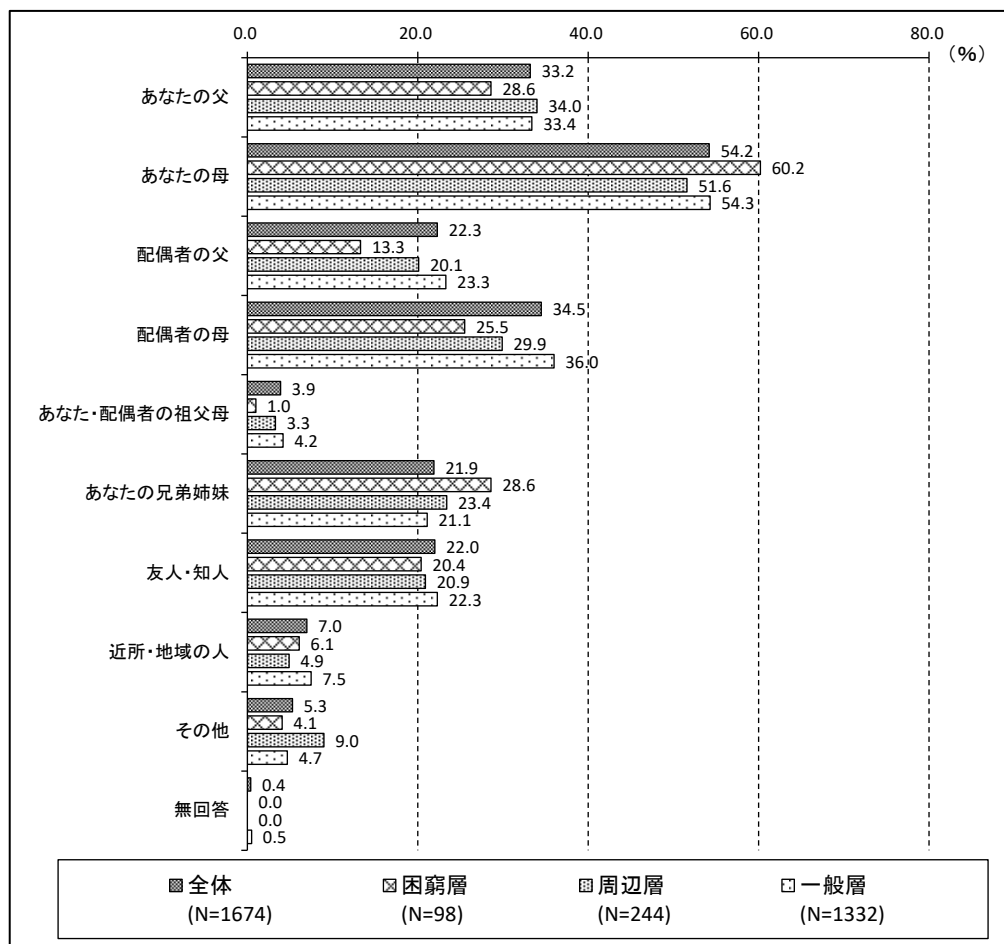
問 34-1 子どもを預かってもらえる親族や友人・知人はどなたですか。

(あなたから見た関係で、あてはまるものすべてに○)

全体では、「あなたの母」が 54.2% で最も高く、次いで「配偶者の母」が 34.5%、「あなたの父」が 33.2% と続く。

【生活困難世帯別】

「配偶者の父」の割合は、困窮層では 13.3%、周辺層では 20.1%、一般層では 23.3% と、困窮度が高まるにつれて低くなっており、「配偶者の母」も同様に、困窮層では 25.5%、周辺層では 29.9%、一般層では 36.0% と、困窮度が高まるにつれて低くなっている。



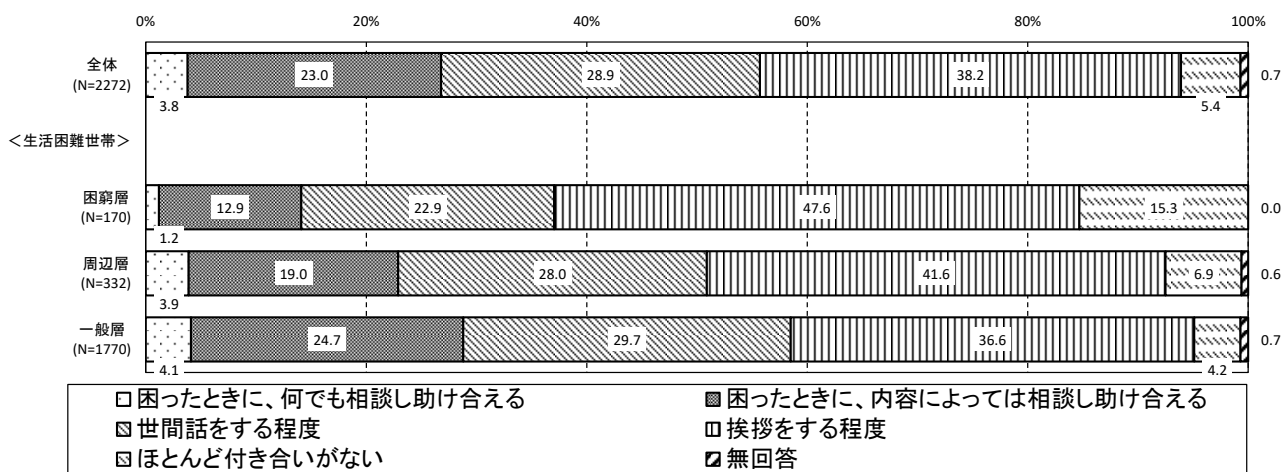
(4) 「近所・地域」での付き合いの状況

問 14 あなたと「近所・地域」の人との付き合いについて教えてください。(○は1つ)

全体では、「挨拶をする程度」が38.2%で最も高く、次いで「世間話をする程度」が28.9%と続く。

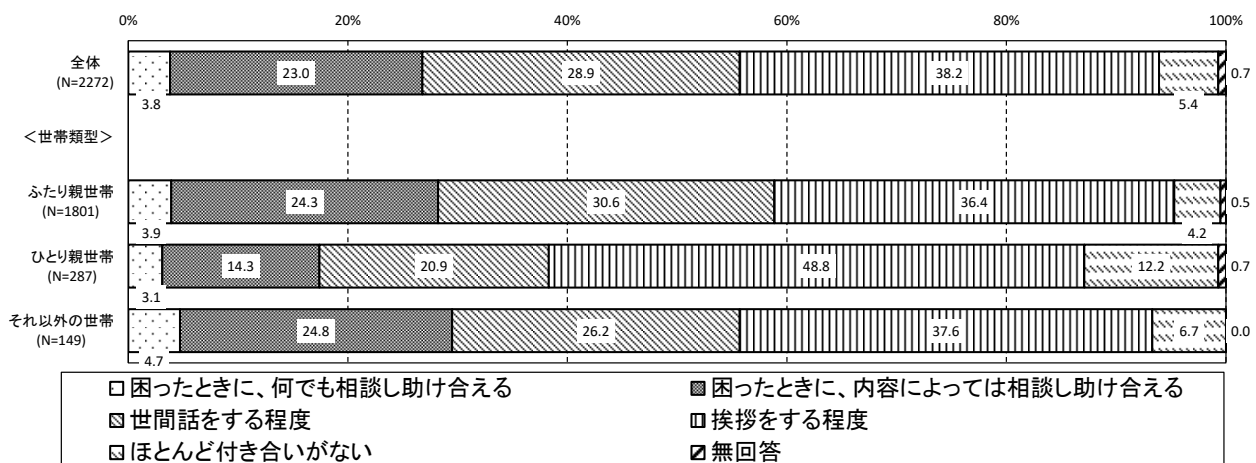
【生活困難世帯別】

困窮層では、周辺層、一般層と比較して「困ったときに、内容によっては相談し助け合える」(12.9%)、「世間話をする程度」(22.9%)の割合が低く、「挨拶をする程度」(47.6%)、「ほとんど付き合いがない」(15.3%)の割合が高く、あいさつ以上の付き合いをしている世帯の割合が低い。



【世帯類型別】

ひとり親世帯では、ふたり親世帯、それ以外の世帯と比較して「困ったときに、何でも相談し助け合える」(3.1%)、「困ったときに、内容によっては相談し助け合える」(14.3%)、「世間話をする程度」(20.9%)の割合が低く、「挨拶をする程度」(48.8%)、「ほとんど付き合いがない」(12.2%)の割合が高い。



第4章 保護者編

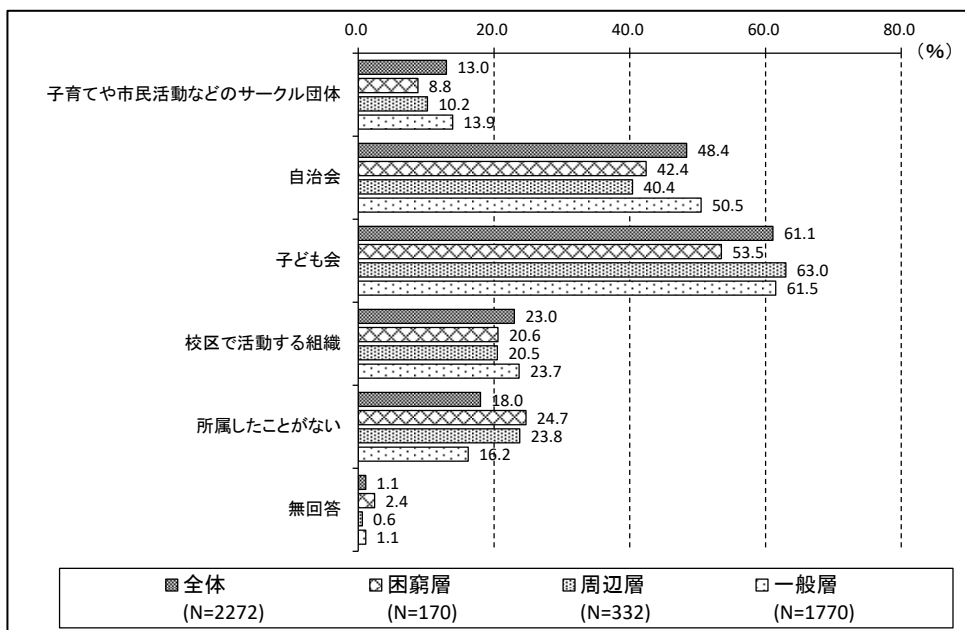
(5) 団体への所属経験

問 15 あなたは次の団体などに所属したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「子ども会」が61.1%で最も高く、次いで「自治会」が48.4%と続く。

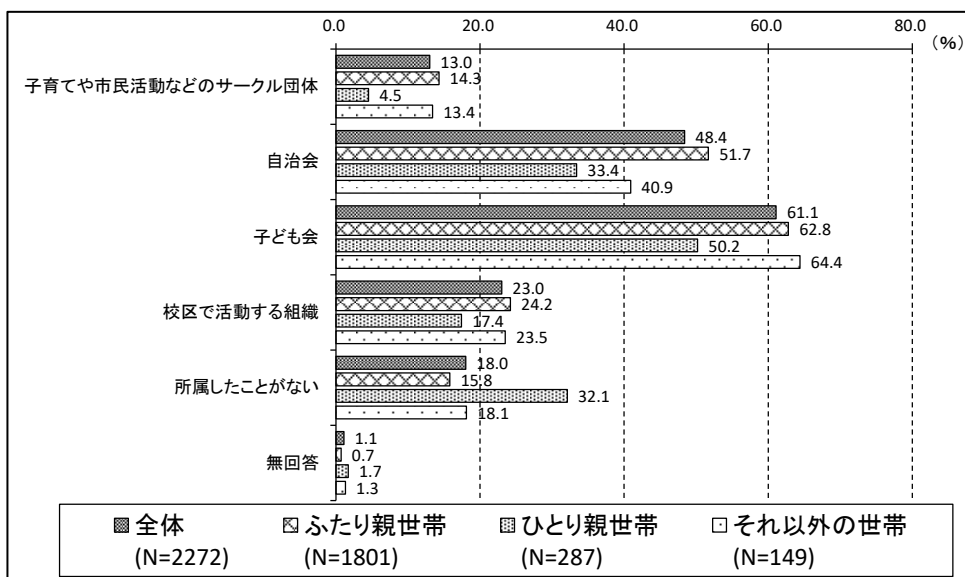
【生活困難世帯別】

「所属したことがない」の割合は、困窮層が24.7%、周辺層が23.8%、一般層が16.2%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。



【世帯類型別】

ふたり親世帯とひとり親世帯の割合に着目すると、「所属したことがない」以外のすべての項目でふたり親世帯の割合が高く、特に「自治会」はふたり親世帯が51.7%、ひとり親世帯が33.4%、「子ども会」ではふたり親世帯が62.8%、ひとり親世帯が50.2%とそれぞれ非常に大きな差がみられる。



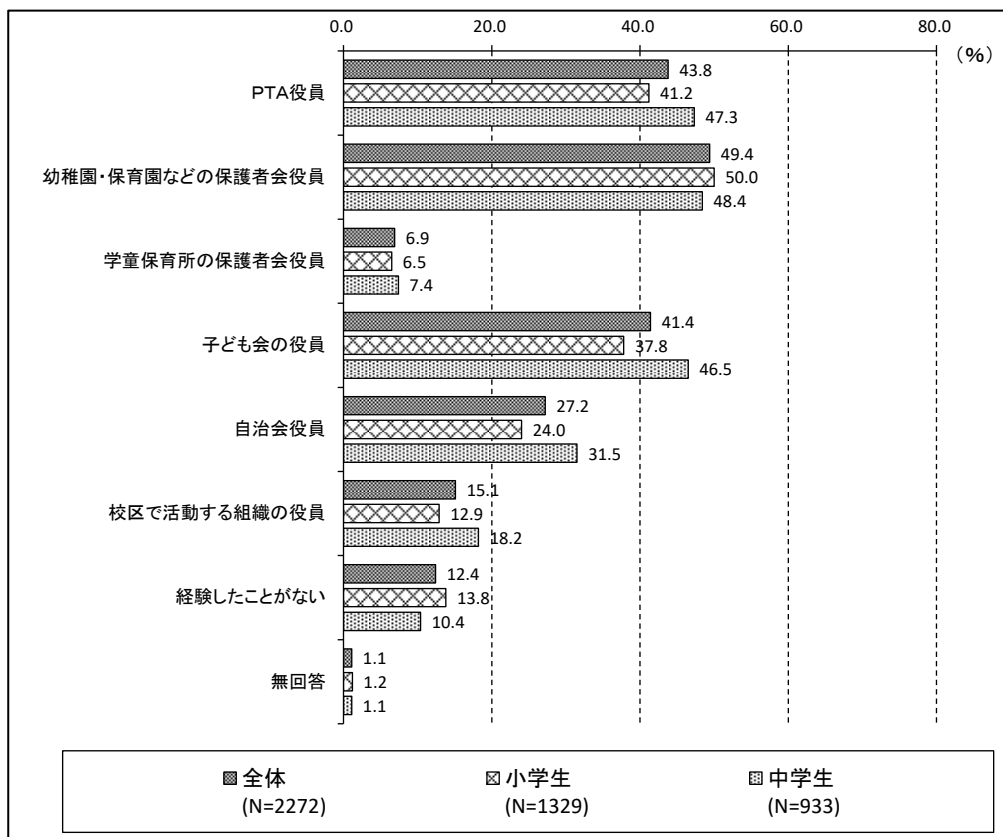
(6) 役員経験の有無

問 16 あなたは次の役員などを経験したことがありますか（あてはまるものすべてに○）

全体では、「幼稚園・保育園などの保護者会役員」が49.4%で最も高く、次いで「PTA役員」が43.8%、「子ども会の役員」が41.4%と続く。

【学年別】

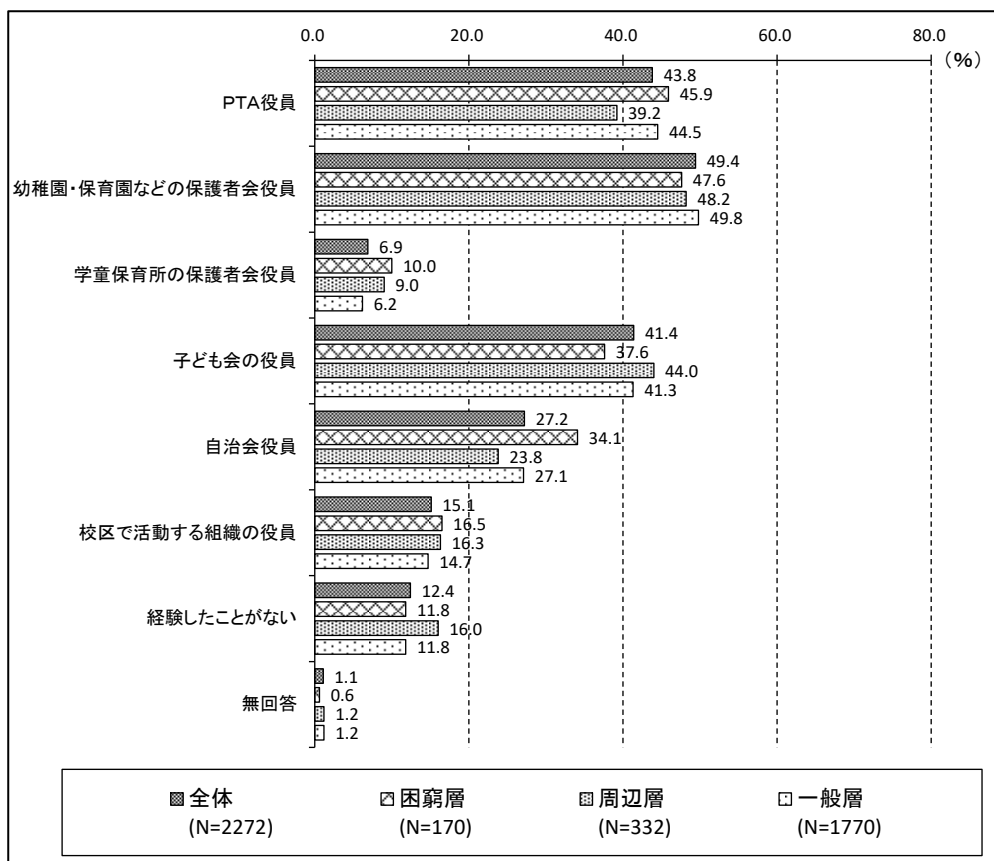
小学生、中学生ともに「幼稚園・保育園などの保護者会役員」の割合が最も高く、小学生では50.0%、中学生では48.4%となっている。



【生活困難世帯別】

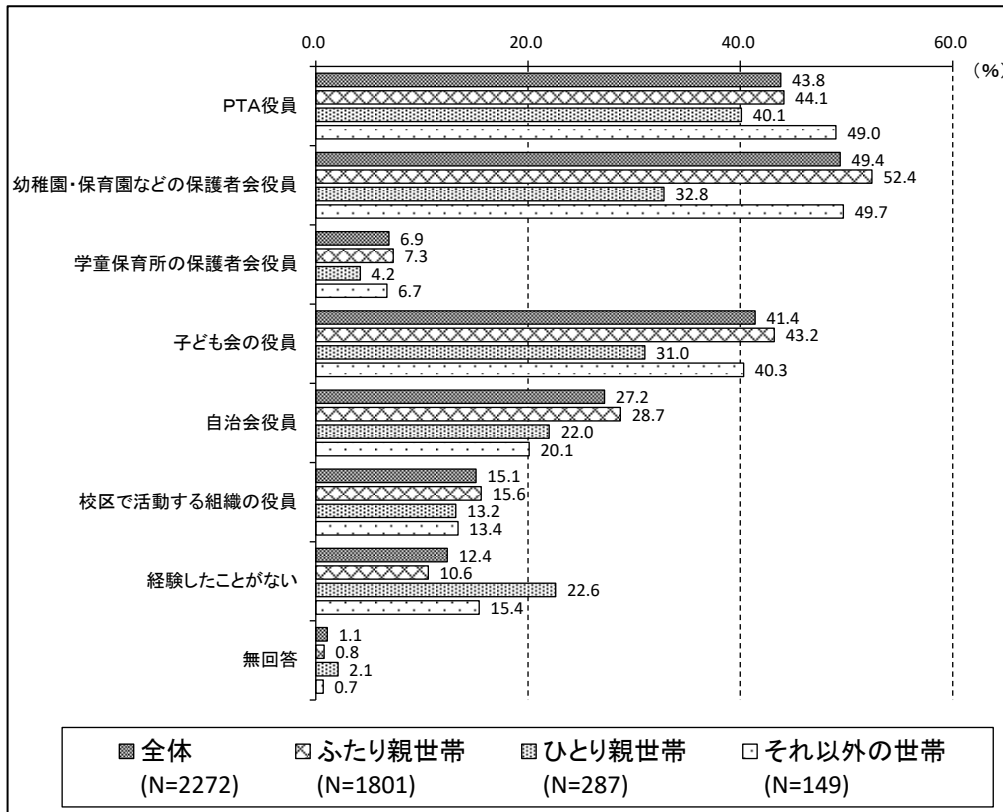
「学童保育所の保護者会役員」の割合は、困窮層が10.0%、周辺層が9.0%、一般層が6.2%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「校区で活動する組織の役員」も同様に困窮度が高まるにつれ高くなっており、困窮層では16.5%、周辺層では16.3%、一般層では14.7%となっている。



【世帯類型別】

ふたり親世帯とひとり親世帯の割合に着目すると、「経験したことがない」以外のすべての項目で、ふたり親世帯での割合が高く、特に「幼稚園・保育園などの保護者会役員」はふたり親世帯では52.4%、ひとり親世帯では32.8%と非常に大きな差がみられる。



第5章 制度・サービスの利用

1. 制度や施設の利用

(1) 制度や施設の利用経験および利用しなかった理由

問 23 あなたは、これまで、久留米市や地域などにおける次の制度や施設などを利用したことがありますか。また、利用したことがない場合は、その理由を教えてください。

(それぞれ1～7のうちいずれか1つに○)

児童手当、保育園・認定こども園・幼稚園では、「利用したことがある」の割合が高く、前者は92.4%、後者は73.9%にのぼる。

石橋記念くるめっ子館、幼児教育研究所、子ども食堂、ショートステイ・トワイライトステイでは、「制度や施設等を知らない」の割合が高く、それぞれ3割程度。

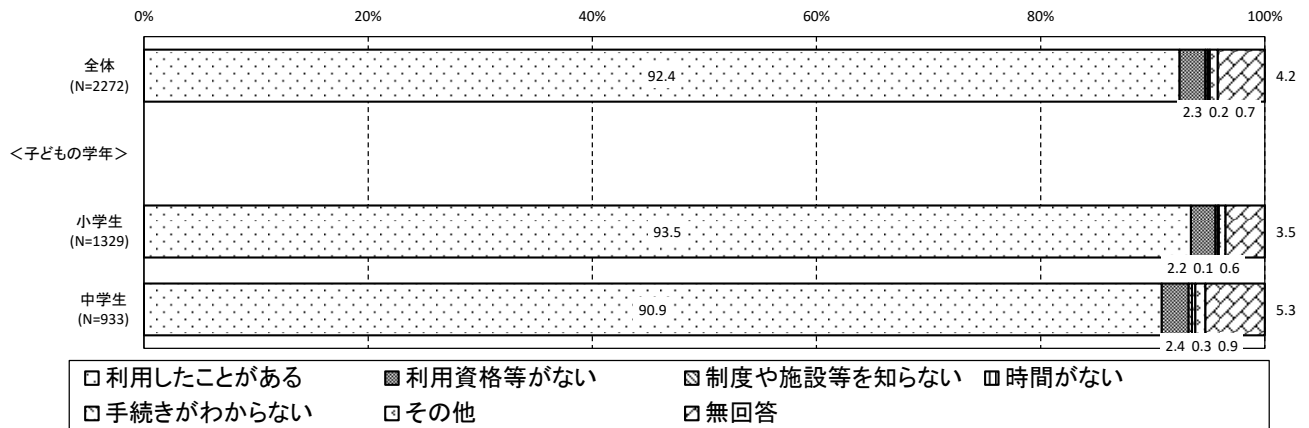
	サ ン プ ル 数	と 利 用 が あ し た こ こ	が 利 用 し な い 資 格 等	い 等 制 を 度 知 ら な 設	時 間 が な い	か 手 続 が な い が わ	い 利 用 料 が 高	そ の 他	無 回 答
	上段:実数、下段:%								
児童手当	2272 100.0	2099 92.4	52 2.3	5 0.2	0 0.0	4 0.2		16 0.7	96 4.2
就学援助制度	2272 100.0	587 25.8	992 43.7	117 5.1	3 0.1	49 2.2		141 6.2	383 16.9
児童扶養手当	2272 100.0	472 20.8	1018 44.8	146 6.4	0 0.0	37 1.6		143 6.3	456 20.1
疾病や難病の手当	2272 100.0	156 6.9	1299 57.2	131 5.8	2 0.1	32 1.4		170 7.5	482 21.2
生活保護	2272 100.0	34 1.5	1553 68.4	37 1.6	1 0.0	30 1.3		141 6.2	476 21.0
公的年金(遺族年金・障害年金)	2272 100.0	61 2.7	1515 66.7	41 1.8	0 0.0	22 1.0		143 6.3	490 21.6
保育園・認定こども園・幼稚園	2272 100.0	1679 73.9	255 11.2	14 0.6	1 0.0	11 0.5	1 0.0	71 3.1	240 10.6
学童保育所	2272 100.0	1025 45.1	616 27.1	20 0.9	2 0.1	9 0.4	30 1.3	263 11.6	307 13.5
子育て支援センター	2272 100.0	663 29.2	286 12.6	281 12.4	95 4.2	50 2.2		476 21.0	421 18.5
校区の子育てサロン	2272 100.0	522 23.0	248 10.9	359 15.8	128 5.6	51 2.2		526 23.2	438 19.3
くるるん	2272 100.0	838 36.9	184 8.1	319 14.0	88 3.9	45 2.0		414 18.2	384 16.9
児童センター	2272 100.0	545 24.0	199 8.8	449 19.8	94 4.1	53 2.3		490 21.6	442 19.5
石橋記念くるめっ子館	2272 100.0	279 12.3	176 7.7	647 28.5	121 5.3	58 2.6		527 23.2	464 20.4
幼児教育研究所	2272 100.0	183 8.1	249 11.0	744 32.7	59 2.6	58 2.6		500 22.0	479 21.1
子ども食堂	2272 100.0	71 3.1	323 14.2	671 29.5	52 2.3	76 3.3	1 0.0	582 25.6	496 21.8
病児保育	2272 100.0	239 10.5	462 20.3	317 14.0	24 1.1	103 4.5	57 2.5	599 26.4	471 20.7
一時預かり(一時保育)	2272 100.0	440 19.4	348 15.3	295 13.0	18 0.8	82 3.6	40 1.8	588 25.9	461 20.3
ファミリー・サポート・センター	2272 100.0	118 5.2	299 13.2	538 23.7	20 0.9	95 4.2	22 1.0	682 30.0	498 21.9
産前産後ヘルパー派遣	2272 100.0	72 3.2	366 16.1	518 22.8	12 0.5	96 4.2	22 1.0	688 30.3	498 21.9
ショートステイ・トワイライトステイ	2272 100.0	9 0.4	335 14.7	712 31.3	10 0.4	84 3.7	10 0.4	609 26.8	503 22.1
学校や地域で行われている放課後等の補充学習	2272 100.0	338 14.9	230 10.1	482 21.2	56 2.5	79 3.5		607 26.7	480 21.1
スクールカウンセラー	2272 100.0	328 14.4	312 13.7	203 8.9	63 2.8	42 1.8		873 38.4	451 19.9
スクールソーシャルワーカー	2272 100.0	34 1.5	327 14.4	399 17.6	46 2.0	63 2.8		898 39.5	505 22.2
土曜塾(青少年学校外活動支援事業)	2272 100.0	513 22.6	199 8.8	407 17.9	98 4.3	59 2.6	1 0.0	563 24.8	432 19.0
子どもの居場所づくり事業(ひとり親)	2272 100.0	7 0.3	795 35.0	412 18.1	7 0.3	43 1.9	0 0.0	505 22.2	503 22.1
久留米市生活自立支援センター	2272 100.0	22 1.0	582 25.6	510 22.4	12 0.5	49 2.2		596 26.2	501 22.1
子どもの学習支援事業(生活保護・生活困窮者)	2272 100.0	24 1.1	884 38.9	340 15.0	6 0.3	44 1.9		478 21.0	496 21.8

1. 児童手当

全体では、「利用したことがある」が92.4%で最も高い。

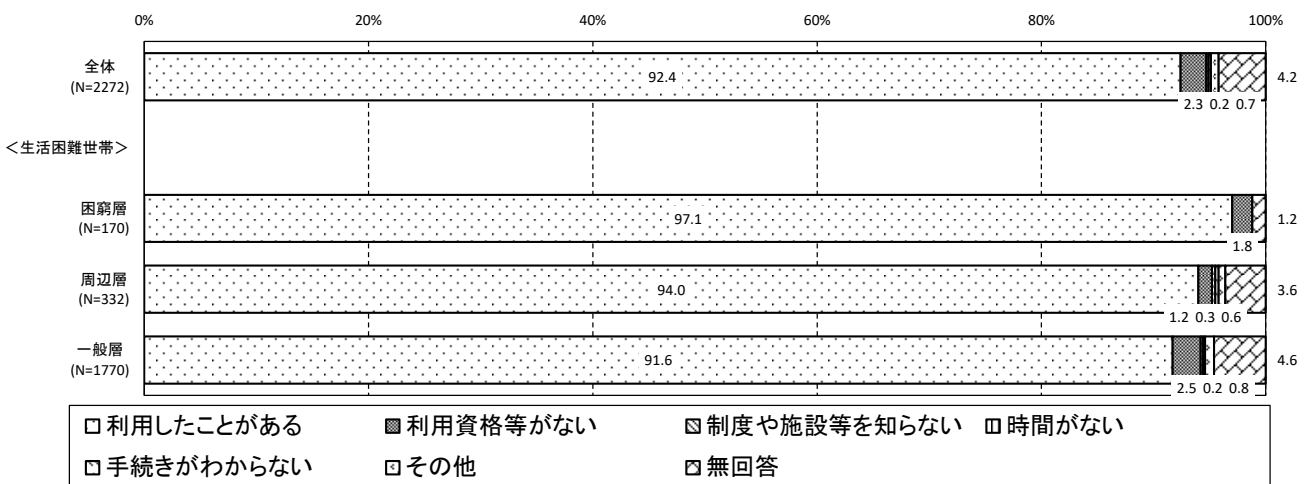
【学年別】

小学生、中学生ともに「利用したことがある」の割合が最も高く、小学生では93.5%、中学生では90.9%となっている。



【生活困難世帯別】

「利用したことがある」割合は、困窮層では97.1%、周辺層では94.0%、一般層では91.6%となり、すべての階層で9割を超えている。



第5章 制度・サービスの利用

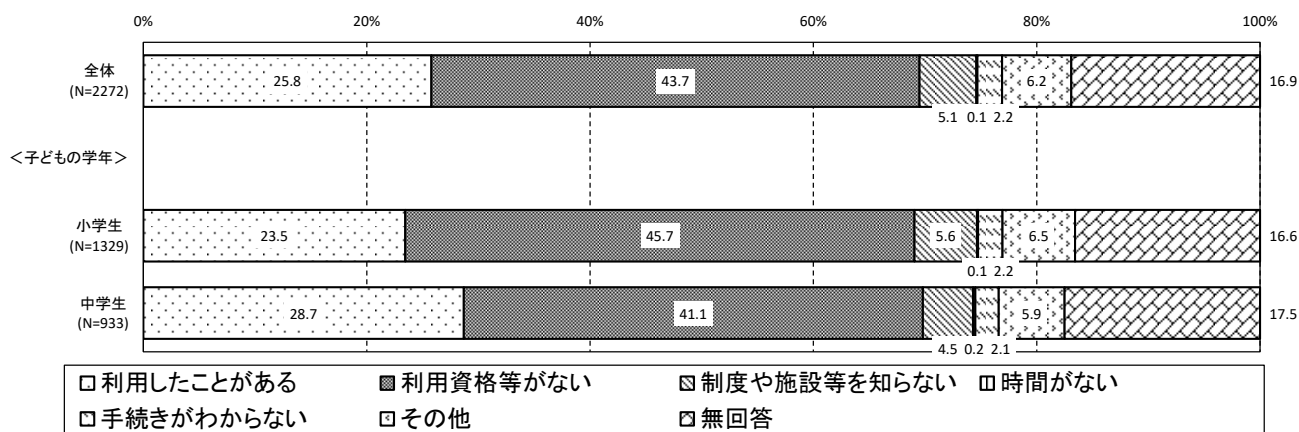
2. 就学援助制度

全体では、「利用資格等がない」が43.7%で最も高く、次いで「利用したことがある」が25.8%と続く。

【学年別】

小学生、中学生ともに「利用資格等がない」の割合が最も高く、小学生では45.7%、中学生では41.1%となっている。

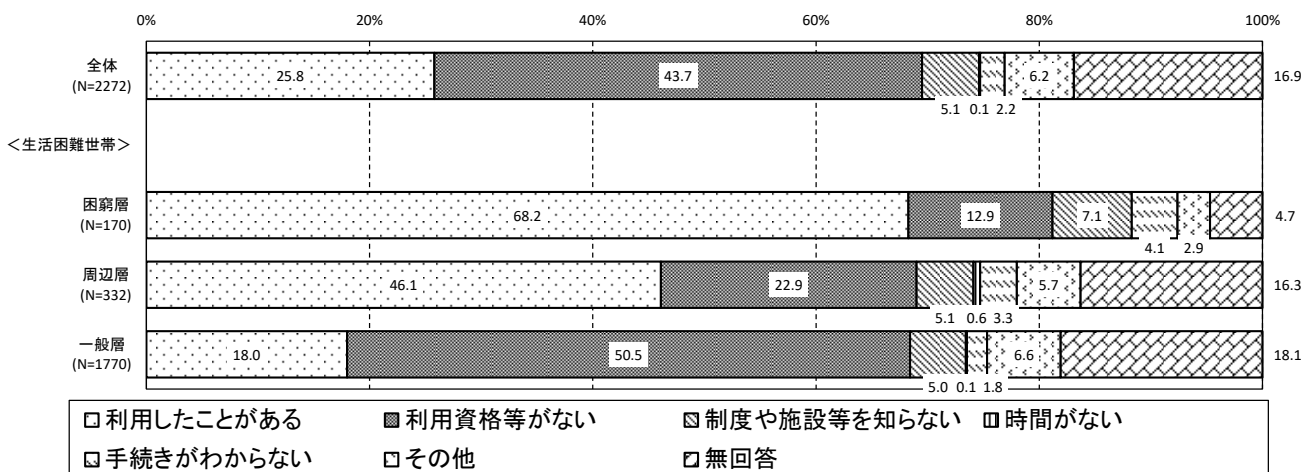
なお、「利用したことがある」は小学生で23.5%、中学生で28.7%となっている。



【生活困難世帯別】

「利用したことがある」割合は、困窮層では68.2%、周辺層では46.1%、一般層では18.0%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「制度や施設等を知らない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では7.1%、周辺層では5.1%、一般層では5.0%となっている。「手続きがわからない」も同様の傾向を示し、困窮層では4.1%、周辺層では3.3%、一般層では1.8%となっている。



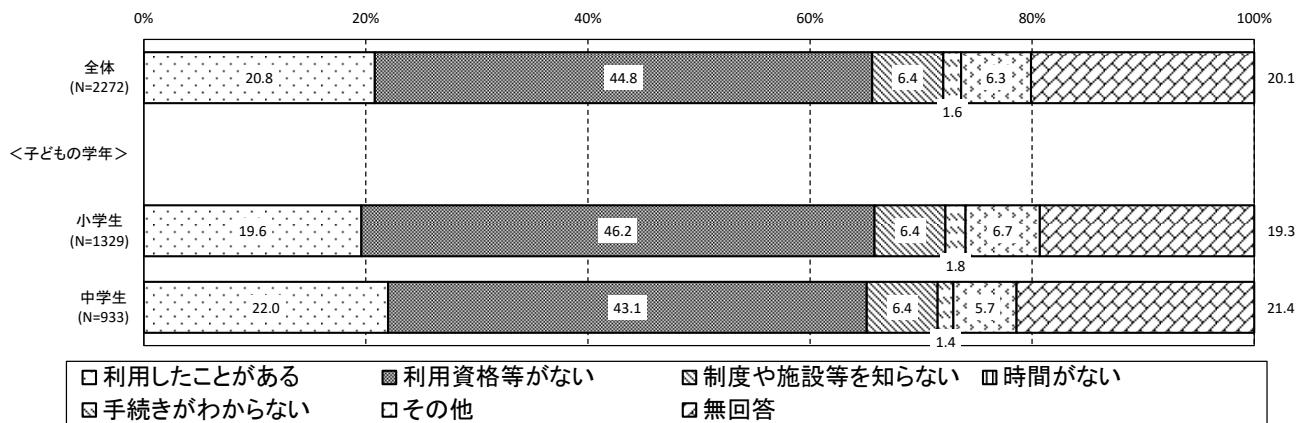
3. 児童扶養手当

全体では、「利用資格等がない」が44.8%で最も高く、次いで「利用したことがある」が20.8%と続く。

【学年別】

小学生、中学生ともに「利用資格等がない」割合が最も高く、小学生では46.2%、中学生では43.1%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生で19.6%、中学生で22.0%となっている。

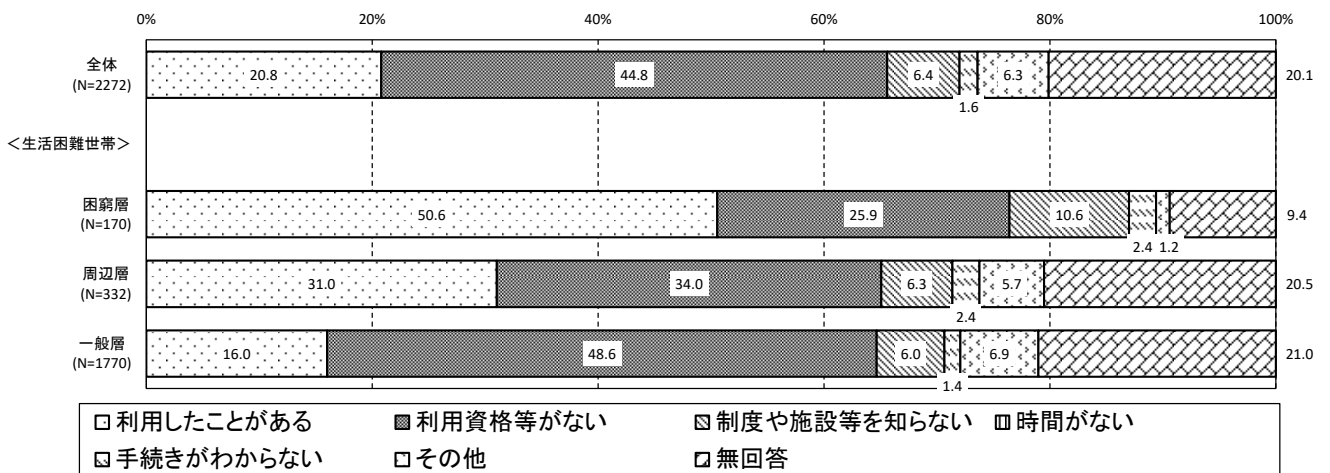


【生活困難世帯別】

「利用したことがある」割合は、困窮層では50.6%、周辺層では31.0%、一般層では16.0%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「制度や施設等を知らない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では10.6%、周辺層では6.3%、一般層では6.0%となっている。

「手続きがわからない」も同様の傾向を示し、困窮層・周辺層では2.4%、一般層では1.4%となっている。



第5章 制度・サービスの利用

4. 疾病や難病の手当

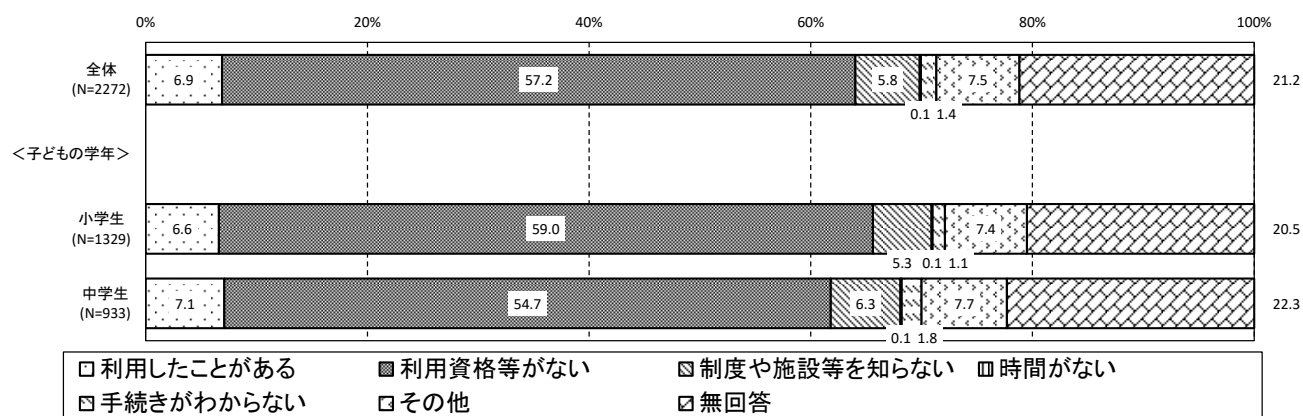
全体では、「利用資格等がない」が57.2%で最も高い。

「利用したことがある」は6.9%となっている。

【学年別】

小学生、中学生ともに「利用資格等がない」割合が最も高く、小学生では59.0%、中学生では54.7%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生で6.6%、中学生で7.1%となっている。

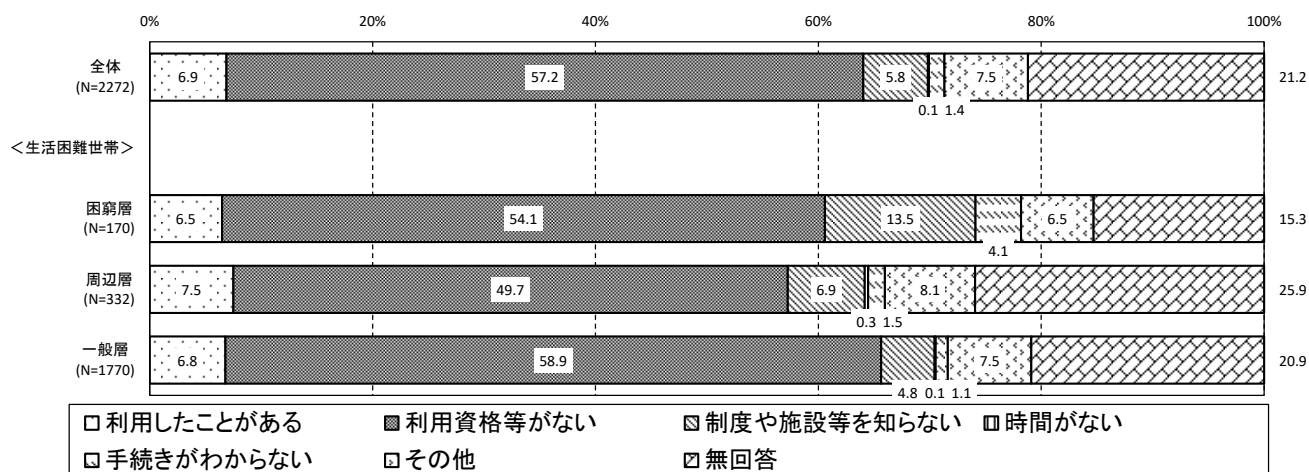


【生活困難世帯別】

「制度や施設等を知らない」割合は、困窮層では13.5%、周辺層では6.9%、一般層では4.8%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「手続きがわからない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では4.1%、周辺層では1.5%、一般層では1.1%となっている。

なお、「利用したことがある」割合は困窮層では6.5%、周辺層では7.5%、一般層では6.8%となっている。



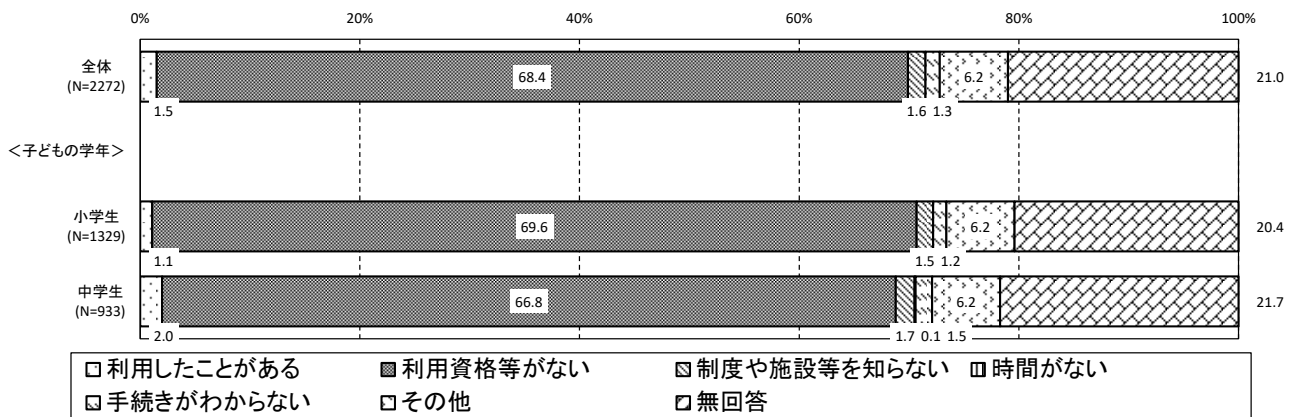
5. 生活保護

全体では、「利用資格等がない」が68.4%で最も高い。
 「利用したことがある」は1.5%となっている。

【学年別】

小学生、中学生ともに「利用資格等がない」割合が最も高く、小学生では69.6%、中学生では66.8%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生で1.1%、中学生で2.0%となっている。

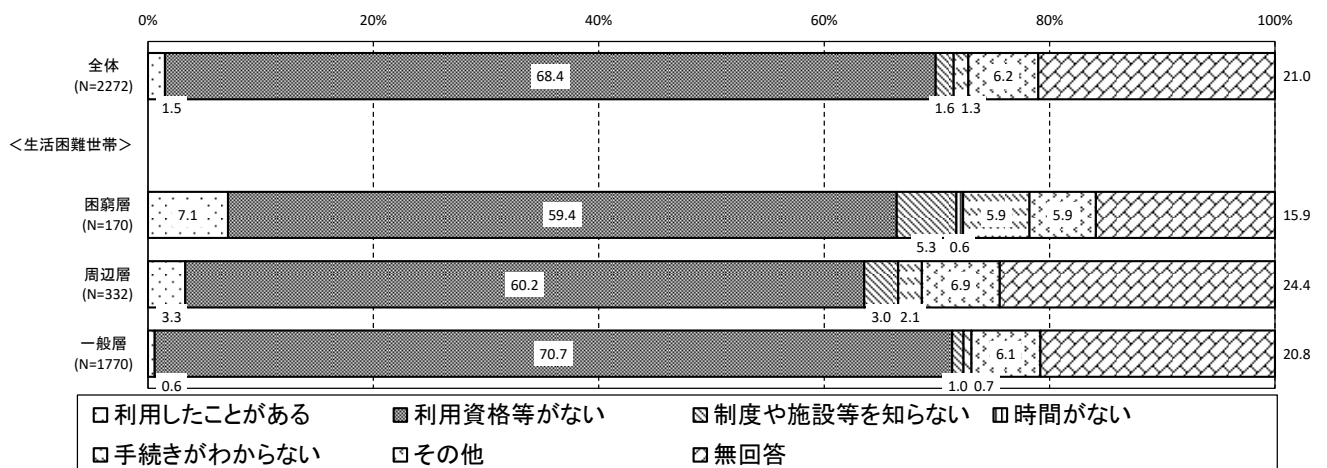


【生活困難世帯別】

「利用したことがある」割合は、困窮層では7.1%、周辺層では3.3%、一般層では0.6%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「制度や施設等を知らない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では5.3%、周辺層では3.0%、一般層では1.0%となっている。

「手続きがわからない」も同様の傾向を示し、困窮層では5.9%、周辺層では2.1%、一般層では0.7%となっている。



第5章 制度・サービスの利用

6. 公的年金（遺族年金・障害年金）

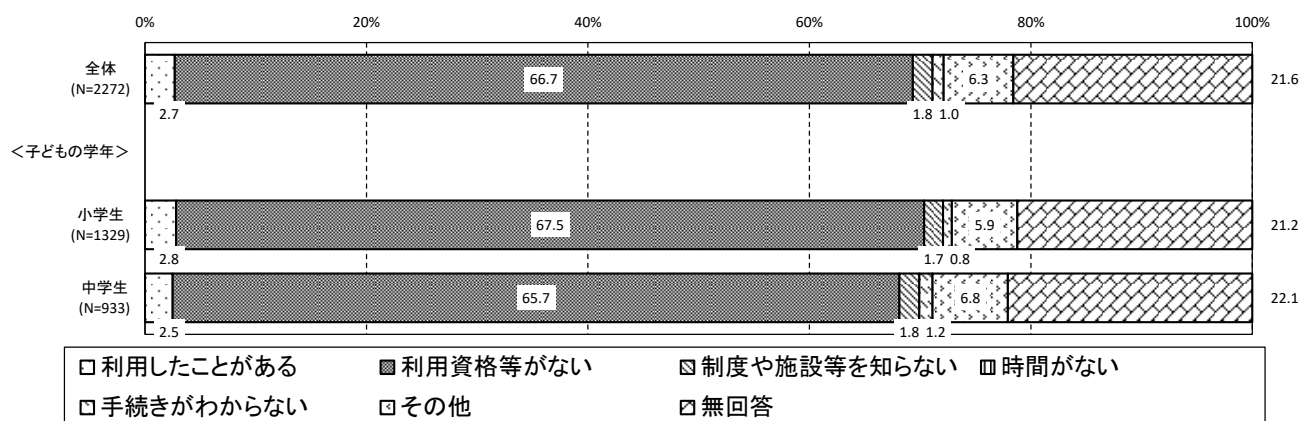
全体では、「利用資格等がない」が66.7%で最も高い。

「利用したことがある」は2.7%となっている。

【学年別】

小学生、中学生ともに「利用資格等がない」割合が最も高く、小学生では67.5%、中学生では65.7%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生で2.8%、中学生で2.5%となっている。

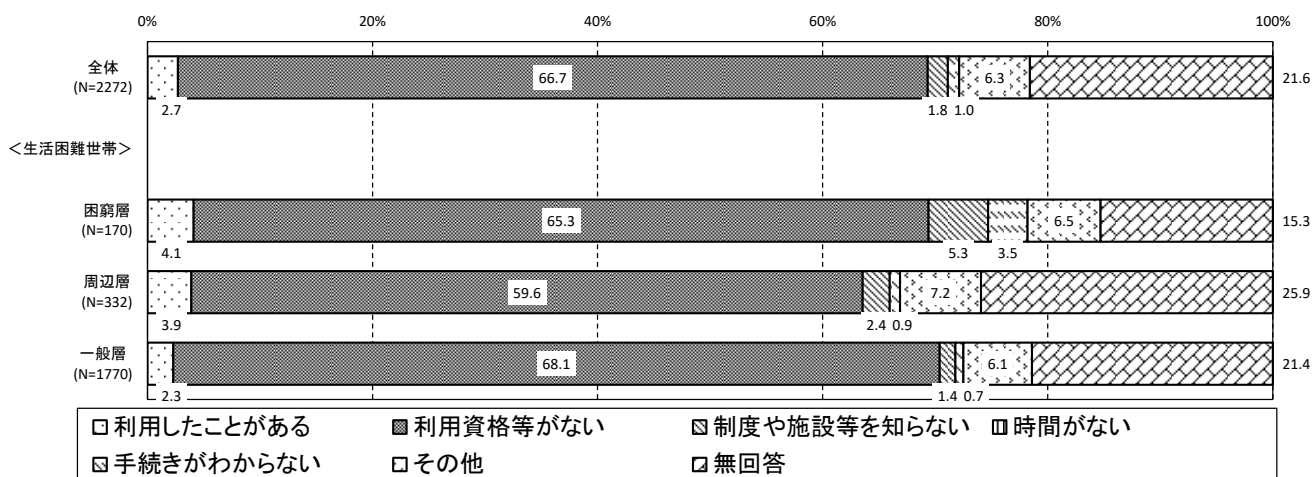


【生活困難世帯別】

「利用したことがある」割合は、困窮層では4.1%、周辺層では3.9%、一般層では2.3%となり、困窮度が高まるにつれ高くなる。

「制度や施設等を知らない」も同様に困窮度が高まるにつれ高くなっており、困窮層では5.3%、周辺層では2.4%、一般層では1.4%となっている。

「手続きがわからない」も同様の傾向を示し、困窮層では3.5%、周辺層では0.9%、一般層では0.7%となっている。

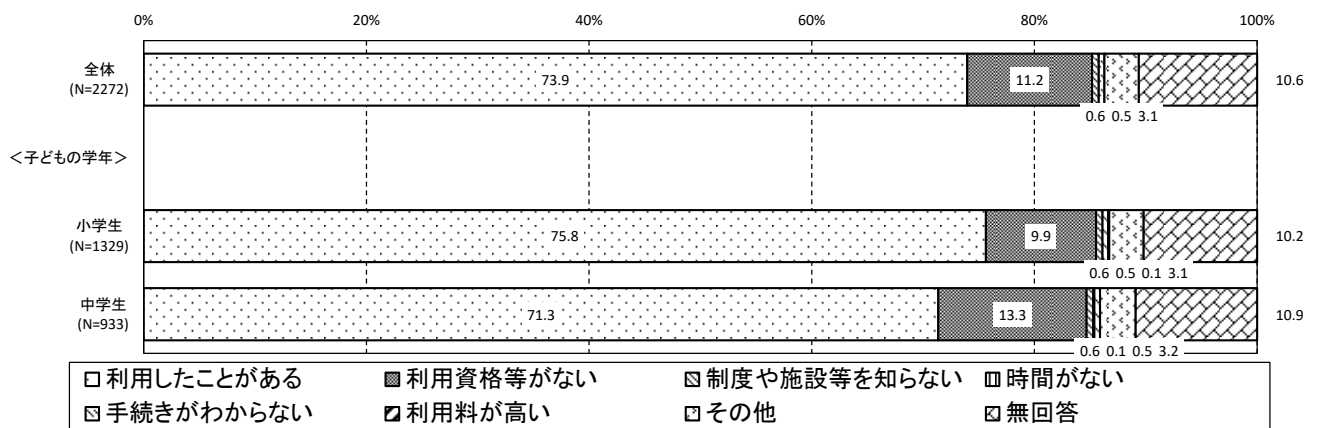


7. 保育園・認定こども園・幼稚園

全体では、「利用したことがある」が73.9%で最も高く、次いで「利用資格等がない」が11.2%と続く。

【学年別】

小学生、中学生ともに「利用したことがある」割合が最も高く、小学生では75.8%、中学生では71.3%となっている。

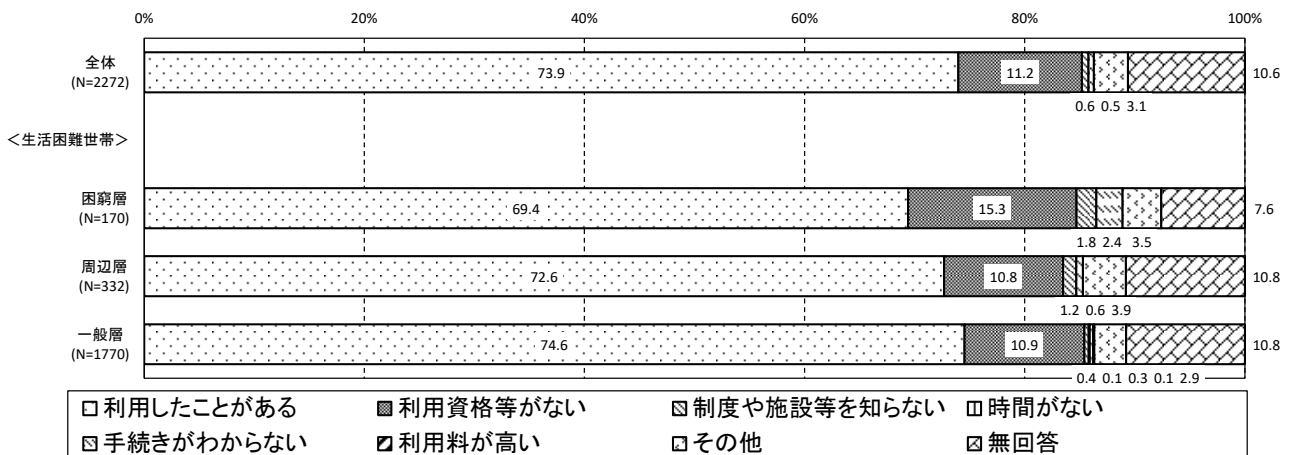


【生活困難世帯別】

「制度や施設等を知らない」割合は、困窮層では1.8%、周辺層が1.2%、一般層が0.4%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「手続きがわからない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなり、困窮層では2.4%、周辺層では0.6%、一般層では0.3%となっている。

なお、「利用したことがある」は困窮層で69.4%、周辺層で72.6%、一般層で74.6%となり、困窮度が高まるにつれて低くなる。

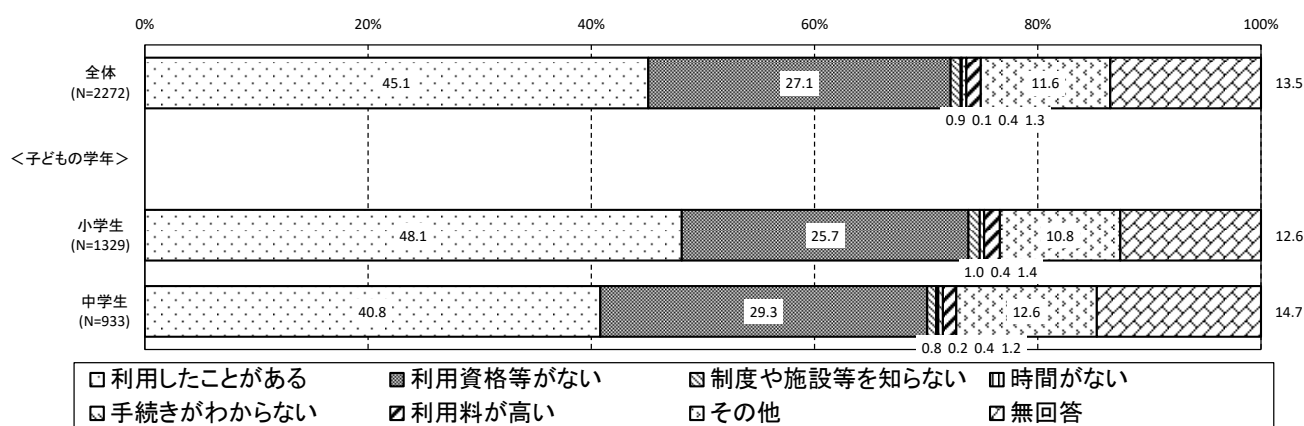


8. 学童保育所

全体では、「利用したことがある」が45.1%で最も高く、次いで「利用資格等がない」が27.1%と続く。

【学年別】

小学生、中学生ともに「利用したことがある」割合が最も高く、小学生では48.1%、中学生では40.8%となっている。

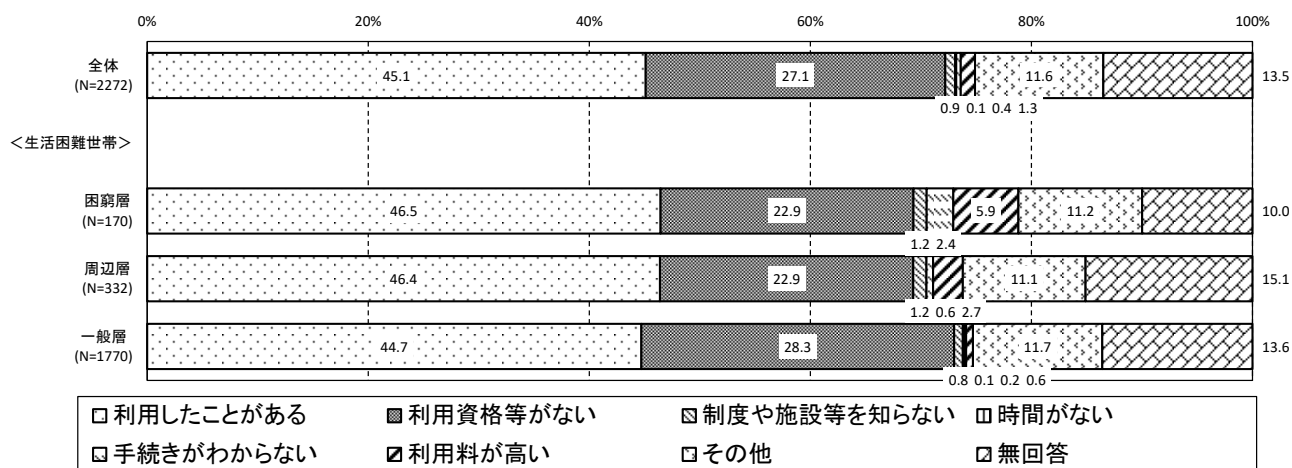


【生活困難世帯別】

「手続きがわからない」の割合は、困窮層では2.4%、周辺層では0.6%、一般層では0.2%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「利用料が高い」も同様に困窮度高まるにつれ高くなっており、困窮層では5.9%、周辺層では2.7%、一般層では0.6%となっている。

なお、「利用したことがある」は困窮層では46.5%、周辺層では46.4%、一般層では44.7%となっている。

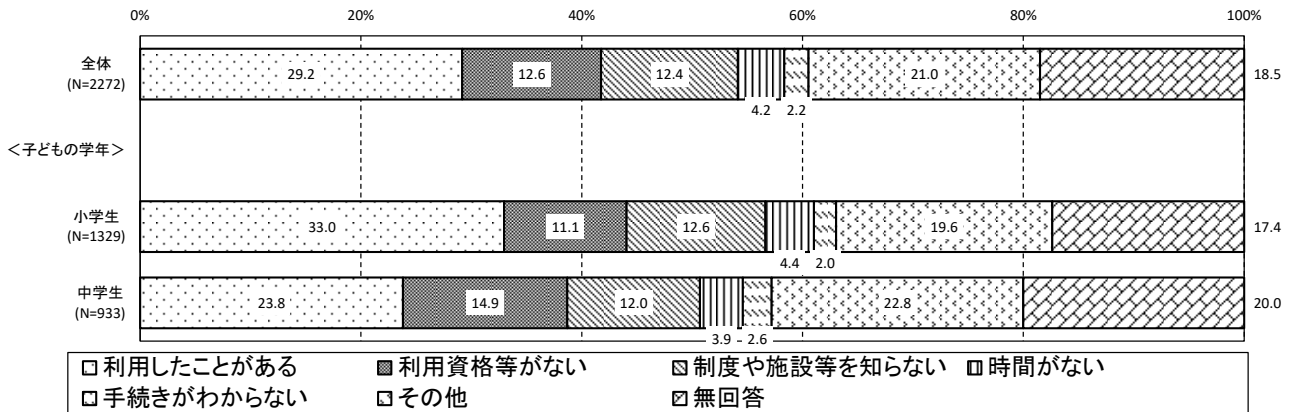


9. 子育て支援センター

全体では、「利用したことがある」が29.2%で最も高い。

【学年別】

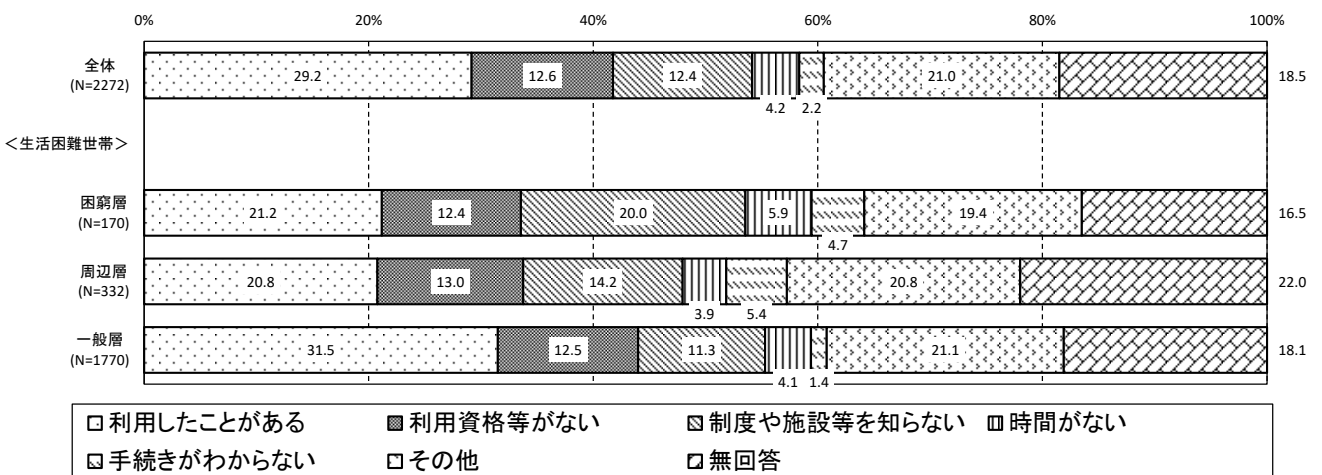
小学生、中学生ともに「利用したことがある」割合が最も高く、小学生では33.0%、中学生では23.8%となっている。



【生活困難世帯別】

「制度や施設等を知らない」の割合は、困窮層では20.0%、周辺層では14.2%、一般層では11.3%となり、困窮度が高まるにつれ高くなる。

なお、「利用したことがある」は困窮層では21.2%、周辺層では20.8%、一般層では31.5%となっている。



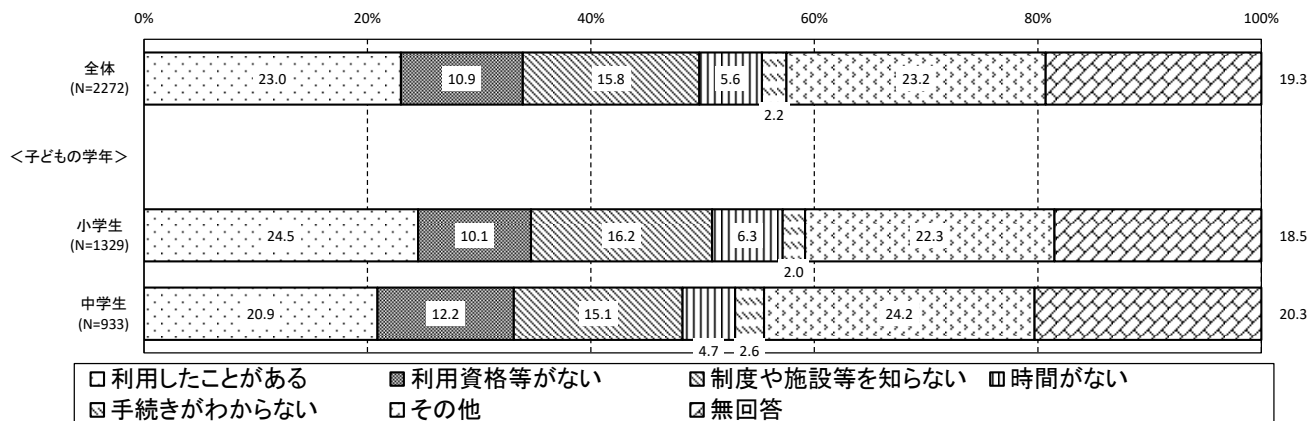
第5章 制度・サービスの利用

10. 校区の子育てサロン

全体では、「利用したことがある」が23.0%となっている。また「その他」(23.2%)の割合も高い。

【学年別】

「利用したことがある」の割合は、小学生では24.5%、中学生では20.9%となっている。

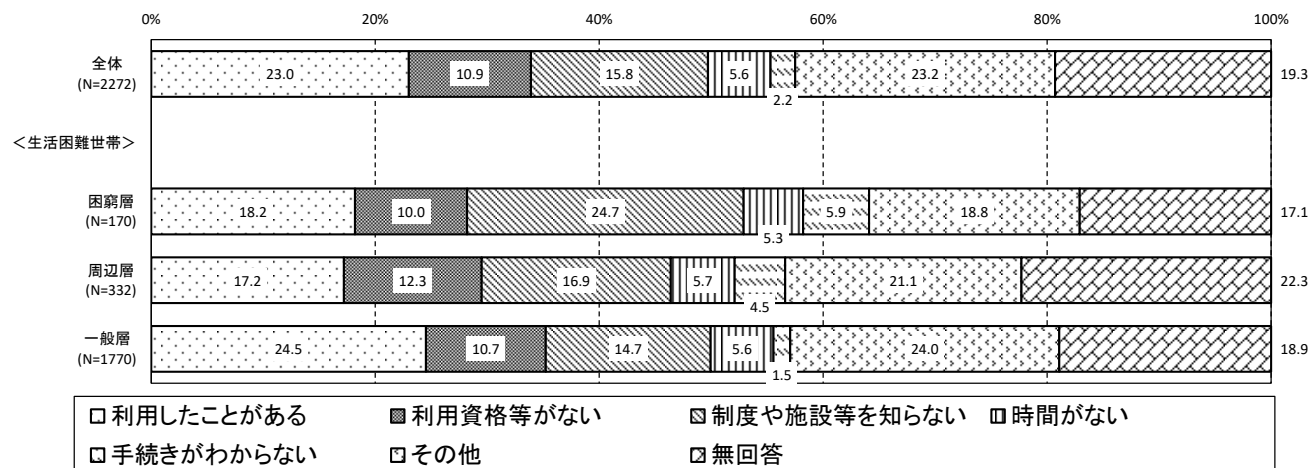


【生活困難世帯別】

「制度や施設等を知らない」割合は、困窮層では24.7%、周辺層では16.9%、一般層では14.7%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「手続きがわからない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では5.9%、周辺層では4.5%、一般層では1.5%となっている。

なお、「利用したことがある」は困窮層では18.2%、周辺層では17.2%、一般層では24.5%となっている。

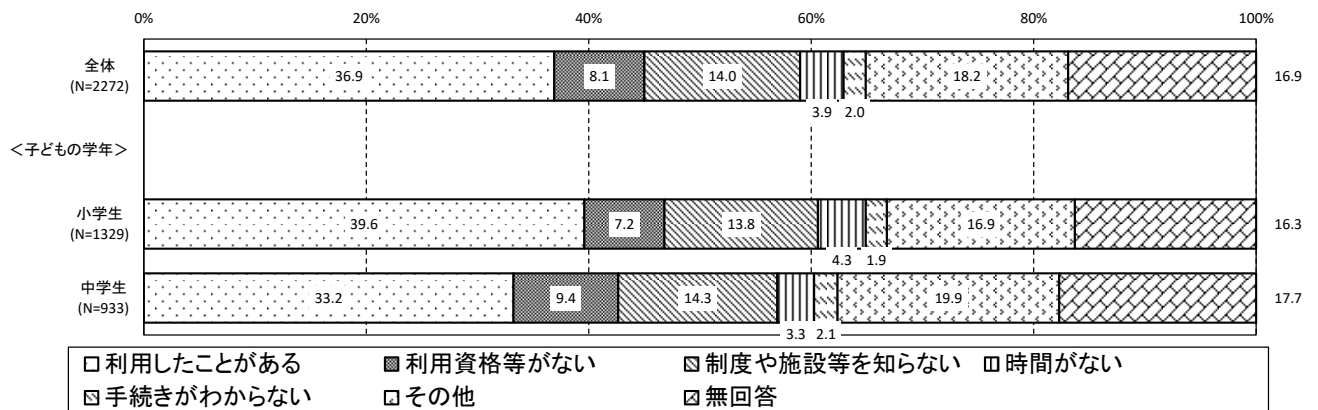


1.1. くるるん

全体では、「利用したことがある」が36.9%で最も高い。

【学年別】

小学生、中学生ともに「利用したことがある」割合が最も高く、小学生では39.6%、中学生では33.2%となっている。

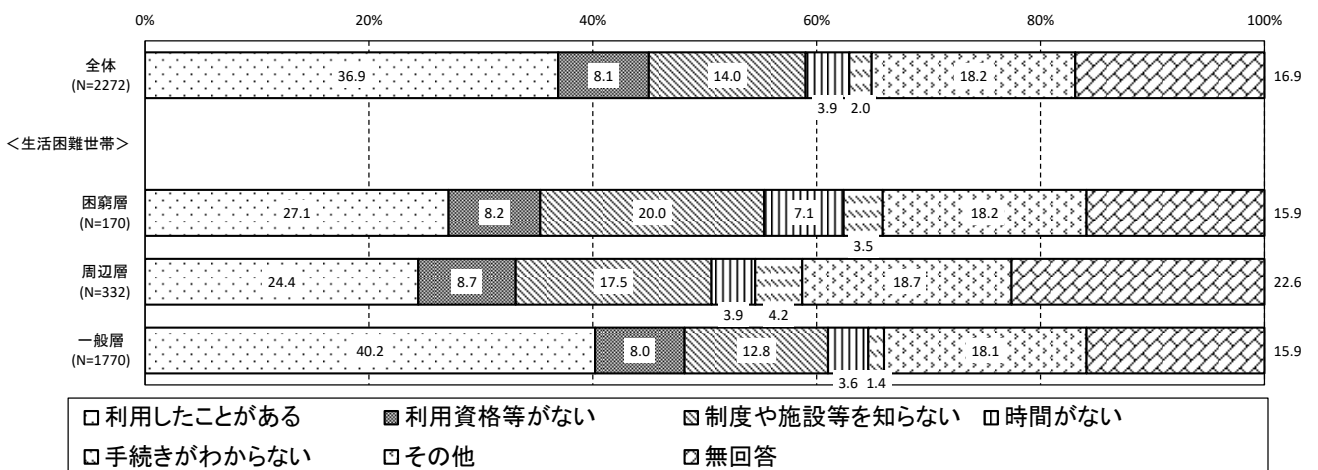


【生活困難世帯別】

「制度や施設等を知らない」の割合は、困窮層では20.0%、周辺層では17.5%、一般層では12.8%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「時間がない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では7.1%、周辺層では3.9%、一般層では3.6%となっている。

なお、「利用したことがある」は困窮層では27.1%、周辺層では24.4%、一般層では40.2%となっている。

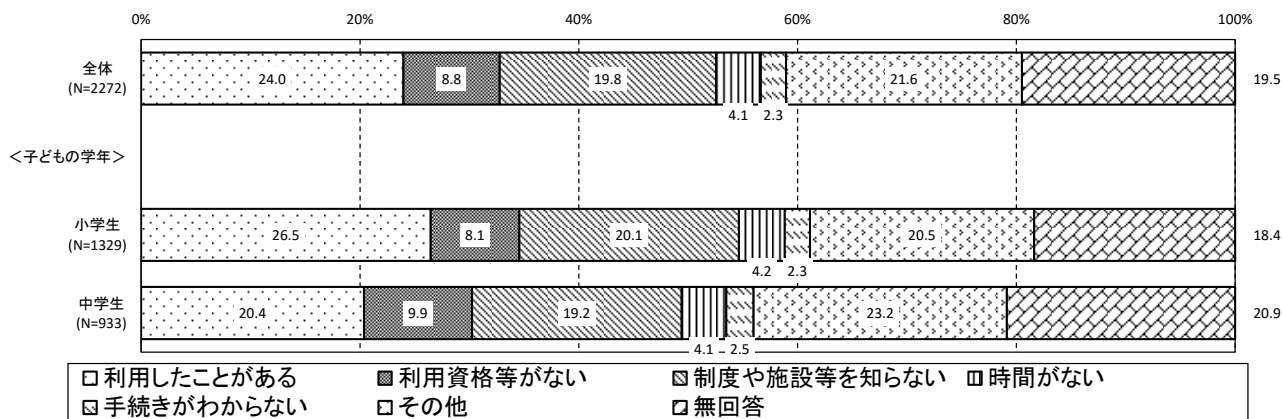


1 2. 児童センター

全体では、「利用したことがある」が24.0%で最も高い。

【学年別】

小学生では「利用したことがある」の割合が最も高く26.5%を占める。中学生では「その他」(23.2%)の割合が高いが、「利用したことがある」(20.4%)が僅差で続く。



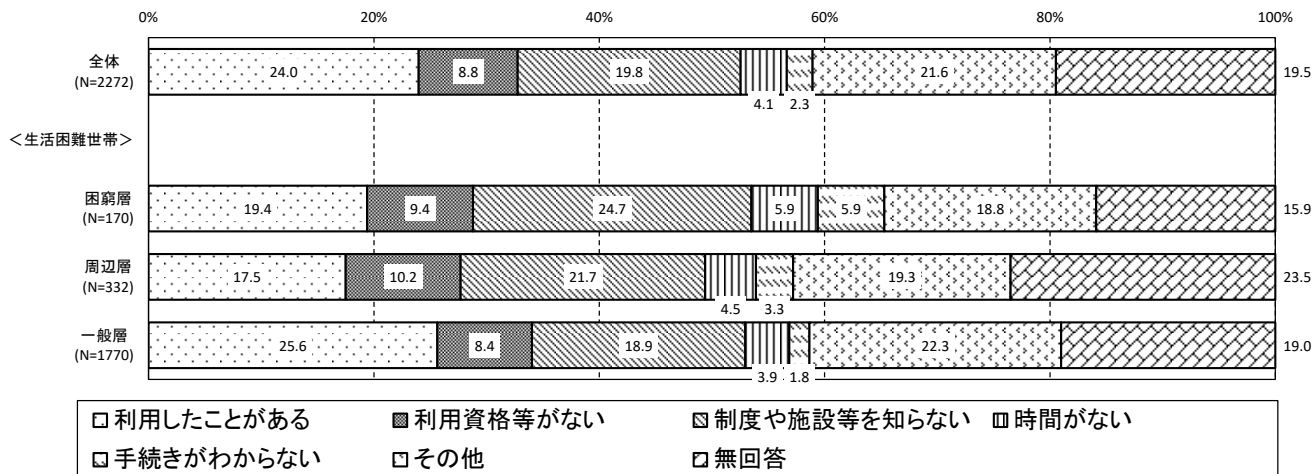
【生活困難世帯別】

「制度や施設等を知らない」割合は、困窮層では24.7%、周辺層では21.7%、一般層では18.9%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「時間がない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では5.9%、周辺層では4.5%、一般層では3.9%となっている。

「手続きがわからない」も同様の傾向を示し、困窮層では5.9%、周辺層では3.3%、一般層では1.8%となっている。

なお、「利用したことがある」は困窮層では19.4%、周辺層では17.5%、一般層では25.6%となっている。



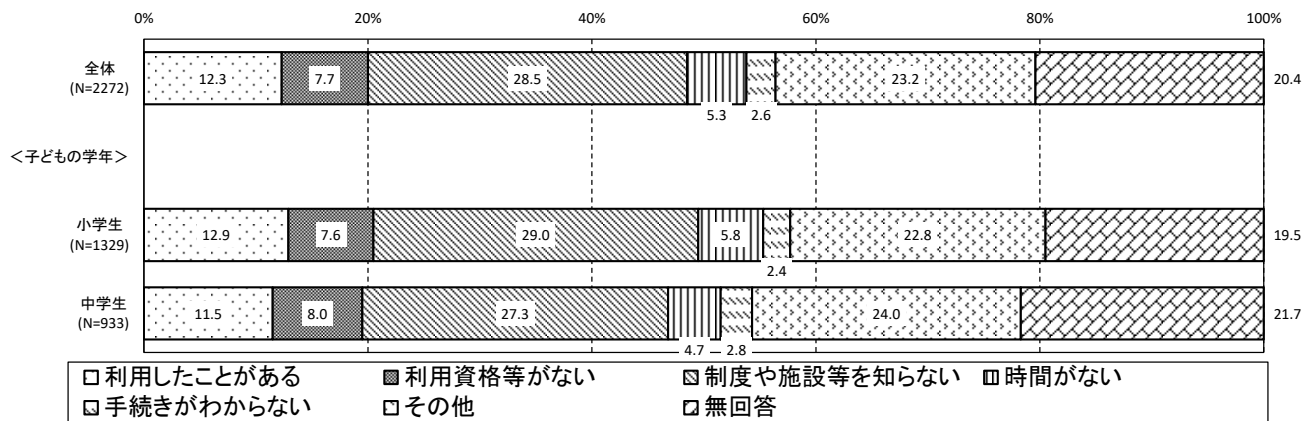
13. 石橋記念くるめっ子館

全体では、「制度や施設等を知らない」が28.5%で最も高い。また「利用したことがある」は12.3%となっている。

【学年別】

小学生、中学生ともに「制度や施設等を知らない」割合が最も高く、小学生では29.0%、中学生では27.3%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生で12.9%、中学生で11.5%となっている。



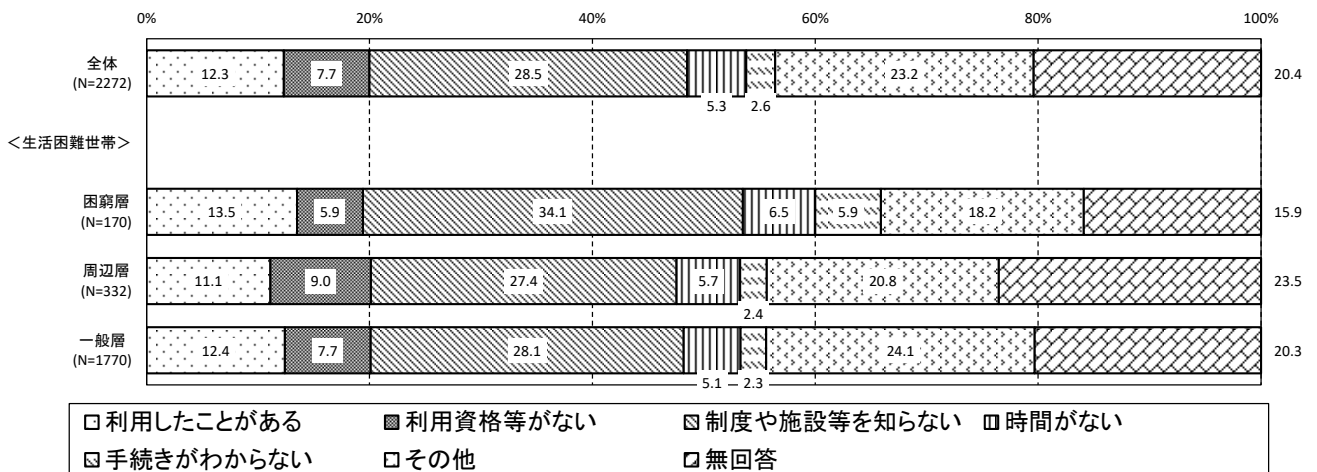
【生活困難世帯別】

「時間がない」の割合は、困窮層では6.5%、周辺層では5.7%、一般層では5.1%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「手続きがわからない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では5.9%、周辺層では2.4%、一般層では2.3%となっている。

また、すべての階層において「制度や施設等を知らない」の割合が高い。

なお、「利用したことがある」は困窮層では13.5%、周辺層では11.1%、一般層では12.4%となっている。



第5章 制度・サービスの利用

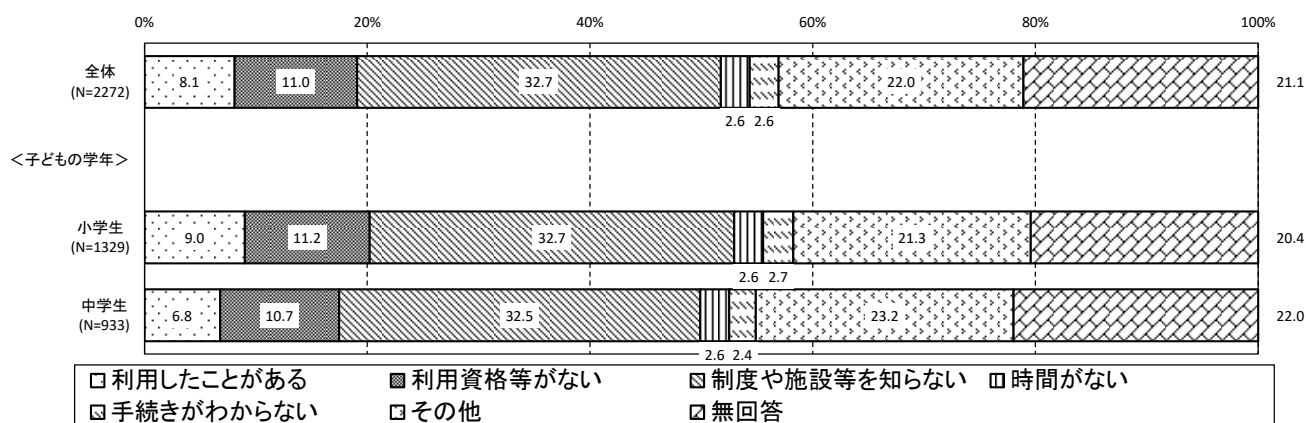
1.4. 幼児教育研究所

全体では、「制度や施設等を知らない」が32.7%で最も高い。また「利用したことがある」は8.1%となっている。

【学年別】

小学生、中学生ともに「制度や施設等を知らない」割合が最も高く、小学生では32.7%、中学生では32.5%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生で9.0%、中学生で6.8%となっている。



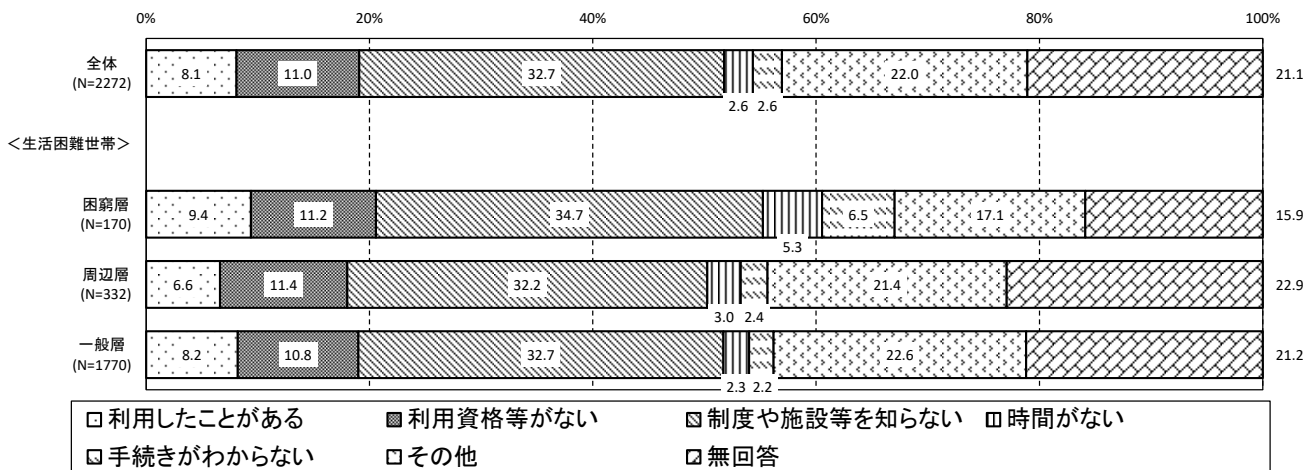
【生活困難世帯別】

「時間がない」の割合は、困窮層では5.3%、周辺層では3.0%、一般層では2.3%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「手続きがわからない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では6.5%、周辺層では2.4%、一般層では2.2%となっている。

また、すべての階層で「制度や施設等を知らない」の割合が高い。

なお、「利用したことがある」は困窮層では9.4%、周辺層では6.6%、一般層では8.2%となっている。



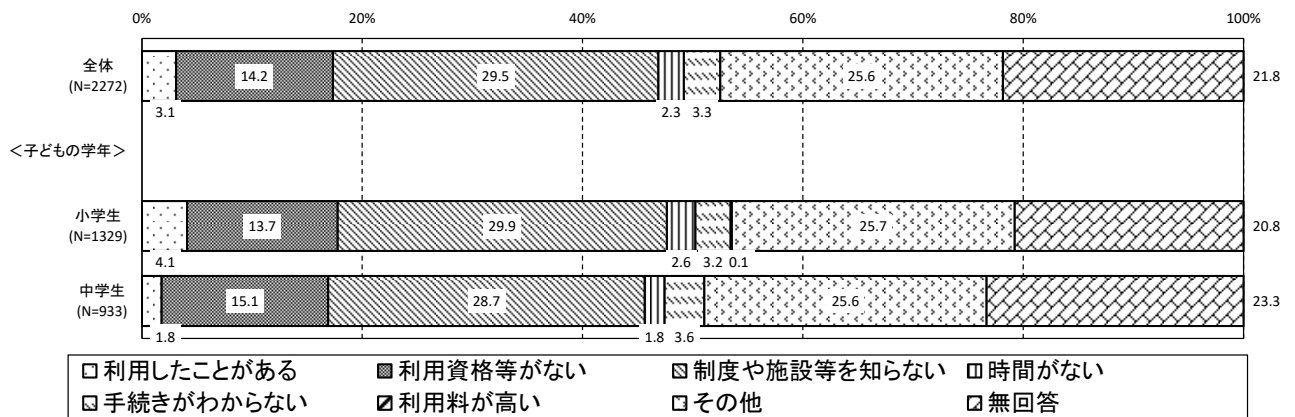
15. 子ども食堂

全体では、「制度や施設等を知らない」が29.5%で最も高い。また「利用したことがある」は3.1%となっている。

【学年別】

小学生、中学生ともに「制度や施設等を知らない」割合が最も高く、小学生では29.9%、中学生では28.7%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生で4.1%、中学生で1.8%となっている。

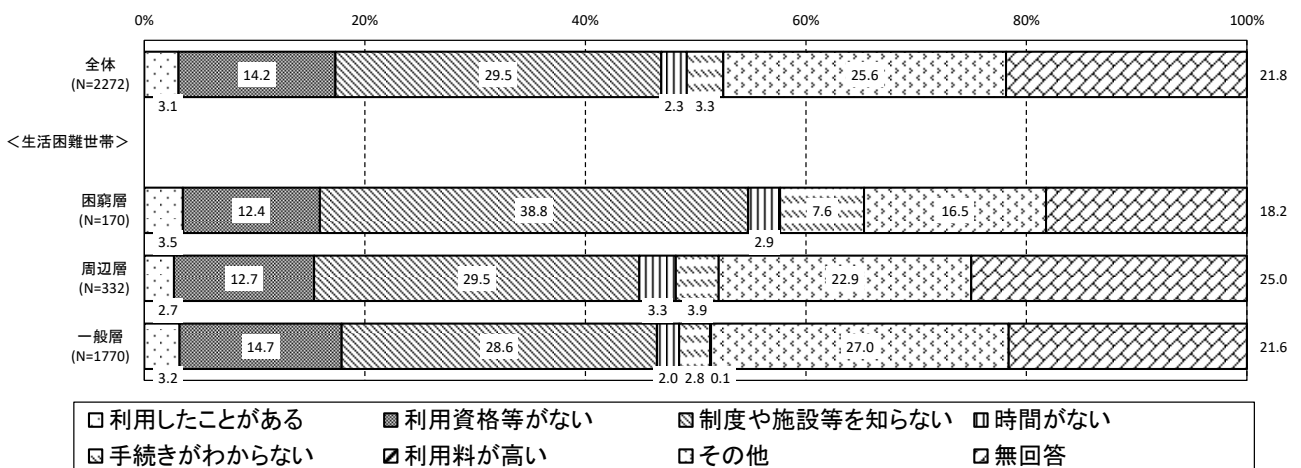


【生活困難世帯別】

「制度や施設等を知らない」の割合は、困窮層では38.8%、周辺層では29.5%、一般層では28.6%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「手続きがわからない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では7.6%、周辺層では3.9%、一般層では2.8%となっている。

なお、「利用したことがある」は困窮層では3.5%、周辺層では2.7%、一般層では3.2%となっている。



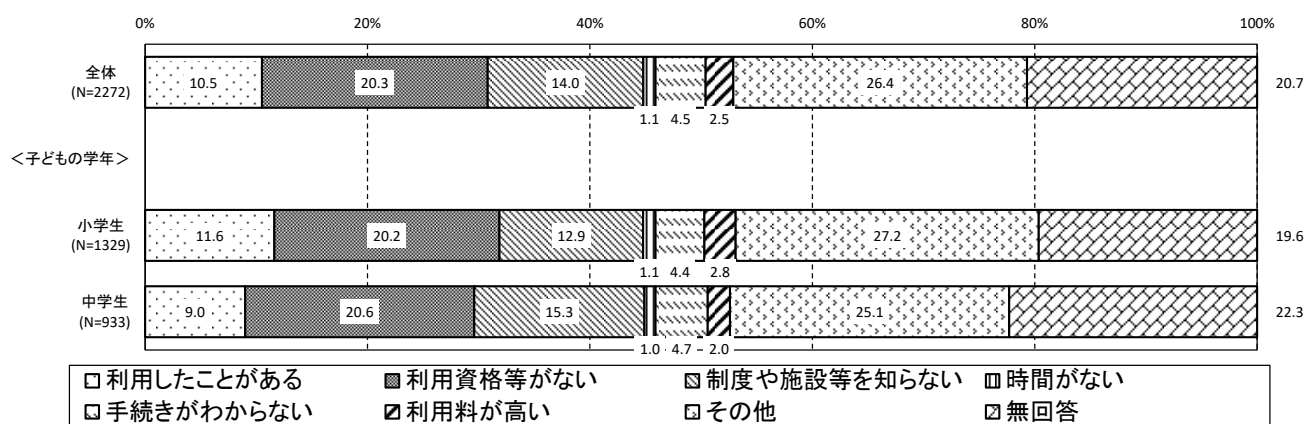
16. 病児保育

全体では、「その他」(26.4%)を除くと「利用資格等がない」(20.3%)が最も高く、次いで「制度や施設等を知らない」(14.0%)と続く。なお「利用したことがある」は10.5%となっている。

【学年別】

小学生、中学生ともに「利用資格等がない」割合が高く、小学生では20.2%、中学生では20.6%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生で11.6%、中学生で9.0%となっている。

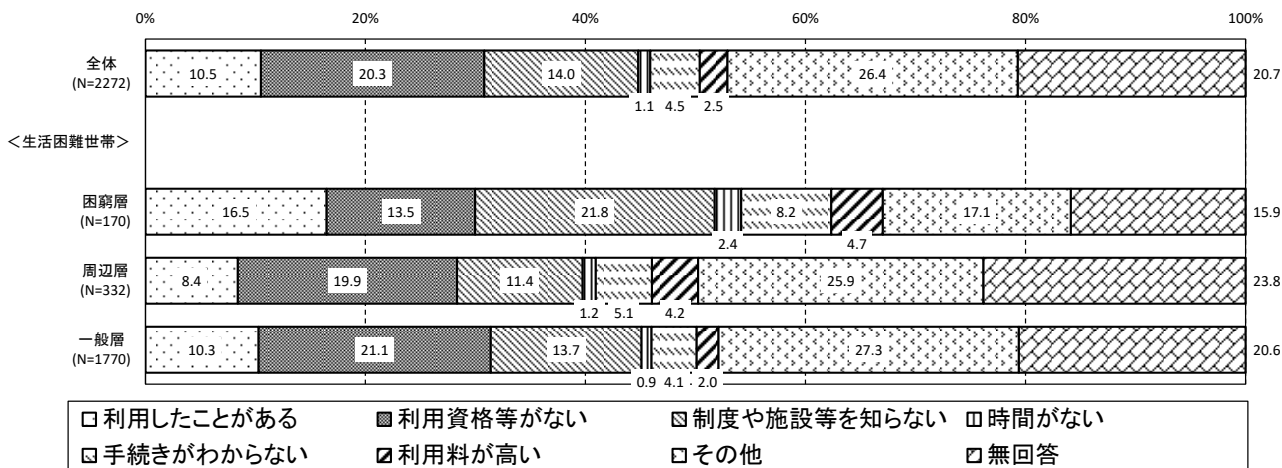


【生活困難世帯別】

「手続きがわからない」の割合は、困窮層では8.2%、周辺層では5.1%、一般層では4.1%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「利用料が高い」も同様に困窮度が高まるにつれて高くっており、困窮層では4.7%、周辺層では4.2%、一般層では2.0%となっている。

なお、「利用したことがある」は困窮層では16.5%、周辺層では8.4%、一般層では10.3%となっている。

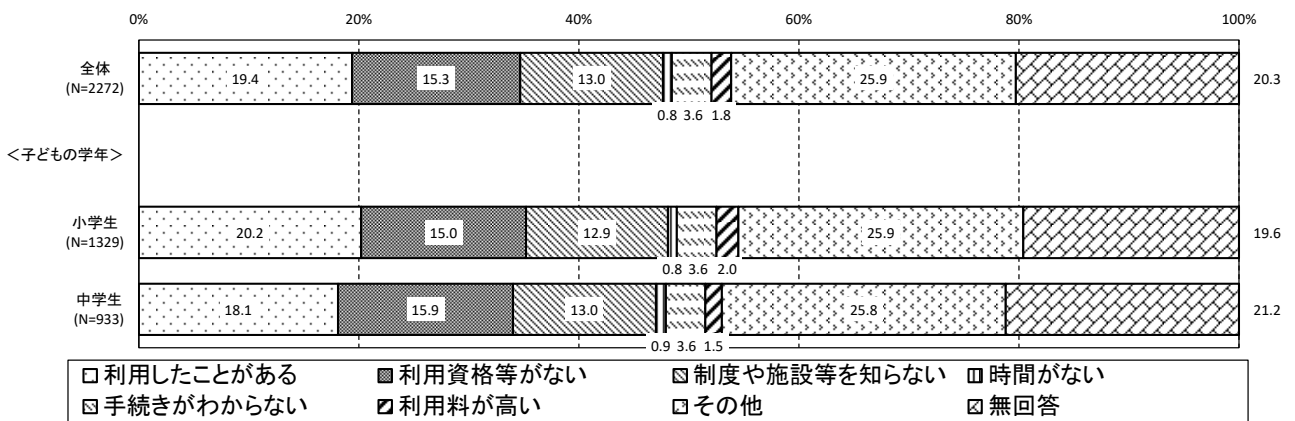


17. 一時預かり（一時保育）

全体では、「その他」（25.9%）を除くと、「利用したことがある」が19.4%で最も高い。

【学年別】

「その他」以外では、小学生、中学生ともに「利用したことがある」割合が最も高く、小学生では20.2%、中学生では18.1%となっている。

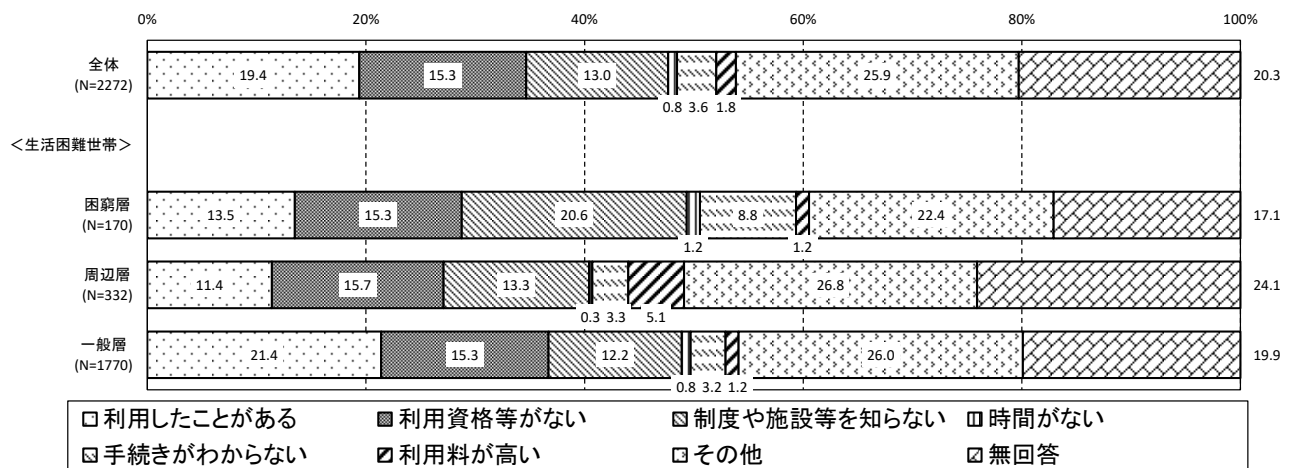


【生活困難世帯別】

「制度や施設等を知らない」の割合は、困窮層では20.6%、周辺層では13.3%、一般層では12.2%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「手続きがわからない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、周辺層では8.8%、周辺層では3.3%、一般層では3.2%となっている。

なお、「利用したことがある」は困窮層では13.5%、周辺層では11.4%、一般層では21.4%となっている。



第5章 制度・サービスの利用

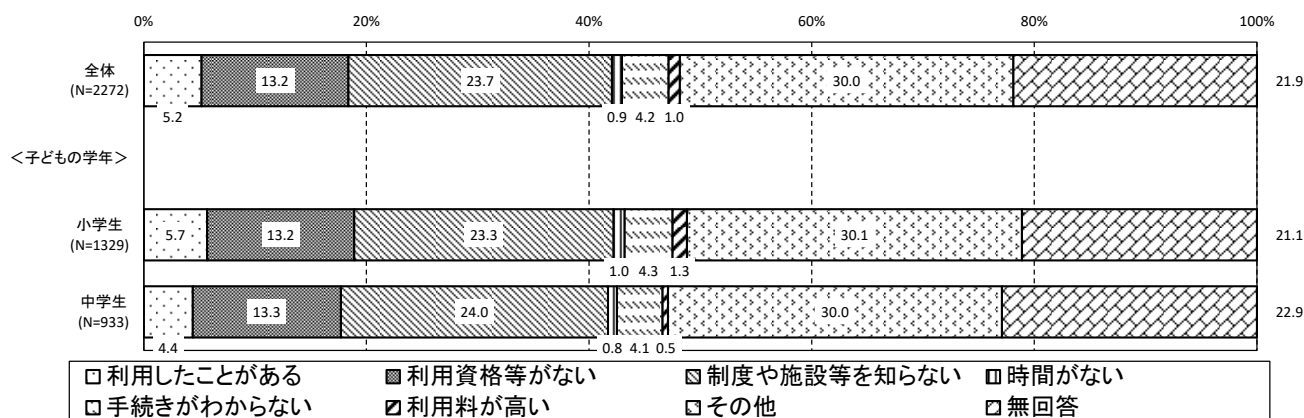
18. ファミリー・サポート・センター

全体では、「その他」(30.0%)以外では、「制度や施設等を知らない」が23.7%で最も高い。また「利用したことがある」は5.2%となっている。

【学年別】

「その他」以外では、小学生、中学生ともに「制度や施設等を知らない」割合が最も高く、小学生では23.3%、中学生では24.0%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生で5.7%、中学生で4.4%となっている。



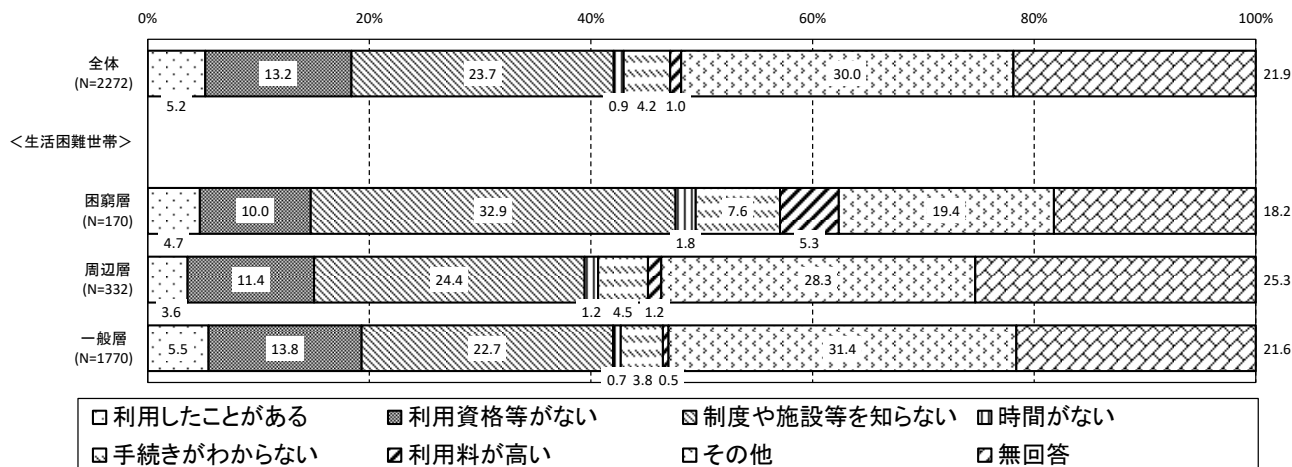
【生活困難世帯別】

「制度や施設等を知らない」の割合は、困窮層では32.9%、周辺層では24.4%、一般層では22.7%となり、困窮度が高まるにつれて高くなっている。

「手続きがわからない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では7.6%、周辺層では4.5%、一般層では3.8%となっている。

「利用料が高い」も同様の傾向を示し、困窮層では5.3%、周辺層では1.2%、一般層では0.5%となっている。

なお、「利用したことがある」は困窮層では4.7%、周辺層では3.6%、一般層では5.5%となっている。



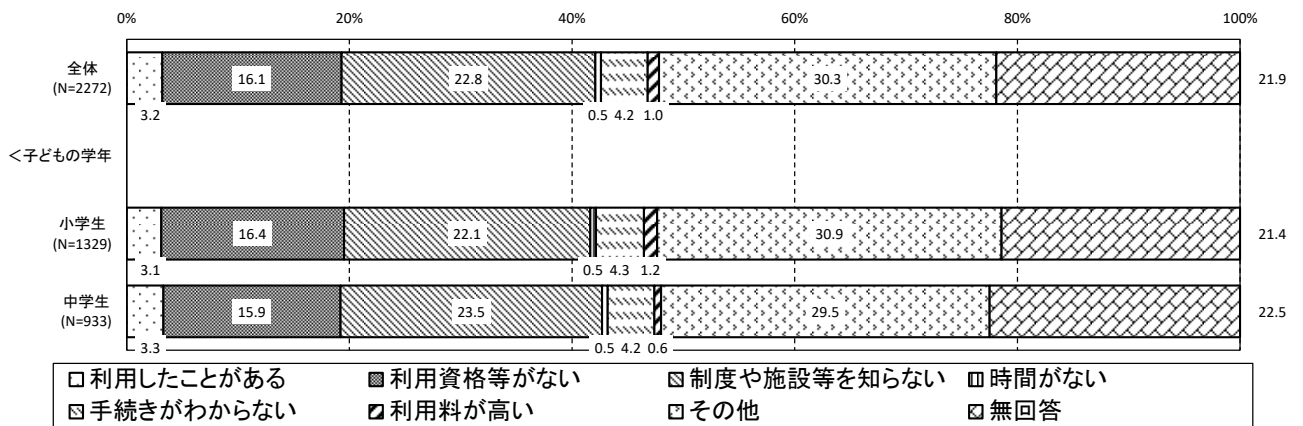
19. 産前産後ヘルパー派遣

全体では、「その他」(30.3%)以外では、「制度や施設等を知らない」が22.8%で最も高い。また「利用したことがある」は3.2%となっている。

【学年別】

「その他」以外では、小学生、中学生ともに「制度や施設等を知らない」割合が最も高く、小学生では22.1%、中学生では23.5%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生で3.1%、中学生で3.3%となっている。



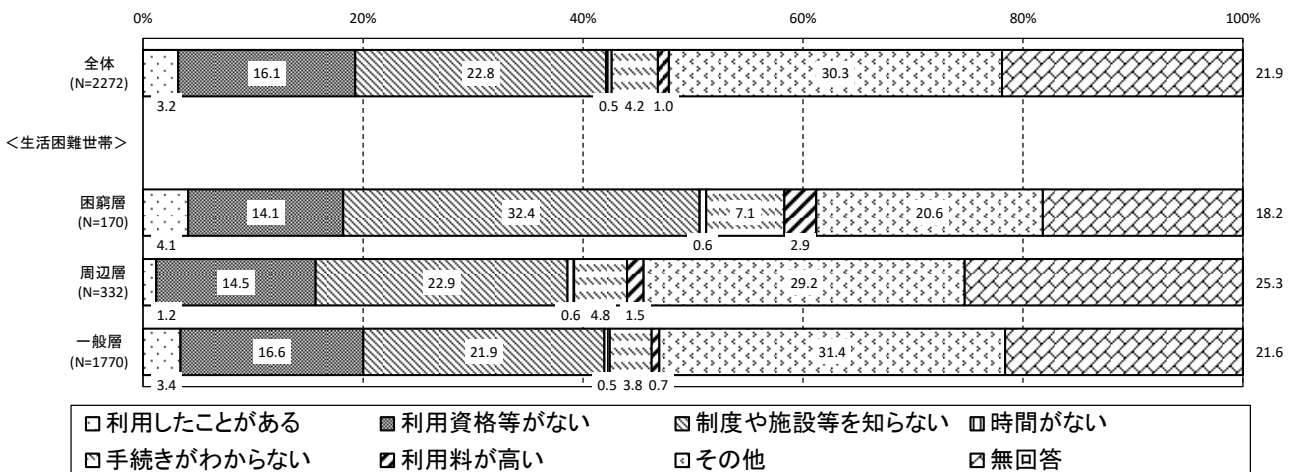
【生活困難世帯別】

「制度や施設等を知らない」割合は、困窮層では32.4%、周辺層では22.9%、一般層では21.9%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「手続きがわからない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では7.1%、周辺層では4.8%、一般層では3.8%となっている。

「利用料が高い」も同様の傾向を示し、困窮層では2.9%、周辺層では1.5%、一般層では0.7%となっている。

なお、「利用したことがある」は困窮層では4.1%、周辺層では1.2%、一般層では3.4%となっている。



第5章 制度・サービスの利用

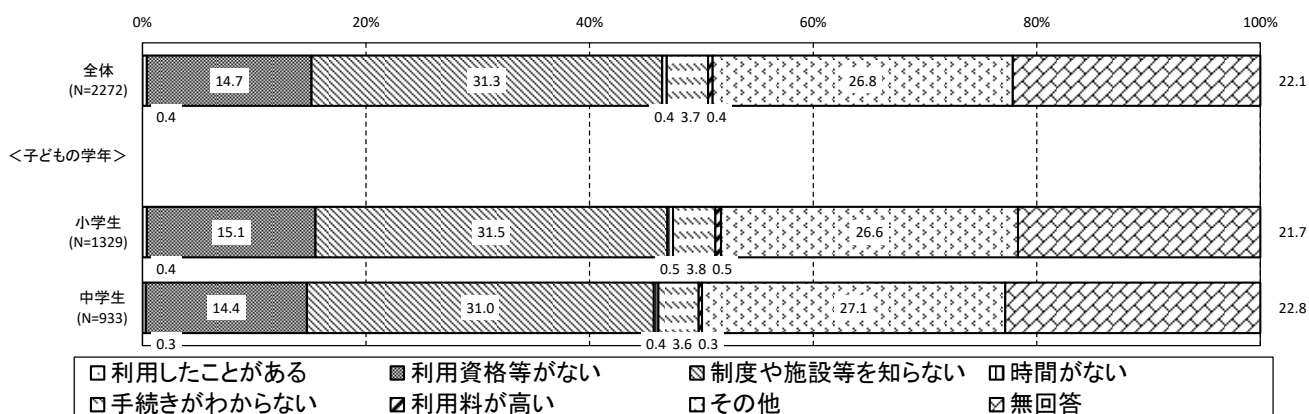
20. ショートステイ・トワイライトステイ

全体では、「制度や施設等を知らない」が31.3%で最も高い。また「利用したことがある」は0.4%にとどまっている。

【学年別】

小学生、中学生ともに「制度や施設等を知らない」割合が最も高く、小学生では31.5%、中学生では31.0%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生で0.4%、中学生で0.3%となっている。

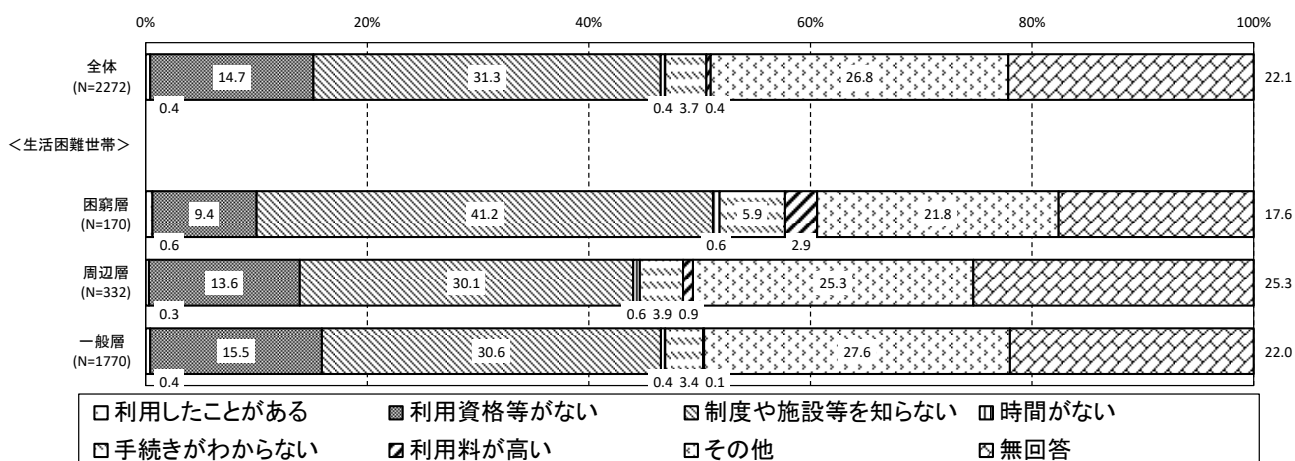


【生活困難世帯別】

「手続きがわからない」割合は、困窮層では5.9%、周辺層では3.9%、一般層では3.4%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「利用料が高い」も同様の傾向を示し、困窮層では2.9%、周辺層では0.9%、一般層では0.1%となっている。

なお、「利用したことがある」は困窮層では0.6%、周辺層では0.3%、一般層では0.4%となっている。



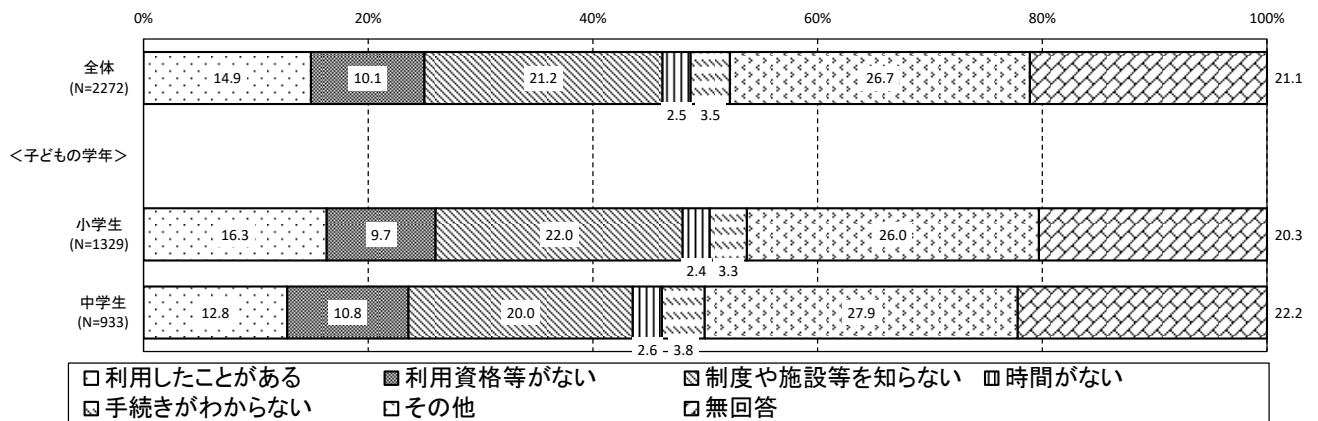
2 1. 学校や地域で行われている放課後等の補充学習

全体では、「その他」(26.7%)を除くと、「制度や施設等を知らない」が21.2%で最も高い。また「利用したことがある」は14.9%となっている。

【学年別】

「その他」以外では、小学生、中学生ともに「制度や施設等を知らない」割合が高く、小学生では22.0%、中学生では20.0%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生で16.3%、中学生で12.8%となっている。

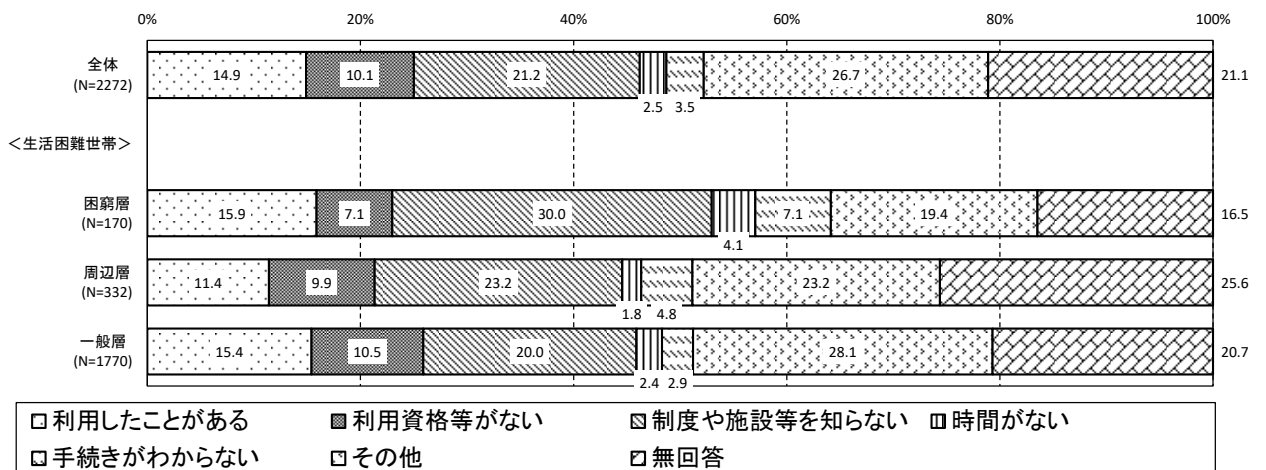


【生活困難世帯別】

「制度や施設等を知らない」割合は、困窮層では30.0%、周辺層では23.2%、一般層では20.0%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「手続きがわからない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では7.1%、周辺層では4.8%、一般層では2.9%となっている。

なお、「利用したことがある」は困窮層では15.9%、周辺層では11.4%、一般層では15.4%となっている。



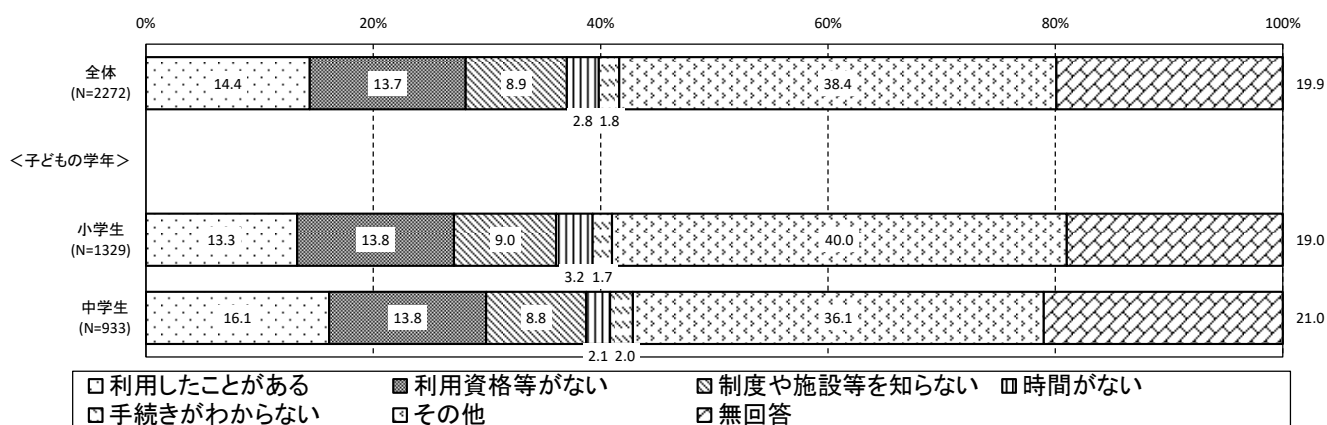
第5章 制度・サービスの利用

2.2. スクールカウンセラー

全体では、「その他」(38.4%)を除くと、「利用したことがある」が14.4%で最も高く、「利用資格等がない」が13.7%と続く。

【学年別】

「その他」以外では、小学生では「利用資格等がない」(13.8%)、「利用したことがある」(13.3%)の割合が高い。中学生では「利用したことがある」(16.1%)が最も高い。

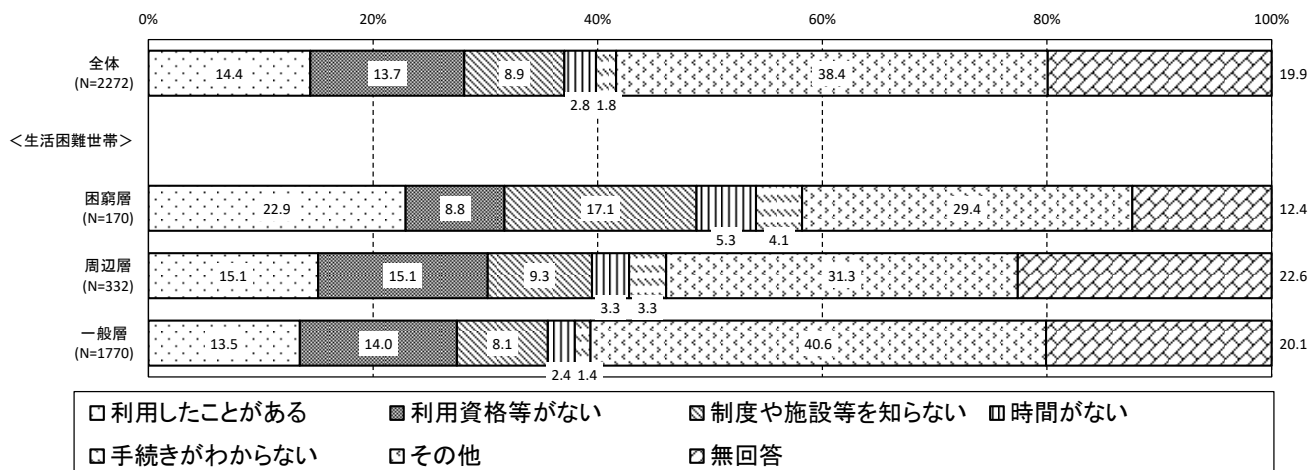


【生活困難世帯別】

「利用したことがある」割合は、困窮層では22.9%、周辺層では15.1%、一般層では13.5%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「制度や施設等を知らない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では17.1%、周辺層では9.3%、一般層では8.1%となっている。

「時間がない」も同様の傾向を示し、困窮層では5.3%、周辺層では3.3%、一般層では2.4%となっている。



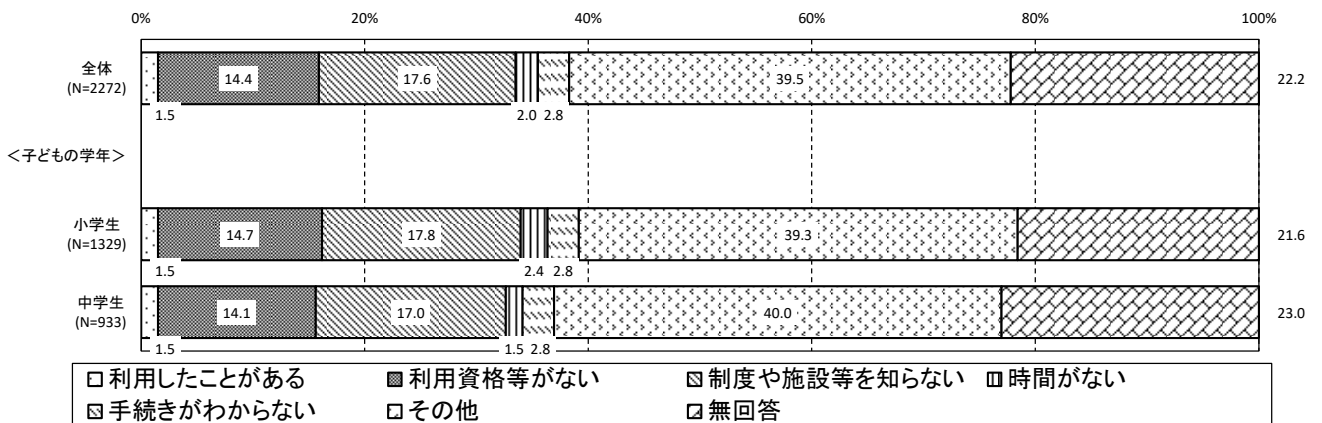
23. スクールソーシャルワーカー

全体では、「その他」(39.5%)以外では、「制度や施設等を知らない」が17.6%で最も高い。また、「利用したことがある」は1.5%となっている

【学年別】

「その他」以外では、小学生、中学生ともに「制度や施設等を知らない」割合が最も高く、小学生では17.8%、中学生では17.0%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生、中学生とも1.5%となっている。



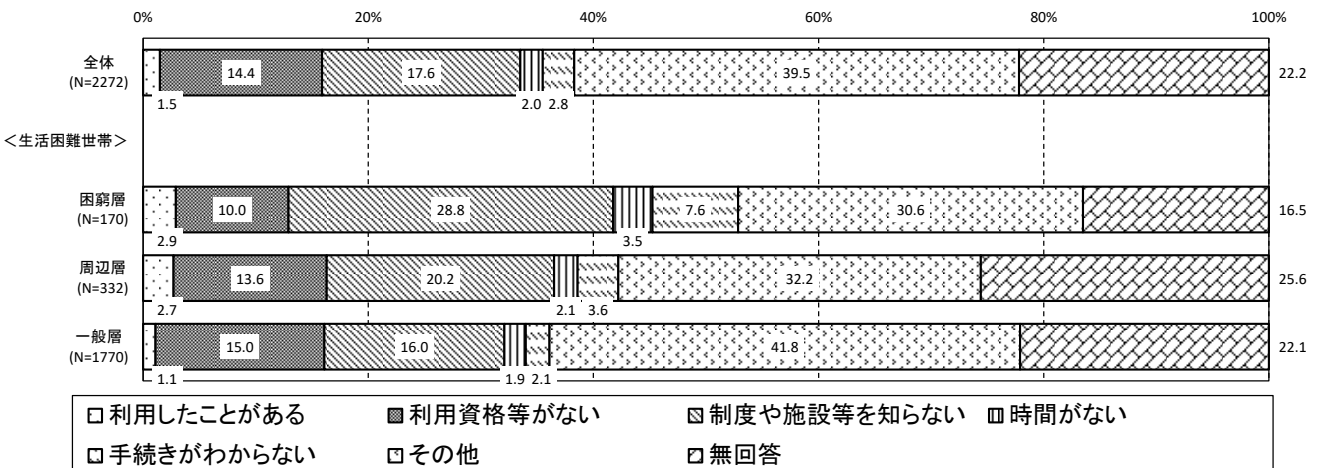
【生活困難世帯別】

「制度や施設等を知らない」割合は、困窮層では28.8%、周辺層では20.2%、一般層では16.0%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「時間がない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では3.5%、周辺層では2.1%、一般層では1.9%となっている。

「手続きがわからない」も同様の傾向を示し、困窮層では7.6%、周辺層では3.6%、一般層では2.1%となっている。

なお、「利用したことがある」は困窮層では2.9%、周辺層では2.7%、一般層では1.1%となっている。

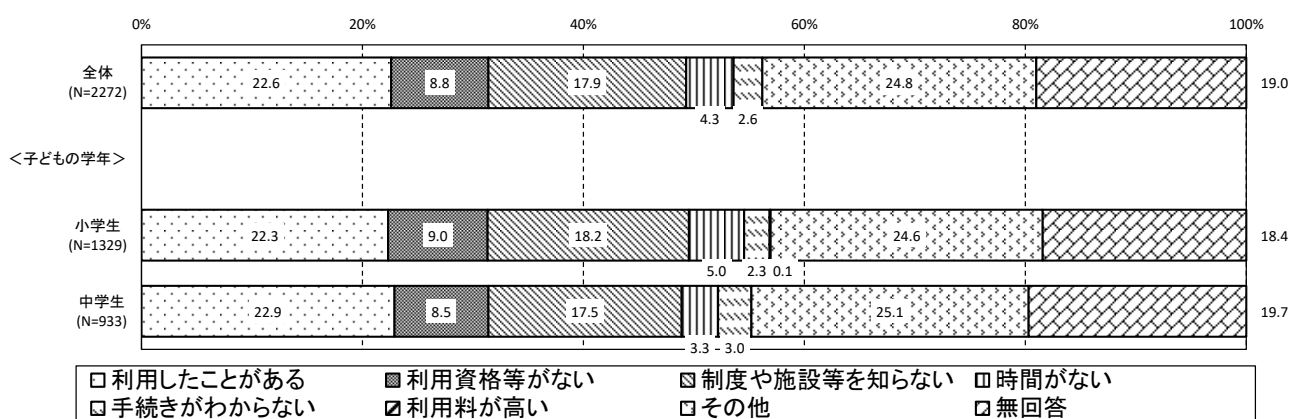


2.4. 土曜塾（青少年学校外活動支援事業）

全体では、「その他」（24.8%）を除くと、「利用したことがある」が22.6%で最も高い。

【学年別】

「その他」以外では、小学生、中学生ともに「利用したことがある」割合が最も高く、小学生では22.3%、中学生では22.9%となっている。

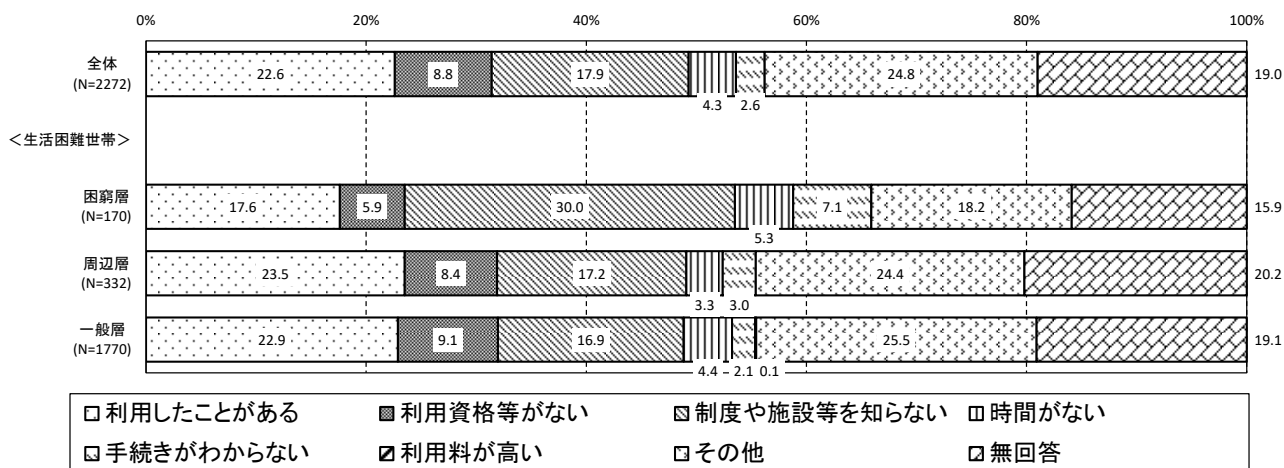


【生活困難世帯別】

「制度や施設等を知らない」割合は、困窮層では30.0%、周辺層では17.2%、一般層では16.9%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「手続きがわからない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では7.1%、周辺層では3.0%、一般層では2.1%となっている。

なお、「利用したことがある」は困窮層では17.6%、周辺層では23.5%、一般層では22.9%となっている。



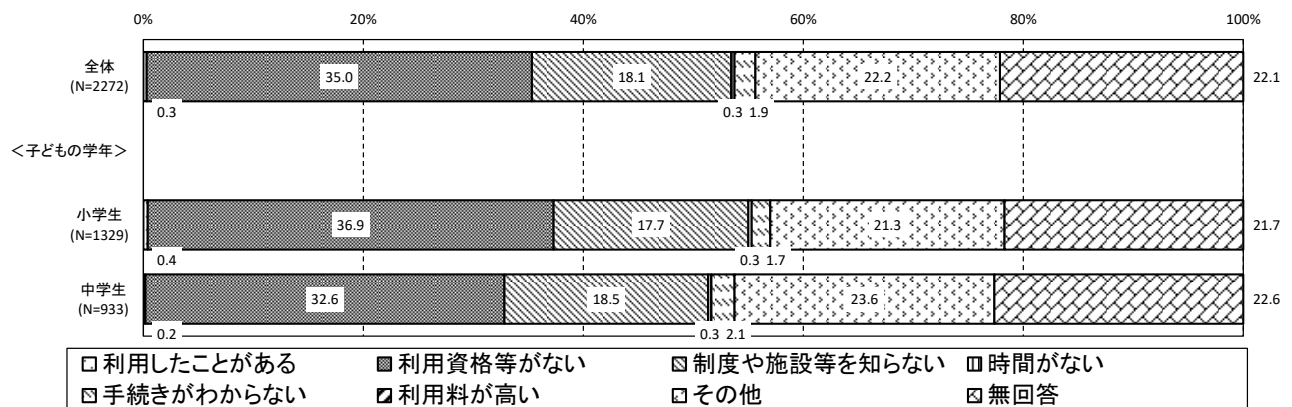
25. 子どもの居場所づくり事業（ひとり親）

全体では、「利用資格等がない」が35.0%で最も高い。なお「利用したことがある」は0.3%にとどまる。

【学年別】

小学生、中学生ともに「利用資格等がない」割合が最も高く、小学生では36.9%、中学生では32.6%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生で0.4%、中学生で0.2%となっている。

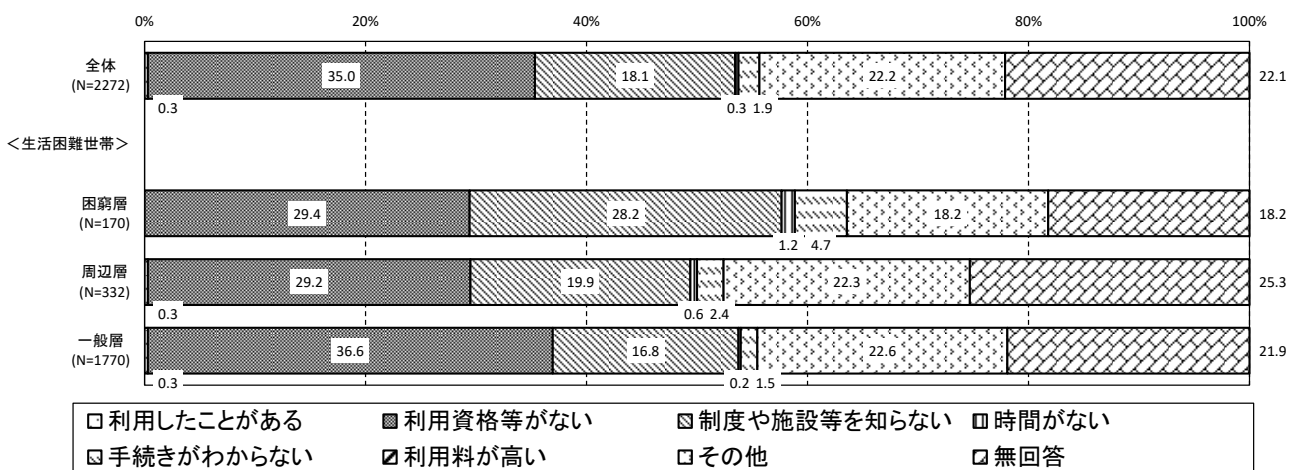


【生活困難世帯別】

「制度や施設等を知らない」割合は、困窮層では28.2%、周辺層では19.9%、一般層では16.8%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「手続きがわからない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では4.7%、周辺層では2.4%、一般層では1.5%となっている。

なお、「利用したことがある」は困窮層では0.0%、周辺層・一般層ではそれぞれ0.3%となっている。



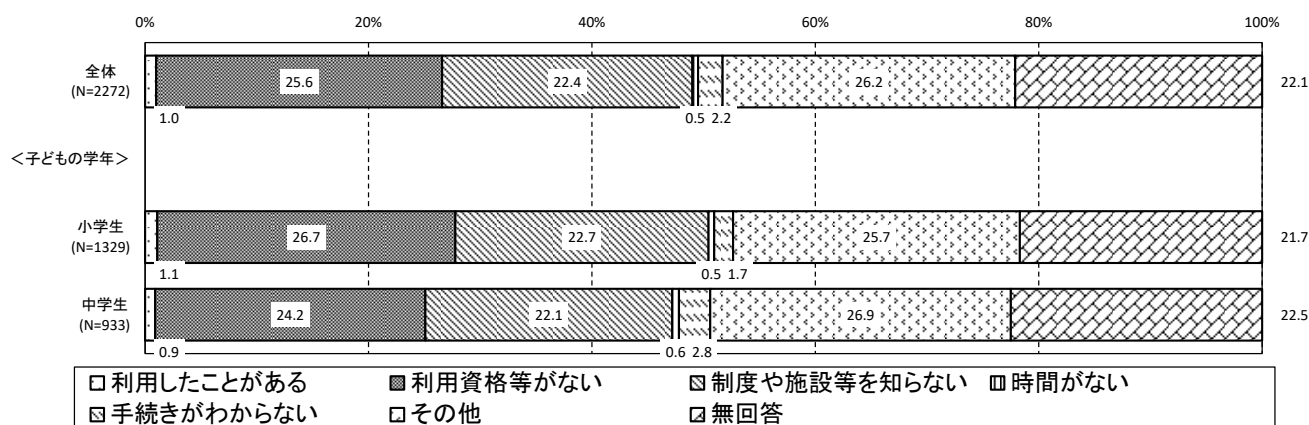
26. 久留米市生活自立支援センター

全体では、「その他」(26.2%)を除くと、「利用資格等がない」が25.6%で最も高い。なお「利用したことがある」は1.0%にとどまる。

【学年別】

小学生では「利用資格等がない」(26.7%)の割合が最も高く、中学生では24.2%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生で1.1%、中学生で0.9%となっている。



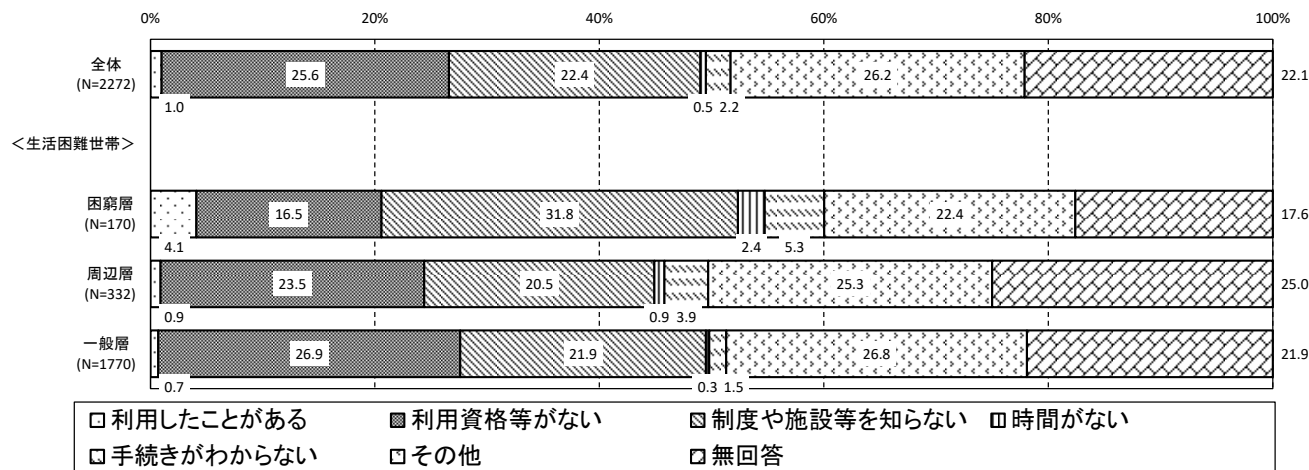
【生活困難世帯別】

「利用したことがある」割合は、困窮層では4.1%、周辺層では0.9%、一般層では0.7%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「時間がない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では2.4%、周辺層では0.9%、一般層では0.3%となっている。

「手続きがわからない」も同様の傾向を示し、困窮層では5.3%、周辺層では3.9%、一般層では1.5%となっている。

なお、「制度や施設等を知らない」は困窮層が31.8%、周辺層が20.5%、一般層が21.9%となり、困窮層で特に高くなっている。



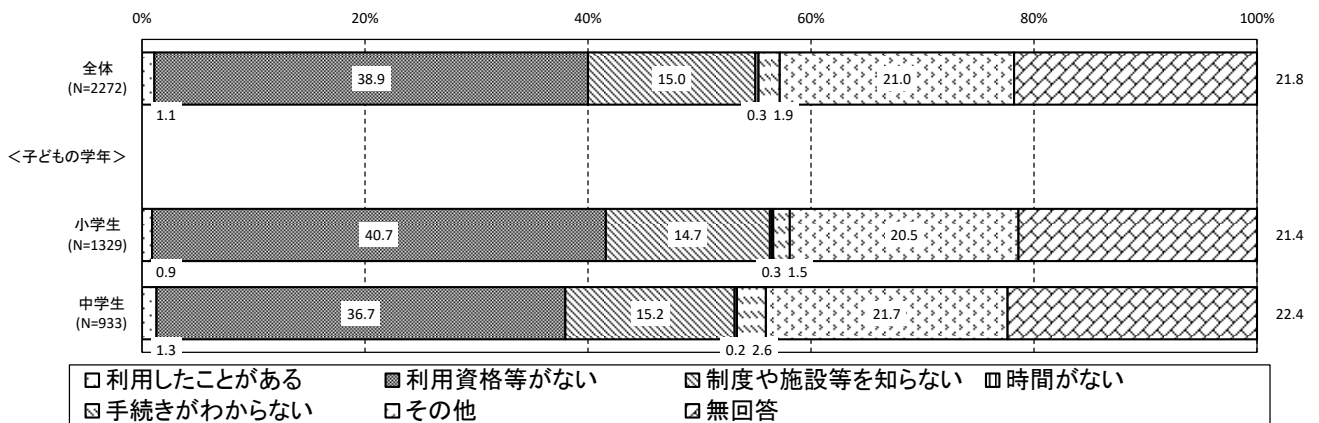
27. 子どもの学習支援事業（生活保護・生活困窮者）

全体では、「利用資格等がない」が38.9%で最も高い。また「利用したことがある」は1.1%にとどまる。

【学年別】

小学生、中学生ともに「利用資格等がない」割合が最も高く、小学生では40.7%、中学生では36.7%となっている。

なお、「利用したことがある」は小学生で0.9%、中学生で1.3%となっている。

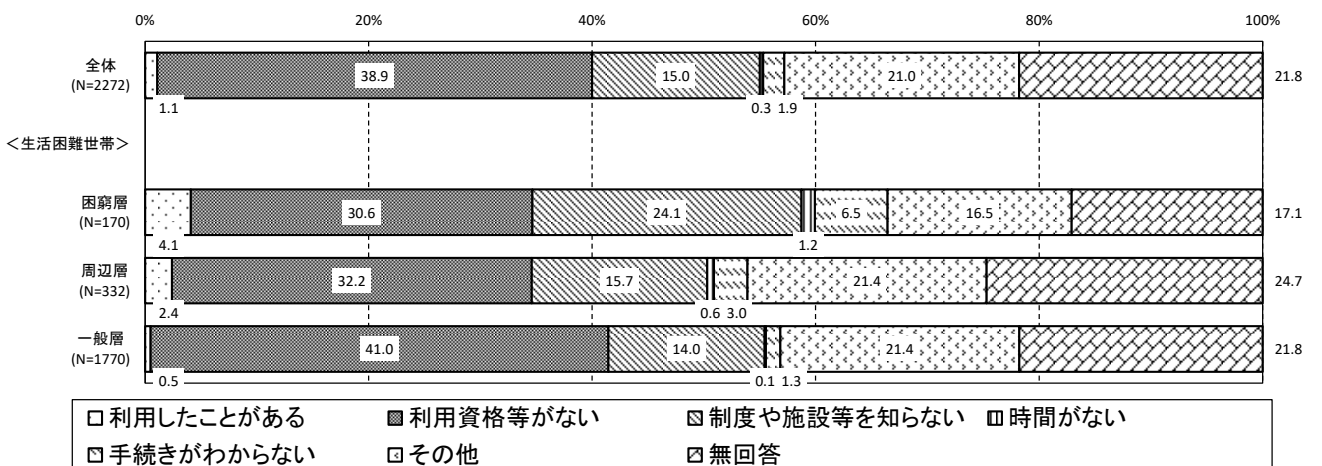


【生活困難世帯別】

「利用したことがある」割合は、困窮層では4.1%、周辺層では2.4%、一般層では0.5%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。

「制度や施設等を知らない」も同様に困窮度が高まるにつれて高くなっており、困窮層では24.1%、周辺層では15.7%、一般層では14.0%となっている。

「手続きがわからない」も同様の傾向を示し、困窮層では6.5%、周辺層では3.0%、一般層では1.3%となっている。



第5章 制度・サービスの利用

(2)子どもに関する情報の入手元

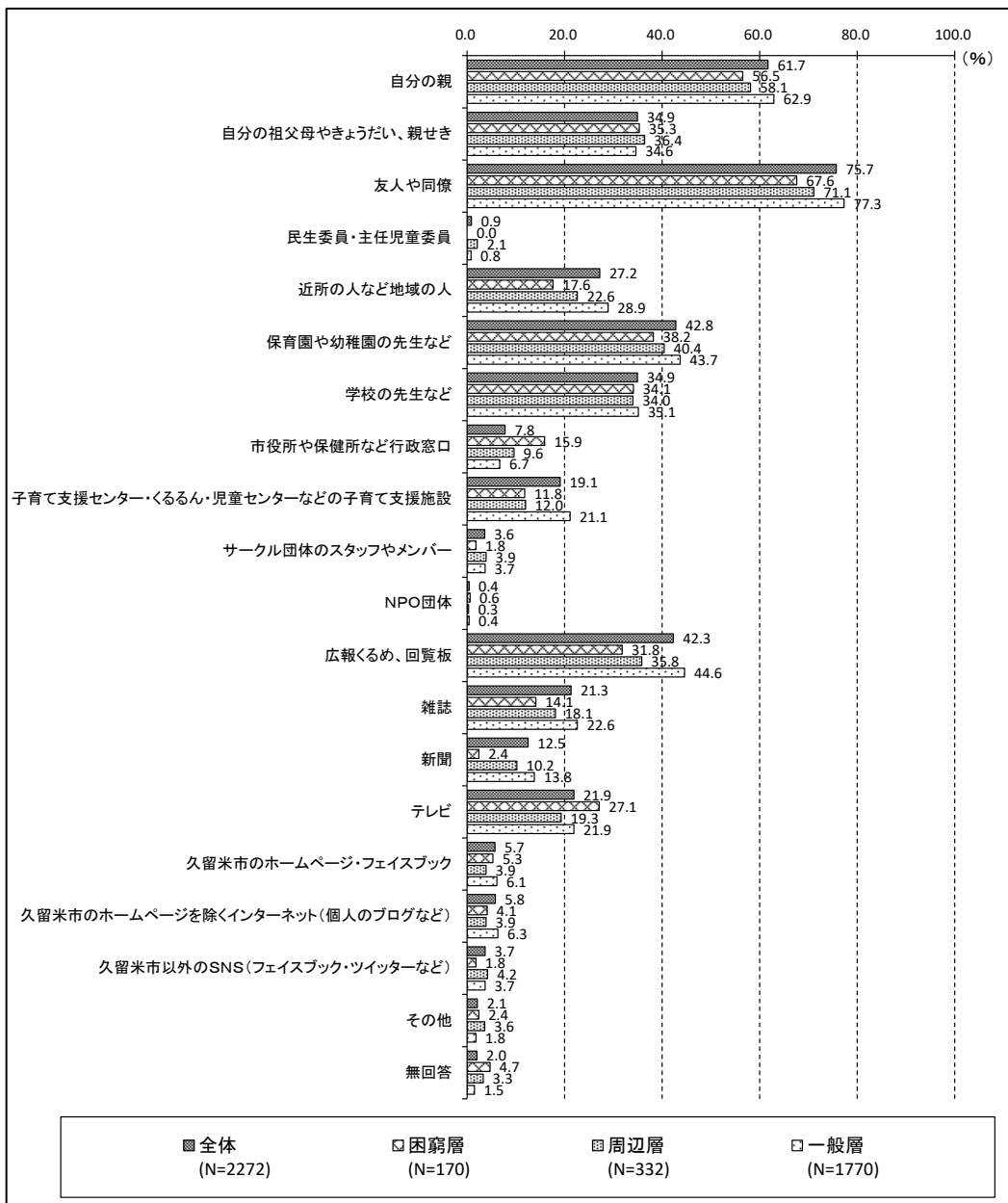
問 24 あなたは、これまで子育てに関する情報をどこから入手していましたか。(あてはまるものすべてに○)

全体では、「友人や同僚」が75.7%で最も高く、次いで「自分の親」が61.7%、「保育園や幼稚園の先生など」が42.8%と続く。

【生活困難世帯別】

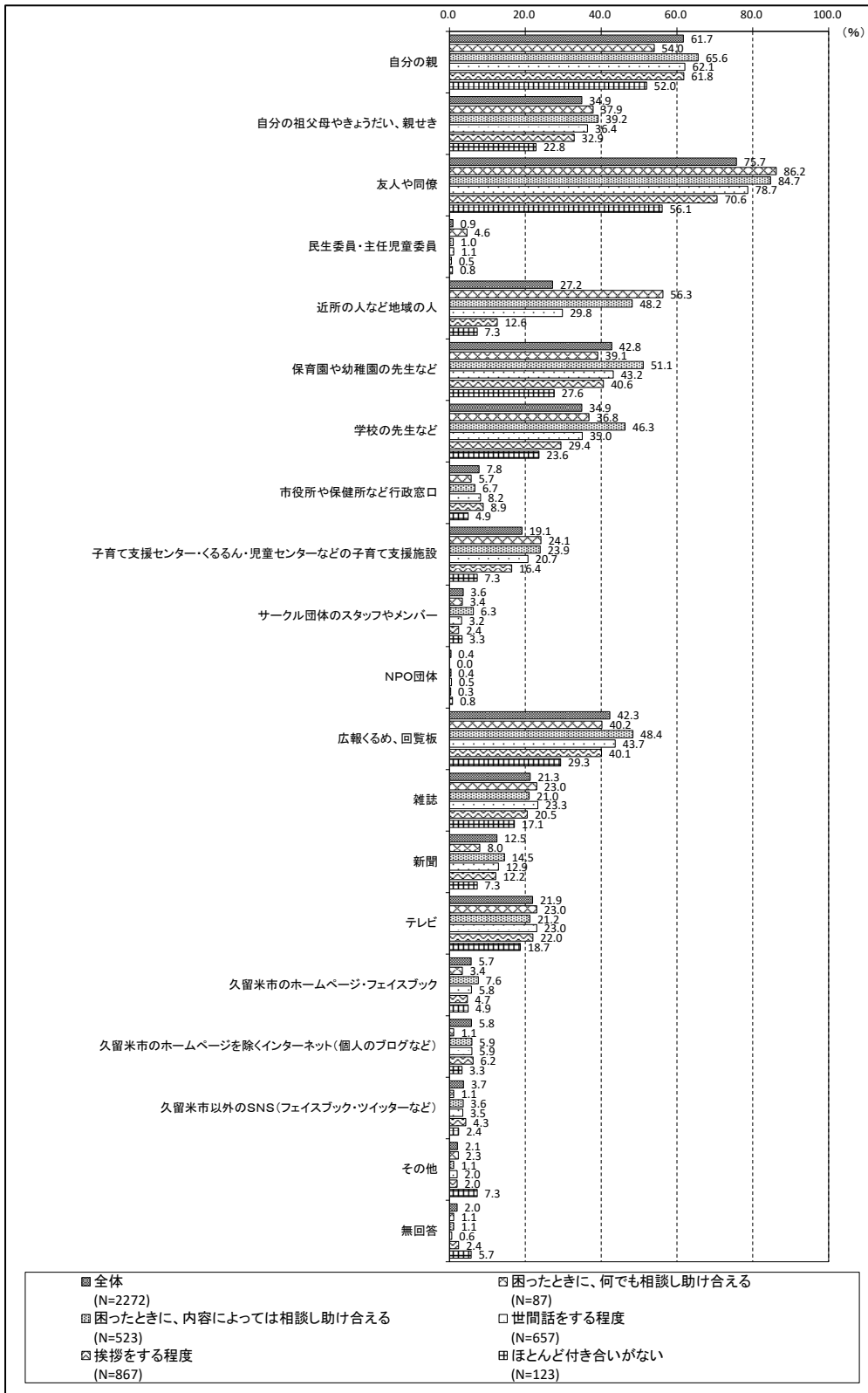
困窮層、周辺層では、一般層と比較して「自分の親」「友人や同僚」「近所の人など地域の人」「保育園や幼稚園の先生など」「子育て支援センター・くるるん・児童センターなどの子育て支援施設」「広報くるめ、回覧板」「雑誌」「新聞」の割合は、困窮度が高まるにつれて低くなる。

一方、「市役所や保健所など行政窓口」は困窮層が15.9%、周辺層が9.6%、一般層が6.7%となり、困窮度が高まるにつれて高くなる。



【近所での付き合いの状況別】

「自分の親」「友人や同僚」「近所などの地域の人」「子育て支援センター・くるるん・児童センターなどの子育て支援施設」の割合は、近所付き合いの程度が高まるにつれて高くなる。特に、「近所の人など地域の人」では困ったときに、何でも相談し助け合えるが56.3%に対し、ほとんど付き合いがないでは7.3%と非常に大きな差がみられる。



2. 必要な支援

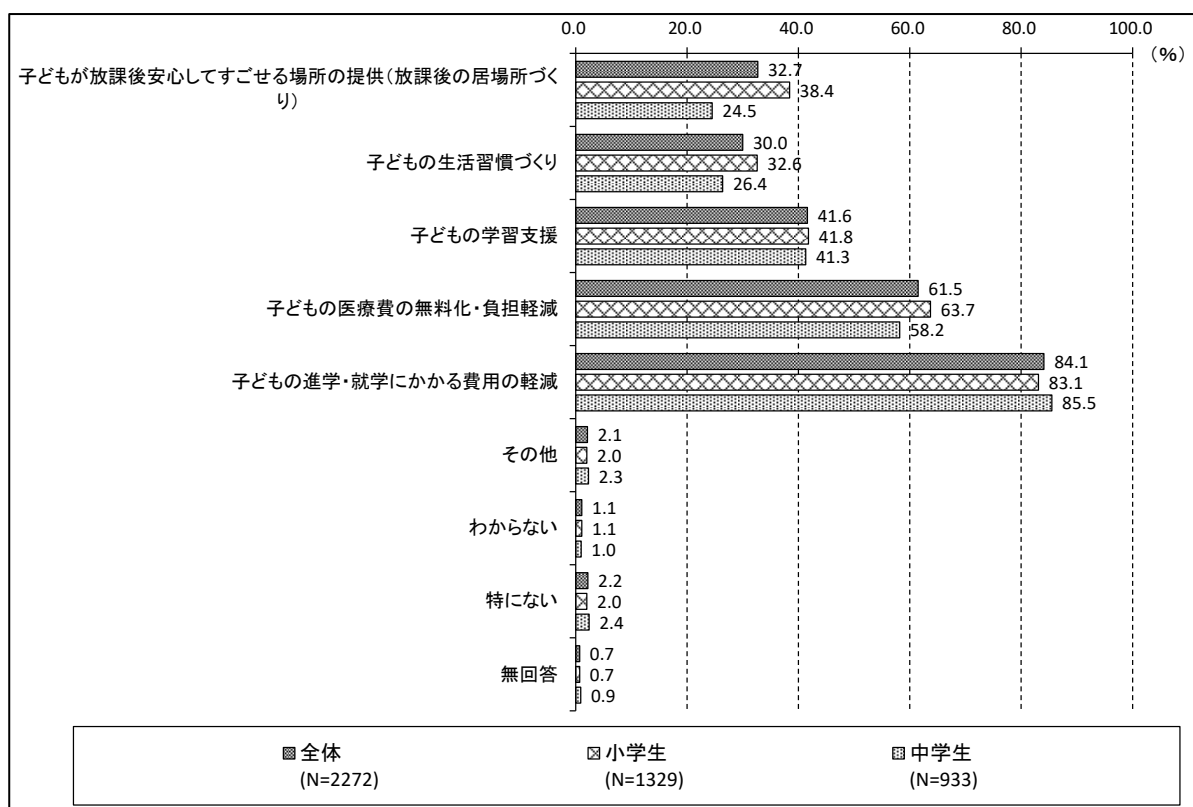
(1) 子どもに必要または重要だと思う支援

問 25 お子さんに対して必要と思われる、または重要だと思う支援等はどのようなものですか（あてはまるものすべてに○）

全体では、「子どもの進学・就学にかかる費用の軽減」が 84.1%で最も高く、次いで「子どもの医療費の無料化・負担軽減」が 61.5%、「子どもの学習支援」が 41.6%と続く。

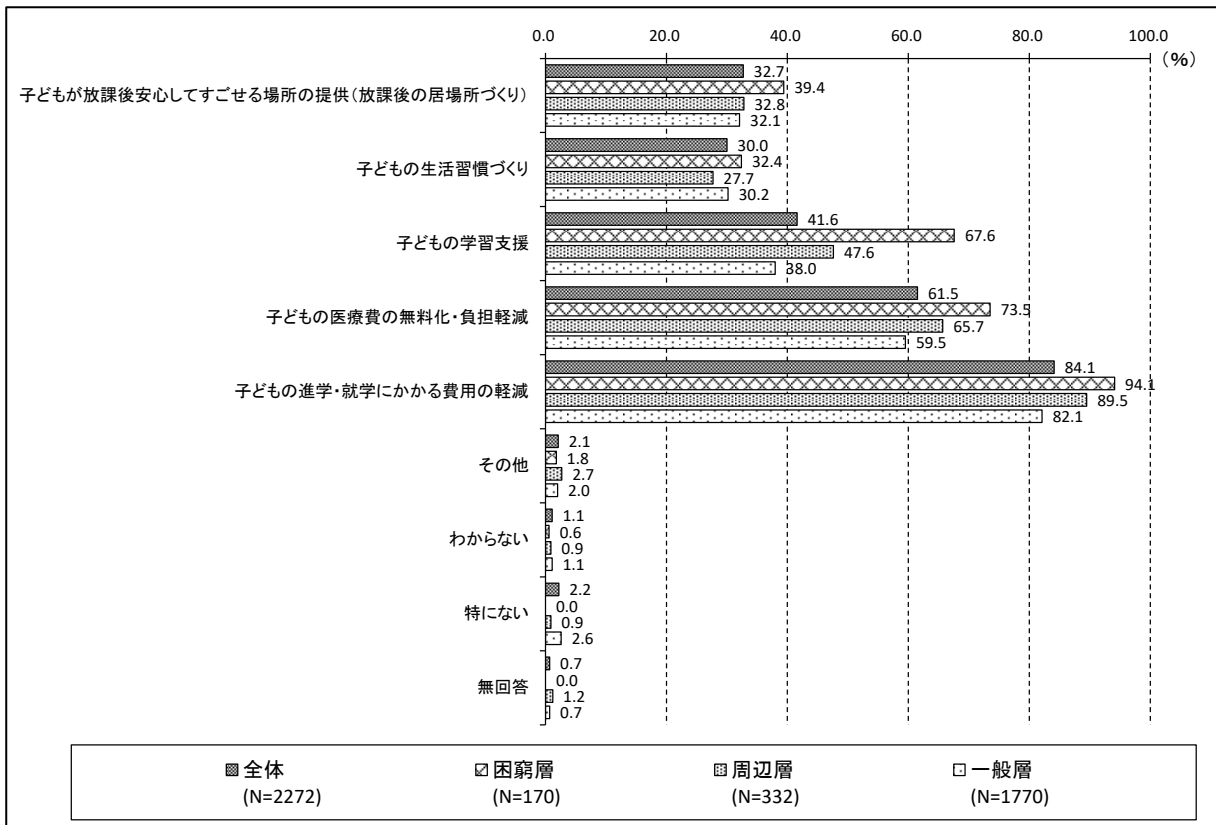
【学年別】

小学生、中学生ともに「子どもの進学・就学にかかる費用の軽減」の割合が最も高く、小学生では 83.1%、中学生では 85.5%となっている。



【生活困難世帯別】

困窮層では、周辺層、一般層と比較して「子どもが放課後安心してすごせる場所の提供（放課後の居場所づくり）」「子どもの学習支援」「子どもの医療費の無料化・負担軽減」「子どもの進学・就学にかかる費用の軽減」の割合が高く、特に「子どもの学習支援」は67.6%と、周辺層の47.6%、一般層の38.0%と比較して非常に高くなっている。



第5章 制度・サービスの利用

(2) 自分が必要または重要だと思う支援

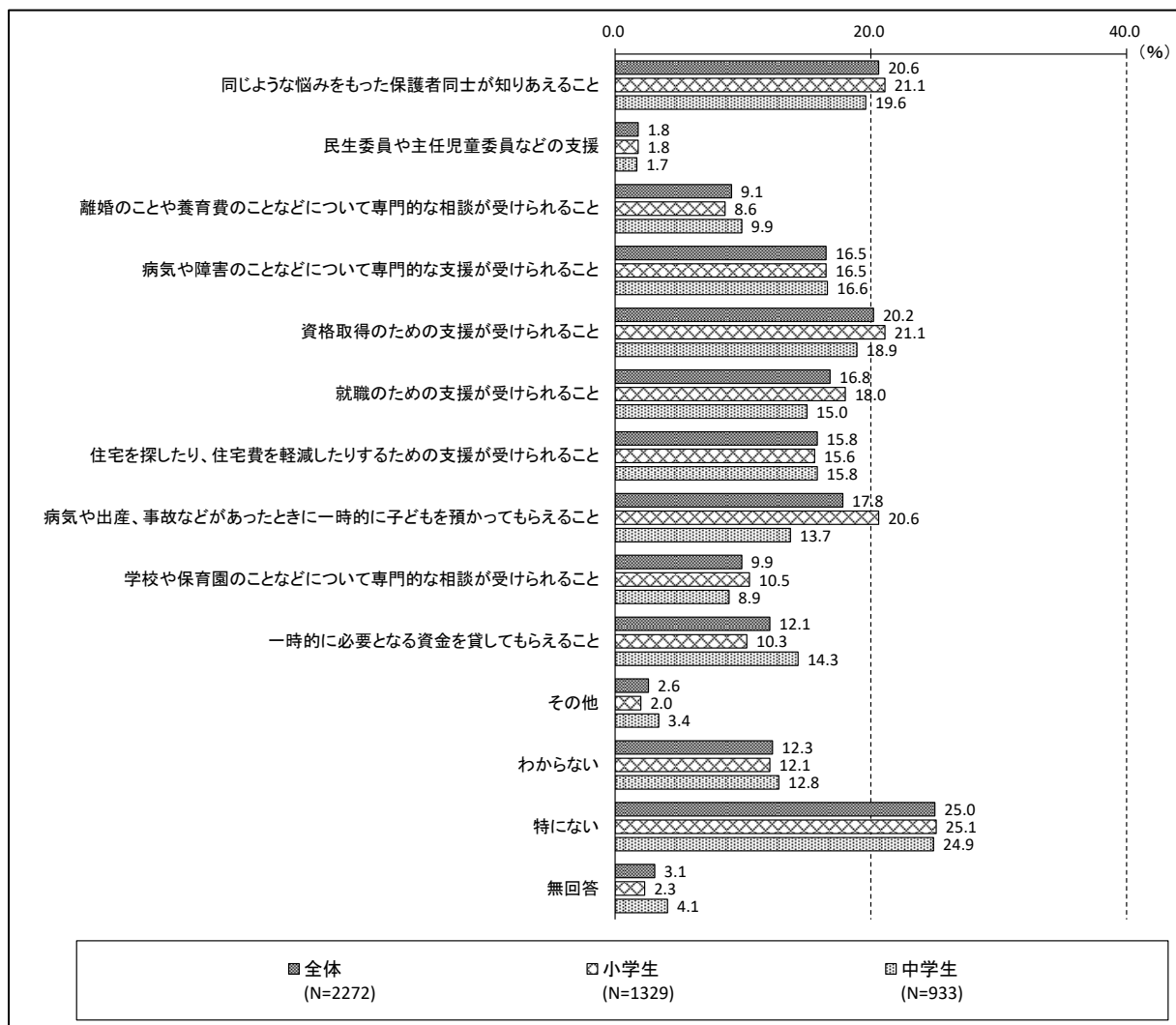
問 26 あなたが現在必要としている、または重要だと思う支援等はどうのようなものですか。

(あてはまるものすべてに○)

全体では、「特にない」(25.0%)を除くと、「同じような悩みをもった保護者同士が知りあえること」が20.6%で最も高く、次いで「資格取得のための支援が受けられること」が20.2%と続く。

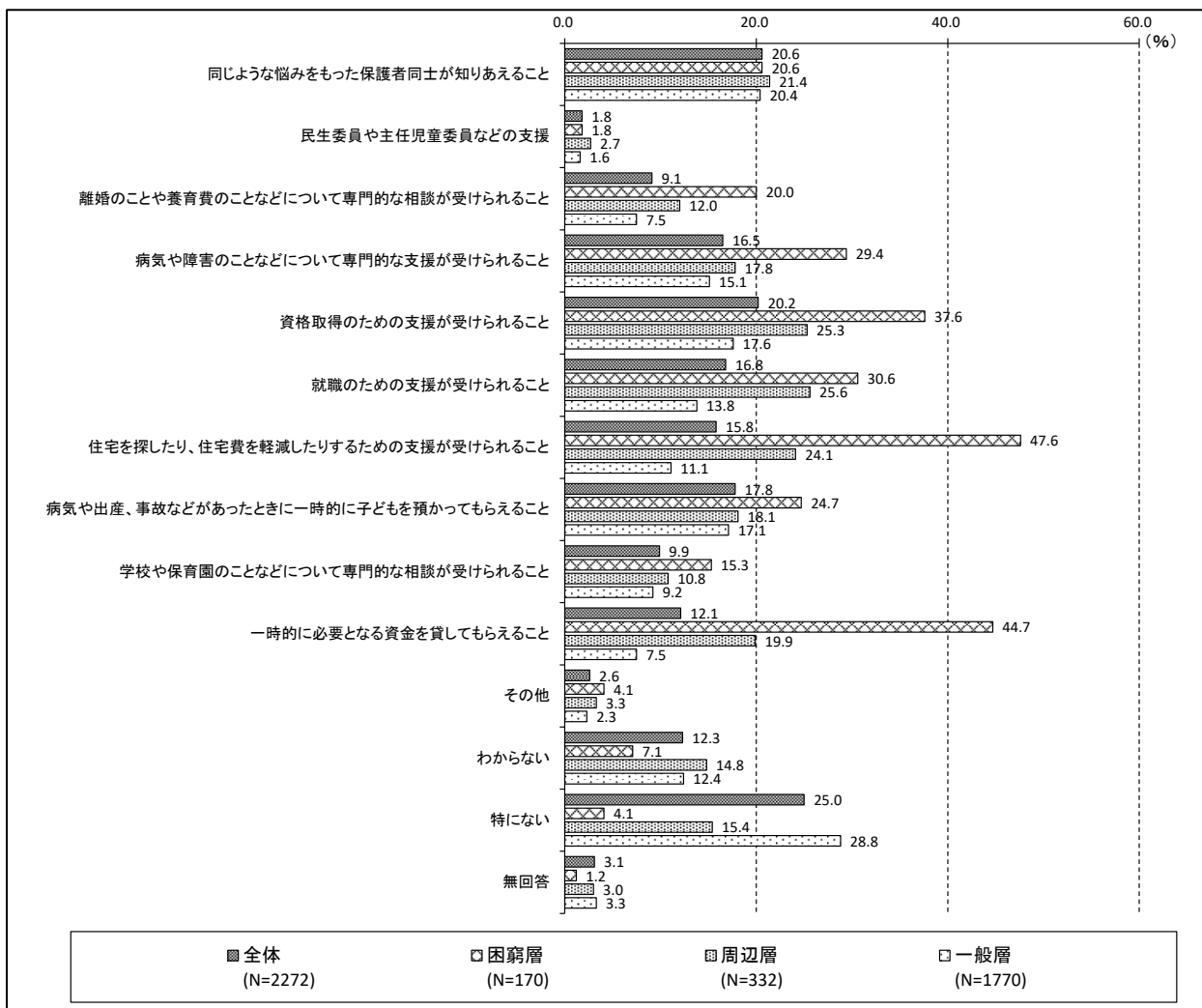
【学年別】

「特にない」を除くと、小学生では「同じような悩みをもった保護者同士が知りあえること」「資格取得のための支援が受けられること」がそれぞれ21.1%で最も高く、中学生でも「同じような悩みをもった保護者同士が知りあえること」が19.6%で最も高い。



【生活困難世帯別】

困窮層では、「住宅を探したり、住宅費を軽減したりするための支援が受けられること」が最も高く47.6%、次いで「一時的に必要な資金を貸してもらえること」が44.7%と、突出して高い。以降「資格取得のための支援が受けられること」(37.6%)、「就職のための支援が受けられること」(30.6%)、「病気や障害のことなどについて専門的な支援が受けられること」(29.4%)、「病気や出産、事故などがあつたときに一時的に子どもを預かってもらえること」(24.7%)、「離婚のことや養育費のことなどについて専門的な相談が受けられること」(20.0%)と続く。



第6章 総括

執筆：山口大学 人文学部
准教授 桑畑 洋一郎

1. はじめに

ここでは、本調査の総括的な分析を行うこととする。

なおその際、「経済的困窮」「社会的困窮」「生活環境」と3つの軸を中心として、それらが子どもの生活実態に及ぼす影響について分析を進めていく。分析に先立って3つの軸をもう少し説明しておこう。

「経済的困窮」とは、本調査でも問うた、「低所得」「家計の逼迫」「子どもの体験や所有物の欠如」の度合いを組み合わせたものである。すなわち、平成27年の貧困線（等価可処分所得の中央値の半分）「122万円」未満の場合に「低所得」とし、保護者向け調査の問22「あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか」の選択肢17項目（「特になし」を除いたもの）の内6項目以上に該当した場合を「家計の逼迫」とし、保護者向け調査の問6「あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由で、子どもに関して次のような経験をされたことがありますか」の選択肢11項目（「経験したことがない」を除く）の内3項目以上に該当した場合を「子どもの体験や所有物の欠如」とする。なお、「低所得」であるかどうかの判断には、保護者向け調査の問19を元に各世帯の可処分所得を算出し、それを世帯人員数の平方根で割った値を用いている。さらに、「低所得」「家計の逼迫」「子どもの体験や所有物の欠如」の内2つ以上が該当する場合を「困窮層」とし、どれか1つが該当する場合を「周辺層」とし、どれも該当しない場合を「一般層」とする。それぞれの割合と概念の関係を表で示すと以下のようなになる。

表1：「経済的困窮」をめぐる概念間の関係とそれぞれに該当するケースの割合

グループ	構成要素	割合	グループ割合
困窮層	低所得+家計の逼迫+子どもの体験や所有物の欠如	1.9%	7.5%
	低所得+家計の逼迫	1.1%	
	低所得+子どもの体験や所有物の欠如	1.6%	
	家計の逼迫+子どもの体験や所有物の欠如	2.9%	
周辺層	低所得のみ	9.6%	14.6%
	家計の逼迫のみ	1.9%	
	子どもの体験や所有物の欠如のみ	3.1%	
一般層	どれにも該当せず		77.9%

「社会的困窮」とは、対象者が作っている人間関係に基づく軸である。すなわち、地域とのつながりや対人関係や相談できる相手について困っている度合いのことを意味し、それが子どもの生活実態にどのように影響しているのかを本調査の結果を通して見ていくこととする。具体的には保護者向け調査の問13や問34で問うたような子育てにおいて頼る相手の有無や、問14などで問うたような地域での付き合い・親族づきあいの状況や、問15と問16で問うたような団体所属経験などを指す。

この総括では、「社会的困窮」と、先に定義した「経済的困窮」の相関を見ていくこととする。これは、「社会関係資本」や「ソーシャル・キャピタル」といった用語で説明されるように、人々の経済的実態とその人が所属する社会関係のありようが相互規定的な関係にあるとする研究をふまえてのことである（代表的な研究としては（辻・佐藤編 2014）などがある）。

2. 「経済的困窮」の実態とその影響

先に示したように、「困窮層」に該当する層は 7.5%、「周辺層」に該当する層は 14.6%、「一般層」に該当する層は 77.9%である。就労状況を見てみると、回答者自身では「勤め（常勤・正規職員）」の割合が「周辺層」<「困窮層」<「一般層」となっており、配偶者では「困窮層」<「周辺層」<「一般層」となっている。常勤・正規職員の方が経済的に安定する傾向が強いため当然のことではあるが、すなわち、「経済的困窮」の度合いと就労状況とはある程度関係していることが見て取れる。さらにこれは世帯状況とも「経済的困窮」の度合いは関係しており、保護者向け調査の間 28「世帯状況」を見てみると、「ふたり親世帯」が「困窮層」で 54.7%、「周辺層」で 66.3%、「一般層」で 84.1%となっており、ひとり親世帯の「経済的困窮」の度合いが高いことが見て取れる。加えて、「経済的困窮」の度合いは初子の誕生年齢とも関係しており、保護者向け調査の間 9「初めて親になった年齢」との関係を見ると、若くして親となった層ほど「経済的困窮」の度合いが高い傾向が見て取れる。以上の基礎的な事実をふまえて以下からは、それぞれの層の特徴を見ていくこととする。

まず、「経済的困窮」の度合いが子どもと過ごす時間にどのような影響を与えているのかを見てみる。保護者向け調査の間 2「子どもとともに過ごす時間が長い人」を見てみると、「きょうだい」の割合が「困窮層」で 24.1%、「周辺層」で 19.6%、「一般層」で 11.6%となっており、一方「お母さん」の割合が「困窮層」で 65.3%、「周辺層」で 65.4%、「一般層」で 76.6%となっている。また、子ども向け調査の間 10「ひとりでご飯を食べる頻度」と「経済的困窮」の度合いの関係を見てみると、「まったくない」と「ほとんどない」の合計が「困窮層」で 59.3%、「周辺層」で 67.1%、「一般層」で 74.3%となっている。以上のことを総合すると、「経済的困窮」の度合いが高いほど（困窮しているほど）子どものみで過ごす時間が長くなっている可能性がうかがえる。またそれは、食事のような、生活の根本をなす場面にも影響を及ぼしていることが分かる。

続けて、「経済的困窮」の度合いが子どもの基礎的生活にどのような影響を及ぼしているのか見てみたい。先に「ひとりでご飯を食べる頻度」が「経済的困窮」の度合いと相関していることを示したが、同様の結果は他の場面でも見られる。たとえば朝食を食べる頻度を見てみると、「毎日・ほぼ毎日」食べる子どもの割合が、朝食については「困窮層」では 83.2%、「周辺層」では 90.9%、「一般層」では 93.9%となっている。

夕食を食べる頻度についてはそれほどの差が出ていないが、朝食を食べる頻度が家庭の「経済的困窮」の度合いで規定されていることがうかがえる。

なお、「休日に昼食を食べる頻度」についても同様の傾向が見られる。また、朝食を食べない理由についても、「おなかがすいていない」については「困窮層」<「周辺層」<「一般層」となっている（順に 25.0%、37.9%、41.0%）一方で、「用意されていない・食べるものがない」については「困窮層」>「周辺層」>「一般層」となっている（順に 7.1%、3.4%、2.9%）となっている。該当者数が少ないため一概には言えないものの、ここからは、特に経済的に困窮している層ほど、子ども自身の選択とは離れた部分で朝食を取れなくなっている状況があることがうかがえる。

また、子ども向け調査の問 11「一週間でお風呂に入る頻度」にも「経済的困窮」の度合いが影響を及ぼしていることが見られる。「毎日・ほぼ毎日」入る子どもは、どの層でも 9 割を超えているとはいえ、ここでもやはり「困窮層」<「周辺層」<「一般層」となっている（順に 92.8%、94.6%、96.3%）。また、家庭の「経済的困窮」の度合いは子どもの健康にも影響を及ぼしており、保護者向け調査の問 5「虫歯の有無」を見てみると、「ある（未治療）」で「困窮層」は 13.5%、「周辺層」は 12.0%、「一般層」は 6.5%となっている。一方「ない」は「困窮層」<「周辺層」<「一般層」となっている。

以上のことから、「経済的困窮」の度合いが、子どもの家庭生活の、それも基礎的な部分にまで影響を及ぼしていることが見て取れよう。このことを図式化すると以下のようになる。

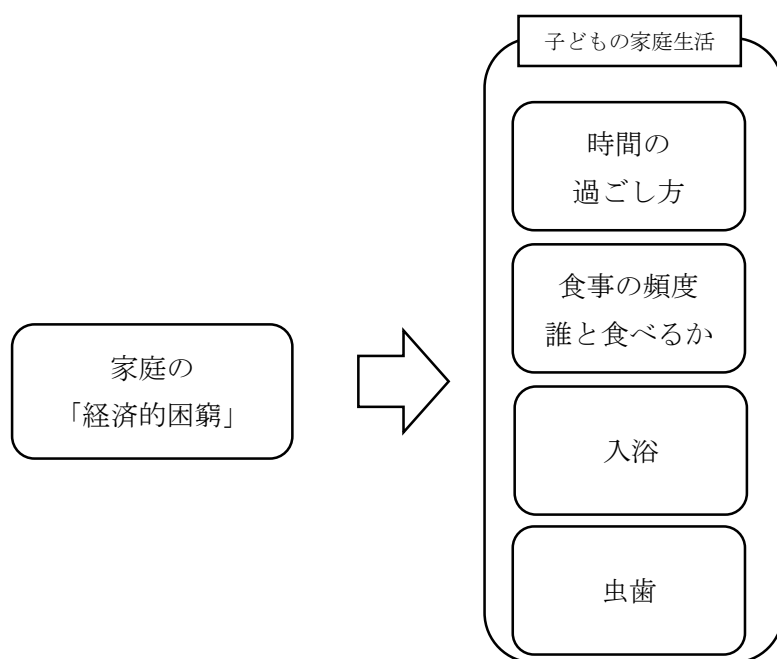


図 1：家庭の「経済的困窮」が子どもの家庭生活に及ぼす影響

次に、子どもの学習に対して家庭の「経済的困窮」の度合いがどのように影響を与えているのか見てみたい。子ども向け調査の間 18「学校の授業時間以外の学習状況」を見ると、「まったくしない」が「困窮層」で 14.4%、「周辺層」で 13.3%、「一般層」で 6.7%となっている。一方、「家と塾で勉強する」については、「困窮層」が 13.2%、「周辺層」が 17.8%、「一般層」が 30.9%となっており、勉強に費やすことができる時間が家庭の「経済的困窮」の度合いによって規定されていることが示されている。子ども向け調査の間 22「学校の授業時間外の読書時間」でも同様の結果が見られ、「まったくしない」が「困窮層」で 38.3%、「周辺層」で 30.8%、「一般層」で 28.3%となっている。その結果として、子ども向け調査の間 24「学校の授業の理解度」を見ると、「よくわかる」が「困窮層」で 19.8%、「周辺層」で 22.4%、「一般層」で 34.4%となっている。

つまりは、家庭の「経済的困窮」の度合いが、子どもの勉強時間や読書時間を規定し、結果として子どもの授業の理解度も規定している状況がある。

さらにこうした結果は、子どもの意欲や自己肯定感が媒介する形で導かれている可能性も示唆される。子ども向け調査の間 29「進学希望」を見てみると、最終の進学先として「大学」を考えている子どもは「困窮層」で 28.1%、「周辺層」で 33.5%、「一般層」で 46.4%となっている。一方、「高等学校」は「困窮層」で 24.0%、「周辺層」で 22.4%、「一般層」で 14.3%である。このことは、単に子どもだけに留まるものではない。保護者向け調査の間 7「子どもの希望最終学歴」を見ると「高等学校」については「困窮層」で 27.1%、「周辺層」で 21.1%、「一般層」で 8.7%となっている一方で、「大学」については「困窮層」で 41.2%、「周辺層」で 38.6%、「一般層」で 58.0%となっている。また、保護者向け調査の間 7-1「希望通り進学できるか」を見ると、希望通り進学できると「思わない」保護者が「困窮層」で 42.0%、「周辺層」で 25.3%、「一般層」で 15.1%となっており、さらに同じく間 7-2「希望通り進学できない理由」を見ると、「経済的に余裕がないから」が「困窮層」で 81.0%、「周辺層」で 43.8%、「一般層」で 17.7%となっている。すなわち、保護者の期待する子どもの進路とその実現可能性の見通しが家庭の「経済的困窮」の度合いで規定されており、さらにそれが前述した勉強時間の差や授業理解度の差と併せて、子どもの進路希望に影響を与えるということである。

さらに子どもの自己肯定感を、子ども向け調査の間 30-1「自分自身について（自分に自信がある）」の結果から見てみると、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合計した割合が、「困窮層」で 46.7%、「周辺層」で 56.8%、「一般層」で 63.6%となっている。進路に対する意欲のみならず、子どもの自己肯定感も家庭の「経済的困窮」の度合いで左右されている。そして、今回の調査からは直接の結果が得られないので推測交じりとはなるが、授業を理解できないことが勉強に対する意欲や自己肯定感の低下を招くという相互作用的な関係があるとも思われる。「インセンティブ・ディバイド」（意欲の格差）という概念があるが、まさに家庭の経済力が保護者と子どもの意欲も左右している状況が今回の調査でも見て取れたと言えよう。

以上の、「経済的困窮」の度合いと子どもの学習状況・意欲・自己肯定感の関係を図式化すると以下のようなになるだろう。

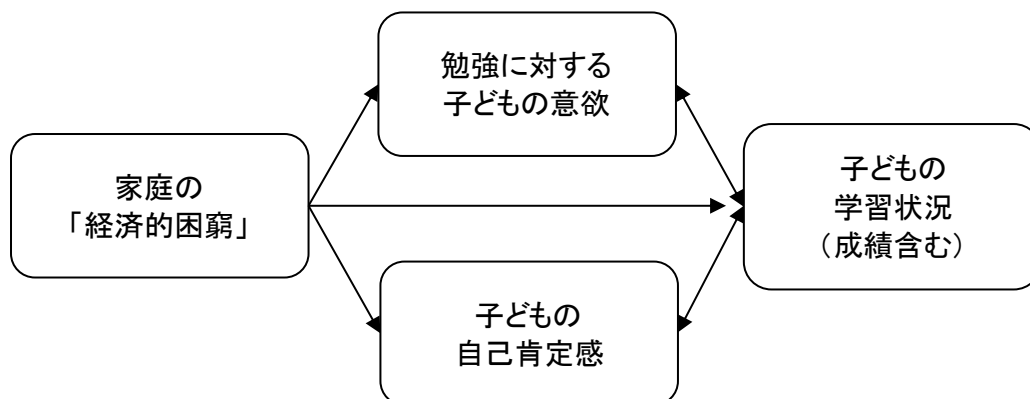


図2:「経済的困窮」と子どもの学習状況・意欲・自己肯定感の関係

また、生活を送っていく上での意識に「経済的困窮」が影響を与えているのは保護者も同様で、保護者向け調査の問 17 における「あてはまる」の状況を見てみると、現状の生活における肯定的な問い（1、2、3）については「困窮層」<「周辺層」<「一般層」となっている一方で、否定的な問い（4、5、6、7、8）については「困窮層」>「周辺層」>「一般層」となっている。子どものみならず、保護者においても、「経済的困窮」の度合いが意欲の格差を招いていることが見て取れる。

さらに、上図で出発点となっている家庭の「経済的困窮」の度合いを規定する要因を考えると、本節冒頭で述べたことより、以下の図のように示すことができるだろう。

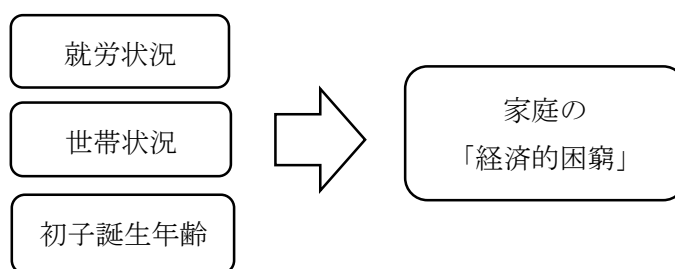


図3:「経済的困窮」の規定要因

3. 「社会的困窮」の実態とその影響

続いて「社会的困窮」の実態と、それが子どもの生活にどのように影響を及ぼしているのか見ていきたい。

まず「社会的困窮」の基礎的な実態を、先に見た「経済的困窮」との関連で見てみたい。保護者向け調査の間 13「困っていることについての相談者」を見てみると、「適当な相談相手がない（いなかった）」（「困窮層」15.3%、「周辺層」9.6%、「一般層」3.4%）「相談しない（相談しなかった）」（「困窮層」22.9%、「周辺層」18.7%、「一般層」11.0%）がともに「困窮層」>「周辺層」>「一般層」となっていた。保護者向け調査の間 12で「特に困っていることはない」と答えた人の割合が「困窮層」<「周辺層」<「一般層」であることをふまえると、「経済的困窮」の度合いが高いほど困っていることを抱えている人は多く、にもかかわらずそれを相談できる相手が少ないということが見て取れる。また、間 13で「公的な相談窓口（市役所等）」を選んでいる人の割合が「困窮層」>「周辺層」>「一般層」であることから、仮に相談できる場合でも、「経済的困窮」の度合いが高いほど個人的なネットワークを頼るのではなく公的なネットワークを頼る（頼らざるを得ない）傾向があることがうかがえる。ちなみに、保護者向け調査の間 13-1で「相談相手がないまたは相談しない理由」を問うており、その結果を見てみると、「プライベートな話をすることが負担だから」が他の層に比べて「一般層」で高く、「信頼できる人がいないから」「理解してもらえないから」「相談しても事態は変わらないから」「相談できる場所を知らないから」が「困窮層」や「周辺層」で高い。

つまりは、「一般層」と異なり、「困窮層」や「周辺層」は、諦観や知識のなさが元で相談をしていないことがある。

以上のように、「経済的困窮」と「社会的困窮」には相関がある可能性がうかがえる。両者の相関をさらに詳細に見てみると、「経済的困窮」の度合いが高い層ほど、社会的なつながりの様々な面において相対的に困窮している可能性が今回の調査からは得られていると言える。保護者向け調査の間 14『近所・地域』での付き合いの状況における「ほとんど付き合いがない」、間 15「団体への所属経験」における「所属したことがない」はともに「困窮層」>「周辺層」>「一般層」となっている。すなわち、近所や地域での付き合いや社会活動をする団体への所属といった形での社会参加の機会も、「経済的困窮」の度合いが高いほど低くなっていることが見て取れる。

また、「社会的困窮」の別の側面をなす、家族との関係についても「経済的困窮」との関連があることが明らかとなった。保護者向け調査の間 18では、保護者の成育歴等家族関係を尋ねており、「あなたの両親が離婚した」、「家庭内の事情により、親と離れて暮らしたことがある」、「親から暴力を振るわれたことがある」「親と疎遠になっている(なっていた)」の「経験がある」で「困窮層」>「周辺層」>「一般層」となっている。すなわち、現在「経済的困窮」「社会的困窮」を抱える保護者は、自身が育ってきた環境でも何かしらの不利を抱えており、それが今再生産されている可能性が高い。

先に見た「経済的困窮」のメカニズムと以上の結果を組み合わせると、全体の因果連関を図式化すると以下のようなになる。

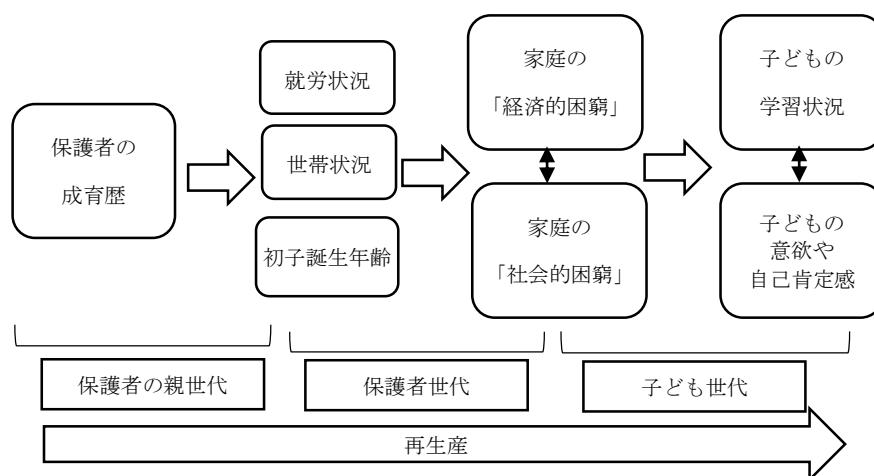


図4：経済的困窮と社会的困窮とその再生産

こうした困窮状況を支援するために、久留米市にも公的な支援制度や支援施設がある。具体的には問23で示された27の制度・施設が代表的なものであろう。しかしながら、問23の結果を見ると、いずれも少数とは言え「制度や施設等を知らない」「手続きがわからない」といった理由で制度・施設の利用を行えていない対象者がいる。「制度や施設等を知らない」「手続きがわからない」を合計すると、「幼児教育研究所」(35.3%)、「ショートステイ・トワイライトステイ」(35.0%)、「子ども食堂」(32.8%)で3割を超えている。また、「経済的困窮」の度合い別に「制度や施設等を知らない」「手続きがわからない」の合計を見てみると、ほとんどの項目で「困窮層」が最も高くなっている。すなわち、最も必要とする層でありながら、「知らない」「分からない」がゆえに制度や施設にたどり着けていない状況がある。

4. 得られる示唆

さて、以上のような総括的分析の結果から、どのような示唆——特に政策的示唆——が導き出されるのだろうか。

第1に得られる示唆は、「経済的困窮」と「社会的困窮」のどちらかのみを焦点を当てた支援では十分に機能しない可能性があるということである。多くの研究や調査と同様、今回の調査でも「経済的困窮」と「社会的困窮」が相関している可能性が示された。したがって、経済的な支援だけでも社会関係的な支援だけでなく、双方を同時に支援していくことが必要となるだろう。また、そうした支援策を実際に講じていく立場においても、役割分担は必要であろうが、支援者同士の連携がさらに必要となることも間違いない。

第2に得られる示唆は、保護者世代への支援は次世代への支援ともなるということである。格差や貧困、困窮は再生産される。このことも格差や貧困の再生産で従来示されていることであり、今回の調査でも同様の結果が得られた。

したがって、現在の保護者世代に支援していくことは、次世代の困窮をなくすことであり、それはすなわち、次世代の久留米市をより公平な形で作り上げていくことにもつながる。こうした、保護者世代への支援が将来の地域社会を形成する上でも必要であることを支援者側も自覚し、また、支援策の財源となる税等を取める市民にも理解してもらいながら、その重要性と必要性を周知していくことも必要となろう。またそのためには、前節の末尾で示したように、支援策の構築だけでなく、それにアクセスしやすくなる経路を作ることも必要となる。支援が必要とする層が「知らない」「分からない」ためにアクセスできない状況を改善するために、不公平さが生じない程度に行政の側から必要とする層を掘り起こし支援策を提示しつないたり、あるいは支援を必要とする層と行政とをつなぐ役割を持つ人々を増すなどして、アウトリーチの体制をさらに強固にしていくこともまた必要だろう。

第3に、子どもの学力部分を支援するためには、子どもを励ましたり勉強を教えたりするのみならずやはり家庭そのものへの支援が必要となるということである。努力して勉強しようといった子どもの意欲の部分にも家庭の「経済的困窮」「社会的困窮」が影響を与えていることが本調査からは得られた。

ということはすなわち、学習支援者が「勉強を頑張れ」と励ましたり勉強を教えたりすることの以前に、「頑張ろう」という意欲を高めるために家庭支援が必要となるということである。学習の機会を提供する前に、まずそこにアクセスするための意欲も格差がある可能性を認識しながら支援策を講じる必要がある。

以上3点の示唆が本調査からは得られた。これらの3点を意識し、行政と市民との協働の下で、困窮を解消していくことが重要であろうし、また、そうした意識を作っていく上でも今回の調査は有用なものとなるであろう。

文献

- 牧田満知子・立花直樹編，2017，『現場から福祉の課題を考える ソーシャル・キャピタルを活かした社会的孤立への支援——ソーシャルワーク実践を通して』ミネルヴァ書房。
- 辻竜平・佐藤嘉倫編，2014，『ソーシャル・キャピタルと格差社会——幸福の計量社会学』東京大学出版会。
- 浦光博，2009，『セレクション社会心理学 25 排斥と受容の行動科学——社会と心が作り出す孤立』サイエンス社。

第7章 調査資料【①小学生・中学生向け】

く る め し こ せいかつじつたいちょうさ
久留米市子どもの生活実態調査

しょうがくせい ちゅうがくせい む ちょうさひょう
①小学生・中学生向け調査票



この調査は、久留米市に住む小学5年生、中学2年生の皆さんに、おうちでの生活の様子、将来についての考えや希望などについてお尋ねするものです。

調査結果は、皆さんの将来が少しでも良くなるために必要な取り組みを決めることに使います。皆さんのこれからのために、ぜひ調査にご協力をお願いします。

《 記入のしかた 》

- この調査は、小学生または中学生のあなたが自分で書いてください。名前を書く必要はありません。
- 答えたくない質問には答える必要はありません。答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えに一番近いものを選ぶようにしてください。
- あなたが書いた内容は、おうちの人や先生に見せる必要はありません。
- 書き終えたら、「①小学生・中学生向け調査票用封筒」と書いてある封筒に入れ、封をして、保護者に渡してください。
- 保護者の記入済み調査票が入った「②保護者向け調査票用封筒」と一緒に「③返信用封筒」に入れて、切手を貼らずに9月29日（金）までに、ポストに投函してください。

この調査に関する問い合わせ先

く る め し こ みらいぶこ せいさくか
久留米市子ども未来部子ども政策課

〒830-8520 久留米市城南町15番地3 久留米市役所16階

電話：0942-30-9227（直通：9：00～17：00 月曜日～金曜日）

ファクス：0942-30-9718

問1 あなたは小学生ですか、それとも中学生ですか。(あてはまる番号1つだけに○)

1. 小学生 2. 中学生

問2 あなたと今一緒に住んでいる人を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. お母さん 2. お父さん 3. おばあさん 4. おじいさん
5. お兄さん 6. お姉さん 7. 弟 8. 妹
9. その他の人

問3 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つだけに○)

1. 男 2. 女 3. その他 4. 答えたくない

あなたのふだんの生活についておたずねします。

問4 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時に起きていますか。

(あてはまる番号1つだけに○)

1. 午前5時より前 2. 午前5時台 3. 午前6時台
4. 午前7時台 5. 午前8時台 6. 午前9時より後
7. 決まっていない ()

問5 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時頃に家へ帰りますか。

(あてはまる番号1つだけに○)

1. 午後4時より前 2. 午後4時台 3. 午後5時台 4. 午後6時台
5. 午後7時台 6. 午後8時台 7. 午後9時より後
8. 決まっていない ()

問6 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時頃に寝ていますか。

(あてはまる番号1つだけに○)

1. 午後9時より前 2. 午後9時台 3. 午後10時台
4. 午後11時台 5. 午前0時台 6. 午前1時より後
7. 決まっていない ()

問7 あなたは朝ごはんをいつも食べていますか。(あてはまる番号1つだけに○)

- 1. 毎日・ほぼ毎日 ⇒問8へ
 - 2. 週に4～5日
 - 3. 週に2～3回
 - 4. 週に1回程度
 - 5. 食べない
- } 問7-1へ
↓

問7で「2～5」と答えた方におたずねします。「1」と回答した方は、問8へお進みください。

問7-1 朝ごはんを食べない理由は何ですか。(あてはまる番号1つだけに○)

- 1. 時間がない
- 2. おなかがすいていない
- 3. 用意されていない・食べるものがない
- 4. 食べる習慣がない
- 5. 食べたくない
- 6. その他 ()

問8 あなたは晩ごはんをいつも食べていますか。(あてはまる番号1つだけに○)

- 1. 毎日・ほぼ毎日 ⇒問9へ
 - 2. 週に4～5回
 - 3. 週に2～3回
 - 4. 週に1回程度
 - 5. 食べない
- } 問8-1へ
↓

問8で「2～5」と答えた方におたずねします。「1」と回答した方は、問9へお進みください。

問8-1 晩ごはんを食べない日があるのはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1. 時間がない
- 2. おなかがすいていない
- 3. 用意されていない
- 4. 食べる習慣がない
- 5. 食べたくない
- 6. その他 ()

問9 あなたは学校がお休みの日にいつも昼ごはんを食べていますか。(夏休みなどの長期のお休みの日を含みます)(あてはまる番号1つだけに○)

- 1. 必ず食べる ⇒問10へ
 - 2. 食べることが多い
 - 3. 食べないことが多い
 - 4. 食べない
 - 5. わからない
- } 問9-1へ
↓

問9で「2～5」と答えた方におたずねします。「1」と回答した方は、問10へお進みください。

問9-1 昼食を食べない日があるのはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 時間がない | 2. おなかがすいていない |
| 3. 用意されていない | 4. 食べる習慣がない |
| 5. 食べたくない | 6. その他 () |

問10 あなたは、家でひとりでごはんを食べることがありますか。(あてはまる番号1つだけに○)

- | | |
|-----------|---------------|
| 1. よくある | } 問10-1へ
↓ |
| 2. ときどきある | |
| 3. ほとんどない | |
| 4. まったくない | |
| 5. わからない | |

問10で「1～2」と答えた方におたずねします。「3～5」と回答した方は、問11へお進みください。

問10-1 ひとりでごはんを食べるとき、なにをよく食べていますか。

(あてはまる番号1つだけに○)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 親やきょうだい作ったもの | 2. スーパー・コンビニなどで買ったもの |
| 3. 自分が作ったもの | 4. 外食 |
| 5. あまりきまっていない | 6. その他 () |

問11 あなたは、週にどのくらい、お風呂(シャワーのみの場合を含む)に入りますか。

(あてはまる番号1つだけに○)

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 毎日・ほとんど毎日 | 2. 週に4～5回 |
| 3. 週に2～3回 | 4. 週に1回程度 |
| 5. 入らない | 6. その他 () |

問12 あなたは、学校に遅刻することがありますか。(あてはまる番号1つだけに○)

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. 遅刻はしない | 2. 月に1回程度 |
| 3. 週に1回程度 | 4. 週に2～3回 |
| 5. 毎日・ほとんど毎日 | |

問13 あなたは、毎日の生活でどのようなときに楽しいと思いますか。

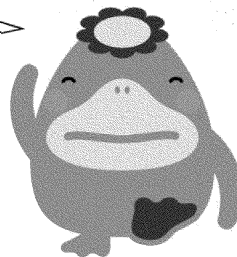
(あてはまる番号すべてに○)

1. 友だちと過ごしているとき
2. お家の人と過ごしているとき
3. 学校で授業を受けているときや、クラブ活動に参加しているとき
4. 地域の行事に参加しているとき
5. 塾で勉強をしているときや習い事に通っているとき
6. 買い物をしているとき
7. 本を読んでいるとき
8. テレビを観ているとき
9. ゲームをしているとき
10. インターネットをしているとき (スマートフォンを答む)
11. 地域のスポーツクラブに参加しているとき
12. 食事をしているとき
13. 勉強をしているとき
14. ひとりであるとき
15. 特に楽しいと思うときはない
16. その他 ()

問14 あなたは放課後ふだん誰と過ごすことが多いですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 学校の友だち
2. 学校以外の友だち
3. おうちの大人
4. きょうだい
5. おうちの人以外の大人
6. ひとりである
7. その他 ()

アンケート、あと半分だよ。
協力してくれて、ありがとう！
う！うれしいっぱ！



問15 あなたは放課後どこで過ごすことが多いですか。(あてはまる番号を3つまで選んで○)

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1. 自分の家 | 2. おばあさん・おじいさんの家 |
| 3. 親せきの家 (おばあさん・おじいさんの家を除く) | 4. 友だちの家 |
| 5. 塾・習い事 | 6. 学校 (クラブ活動など) |
| 7. 学童保育所 | 8. 公園 |
| 9. ゆめタウンなどのショッピングモール | 10. コンビニ |
| 11. ゲームセンター | 12. 図書館 |
| 13. コミュニティセンター | 14. 児童センターやくるめっ子館などの子どもの施設 |
| 15. 地域のスポーツクラブ | 16. その他 () |

問16 親せきのことについて教えてください (あてはまる番号すべてに○)

1. 親せきが自分の家に遊びにくる
2. 親せきの家へ遊びに行く
3. 親せきからおこづかいやお年玉をもらう
4. 親せきと一緒に遊びに行く
5. 親せきと付き合いがない

問17 近所の人のことについて教えてください (あてはまる番号すべてに○)

1. あいさつをする
2. 近所の人がよく家に遊びにくる
3. 近所の人のお家へ遊びに行く
4. 近所の人と一緒に遊びに行くことがある
5. 近所の人と付き合いがない

問18 あなたは、学校の授業時間以外に勉強をしますか。(あてはまる番号1つだけに○)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 家で勉強する | } 問18-1へ
↓ |
| 2. 家と塾で勉強する | |
| 3. 塾で勉強する | |
| 4. その他 () | |
| 5. まったくしない⇒問19へ | |

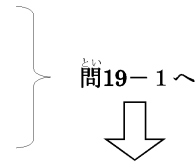
問18で「1～4 (=勉強する)」と答えた人におたずねします。「5」と回答した方は、問19へお進みください。

問18-1 1日あたりどれくらい勉強をしますか。(あてはまる番号1つだけに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 30分より少ない | 2. 30分以上1時間より少ない |
| 3. 1時間以上2時間より少ない | 4. 2時間以上3時間より少ない |
| 5. 3時間以上 | |

問19 あなたのおこづかいについておたずねします。あなたの毎月のおこづかいはいくらですか。
 (時々もらう場合は、1か月あたりにするとどのくらいかで選んでください。ただし、お年玉
 など臨時にもらうお金はのぞきます)(あてはまる番号1つだけに○)

- | | |
|------------------|-------------|
| 1. 1,000円より少ない | 2. 1,000円台 |
| 3. 2,000円台 | 4. 3,000円台 |
| 5. 4,000円台 | 6. 5,000円以上 |
| 7. 必要な時にもらう | |
| 8. もらっていない ⇒問20へ | |



問19で「1～7(おこづかいをもらっている)」と答えた方におたずねします。「8」と回答した方は、問20へお進みください。

問19-1 おこづかいは何に使っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|---------------|--------------------------|
| 1. 学校で使う必要なもの | 2. おもちゃ(ボールなど運動・遊び道具も含む) |
| 3. 本 | 4. マンガ |
| 5. 菓子やジュース | 6. 食事 |
| 7. ゲーム関連 | 8. 音楽関連 |
| 9. 貯金 | 10. 衣服・バック等 |
| 11. 携帯電話代 | 12. その他() |

問20 あなたが持っているものや、自由に使うことができるものを教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

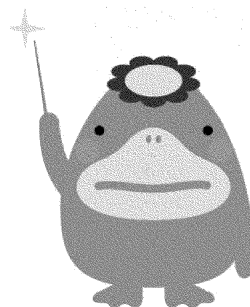
- | | |
|--|---------------------|
| 1. 本(学校の教科書やマンガはのぞく) | 2. マンガ・雑誌 |
| 3. 子ども部屋(ひとり部屋や、きょうだいと一緒に使っている部屋) | |
| 4. インターネットにつながるパソコン | 5. 運動用具(ボール・ラケットなど) |
| 6. ゲーム機 | 7. 自転車 |
| 8. テレビ | 9. 携帯電話 |
| 10. スマートフォン・タブレット機器(ラインやツイッター、フェイスブックなどができるもの) | |
| 11. 化粧品・アクセサリ | 12. 習い事などの道具(ピアノなど) |
| 13. キャラクターグッズ(文具・雑貨・おもちゃなど) | |
| 14. あてはまるものがない | |

問21 今欲しいものがあるって、お金がない場合はどうしていますか。

(あてはまる番号1つだけに○)

- | |
|--------------------------|
| 1. 家族などに買ってもらう |
| 2. おこづかいやお年玉などでやりくりをして買う |
| 3. 誕生日などにプレゼントしてもらう |
| 4. 買うことをあきらめる |
| 5. その他() |

みなさんがかagak^{みらい}やく未来のために、
久留米市もがんばるっば！
アンケート、もうすぐでおわるっば！



あなたがふだん考えていることについておたずねします。

問27 あなたは、家族のことなどで、こまっていることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 1. 家族との会話が少くない | 2. 親が自分に対してきびしい |
| 3. 親が自分の気持ちをわかってくれない | 4. 親どうしの仲が良くない |
| 5. きょうだいとの仲が良くない | 6. 家に帰ると落ち着かない |
| 7. きょうだいのお世話をしないといけない | |
| 8. きょうだい以外の家族のお世話をしないといけない | |
| 9. 病気の家族のお世話をしないといけない | |
| 10. 自分の自由な時間がない | 11. 食べるごはんがないときがある |
| 12. 着る服が洗濯されていないことがある | 13. 家の中が散らかっている |
| 14. その他 () | |
| 15. 特にない | |

問28 こまっていることやいやなことがあった場合、あなたはどのようにしますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分で解決する
2. だれかに相談する ⇒問28-1へ
3. 何もしない、がまんする
4. その他 ()



問28で「2」と答えた方におたずねします。それ以外の方は、問29へお進みください。

問28-1 だれに相談しますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|----------------|-----------------------------|
| 1. お母さん・お父さん | 2. きょうだい |
| 3. おばあさん・おじいさん | 4. 親せき |
| 5. 学校の友だち | 6. 学校以外の友だち |
| 7. 学校の先生 | 8. スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー |
| 9. 塾や習い事の先生 | 10. 近所の人 |
| 11. 電話相談 | 12. インターネットなど |
| 13. その他 () | |

問29 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。(あてはまる番号1つだけに○)

1. 中学校
2. 高等学校
3. 短期大学
4. 大学
5. 大学院
6. 専門学校(美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など)
7. その他()
8. わからない・考えたことがない

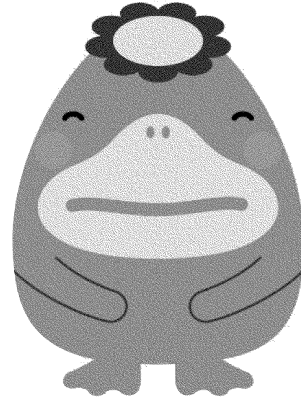
問30 あなたは、自分自身のことをどう思いますか。(それぞれ1つに○)

		あてはまる	どちらかといえはあてはまる	どちらかといえはあてはまらない	あてはまらない
1	自分に自信がある	1	2	3	4
2	自分の将来の夢や目標を持っている	1	2	3	4
3	将来のためにも、今、頑張りたいと思う	1	2	3	4
4	さみしさや不安を感じることがない	1	2	3	4
5	将来、働きたいと思う	1	2	3	4

毎日の生活で感じていることを自由に書いてください

質問はこれで終わりです。調査にご協力ありがとうございました。

おつかれさまでした！
最後まで協力さいりょうしてくれて、ありがとう！



- 調査票に書かれている質問をよく読んで、選択肢の中から選ぶものは一番近いと思うものに丸を、数字等を記入するものはかつこの中に記入してください。
- 調査票の中の「お子さん」に関する質問は、特に指定がない限り、この調査票を持ち帰ったお子さんのことについてお答えください。
- 答えたくない質問には、答える必要はありません。
- 特に指定がない場合は、平成29年9月1日現在の状況を回答してください。

問1 お子さんからみたあなたの関係について教えてください。(〇は1つ)

- | | |
|----------|------------|
| 1. お母さん | 2. お父さん |
| 3. おばあさん | 4. おじいさん |
| 5. 親せき | 6. 施設職員 |
| 7. 里親 | 8. その他 () |

※問1で「6」と回答した方は、問25、問26、問32のみ回答してください。「6」以外と回答された方は、問2からすべてお答え下さい。

お子さんのことについておたずねします。

問2 お子さんが家にいるとき、主にお子さんとお過ごす時間が長いのはどなたですか。

(お子さんから見た関係で) (〇は1つ)

- | | |
|----------------|------------|
| 1. お母さん | 2. お父さん |
| 3. おばあさん・おじいさん | 4. きょうだい |
| 5. おば、おじなどの親せき | 6. 近所の人 |
| 7. お子さんがひとりである | 8. その他 () |

問3 あなたから見て、お子さんが頼りにしていると思われる大人がいますか。(子どもからみた関係で、あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. お母さん | 2. お父さん |
| 3. おばあさん・おじいさん | 4. おじ・おば・いとこなどの親族 |
| 5. 学校の先生 | 6. 学童保育所等の職員・スタッフ |
| 7. 塾や習い事の先生 | 8. 子育て支援団体や子育てサークルのスタッフ |
| 9. あなたの友人・知人 | 10. 近所の人・地域の人 |
| 11. 市役所などの職員 | 12. その他 () |
| 13. 特にいない | 14. わからない |

問4 あなたの家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。
(それぞれ○は1つ)

		ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～2回	めったにない	まったくない
1	お子さんの勉強をみる	1	2	3	4	5	6
2	お子さんと運動をする	1	2	3	4	5	6
3	お子さんと電子機器で遊ぶ (パソコン、タブレット、ゲーム機、スマートフォンなど)	1	2	3	4	5	6
4	お子さんと電子機器以外で遊ぶ (トランプ・オセロ・人形遊びなど)	1	2	3	4	5	6
5	お子さんと学校生活の話をする	1	2	3	4	5	6
6	お子さんと政治、経済、社会問題などのニュースの話をする	1	2	3	4	5	6
7	お子さんとテレビ(ニュースを除く)の話をする	1	2	3	4	5	6
8	お子さんといっしょに料理をする	1	2	3	4	5	6
9	お子さんといっしょに外出する (遊びやイベント等)	1	2	3	4	5	6
10	お子さんといっしょに外出する (食事や買い物等)	1	2	3	4	5	6

問5 お子さんに、むし歯はありますか。(○は1つ)

1. ある(未治療)
2. ある(治療中)
3. あった(治療済)
4. ない
5. わからない

問5で「1. ある(未治療)」「2. ない」と答えた方におたずねします。それ以外の方は、問6へお進み下さい。

問5-1 「1. ある(未治療)」と答えた方は、治療の予定はありますか(○は1つ)

1. ある
2. ない

問5-2 「2. ない」と答えた方は、治療していない理由は何ですか(○は1つ)

1. 治療に行く時間がない
2. 治療を受ける費用がない
3. 特に理由はない
4. その他()

問6 あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由で、子どもに関して次のような経験をされたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 子どもを医療機関に受診させることができなかった
2. 子どもの進路を変更した
3. 子どものための本が買えなかった
4. 子どものための服や靴を買えなかった
5. 子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした
6. 子どもを学校や地域のクラブ活動に参加させることができなかった
7. 子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせることができなかった
8. 子どもに必要な文具や教材を買えなかった
9. 子どもに誕生日プレゼントやお年玉をあげることができなかった
10. 子どもを旅行やレジャーに連れていくことができなかった
11. その他 ()
12. 経験したことがない

問7 あなたは、お子さんの最終進路としてどの学校を希望していますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------|----------|--------------|
| 1. 中学校 | 2. 高等学校 | 3. 短期大学 |
| 4. 大学 | 5. 大学院 | 6. 専修学校・各種学校 |
| 7. その他 () | 8. わからない | 9. 特になし |

問7で「1～7」と答えた方におたずねします。それ以外の方は、問8へお進み下さい。

問7-1 あなたはお子さんが問7の希望どおりの学校まで進むことになると思いますか。(○は1つ)

1. 思う
2. 思わない

問7-1で「2. 思わない」と答えた方におたずねします。それ以外の方は、問8へお進み下さい。

問7-2 その理由を教えてください。(○は1つ)

1. お子さんの希望と異なるから
2. お子さんの能力から考えて
3. 経済的に余裕がないから
4. 勉強のサポートができないから
5. その他 ()

あなたのことについておたずねします。

問8 あなたの年齢は現在おいくつですか。(〇は1つ)

- | | | |
|-------------|-------------|------------|
| 1. 19歳以下 | 2. 20歳～24歳 | 3. 25歳～29歳 |
| 4. 30歳～34歳 | 5. 35歳～39歳 | 6. 40歳～44歳 |
| 7. 45歳～49歳 | 8. 50歳～54歳 | 9. 55歳～59歳 |
| 10. 60歳～64歳 | 11. 65歳～69歳 | 12. 70歳以上 |

問9 初めて親となった年齢はおいくつですか(実子以外も含む)。(〇は1つ)

- | | |
|------------|------------|
| 1. 19歳以下 | 2. 20歳～24歳 |
| 3. 25歳～29歳 | 4. 30歳～34歳 |
| 5. 35歳～39歳 | 6. 40歳以上 |

問10 子育てをしていて特に大変だと感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 子どもの健康管理・食生活の管理 | 2. 子どもの生活態度・生活習慣のしつけ |
| 3. 子どもの学力・学習習慣 | 4. 反抗期や思春期の子どもへの接し方 |
| 5. 校納金、学費など学校にかかる費用 | 6. 学習塾や習い事の費用 |
| 7. 将来の進学に向けた学資の準備 | 8. 生活費全般の確保 |
| 9. 子どもと一緒に過ごす時間の確保 | 10. 仕事と子育ての両立 |
| 11. 特にない | 12. その他 () |

問11 あなたは、現在、お子さんに関してどのようなことに困っていますか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | | | |
|---------------|--------------|-------------|----------|
| 1. 学力・学習習慣 | 2. 進学 | 3. しつけ | 4. 友人関係 |
| 5. 異性関係 | 6. 病気・健康問題 | 7. いじめ | 8. 不登校 |
| 9. 非行・家庭内暴力 | 10. 就職 | 11. 結婚 | 12. 生活習慣 |
| 13. 子どもと関わる時間 | 14. 教育に要する費用 | 15. その他 () | |
| 16. 特にない | | | |

問12 あなたは、現在、ご自身の生活に関して、どのようなことについて困っていますか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1. 生活費に関する事 | 2. 子どもの養育にかかる費用に関する事 |
| 3. 仕事に関する事 | 4. 住宅に関する事 |
| 5. 健康に関する事 | 6. 対人関係に関する事 |
| 7. 老後に関する事 | 8. 家族・親族等に関する事 |
| 9. 子どもに関する事 | 10. 家事に関する事 |
| 11. その他 () | 12. 特に困っていることはない |

問13 あなたは、問11・12の困っていることをどなた（どこ）に相談されていますか（されましたか）。（あてはまるものすべてに○）

1. 家族・親族
2. 友人・知人
3. 職場の人
4. 子どもが通う学校等
5. 子どもの友達の親
6. 近所の人・地域の人
7. 子育てサークル団体
8. NPOなど民間の団体
9. インターネットの子育てサイトや会員制サービス（SNS）
10. 民生委員・児童委員
11. 公的な相談窓口（市役所等）
12. 適切な相談相手がない（いなかった）
13. 相談しない（相談しなかった）
14. その他（ ）

問13で「12. 相談相手がない」「13. 相談しない」と答えた方におたずねします。それ以外の方は、問14へお進み下さい。

問13-1 その理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

1. 信頼できる人がいないから
2. 理解してもらえないから
3. 最初からすべてのことを話すことが負担だから
4. プライベートな話をするのが負担だから
5. 悩んでいることを知られたくないから
6. 相談しても事態は変わらないから
7. 時間がないから
8. 相談できる場所を知らないから
9. その他（ ）

問14 あなたと「近所・地域」の人との付き合いについて教えてください。（○は1つ）

1. 困ったときに、何でも相談し助け合える
2. 困ったときに、内容によっては相談し助け合える
3. 世間話をする程度
4. 挨拶をする程度
5. ほとんど付き合いがない

問15 あなたは次の団体などに所属したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 子育てや市民活動などのサークル団体
2. 自治会
3. 子ども会
4. 校区で活動する組織
5. 所属したことがない

問16 あなたは次の役員などを経験したことがありますか（あてはまるものすべてに○）

1. PTA役員
2. 幼稚園・保育園などの保護者会役員
3. 学童保育所の保護者会役員
4. 子ども会の役員
5. 自治会役員
6. 校区で活動する組織の役員
7. 経験したことがない

問17 あなたの現在の生活意識について教えてください。（それぞれ1つに○）

		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない
1	現在、自分の生活は充実している	1	2	3	4	5
2	将来に希望を持っている	1	2	3	4	5
3	ありのままの自分を認めてくれる人がいる	1	2	3	4	5
4	今の生活でつらいことの方が多い	1	2	3	4	5
5	働いても働いても生活が楽にならない	1	2	3	4	5
6	仕事と子育てで、時間に余裕がない	1	2	3	4	5
7	いろいろなプレッシャーに、押しつぶされそうな気持ちになる	1	2	3	4	5
8	いつもまわりの人の目が気になる	1	2	3	4	5
9	どこまでがんばればよいかわからない	1	2	3	4	5

問18 あなた自身の、家族との関わり等についてお答えください。（それぞれ1つに○）

		経験がある	経験はない
1	あなたの両親が離婚した	1	2
2	あなたが成人になる前に父または母が亡くなった	1	2
3	家庭内の事情により、親と離れて暮らしたことがある	1	2
4	親から暴力をふるわれたことがある	1	2
5	親と疎遠になっている（なっていた）	1	2

経済的な状況についておたずねします。

問19 前年（平成28年1月～12月）のあなたの世帯の手取り収入（いわゆる可処分所得）の合計額は、およいくらでしたか。世帯の収入から、税金や社会保険料の額を差し引いた後の額をお答えください。（〇は1つ）

※公的な援助手当や養育費・仕送りを含んだ額でお答えください。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 収入はない | 2. 100万円未満 |
| 3. 100万円以上～150万円未満 | 4. 150万円以上～200万円未満 |
| 5. 200万円以上～300万円未満 | 6. 300万円以上～400万円未満 |
| 7. 400万円以上～500万円未満 | 8. 500万円以上～600万円未満 |
| 9. 600万円以上～700万円未満 | 10. 700万円以上～800万円未満 |
| 11. 800万円以上～900万円未満 | 12. 900万円以上～1,000万円未満 |
| 13. 1,000万円以上 | 14. わからない |

問20 現在、どのような収入等がありますか。（あてはまるものすべてに〇）

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. あなたの就労収入 | 2. 配偶者の就労収入 |
| 3. あなたや配偶者以外の世帯員の就労収入 | 4. 元夫・元妻からの養育費 |
| 5. 児童手当 | 6. 児童扶養手当 |
| 7. 就学援助費 | 8. 生活保護費 |
| 9. 公的な福祉資金の貸付金 | 10. 公的年金 |
| 11. 遺族年金、保険金など | 12. 財産収入（家賃や株式の配当金等） |
| 13. 金融機関からの借入れ | 14. 実家や親族からの仕送り |
| 15. 友人・知人からの支援 | 16. 貯蓄の切り崩し |
| 17. 失業保険 | 18. その他（ ） |

問21 家計において負担を感じる経費は何ですか。（あてはまるものすべてに〇）

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------|
| 1. 食費 | 2. 住居費（家賃、住宅ローン等） |
| 3. 光熱水費 | 4. 通信費（携帯電話、インターネット料金含む） |
| 5. 交際費 | 6. 娯楽費（レジャー、旅行代等含む） |
| 7. 被服費 | 8. 生活用品費 |
| 9. 学校や保育園等に関する教育費（保育料、学校給食費等含む） | |
| 10. 学校や保育園以外に関する教育費（学習塾や習い事等の費用を含む） | |
| 11. 医療費 | 12. 交通費（自家用車等の維持費含む） |
| 13. 保険料（生命保険等） | 14. 税金 |
| 15. 社会保険料 | 16. 返済金（キャッシング・カードローン等） |
| 17. 仕送り | 18. その他（ ） |
| 19. 負担を感じていない | |

第8章 調査資料【②保護者向け】

必要な支援等についておたずねします。

問23 あなたは、これまで、久留米市や地域などにおける次の制度や施設などを利用したことがありますか。また、利用したことがない場合は、その理由を教えてください。(それぞれ1～7のうちいずれか1つに○)

	利用したことがある	利用したことがない					
		利用資格等がない	制度や施設等を知らない	時間がない	手続きがわからない	利用料が高い	その他
児童手当	1	2	3	4	5	7	
就学援助制度	1	2	3	4	5	7	
児童扶養手当	1	2	3	4	5	7	
疾病や難病の手当	1	2	3	4	5	7	
生活保護	1	2	3	4	5	7	
公的年金（遺族年金・障害年金）	1	2	3	4	5	7	
保育園・認定こども園・幼稚園	1	2	3	4	5	6 7	
学童保育所	1	2	3	4	5	6 7	
子育て支援センター	1	2	3	4	5	7	
校区の子育てサロン	1	2	3	4	5	7	
くるるん	1	2	3	4	5	7	
児童センター	1	2	3	4	5	7	
石橋記念くめっ子館	1	2	3	4	5	7	
幼児教育研究所	1	2	3	4	5	7	
子ども食堂	1	2	3	4	5	6 7	
病児保育	1	2	3	4	5	6 7	
一時預かり（一時保育）	1	2	3	4	5	6 7	
ファミリー・サポート・センター	1	2	3	4	5	6 7	
産前産後ヘルパー派遣	1	2	3	4	5	6 7	
ショートステイ・トワイライトステイ	1	2	3	4	5	6 7	
学校や地域で行われている放課後等の補充学習	1	2	3	4	5	7	
スクールカウンセラー	1	2	3	4	5	7	
スクールソーシャルワーカー	1	2	3	4	5	7	
土曜塾（青少年学校外活動支援事業）	1	2	3	4	5	6 7	
子どもの居場所づくり事業（ひとり親）	1	2	3	4	5	6 7	
久留米市生活自立支援センター	1	2	3	4	5	7	
子どもの学習支援事業（生活保護・生活困窮者）	1	2	3	4	5	7	

問24 あなたは、これまで子育てに関する情報をどこから入手していましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------------|---------------------|
| 1. 自分の親 | 2. 自分の祖父母やきょうだい、親せき |
| 3. 友人や同僚 | 4. 民生委員・主任児童委員 |
| 5. 近所の人など地域の人 | 6. 保育園や幼稚園の先生など |
| 7. 学校の先生など | 8. 市役所や保健所など行政窓口 |
| 9. 子育て支援センター・くるるん・児童センターなどの子育て支援施設 | |
| 10. サークル団体のスタッフやメンバー | 11. NPO団体 |
| 12. 広報くるめ、回覧板 | 13. 雑誌 |
| 14. 新聞 | 15. テレビ |
| 16. 久留米市のホームページ・フェイスブック | |
| 17. 久留米市のホームページを除くインターネット（個人のブログなど） | |
| 18. 久留米市以外のSNS（フェイスブック・ツイッターなど） | |
| 19. その他（具体的に | ） |

問25 お子さんに対して必要と思われる、または重要だと思ふ支援等はどのようなものですか（あてはまるものすべてに○）

1. 子どもが放課後安心してすごせる場所の提供（放課後の居場所づくり）
2. 子どもの生活習慣づくり
3. 子どもの学習支援
4. 子どもの医療費の無料化・負担軽減
5. 子どもの進学・就学にかかる費用の軽減
6. その他（
7. わからない
8. 特にない

問26 あなたが現在必要としている、または重要だと思ふ支援等はどのようなものですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 同じような悩みをもった保護者同士が知りあえること
2. 民生委員や主任児童委員などの支援
3. 離婚のことや養育費のことなどについて専門的な相談が受けられること
4. 病気や障害のことなどについて専門的な支援が受けられること
5. 資格取得のための支援が受けられること
6. 就職のための支援が受けられること
7. 住宅を探したり、住宅費を軽減したりするための支援が受けられること
8. 病気や出産、事故などがあつたときに一時的に子どもを預かってもらえること
9. 学校や保育園のことなどについて専門的な相談が受けられること
10. 一時的に必要な資金を貸してもらえること
11. その他（
12. わからない
13. 特にない

世帯の状況についておたずねします。

問27 世帯（世帯とは、居住と生計を同じくし、生活を営む集まりのことを言います）の状況を教えてください。（「世帯員人数」は数字を記入。「同居している家族等」については、あなたから見た関係で、あてはまるものすべてに○）

「世帯員人数」 あなたを含めて（ ）人

「同居している家族等」

1. 配偶者（事実婚を含む）
2. 子ども
3. あなたの父
4. あなたの母
5. 配偶者の父
6. 配偶者の母
7. その他（ ）

問28 あなたの世帯は、次のどれにあてはまりますか。（○は1つ）

1. ふたり親世帯
2. 母子家庭世帯
3. 父子家庭世帯
4. 養育者世帯（父母ともおらず、祖父母等が養育している。）
5. それ以外の世帯

問29 すべてのお子さんの「年齢」、「就学状況」を教えてください。就学状況は、在学中の場合は「○」を、卒業は「◎」を、中退は「△」を、いずれかひとつ番号の部分にご記入ください（年齢は平成30年3月31日現在で記入してください）。

※問27と異なり、別居しているお子さんも含んでください。

	年齢	就学状況									
		小学校就学前	小学1年～3年	小学4年～6年	中学校	高等学校	短期大学	大学	大学院	専修学校・各種学校	その他
1人目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2人目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
3人目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
4人目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
5人目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
6人目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
7人目以降は、こちらの欄に記入してください。											

問30 現在の就労状況についておたずねします。(あなたと配偶者のそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事についてお答えください。

※ひとり親の方は「あなた」の就労状況の項目のみ回答してください。

		あなた	配偶者
1	勤め(常勤・正規職員)	1	2
2	勤め(派遣・契約等)	1	2
3	勤め(非常勤・パート・アルバイト等)	1	2
4	自営業・家族従業者	1	2
5	その他の就労形態	1	2
6	仕事をしていない(仕事を探している)	1	2
7	仕事をしていない(仕事を探していない)	1	2

問30で「1～5」と答えた方におたずねします。「6～7」と答えた方は問30-3へお進み下さい。

問30-1 夫だんの帰宅時間で、最も多い時間帯を選んでください。(あなたと配偶者のそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

※自宅が仕事場の方は仕事が終わる時間を回答してください。

※ひとり親の方は「あなた」の項目のみ回答してください。

		あなた	配偶者
1	18時まで	1	2
2	18～20時	1	2
3	20～22時	1	2
4	22時以降	1	2
5	帰宅時間は決まっていない	1	2

問30-2 仕事が休みの日について、平均的な日数を教えてください。(あなたと配偶者のそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

※ひとり親の方は「あなた」の項目のみ回答してください。

		あなた	配偶者
1	週5～6日程度	1	2
2	週3～4日程度	1	2
3	週2日程度	1	2
4	週1日程度	1	2
5	月1～3日程度	1	2
6	休みはない	1	2
7	決まっていない	1	2

久留米市子どもの生活実態調査 報告書

調査主体：久留米市子ども未来部子ども政策課

〒830-8520 福岡県久留米市城南町 15-3

調査委託先：株式会社日本統計センター

〒802-0005 福岡県北九州市小倉北区堺町 1-2-16